

会 議 録

会議の名称		令和元年度第1回つくば市生涯学習審議会会議		
開催日時		令和元年（2019年）8月23日 開会14時 閉会16時		
開催場所		つくば市役所2階 204会議室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	相澤久志、一木正聡、伊藤達也、江原功、円城寺フミ子、大高勝弘、鴻巣統、後藤真紀、中井聖、萩原武久、橋本佳子、付波、福田正雄、溝上智恵子、矢作勝美		
	その他	門脇教育長		
	事務局	森田局長、中山次長、伊藤課長、塚田参事、山岡補佐、色川係長、福田係長、菊地主査、		
公開・非公開の別	■公開	非公開	一部公開	傍聴者数 2人
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 報告 「平成30年度生涯学習推進基本計画事業の進捗状況」について (2) 審議 「(仮称)第3次生涯学習推進基本計画策定」に向けて		
会議次第	1 開会 2 委嘱状交付 3 市長あいさつ 4 諮問「(仮称)第3次生涯学習推進基本計画策定」に向けて 5 議事 (1) 報告「平成30年度生涯学習推進基本計画事業の進捗状況」について (2) 審議「(仮称)第3次生涯学習推進基本計画策定」に向けて 6 その他 7 閉会			

議長	<p>最初に、本日の議事内容は報告が 1 件、審議の内容が 1 件です。</p> <p>「平成 30 年度生涯学習推進基本計画事業の進捗状況」について、事務局よりご報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それではまず、平成 30 年度生涯学習推進基本計画事業の進捗状況について、ご説明いたします。</p> <p>平成 30 年度の事業ですが、29 年度庁内の推進本部会議におきまして、事業が 91 事業と幅広く網羅的になっておりましたので、社会力を高める事業を中心に絞り込み、73 事業としております。今回も 73 事業について進捗の状況をまとめております。</p> <p>評価につきましては、担当課で事業ごとに有効性と効率性を評価しております。</p> <p>まず、29 年度との対比ですが、平成 29 年度におきましては、1 事業、低/中 D、有効性が低く効率性は例年として同程度の費用対効果という事業が 1 事業ございました。</p> <p>こちらの事業は、小田城跡確認調査事業、文化財課の事業になっております。この事業ですが、平成 30 年度におきましては、29 年度は現地説明会の参加人数が 102 人と、平成 28 年度は 206 人だったものが 102 人と大分減ってしまいましたので、評価が D となっております。</p> <p>ただ、平成 30 年度におきましては、広報を早期に実施するなど改善を行いまして、161 名が参加するような形になっております。今回、評価のほうも中/中 B となっております。</p> <p>また、平成 30 年度で 2 事業が高/中 A の評価になっております。具体的には特別支援教育推進室の教育支援委員会運営事業と科学技術振興課の次代を担う人材育成と科学技術の理解の醸成事業、こちらが高/中 A の評価になっております。</p> <p>特別支援教育推進室の委員会の運営事業につきましては、昨年度も高/中 A の評価となっております。30 年度におきましても、対象児の</p>

	<p>適切な就学につなげることができたということで、同じく高/中 A の評価になっております。</p> <p>科学技術振興課の次代を担う人材育成と科学技術の理解の醸成事業につきましては、平成 30 年度におきましては国際情報オリンピック関連の市民向けイベントなどを通じて市民の参加機会を拡大できたり、新たに科学技術マイスターの新規の認定なども行われましたので、よりよく学習の機会の向上を図れたということで、高/中 A の評価になっております。</p> <p>全体としましては、ほとんどの事業、71 事業が中/中 B という評価になっております。</p> <p>これに基づきまして、各施策ごとの評価を生涯学習推進課で行いました。資料 2 につきましては、施策ごとに具体的に事業名を並べまとめております。</p> <p>ほとんどの事業が中/中 B という成果・費用対効果の向上に努めつつ、継続して実施していくことになっておりますので、施策全体の評価としましても、計画どおりに進んでいるということで評価を行っております。</p> <p>あとの詳しい事業につきましては、細かい資料となっておりますが、資料 3 を確認していただければと思います。</p> <p>進捗状況につきましては、簡単ですが以上です。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の進捗状況についての説明がありましたが、これについて何かご意見がございましたらお願いいたします。</p>
<p>副議長</p>	<p>進捗状況についてどうのということではなく、今後、計画を立てるに当たり感じた意見を言わせていただきます。</p> <p>資料 2 の地域子ども・子育て支援事業の推進で、この推進の拠点に公立が関わっていないところに疑問を持ちました。</p> <p>それから、もう一つは、社会生活を円滑に営む上で困難を有する者へ</p>

	<p>の学習機会の提供というところですが、事業の中に成人期の障害を持つ方々の学習機会とか、こういったものについての観点が抜けていると感じました。評価について意見はございません。</p>
<p>議長</p>	<p>事務局のほうでございませうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず、民間のということでお話がありましたが、確かに今、私どもでも家庭教育学級関係もやっておりますが、家庭教育に関する有無というのは民間では評価をしていない部分があるので、実際にボランティア活動をされている方たちとか自分たちで会を設けている方たちもいますので、情報を収集させていただきまして、その中身を精査しながらこちらの援助できるものは援助しながらやっていきたいと考えております。</p> <p>成人期の障害を持っている方への生涯学習に関しては、このたび、文部科学省の方からも提言というか推進計画が出されておりますので、それを今後、熟読させていただいて、事業の展開に生かしていきたいと考えております。</p> <p>なお、先日、つくばの特別支援学校にもお邪魔をさせていただいて、協力できないかどうかお話をさせていただいているところですが、事業展開を進めていくに当たって、いろいろと情報収集をこれからして行きたいので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
<p>議長</p>	<p>そのほかにございましたら。</p>
<p>委員</p>	<p>確認ですけれども、資料3の1ページ、実績の件で、家庭教育講演会。これ3度開催していると思ひますが、特に中間でやられているものが3年間とも参加人数が少ないと思ひれます。これは会場の関係とかいろいろあると思ひますが、単純な疑問でちょっとお尋ねします。</p>
<p>事務局</p>	<p>家庭教育講演会に関しましては、先ほど委員がおっしゃったように会場の問題がございまして、ノバホール、カピオ等大きい会場でやる場</p>

	<p>合と庁舎を使って小規模でやる場合ということがございまして、内容にも差をつけて、一般家庭用の、広く皆さんに周知してやりたいというような講演の内容と、それから専門的に携わっている職員や地域の方を対象にしてやるものもございまして、分けて講演会を実施している都合で、規模が違うということになっております。</p>
議長	<p>よろしいですか。ほかにありますか。</p>
委員	<p>今、ちょうど資料3についてご質問があったことですが、家庭教育学級、先ほど市長もおっしゃっていましたが、生涯学習の段階で一番初期の大切な機会ということで私は捉えていますが、この家庭教育学級を大いに支援している社会教育指導員の制度を今年かなり人数なり、システムなりが変わったようにお聞きしていますが、そのことについて、ご説明いただけませんか。</p>
事務局	<p>今まで各交流センターの13館に配置させていただいておりました。その中で家庭教育学級という事業を展開していたのですが、教育長の名のもと、社会力を育てるという強固な狙いがございましたので、社会教育指導員の方たちにもその一翼を担っていただきたく、本課のほうに上げさせていただきました。生涯学習推進課と一緒に仕事をさせていただいて、社会力強化に向けた事業を展開するという形に変えさせていただきました。</p> <p>そこで、各地域交流センターで相談事業を行っていたところですが、その相談事業も非常に少ないのですが、月に1回設けさせていただいて、各交流センターのほうに出向きまして実施をしているところでございます。</p> <p>それ以外は、生涯学習推進課のほうで各相談事業をさせていただいています。以上でございます。</p>
議長	<p>よろしいですか。他にございますか。</p>

<p>委員</p>	<p>図書館に関するのですが、現在、図書館が分散しておりまして、非常に利用しにくいといいますか、端的に申し上げまして、例えば土浦の図書館を見学してまいりましたけれども、駅前に堂々とした図書館をつくって、しかも閲覧も非常に見やすく、しかも伸び伸びと学習できる環境ができておりました。非常にうらやましく思いました。</p> <p>しかるに我がつくば市の中央図書館はどうでしょうか。ちょっとお粗末な状態で、がっかりというところ。この報告によりますと、ボランティアを頼りにしているという感じですね。それで実際、図書館の管理者に伺いますと、ボランティアはボランティアでよろしいけれども、人員をまず確保してほしいということをおっしゃっておりました。</p> <p>中央図書館をつくば市におきましても早急に建設しまして、大いに利用を高める方向でやっていただきたい。</p> <p>なお、筑波大学の図書館との交流といいますか、利用もできるとなっておりますけれども、非常に不徹底でどう利用したらいいのか、どう活用できるのか、どんなものがあるのかが恐らく一般の方には知られていないのではないかと思います。もっと図書館の機能を大いに発揮していただきたい。</p> <p>もう一つつけ加えますと、図書館は図書だけではなくていろいろな資料を集めないといけないですね。特に、古いものは少ないようですね。そんなことで、図書館を充実していただきたいというのが意見です。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございます。ではこれについてお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>担当課は違いますが、このことにつきましては、よく中央図書館のほうに伝達をさせていただきたいと思っております。現在、中央図書館の情報としましては懇話会がございまして、どうしていくのかという検討もされていくと伺っております。ですので、今後改善がされていく見通しが出ているのですが、どう実際のところの展開になるのかは、申しわけありません、この場では発言できませんので、後ほど調</p>

	<p>べさせていただきます。ご報告させていただきたいと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>よろしいですか。他にございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>乳幼児家庭教育学級の内容についてですけれども、今年度、かなり変わったと思います。昨年度までは相互保育、二組のお母さん、親子ペアになって各回にこの相互保育という形で片方の親子が何かを学び、片方の親子がもう一組の子どもの方の保育をしながら交流を深める、交流と学びを深めるというような構成だったと思いますが、今年度は恐らく相互保育はなくなり、年齢を区切るような形で、本当に乳幼児に特化したクラスとそうでないクラスを分けるというような、大幅な変更があり、まず相互保育のメリットも非常に多くあったと思います。我が子以外の子どもを身近に見ることで自分の子育てについて客観的に考える機会が生まれるとか、自分の保育の番になると欠席してしまうとかいろいろな問題はあったと思いますが、そういったメリットがあったのにもかかわらず、なぜ今年度からなくなってしまったのか。あと特に乳幼児のほうのクラスですけれども、初めてのお子さんをお育て中の方に限定となっていて、もちろん初めての子育てにおいて学ぶべきことというのは非常に多くあるので、枠が限られた中でそういう方に特化するのには理解できないことはないのですけれども、二人目、三人目を子育て中のお母さんと初めての子育てのお母さんが違った視点で同じ場を共有するということは学びの広がりがあります。一方的に講師の先生方から子育て初心者のお母さんが学ぶという場ではなくて、相互学習、協働学習という言葉が先ほども出てきましたけれども、そういう場ではなくなっているという懸念ですとか、今年度の乳児家庭教育学級について、疑問に思うところがあるのですが、どういった狙いでこういう変更、改変が行われたのか伺いたいです。</p>
<p>事務局</p>	<p>今年度に関しましては、乳児と幼児を分けさせていただきました。乳</p>

	<p>児のクラスが 2 カ月から 10 カ月のお子様を対象に、春に実施したのは 54 名、秋 50 名を超える募集がありました。それでは非常に足りないというご意見もあって、冬バージョンもやらせていただこうと思っております。</p> <p>当初非常に少ない 12 組で実施でしたが、非常に反響が大きかったものですから、さらに数を増やし、漏れのないような形でやらせていただきます。</p> <p>幼児ですけれども、今まで乳児と幼児と一緒にやっていた経緯もあり、先ほど相互保育の話もありましたが、相互保育になじめない場合もあるので、そこをきれいに分けさせていただいて、狙いを明らかにして、乳児と幼児と分けさせていただいて実施しているところです。先ほどの相互保育がなくなってしまったということですが、実際には相互保育を実施しております。全くなくしたわけではなくて、相互保育も、1 回、2 回と入れさせていただいて実施をしているところがございます。</p> <p>ただ、1 箇所だけ人が集まらなくて相互保育ができない場所がありまして、並木地区でございますが、6 名ぐらいしか集まらなかったもので、そこは相互保育をすると 3 名という形でしたので、そのクラスだけは相互保育はなくさせていただいたという経緯がございます。</p> <p>家庭教育学級に関しましては、先ほど初めての子以外のということもでございますけれども、乳児に関しては最初のお子様はどう対応していくのか、友達づくりをどうしていくのか、そういう観点から第 1 子のお子様を対象にさせていただいたというところがございます。</p>
<p>委員</p>	<p>まず、この事業評価は、所掌される課の自己評価という認識でよろしいのですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料 2 のほうを見ていただきまして、まず向かって右側に書いてある中/中 B 1 とか、それは各担当課がみずから自分のところで評価しております。私たちはその評価、例えば一番上のライフステージに応じ</p>

	<p>た（１）の①ですけれども、二つ項目がございまして、そこは中/中B、中/中Bとなっているので、二つの事業、ライフステージに関する家庭教育支援をどう評価しましょうかということで、総合的にその二つの評価を合わせて、Bという評価をつけさせていただいています。この真ん中に掲げてあるところが生涯学習推進課で評価させていただいたものになっております。</p>
<p>委員</p>	<p>わかりました。まずそれを押さえた上で、資料 2 の一番下にある芸術・文化に触れ合う施設の充実の一番下に、文化施設における公共予約システム導入の推進が中/中Bになっていますが、資料 3 の 14 ページ、平成 30 年度、28 年度、29 年度、全部同じ文言、ほぼ同じ文言で、市民ホールの予約システムの導入は検討したけども、現行予約システムは利用者になじまないの導入に至らなかったと 3 年間書いていて、中/中Bの自己評価になっているのです。令和元年度にはそんな項目すら消えてしまって、なじまないからやめるという結論を得るのも私は間違いではないと思いますが、3 年間同じことを繰り返して、挙句に推進はできなくてやめているところがどうして中/中Bなのか、どう所管課が評価され、それを見た生涯学習推進課がどうしてB評価のままなのかという根拠を教えてくださいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>申しわけありません。なじまないの導入に至らなかったという評価として、当然中断をしていくという形にして評価をさせていただいております。</p> <p>実際のところ、運用上その部分ができなかったという判断だと考えております。だからできないからCではなくて、できなかったという結論を出したところを評価させていただいております。</p>
<p>委員</p>	<p>28 年度も 29 年度も同じように書いてあって。</p>
<p>事務局</p>	<p>以前にもお話があったと記憶していますが、実際のところでき</p>

	<p>るのかと考えたときに、現状の中では、それをすると非常に利益というか有利に働くところもあるし、そうでない部分で不利益をこうむる方もいらっしゃるので、今、現状の予約システムを導入することはできないという結論をつけたということで対応させていただいて、評価をしたところでございます。</p>
委員	<p>これ以上はいたしませんけど、若干自己評価が甘い部分があるのではないかということだけは指摘させていただきたいと思います。</p>
委員	<p>ノバホールの予約システムのことですけれども、評価については先生がおっしゃったようなことでよろしいと思いますけれども、昨年度いただいた資料の中に、予約システムは無理ということが書かれていて、予約状況についてインターネットで見られるような方向に持っていきたいような文章を読んだ記憶があります。このことについて元年度のところに何も書かれていないのですけれども、これは実現可能なのでしょうか。それともこれもだめなののでしょうか。この場でわからなくても結構ですけれども。</p>
事務局	<p>私もその会議に出ていたと思いますが、私の記憶でも、それは可能で実施していきたいということになっておりましたので、確認をさせていただいてご報告させていただきたく思います。</p>
議長	<p>ほかにございますか。</p>
委員	<p>資料 3 の 8 ページ、30 年度の一番下の改善・見直しの一番下、のびのびスポーツ教室が毎年度定員を超えて申し込みがあるため、教室参加の経験がない新規の申込者を優先できるように調整するというのは、改善・見直しとは利用者からすると思えません。小学校 1 年生から 6 年生までで、月 1 回土曜日に 10 時からと 11 時からの 2 グループに分けて参加していますが、毎年人気なので、何月何日から電話で受</p>

	<p>け付けしますというのを聞いて、その時間に保護者が皆電話するというような感じですが、今の放課後デイサービスが土曜日やっているところがあるにもかかわらず、そういうところを使っていない人が月に1回でも楽しくスポーツとか音楽に合わせて体を動かしたりが主になっているので、人気や需要があるうちは人数を調整するのではなくて回数をふやすとか、そういう方向に改善・見直しをしていただきたいと思います。</p> <p>電話してもういっぱいですと言われて、うちは子どもに泣かれました。1年我慢させたので、デイなどを使っていない軽い障害の子に向けた感じが強い事業と思うので、お願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>担当課に伝えていきたいと思います。</p>
委員	<p>もう一つよろしいですか。先ほど図書館のことを申しあげましたけれども、いろいろな事業経過を拝見しますと、文章を書く、ものを書くという問題がほとんどないのですね。これはどう考えたらよろしいのでしょうか。やはりものを書く・読むというのが基本じゃないかと思うのですが、ほとんど触れられたものがない。やはり大きな課題だと思います。</p> <p>なお、少し話がそれると思いますが、高校の教育、文部科学省の方針が変わりまして、近代、現代文学が高校の教科書から消されるという事態が起きております。それと関連があるとは思いませんけれども、我々市民としてもものを書いたり読んだりということもまず何か楽しみながらやる方法はないだろうか。あつてしかるべきじゃないかと、やるべきだというふうに思いますけれども、どうでしょうか。以上です。</p>
事務局	<p>委員のおっしゃるとおりだというふうに考えております。地域交流センターでの講座などを活用いただいて、広くそういった形に触れていただくような機会をつくっていただければと考えておりますので、今後と</p>

	も努力してまいりたいと思います。
議長	よろしいですか。
委員	よくわからなかったのですが。
事務局	先ほどのご意見もごもっともだと思っております。そこで、地域交流センターで実施している講座など機会を多く設けまして、皆さんにご参加いただけるような努力をしていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。
委員	あと皆さんからのご意見も聞いてほしいですね。
委員	この審議会の役割は、恐らく今日、発表していただいたように、施策の柱があって個人の自立に向けた学習機会の提供なのです。73の事業でその場を提供なさった。基本的にはそこで自立をして、先ほど市長も教育長もおっしゃったように、そこからどうするのかということだと思っております。 ですから、この評価の観点は、ここでやった事業に参加をした皆さんが生涯学習として受けとめて、生涯にわたってそれを生かしていくようなきっかけになったかどうかということが多分この評価の観点だと思います。うまくいったとか大勢が参加したとかだけではなくて。評価の観点は一つにそこに尽きると思うのです。 ですから、評価が多分難しいと思います。でもチャレンジしない限り、いつまでたっても本質的な評価ができないのですね。でも、やはり評価をすべきだと思いますね。それが多分AとかBとかという評価になってくれば、大変わかりやすいなと思います。
議長	よくわかります。今の意見について、誰かご意見ございますか。最終的にはそういうことだと思っておりますね。目的がある、例えば講演を聞

	<p>いて、それで感銘を受けて、それを実践に移して初めて評価が出ると 思います。ただ、そこにたくさん集まってきたからそれでいいという ことではないだろうと。目的がきちんと決まっていれば、それに人々 がどうそれを聞いて、というか感銘を受けて、その後の活動をどう展 開していったかということが一番重要な課題だと私は思うのですね。 そういう意味では先生のおっしゃるとおりだと私は思います。 ほかの方はいかがでしょうか。確かに一人一人がどういうふうを受け て、どう日常生活の中で具現化していくかということの評価すること は非常に難しいと思うのです。どういうふうに心に思っ日ごろ実践 に移していつているか。それを自分でないものがその状況の評価する のは大変難しいと思うのですが、何かいい方法がありますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>今、おっしゃった目標は生涯学習の目標だと私は思うのです。生涯学 習の目標がそういうことで、それに対して評価というのも必要だと思 うのですが、つくば市としてそのために何をすべきなのか。行政と して何を目標に生涯学習をして、その結果、人生というか皆が協働、 社会力がつく。それは生涯学習の目標であって、そのためにつくば市 はどうするのかというのが具体的な生涯学習に関する事業であって、 ここの評価はその事業はその目標に向かって適切に推進されている かどうかというところをまず押さえておかないと、生涯学習の成果そ のものをここで評価するとなると、ちょっと難し過ぎるのではないか と私は思います。</p>
<p>副議長</p>	<p>例えば、古典の文学という生涯学習を受けて、そこで一つの期間の講 座を受けた方が終わった後も好きな人たちと集まって自主的にそう いう講座を持続的に行っていく。一つの例ですけれども、そういうも のを自主的に立ち上げて、そして地域の文化的な活動を広げていくと いう意味で言えば、そういったものも今までは幾つかあったと思いま すけれども、ただそれが社会にどう貢献するかという話になると、ち</p>

	<p>よっと私は何とも言えませんけれども、そうやって自分たちが自主的に好きな人たちで集まって、さらにそれをもとに深めていこうというグループが市民の自主的グループができたり、それから今回、乳幼児学級のところで、自主的に子どもさんたちが集まった会をつくって、自分たちで運営して、そして児童センターを借りてやっていこうとか、そういう自主的な動きも出てきたのですけれども、そういうことが一つ成果、評価というふうに考えていいのですか。そこが今よくわからなくなったのですけれども。</p>
<p>議長</p>	<p>誰か今のご意見に何かございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>評価がわからないということをおっしゃいましたが、評価は事業に対してする評価と、先ほど先生がおっしゃった市の事業としての評価というのは違いがあると思うのです。</p> <p>生涯学習で確かに広汎性、いわゆる皆さんに広めていくという、そういう大きな役割はあると思います。そして、それを受講した人、あるいは自分たちで何かを成そうとした人たちが集まって、何かグループをつくったり動きを出したりとすることは、これは生涯学習の最終目的だと思います。</p> <p>というのは、今の時代は共感性が非常に少ない社会になってきていると思うのです。これは日本だけではなくて、海外でも人種問題とか、移民に関するそういう問題。いわゆる違う文化を持った人たちが集まっている国が非常に多くなっていく。ヨーロッパは特にそうですね。そこで一番学校教育で問題にされているのが、触れ合うことも大事ですけど、共感性を求めるということが非常に大事にされているのですね。</p> <p>あるイギリスの学校で、それは上流階級がいる学校ではない普通の公立の学校で、子どもたちに共感性とは何かを書きなさいという課題が出されて、小学校6年生か中学1年生ぐらいの学年の日本人とイギリス人のハーフの子に何て書いたのってお母さんが言ったら、人の靴を</p>

	<p>履いてみることでよって答えたというのですね。これは共感性に満ちた言葉だとお母さんは感じたと書かれているのですが、私も確かにそう思うのですね。人の立場に立って考えるということは、やはり人と心の交流がなければいけませんので、いろいろグループを作ったり、自分が身につけたことを社会のために何か反映させようとする。そういう気持ちを育てることが一番大事なことじゃないかと思いません。</p> <p>ですから、先ほどおっしゃった乳幼児学級で相互保育がなくなってしまったということで、生涯学習推進課から一、二回はやっていますという答えがあったのですが、私は全部というか、その3倍、4倍ぐらいを相互保育でやることによって、共感性が随分違うと思います。ですので、相互保育を少なくするのでは、乳幼児学級の本当の意味が保てないような気がして、先ほどのお話を伺っていたのですが、それは大人のグループでも全く同じことだと思えます。難しい話だとは思いますが、社会の中で人々が生きていくためには、お互いに違うということを認め合うことが大切ですね。でも、違うのでその人は違うんだ。私は私なんだというところが個人主義の生まれる一つのプロセスになってしまうので、そこで他人の靴を履いてみようという、そこが心の問題だと思うのです。</p> <p>どのように社会に還元していくかというか、それが個人個人にとっても非常にレベルの違いがあるので難しいことだとは思いますが、いろいろ認めていかなくてはならないことを認めていくということがこれからの社会の課題のような気がします。まとまらない話ですが。</p>
<p>議長</p>	<p>ほかにはございますか。私に家庭教育学級のことで、こういうことがあったらいいなと思うことが一つありますので、お話ししたいと思います。大変素晴らしい取り組みがあったので、それをぜひお知らせしたいということでお話ししますが、実は吾妻小学校で過日、家庭教育学級をやったのです。素晴らしい先生をお呼びして、どのぐらいの人が集まったのかといたら図書室を使ったのですが、30名ぐらいし</p>

	<p>か集まらなかったと言うのです。</p> <p>おいでになった先生が東京大学の大学院の医学系研究附属グローバルナースングリサーチセンター特任助教授をされていて、牛久にお住まいの方ですが、「いらいら・怒りを笑顔に変える感情の整え方、癒し方」ということで、講演がありました。</p> <p>こんな先生をお呼びしてやるのに、30人ではもったいないと思うのです。指導員の先生方も多分かんでいらっしゃると思うので、こういうことがあったらぜひ周りの小学校か中学校の家庭教育学級にお声をかけて連携してやられたら、非常に成果が上がると思うのです。非常にもったいない例だなと。</p> <p>私も家庭教育学級でお世話になった立場を考えると、こんな素晴らしい先生をお呼びして、一つのPTAでやるのは本当に考えられないようなことです。これをやった吾妻小学校は素晴らしいなと私は感心しているのです。そういう意味で、そういうことがあったらほかの学校と一緒にグループでやるようになれば非常にいいことだと思いますので、ぜひそういうことも各学校にお伝えいただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>実は今年、学校の教頭先生あるいは学年主任、当該学年の学年主任の先生と保護者の方の代表を集めて合同説明会を実施した上で家庭教育学級をスタートさせていただきました。</p> <p>今、先生がおっしゃられたことについては、一昨年あたりも私、似たようなお答えを差上げたかと思うのですが、つくばは先駆けて小中一貫教育、私も高山学園というところにおりましたけれども、学園内でのPTAを組織するという動きも今までありました。来年度の説明会の折には、そういう素晴らしい場合は、学園としての家庭教育学級という捉えで多くの方に学習してもらおうということも推奨してまいりたいと思います。ありがとうございました。</p>
議長	<p>次の議題のほうに移らせていただきます。</p>

<p>事務局</p>	<p>事務局よりお願いいたします。</p> <p>資料 4、生涯学習調査概要です。</p> <p>市民の生涯学習に関する意識や実態を把握することにより、(仮称)第 3 次つくば市生涯学習推進基本計画策定の参考にするということで、調査を行います。</p> <p>市内に在住している 18 歳以上の男女を対象にして、郵送によるアンケート調査を実施し、2,600 のサンプルを住民基本台帳により無作為抽出いたします。</p> <p>2 週間程度の期間を設けまして、令和元年、今年ですけれども、10 月ごろに実施する予定となっております。</p> <p>そして、ウェブによる回答も受け付けるということが概要です。</p> <p>次の資料 5 に修正がありまして、今日お席の上に置いておきました調査票にかえさせていただきます。そちらのほうで説明させていただきます。</p> <p>まず、前回お送りした調査票との違いは、ごらんのとおり非常にわかりやすく、そして回答しやすいような工夫がされております。</p> <p>そして、前回調査との主な変更点ですけれども、以前行われた生涯学習審議会でも議論された中で、生涯学習の説明を入れてはどうかということと、あと、設問の中に自由時間の使い方とか、生涯学習にかかる費用、お金の問題。そして、属性の位置を考えてはどうかということがありました。</p> <p>そのほかには、社会貢献とか、市民協働意識をもっと詳しく回答できるように工夫してはどうかというご意見がありましたので反映させております。</p> <p>そういうことで、前回 14 問ありました問いに対しまして、今回は 11 問と 3 問ほど減らさせていただいております。</p> <p>また、経年変化を把握するために、設問の内容は前回調査を基本としております。</p> <p>まず、表紙ですけれども、一番上に「つくば市の生涯学習についてご意</p>
------------	---

	<p>見をお聞かせください」と、ずばりここで聞いております。</p> <p>そこで、その2段下には、「あなたの回答が、つくば市の未来へ生かされます」というキャッチフレーズですが、こういうものを入れまして、本当に大事なのだから、回答してくださいということを積極的にアピールしたいと考えております。</p> <p>中段、この表紙の真ん中には「生涯学習とは」と、先ほどお話ししました生涯学習とは何かということ、まず説明しております。</p> <p>その次には、「ご記入にあたってのお願い」の中では、前回お送りした記入のお願いは6項目だったのですが、1項目増やしております。</p> <p>それは、2番になります。調査票及び返信用封筒には、住所・氏名をお書きにならなくて結構ですということのほかに、この調査は、調査票の他に、パソコンやタブレット、スマートフォンから回答することもできますということで、回答率アップのための工夫もしております。</p> <p>これから2ページ目から説明しますが、大きく分けて四つの項目になります。</p> <p>まず、回答者自身のこと。そして、日頃の生活のこと。これからの学習について。これまでの1年間の学習についてと、こういう4項目になっております。</p> <p>2ページですけれども、よろしいですか。2ページを開けていただきますと、一番左上に「あなたご自身のことについてお伺いします」と、ここも黒いバックに白文字で非常にわかりやすい表現になっております。</p> <p>性別につきましては、男性、女性のほかに「無回答」という項目を設けております。</p> <p>そして、年齢ですけれども、前回の調査票では満何歳と、ずばりその方の年齢を伺ったのですが、これは10歳刻みにして回答しやすくなっております。</p> <p>そのほかは、学校が増えておりますので、17校の学校になっており</p>
--	---

	<p>まして、そのほか大きな変化はありません。</p> <p>そして、この属性は、以前は一番後ろにあったのを一番初めに持ってきました。</p> <p>次に、「あなたの日頃の生活のことについてお伺いします」という問 1 から始まります。問 1、問 2 あたりは大きな変化もなく、普段の生活とか、地域という言葉で思い浮かべることを伺っております。</p> <p>次に 3 ページ目、「あなたご自身の学習についてお伺いします」。問 3 になりますと、何かを学んだり、身につけたりという設問に対しまして、「思っている」、「思っていない」。「思っていない」を選択した場合には、「5 ページの問 4 におすすみください」。以前はこのページ数が入っていませんでした。「問 4 におすすみください」と。問 4 ってどこにあるのかということになってしまいましたが、5 ページと明確にうたわれておりまして、回答しやすくなっております。</p> <p>そのほかには問 3 - (2) どのような方法で学びたいと思いますかという回答欄に、2 番の通信教育・オンライン講座 (Y o u T u b e) などと、最近はこういう Y o u T u b e などでも学習するというところで、新しい文言も入れております。</p> <p>問 3 - (3) どの施設を利用して学びたいと思いますかという設問の回答に関しましては、3 番. 地域交流センターと、4 番. 図書館とは以前は一つになっていました。ただ、地域交流センターと図書館は別物なので、このように分けさせていただきました。</p> <p>次、4 ページになります。</p> <p>4 ページの問 3 - (4) 何のために学びたいか。ここは大きな変化はなく、前回とほとんど同じです。</p> <p>問 3 - (5) あなたはご自身の学習成果をつくば市のまちづくりに役立てたいと思いますか。以前は「社会貢献したいですか」という問いでしたが、具体的につくば市のまちづくりに役立てたいと思いますかということをお伺いしております。</p> <p>そして、「はい」と答えた方は問 3 - (6) になるのですが、「では、どのような形で生かしたいですか」というところで、前は五つ</p>
--	---

	<p>しか選べなかったのです。ところが今回は14個にふやしました。この辺は、先ほど説明した社会貢献とか、協働に関する答えのボリュームを上げてはどうかということで、工夫しております。</p> <p>次、問3-(7)「市民協働」のまちづくりを進めていくためにという問いに対しまして、どちらかあてはまる番号に○、「はい」、「いいえ」、そして、以前は「はい」、「いいえ」で終わってしまったところが、サブクエスチョンを加えました。では、どのような協働が考えられますかと。または、参加したいと思わない理由をご記入くださいというオープンアンサーにしております。</p> <p>次、5ページに移りたいと思います。</p> <p>問4に関しましては、ほとんど前回と同じです。</p> <p>問4-(1)あなたが学習していたことはどのようなことですか。三つ選び最も力を入れたものの順に番号を記入してくださいと。</p> <p>ここは、以前は一つだけ選んで、その番号に○だったのですが、今回は選択肢を増やしまして、三つ選んで最も力を入れたものの順にという答え方になっております。</p> <p>次、6ページでは、どのような方法で学びましたか、問4-(2)になります。これも大きな変化はありません。先ほどお話ししたようにYouTubeとか、そういう文言を新しく入れたこと。問4-(3)につきましても、地域交流センターと図書館を分けたこと、そのように工夫をしております。</p> <p>また、問4-(4)あなたはその場所に満足していますかということで、「満足している」、「満足していない」と答えた方は、サブクエスチョンで、その理由を書けるようにしております。</p> <p>問5、学習に関する情報も、前回とほとんど変わっておりません。</p> <p>問6ですけれども、情報をどのようにして知ることが多いですかという回答の中で、市のホームページ、市のFacebook・Twitter等のSNS、インターネット、パソコンや携帯等の文言を新しくつけ加えております。</p> <p>7ページ目の問7、問8、問9、これらはほとんど変更ありません。</p>
--	---

	<p>最後の8ページ、問10としまして、社会力です。社会力を高めることに力を入れていくこと。つくば市ではそのように考えております。そのような考え方に対しまして、反対ですか、賛成ですか。どちらかに○をつけてくださいという問いを新しくつけ加えております。最後に問11番につきましては、意見や要望、これは前回と変更ありません。</p> <p>そのほかのインターネットによる回答方法としまして、1枚のものを机上に置かせていただきました。これは調査票、ペーパーではなくて、インターネットでも回答できるように工夫してあるものです。以上、雑駁ですけども、説明をいたしました。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>これについてご意見はございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>細かい点も含めてよろしいでしょうか。</p> <p>まず、1ページ目の上のほうの四角の中で、3段落目、「この調査にあたっては、調査者を地区ごとに割り振り無作為に抽出しております」と書いてありますが、普通、「調査者」は調査する人を言うのですね。調査される人は「被調査者」なんですね。</p> <p>被調査者という漢字を使うと難しいというのであれば、「調査対象者を」とか、少なくとも「調査者」というのは調査する側のことなので、訂正されておいた方がいいと思います。</p> <p>それから、その下、「生涯学習とは」というところの定義の、「すべての学習活動を差し」の「差し」は、この漢字の「差」ですか。指さすの「指」じゃないか。ちょっと自信がないです。自信がない場合、平仮名にしておく。</p> <p>3ページ目にいきまして、問3-(2)で、前回のものよりも時代の要請で分けていただいたのはいいと思うのですが、オンライン講座まで、YouTubeに入れて、どうして4番の情報端末やインターネットが別なのか、私だったら悩みますね、どちらに丸をつけようかと。</p>

	<p>オンライン講座をインターネットを使わずに学ぶことはできないと思います。だけど、ここは一つだけ選べとなっていますので、考えてしまうのではないかと思いました。</p> <p>それから、最後 8 ページ。好みの問題で、いいとか悪いとかということではないのですが、「社会力」という定義をしても、この 2 行の説明だけでわかる人がどれくらいいるだろうかと。そのときに、賛成か反対だけで、「わからない」という選択肢をあえて入れないのはなぜなのでしょう。でも、あえて「わからない」というところにいっぱい丸がつくと困るから、ここは二者択一にしましたというお考えであれば、それでもいいと思いますが。その辺が気になりました。</p> <p>以上です。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。誤字脱字、申しわけありません。おっしゃるとおりだと思います。</p> <p>あと、オンライン講座と確かにインターネットの区別をどうつけるのかは、非常に回答する側が紛らわしいので、この項目を検討させていただきます。</p> <p>それから、先ほどの 10 ページの件ですが、「賛成」「反対」という意見であえて「わからない」を設けていないのは、これを皆さんにお諮りをして、変更させていきたいということがありましたので、変更させていただくような形で皆さんのご意見が整えば、そうさせていただきたいと考えております。</p> <p>なお、「社会力」に関しましては、確かに我々は理解しているからこういう安易な書き方をしているので、もう少し検討させていただいて、理解が得られるような言葉を使わせていただきたいと考えております。</p> <p>「賛成」「反対」「わからない」のところは、ご議論いただければと思います。</p>
議長	<p>わかりました。今の 10 番目の問題、事務局からお話がありましたけ</p>

<p>委員</p>	<p>ども、いかがでしょうか。</p> <p>まず、素朴な疑問ですけど、賛成か反対かを聞いて、例えば反対が多かった場合、どうしたいのかという意図が見えないのが一つですね。でも、この設問自体は賛成か反対かを聞くよりも、その生涯学習を通じて社会力を養うために、どのようなアイデアがあるのか、例えば自由記述とかで聞いてみたら、おもしろい意見が出てくるのではないのかなとか、そういうアイデアをもらう設問としてあるのだったら意義があるかなと思うのですが、ここで賛成、反対を聞いてどうしたいのかが正直わかりません。</p> <p>以上です。</p>
<p>議長</p>	<p>そのほか、ご意見はございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>全体的な感じですけども、アンケートというのはなるべく答える側に立って、わかりやすく、あるいは優しい言葉を使って、より回収率を上げるためにもそういったことが必要かなと。</p> <p>そういった中で、自筆するもの。例えば、文字であらわすものは、あまり答える側としては書きたくないというのが本音であるかなと。これも、地域の会合でそういった話も出ましたので、なるべく自筆で書くことは避けて、丸をつける、あるいは番号を選ぶ。より簡単な方法がいいのかなと感じている次第でございます。</p> <p>そういった中で、2ページの「あなたの日頃の生活について」では、「よい」、「わるい」がありますけども、この4段階にした理由は何かあるのかという素朴な疑問が一つ。</p> <p>それから、「1つ選んでください」というようなことが結構多いように見受けられます。一つ以外にも、二つある、三つ付けたい部分もあるのかなと感じております。</p> <p>例えば、6ページ問4－(3)、学んだところの場所ですね。複数箇所が出てくるのかなと。あとは、どのような方法で学びたいか、こう</p>

議長	<p>いったことについても、一つでは足りないのかなという感じを受ける ところがございます。</p> <p>そういう点をお聞かせ願いたいと思います。</p> <p>最初に、今のお話をちょっと置きまして、最初に戻らせていただいて、 10 番の設問に対する皆さん委員の方のご意見をもう少し深めさせて いただいて、それを片づけてから今の問題に入りたいと思いますの で、ぜひ、前段の方のご意見をいただければと思います。</p>
副議長	<p>私も最初にいただいた意見で、最初は1ページの「市民の皆様には」 の文章から、「社会力を育てていく」という文言になったのは、育て るためだったのかと非常にひっかかりまして、では、社会力はどう表 現するのだろうか。今、盛んに「社会力」という名前が出てくるけ れども、この「社会力」はもうちょっと深めたほうがいいと思いなが ら、いろいろ「社会力」で調べると出てくるのです。人と人がつなが って、社会を構築していく力をつけるような、そんな言い方だったか なと一応意見は出させていただいて、「高めていくために」と書いて いただいたことは、これもありかなと思ったのですが、先ほどの「社 会力」のところに説明の文章があって、その下でそれに賛成か反対か を聞くのは、私も非常に違和感を覚えました。</p> <p>それで、それに対して意見を聞くというか、先ほどの委員のことは、 「これはいいな」と思いながら聞きました。</p> <p>それから、その説明のところですけども、「力を合わせて、つくば 市をよりよい街にしていこう」と。非常に範囲が狭く申しわけない。 社会から狭まったなという気持ちが出て、つくば市だからつくば市と いう、よりよい街と書くのが妥当なのか、それとももっと広い大きな 観点で、そこは「社会を」と書くのか、そこはぜひ考えていただきた い。</p> <p>この文章は、教育長からいろいろなご意見をいただきながらの文章な のか、そこも含めてお願いしたいと思います。</p>

<p>議長</p>	<p>ありがとうございます。ほかにございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>私はつくばらしいなと思って見ていますけれども、ただ、教育長が就任なさってから、知る人ぞ知る、全国的に日本の中では社会力というのが通説になりつつあるのです。一般的には社会性です。社会性と違うぞということはずっと教育長は言い続けていて、多分学校教育の現場でも、つくば市では、この社会力という表現は結構今は使われてきています。だから、そういうことを含めても、説明をどうするかは別にしても、社会力というのはやはり世を先んじている表現力だと思います。だから、先ほど申し上げたように、私はつくば市らしい表現だなと受けとめています。</p>
<p>議長</p>	<p>ほかに、ご意見はございますか。</p> <p>では、まとめさせていただくと、確かに「社会力」とここに書かれておりますけども、これで理解できる方は本当にいないだろうと思うのです。先生のご本を読んだり、そういうことに関心のある方は、恐らく教育長の意見の社会力だなと想像はつくと思うのですが、多くの方は初めての方が大部分だと思います。その方がこの 1 行を読んですぐ理解できて、それに賛成か反対かというのは、ちょっと乱暴過ぎるだろうと思うのです。</p> <p>ですから、この「社会力」ということを先ほども事務局からもありましたけども、教育長もいらっしゃることなので、皆さんにわかりやすいような言葉でここに書いていただいて、賛成か反対かではない選び方があるのではないかと思います。こういう極端に良い、悪いではなくて、そういう形でここをまとめていただければ、今出てきた皆さんからのご意見がそこに酌みされてくるだろうと思いますので、事務局にお願いできればと思うのですが、委員の方、いかがでしょうか。よろしかったら、そうしたいと思います。</p> <p>では、先程お話があった件について、皆さんからのご意見をいただき</p>

	<p>たいと思います。どうぞ、お願いいたします。</p> <p>初めにそのことについて、意見というよりは事務局からお話しただければ、それで大部分解決できるかと思っています。</p>
事務局	<p>最初に2ページの、「あなたの日頃の生活について」ということで、アンケートを受けた対象者の方が、実際にどういう状況にあるのかという状況把握をさせていただきたいということで、この4段階の項目を聞かせていただいております。</p> <p>例えば住環境、実際のところ、自分の家に満足しているのかどうかというところから始まって、その人の生活環境をまず把握したいということで4段階にさせていただきました。</p> <p>あと、複数回答にしたいというところで、確かに一つでは決められないところが多数あります。先ほどおっしゃられたように、そういったところは非常に選択しづらいところではございますが、前回の調査とのバランスもあり、ここは1箇所だけというようなところもありますので、統計学上の調査というお考えをいただいて、こういう形にさせていただきます。</p>
委員	<p>自筆についてはどうお考えですか。</p>
事務局	<p>例えば自筆の場合は、新たにつけ加えられたものは協働の部分です。協働の部分に関しましては、市長が直接聞きたいと。実際にどんなことをやっているのか、単純に「やっています」「やっていないです」というのだけではなくて、やっているのだったらどんなことをやっているのか、やっていない人はどうしてやらないのか、そういう気持ちも知りたいということがありまして、確かに実際に回答としてはもしかしたらエラーが多いかもしれないです。書けないとか、書きたくないとかという人もあるかとは思いますが、あえてここ3-(7)は、自由回答をつけさせていただきました。</p> <p>あと、「満足している」、「満足していない」というところに関しては、</p>

	<p>何に満足しているのかがやはり知りたいということで「満足している」、「満足していない」を選んだ方のその理由も知りたいというところでございますね。</p> <p>非常にパーセンテージは低くなる可能性があるというふうに思うのですが、必要なものと感じています。</p> <p>そして、最後、10 と 11 に関しては、自由な意見を書いてくださいということなので、4 - (5)、それから 3 - (8) はお願いしたい部分として、挙げさせていただきました。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>前回の自由記述のものですが、これだけあります。11 ページにわたって各調査の中に、全部誰もが書いているわけじゃないのですが、かなりの分量の意見がこれに載せられています。</p> <p>先ほど事務局からお話があったと思うのですが、もし、これを土台にして市政に反映するという事になれば、大変貴重なご意見かなと思いますので、全員が確実に書かなくちゃならないということではないので、意見のある方が書いていただければ、それは市民がどういうことを考えているかということを知るのに大変有効な手段じゃないかと思うので、確かに委員がおっしゃることは、私もあったら書くのは嫌だなという気持ちがありますから、それはよくわかります。でも、書かなくちゃならないと思う方は書いていただいたほうが、市にとっては大変いいことじゃないかと思いますので、いかがでしょうか。ほかに調査についてのご意見がございましたら、お願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>私は高齢者の代表です。高齢者の仲間の中の一人でございます。まず、ちょっと前のデータで、評価の中で、シルバーの人材が減っているという書き方をされて、減少している傾向にありますと書いてある。これ、認識が違うのではないかと思いましたので、高齢者の中でも、いわゆる団塊世代の方々は、生活テンポが文化のテンポに対して追従できる方々。その上の 75 から 80 ぐらいのところは、少しはわかるとい</p>

	<p>う方。80 を過ぎますと、もうとてもじゃないけどついていかれませんか。アンケートでいろいろ難しい言葉、横文字が入ってきますと、そこだけでも飛んじゃうのですね。そういうことを今前提で申し上げて、ただ、認識では減っているのじゃなくて、そういう高齢者が集まって、私どもは自助・共助、お互いにみずからも、またお互いが助け合いましょうという自助・共助という形を基本的な形で任意団体を構成しているものなのです。その中では抑制されたり、年寄り扱いするな、自分たちは自分でできるということが入ってこられないのです。ですから、自然淘汰という形で減っているという意味であって、減少傾向にあるという言葉はちょっと違うと思いますので、これだけちょっとはっきりしておいていただきたいと思います。</p> <p>実際に今、私どもは、多分65歳以上は4万2,000～3,000名いらっしゃると思うけども、私ども任意団体でやっているのは大体6,500から7,000名ぐらいいらっしゃると思うのです。一時、確かに8,000名ぐらいいらしたこともありましたが、それは一応ご承知おきいただきたいと思います。一応私は仲間の中で、自助・共助という形をいつもやっております。私たちの問題は何かと云ったら、今盛んに言われております交通事故、あるいは被害者、加害者かどうか、それから事件、事故、そういう形になりますと、どうしても「高齢者は」と始まるのですね。そここのところで、ありがたいことにあれだけ報道され、そしてまた、いろんな指導をされているにもかかわらず、どうしてもそういう事件、事故というのは防げない部分がある。でも、私は自分たちの仲間の中では、そういうことがあるので、じゃあ、安全に対してどうしましょうかという、それなりの専門機関の方たちをお呼びして講習を受けたり、出前教室とかよく言っておりますが。それが、行政もそうですし、それから警察とか、消防とか、そういう方々の出前をいただきましてやっております。</p> <p>そういう中のことを頭に入れながら、私、一通りアンケートに答えてみたのです。その方々の立場の状態ですね。大体自然に書けました。というのは、難しいところは抜いてしまいます。でも、それはそれぞれ</p>
--	--

	<p>の思いだから、よろしいじゃない。全部パーフェクトに書かないとデータになりませんではなくて、そういう高齢者の方も、あらゆる年齢が全部書いていますから。年齢の中で、そういう受けとめ方をしていますよ。結果をちゃんと評価、そういうものをつくっていただければありがたいなと思っておりますがね。</p> <p>だから、先ほどの10の問題についても、「社会力」って何とかって言われているけど、最初の大きな文言のところの読み方って、私、自然に読めたのですよ。「社会力を育てていくために、日頃の学習・文化・趣味・スポーツなど」というふうに自然に読めたのですね。</p> <p>というのは、高齢者というのは、特別言葉を選ばなくても、自分たちがみずから使っている言葉もたくさんあったのですね。社会力を高めようとか、難しい言葉を使っていますから、社会力を育てていくために日ごろの学習ということは自然に受けとめられましたけどもね、でも、やはり今は難しい言葉で言っていること、「社会力とは何ぞや」と言われますとね、困りますが、つながっている言葉はそこで読めますので、そういうことからいろいろ言いましたけども、アンケートをずっとやっていきました。</p> <p>その中で、どうしても途切れるのはこれなんです。インターネットによる回答方法。ここから始まりますと、「インターネットは何ですか」という話になりますよね。</p> <p>それから、多分いろんな方法をとられていますけども、自分たちが対話、会話を通じてお互いの意思疎通を図り、そしてまた、みんなでやってみましょう、安全とは何なのか、衛生では何なのか、あるいは高齢福祉ということに対して何だろう、あるいはまた、ボランティア活動では何だろうということがお互いに集まって、お互い自助、共助の中でやっておりますので、ちょっと長々と変な話し方をしましたけども、アンケートの捉え方としては、パーフェクトに書いてほしいならば、それなりの年齢の方々にふさわしい出し方をすればいいのであって、これ、全部共通ですものね。ですから、事によると同じ年代、僕たちの仲間たちでは、全部は書き切れないものもあるかもしれないなと感</p>
--	--

様式第1号

	<p>じました。</p> <p>内容的には、私は、非常にいい質問かなと思っております。</p>
議長	<p>ありがとうございます。ほかにございますか。</p>
委員	<p>「調査票の宛名のご本人が」とあるのですが、知的障害のある方は一人では答えられないと思うので、その際に「保護者と一緒に」とか、「ひとり暮らしの障害のある方は支援者と一緒に」というのを、問い合わせがあったらとは思うのですが、どうなのかと思いました。</p>
事務局	<p>そのとおりだと思います。そのような形で、できれば文言に1行でも、「そういう方の援助を受けても構いません」という注意書きを入れていきたいなと考えます。</p>
委員	<p>問い合わせがある場合は。</p>
事務局	<p>もちろん、対応させていただきます。</p>
委員	<p>物理的なところで、各質問項目のところで、2ページで言えば問1で、四つの中から一つを選んで、その番号に○をつけてください。○が特段小さいけれども、何か特段意図がないのであれば、多分文字のポイントと同じにすることがいいだろうと思いますけれども。各ページに○と入っていて、特別小さくなっている。何か意図があるのですか。これがトレンドだと言うのだったらわかるけれど。</p>
事務局	<p>ご指摘、ありがとうございます。</p> <p>ところどころそういうところが見受けられますので、校正していきたいと思います。よろしく申し上げます。ありがとうございます。</p>
委員	<p>では、学校の代表で発言申し上げます。</p>

	<p>生涯学習とはというところに、家庭、学校、職場、地域と、あらゆる場での学習だということを指しているのですが、このアンケートですと学校教育に関するものがとっても薄いなという印象を受けます。</p> <p>それで、社会に開かれた教育課程というのを今学校は目指していき、社会と学校はよりつながっていきたくと学校は考える方向で今、いろいろなことを見直しております。</p> <p>ですので、学校が目指す児童像とか生徒像を、地域の方々と共有していきたくと考えて始めています。</p> <p>ですので、例えば4ページにあります問3-(6)あなたは学習の成果を地域や社会でどのような形で生かしたいと思いませんかというところで、1番にボランティア活動とありますが、例えば、この中に括弧書きでもいいので、学校での学習支援だとか、そういった具体例を入れていただくと、より学校とのつながりができてうれしいと思います。以上です。</p>
議長	事務局、ご答弁をお願いいたします。
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、そのような形で考えて入れさせていただきたいと思しますので、よろしく申し上げます。</p>
委員	<p>アンケートの中に何か所か出てくる、「あなたが学びたい場所」を選択するものがあるのですが、その中に例えば児童館などが分けられている項目があるのですが、多分この生涯学習の施策の中にも、一応学習の場として、地域子育て支援センター、子育て総合支援センター、〇〇ひろばというような地域子育て支援拠点と呼ばれる場所も、多分学習の場として挙げられていると思うので、この選択肢の中に、「総合子育て支援センター」と言うと1箇所のことになるので、本来だったら「地域子育て支援拠点」と書きたいところですけど、多</p>

<p>事務局</p>	<p>分それでは当事者の方もわかりにくい。なので、どう書くべきかは検討の必要があると思うのですが、「子育て支援拠点（〇〇ひろば）」みたいに書けばいいかなと思うのですが、そういった項目を入れていただくといいということと、それから、「あなたが地域で所属している団体などがありますか」という選択肢の中に、もう令和なので、婦人団体ではなくて女性団体でいいと思います。</p> <p>以上です。</p> <p>ご指摘、ありがとうございます。</p> <p>その場所に関しましては、こちらでいろんな言葉を選んで検討していきたいと考えております。</p> <p>そして、婦人と女性、これは訂正しておきたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>P T A代表なので、どうしても先ほど先生がおっしゃられたボランティア活動、学校に入ってからボランティア活動なのですが、今、部活問題も出てきていますので、先生たちも勤務時間との関係で、そんなに地域の方を歓迎するのであれば、本当に生涯教育の中で社会貢献ということで、一つの項目を設けるぐらいの大きいアンケートを加えて、一つの項目として足してもいいのかなと思います。</p> <p>例えば外国語活動のボランティアとか、課外活動のボランティア、それから生きていくための知恵とか、防災活動とか、そういったものをたくさん入れた方がいいと思います。</p> <p>それから、このアンケートとあまり関連していませんが、先ほどの家庭教育学級の話ですが、家庭教育学級の話は、私たちも保護者として日々学習しようとしているのですが、共働きという職場の制限の関係で、どの学校の家庭教育学級でもすごい人数が少なく、多分どのP T A連合単位でも、せつかく企画したのに、企画する側も、参加する側も参加しにくい時間帯とか、題目はいいのだけど、今日はどうしても有休が取れないとか、特に低学年の保護者の方は、有休をほと</p>

	<p>んど子どもの病院に使っているのかなと思っているのが現実です。その中で、他の学校を受けるときに、駐車場問題や受付の問題など、たくさん出てきますので、先ほど事務局がおっしゃったように、一つの学園ごとでというのが現実的だなと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>非常によくできたアンケート用紙だと思いますが、ちょっとだけ気になったのは、この対象者は18歳以上の男女の方ですね。それで、10代の方は対象じゃないという意味なのでしょうか。</p> <p>対象者が市内に在住している18歳以上の男女と書いてありますよね。それで、このアンケートの答えのところに、10代、20代、30代と全部書いてありますけど、そうすると、10代の方はどうなのかと思って、素朴な質問なのですが。</p>
<p>事務局</p>	<p>18歳の方はどこに丸をしたらよろしいかということでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>10代というのは小学生などまだ小さい方もいますので。若い人には出さないということですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>出しません。18歳以上が対象になっていますので。</p>
<p>委員</p>	<p>では、10歳とかそういう方には出さないということですね。その辺がちょっとわからなくて、ありがとうございました。</p>
<p>議長</p>	<p>ほかにございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケートの原案の策定、ご苦労さまでした。</p> <p>全般的には、前回のものと比べましても、すごく見やすくなっていると思いますし、わかりやすくなっている、書きやすくなっているかなと思いました。これは感想で。</p> <p>私は研究者なので、従来と違うところがあるといいなと思って、期待</p>

	<p>している部分についての話を参考までにさせていただきたいと思います。</p> <p>前回のアンケートをとられたときの集計結果というのを、きょう持ってきてくださいということだったので拝見したときに、この中で問4というのがあって、生涯学習に対する関心度というものがあります。恐らく今回のアンケートでは、3ページの「学習についてお伺いします」というところに該当すると思うのですが、前回のアンケートのときは、関心度で「関心あります」と書いた人が約8割位いるということで、こういうことをやる意義も結構高いのかなと思っていますが、一方で、関心のない人も2割位いると思うと、関心のない人は、例えば3ページのアンケートで「思っていない」に丸をして、5ページの問4のところも「いいえ」と書いて、「ない」と書いて1分ぐらいで終わってしまうのかなという気もします。</p> <p>これについては、確かにそういう人も一定数いるのは仕方がないと思いますが、最後のページ、下半分まだ余裕があるので、例えば関心のない方においても、従来型の生涯学習じゃなくて、どのようなきっかけがあればというような書き方をして、先ほど自由記述でアイデアを募ったらどうでしょうかというアイデアがあったと思いますので、そういうところはある程度何か書けるようなことをしたらいいと思ったりしました。というのが一つ。</p> <p>もう一つは、しばらく前に市のデータを見たときに、たしか1世帯の人数って2.5人ぐらいだったと思うのですが、自分で勝手に思うに、2.5という数は多分一人の世帯と4人の世帯というのが1対1ぐらいの感じと思うのですけれども、大体その従来型の場合、私の家もそうですけど、親がいて、子どもが二人ぐらいいるところを標準に考えてつくるのが、比較的書きやすいと思うのですが、逆に一人の世帯っていろいろな多様な一人の世帯というのが存在していると思うのですけれども、そちらの人は私の職場の中でもいろいろな企画をして引っ張り出してこようと思っても、なかなか自分には関係がないという感じで、なかなか来てくれない人たちが一定数いて、でも、そ</p>
--	--

	<p>ういった人たちの方がむしろうまくはまると、いろいろな担い手になってくれたり、力を発揮してくれたりすることが結構あって、私のところも共働きなので、時間がなくて家庭教育学級はできないのですが、でも、そういう人たちが暇であるということはないと思うのですが、いろいろなきっかけをうまくつくと、最初の話にあったような地域とつながるきっかけにも結構なると思いますし、学校でも地域とつながるようにいろいろな機会ですとパトロールするときなどに声をかけたりして、いろいろやっていると、そういうつながりになるきっかけは、むしろ一人である人のほうが実は高いのではないかと思うので、そういう意味でちょっと関心がない、本当は私、世帯構成の質問が入れられるとおもしろいと思ったのですが、プライバシーの問題もあるから難しいのかもしれませんが、一人でいらっしゃる方たちをつなぐことができるようなきっかけが、こういうアンケートからわかるといいなと思っていたので、少なくとも何も関心がない人の意見をどこかで拾えるようにしてはどうかと思いました。</p> <p>以上です。</p>
<p>議長</p>	<p>どうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>冒頭の「生涯学習とは」というのは家庭、学校、職場、地域等で行われる全ての学習活動を指し、教養的なものだけではなく、スポーツ・芸術・文化・ボランティア・レクリエーション、趣味等も含まれますと。</p> <p>この文章が何かおかしいと思います。つまり、学習の場所と学習対象が何かごっちゃになっていないでしょうか。これは大事な文章なので、わかりやすく表現していただかないと、混乱するのではないのでしょうか。いかがでしょうか。</p>
<p>議長</p>	<p>事務局のほうで、お二人の内容について、お答えいただけますか。</p>

事務局	<p>最初のコメントに対して。</p> <p>確かに関心がないと、無回答で逃げていってしまうことあるかと思しますので、最終設問、11のところを検討させていただいて、そこに書けるような、最終的にはここに記述をしていただくということです。新たに増やすと、設問が一つ増えてしまうので、そのところは工夫をさせていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>委員のご質問にお答えを申し上げます。</p> <p>生涯学習というのは、先ほど委員に学校教育のことをお話いただきましたけれども、学校教育、それと公民館等で行われる社会教育というのを包含した学習活動を生涯学習と言っております。</p> <p>定義としては、ここに載せたものが文科省等々でも表記されているものでございますので、これでアンケートをとっていただけらと思っております。以上でございます。</p>
議長	<p>時間も迫ってまいりましたので、これだけはお話ししたいという方がおりましたら、1問だけお受けしたいと思しますので、お願いいたします。</p> <p>ないようですので、これで審議のほうは閉じたいと思います。</p> <p>進行のほうを、事務局のほうに移させていただきます。</p>
事務局	<p>会長、どうもありがとうございました。2時間という長い間、会を仕切っていただきまして、御礼を申し上げます。</p> <p>今回のアンケートに関しましては、精査させていただいて、委員の皆様にもう一度見ていただき、進めていきたいと思っておりますので、また文書を差し上げると思います。ご意見があるという方にまたご返信いただいて、何回かやりとりができればというふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>今後の活動の流れをお話ししていなかったため、今回の策定アンケート、意識調査をする流れをご説明させていただきたいと思ひたので</p>

様式第1号

事務局	<p>が。</p> <p>皆さんで意見を出されたものを精査して、予定ですけれども、10月に入ってアンケートを実施することを考えております。</p> <p>具体的な日にちは、10月3日から3週間程度、22日ぐらいまでを考えております。その後、11月に入りまして単純集計、そしてクロス集計、そのような流れを考えております。</p> <p>皆さんから出された意見をまとめて、反映させて、その取りまとめの時間もありますので、今のところはそのような流れで計画しております。</p>
事務局	<p>それでは、本日は今をもちまして終了させていただきたいと思えます。皆さん、ありがとうございました。</p>

令和元年度第1回生涯学習審議会会議次第

日時：令和元年(2019年)8月23日(金)14時～16時

会場：つくば市役所2階204会議室

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 諮問「(仮称)第3次生涯学習推進基本計画策定」に向けて
- 5 議事
 - (1) 報告「平成30年度生涯学習推進基本計画事業の進捗状況」について
 - 資料1 第2次生涯学習推進基本計画 平成30年度進捗状況まとめ
 - 資料2・3 平成30年度 事務事業評価一覧
 - (2) 審議「(仮称)第3次生涯学習推進基本計画策定」に向けて
 - ・市民アンケートの実施について
 - 資料4 生涯学習調査概要
 - 資料5 生涯学習についての調査のお願い
- 6 その他
- 7 閉会

31 つくば生推第 434 号
令和元年(2019年)8月23日

つくば市生涯学習審議会会長 様

つくば市長 五十嵐立青

今後、本市が生涯学習をより一層推進するため、次に掲げる事項について諮問します。

記

1 諮問

「(仮称)第3次つくば市生涯学習推進基本計画」について

2 諮問理由

つくば市は、平成28年3月に『第2次つくば市生涯学習推進基本計画』を策定し、生涯学習関連事業の推進を進めてまいりましたが、この計画が令和2年度をもって終了いたします。これまでの計画の進捗状況や社会状況の変化を検証し、「(仮称)第3次つくば市生涯学習推進基本計画」を策定するにあたり、生涯学習推進のため取り組むべき施策等について、貴審議会に諮問するものです。

つくば市生涯学習審議会委員

任期:令和元年8月1日～令和2年7月31日

(敬称略、五十音順)

No.	氏名	よみ	任命区分	備考
1	相澤 久志	あいざわ ひさし	各種団体等の代表者 つくば市文化協会 会長	
2	一木 正聡	いちき まさあき	市民委員	
3	伊藤 達也	いとう たつや	各種団体等の代表者 つくば市シルバークラブ連合会 会長	
4	江原 功	えはら いさお	市民委員	
5	円城寺 フミ子	えんじょうじ ふみこ	市民委員	
6	大高 勝弘	おおたか かつひろ	各種団体等の代表者 つくば市学校長会 幹事(会計)	
7	金川 清治	かねかわ せいじ	各種団体等の代表者 青少年を育てるつくば市民の会 会長	
8	クロフォード・シェイニー		学識経験者 つくばインターナショナルスクール 校長	
9	鴻巣 統	こうのす おさむ	学識経験者 元学校長	会長
10	後藤 真紀	ごとう まき	各種団体等の代表者 つくば市福祉団体等連絡協議会 会長	
11	齋藤 靖夫	さいとう やすお	市民委員	
12	付 波	ふう ぼう	各種団体等の代表者 つくば市PTA連絡協議会 副会長	新任
13	武田 直樹	たけだ なおき	学識経験者 筑波学院大学 講師/社会力コーディネーター	
14	中井 聖	なかい ひじり	各種団体等の代表者 NPO法人ままとーん 代表理事	
15	福田 正雄	ふくだ まさお	市民委員	
16	橋本 佳子	はしもと けいこ	市議会議員	副会長
17	萩原 武久	はぎわら たけひさ	各種団体等の代表者 つくば市体育協会 会長	
18	星埜 祥子	ほしの しょうこ	各種団体等の代表者 つくば市ボランティア連絡協議会 世話人代表	
19	溝上 智恵子	みぞうえ ちえこ	学識経験者 筑波大学 図書館情報メディア系教授	
20	矢作 勝美	やはぎ かつみ	市民委員	

第 2 次生涯学習推進基本計画 平成 30 年度進捗状況まとめ

- 総合評価は、担当課で事業ごとに有効性と効率性を評価して算出しました。
- 網羅的になっていた事業を社会力を高める事業に絞り込み、91 事業から 73 事業に整理しました（平成 29 年度）

年度	事業	有効性/効率性 総合評価								
		高/高 S 成果・費用 対効果を維 持して継続 実施	高/中 A 成果を維持 して継続実 施	中/高 A 費用対効果 を維持して 継続実施	中/中 B 成果・費用 対効果の向 上に努めつ つ継続実施	高/低 C 成果を維持 し費用対効 果を向上さ せる必要有 り	低/高 C 費用対効果 を維持し成 果を向上さ せる必要有 り	中/低 D 費用対効果 を向上させ る必要有り	低/中 D 成果を向上 させる必要 有り	低/低 E 事業の抜本 的な見直し の必要有り
29	73	0	1	0	71	0	0	0	1	0
30	73	0	2	0	71	0	0	0	0	0

■有効性

事業を実施した結果、成果の達成度合いが、例年と比較して
 高・・・例年と比較し、成果が大きく向上、又は高水準を維持
 中・・・例年と比較し、同程度の成果
 低・・・例年と比較し、成果が大きく低下、又は低水準を維持

■効率性

得られた成果に対して、費やした事業費や人件費（＝費用対効果）が、
 高・・・例年と比較し、費用対効果が大きく向上、又は高水準を維持
 中・・・例年と比較し、同程度の費用対効果
 低・・・例年と比較し、費用対効果が大きく低下、又は低水準を維持

■総合評価

高/高 S：成果・費用対効果を維持して継続実施
 高/中 A：成果を維持して継続実施
 中/高 A：費用対効果を維持して継続実施
 中/中 B：成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施
 高/低 C：成果を維持し費用対効果を向上させる必要有り
 低/高 C：費用対効果を維持し成果を向上させる必要有り
 中/低 D：費用対効果を向上させる必要有り
 低/中 D：成果を向上させる必要有り
 低/低 E：事業の抜本的な見直しの必要有り

施策の柱 施策の方向性 ◎:重点事業	① 方向性ごとの達成状況と課題 評価者:生涯学習推進課 評価:A計画以上に進んでいる、B計画どおり、C遅れている	施策 評価 頁	内容	担当課	事務事業名	② 30年度 事務事業評価				(参 考) 事業 番号			
						有効性	効率性	総合評価					
1 個人の自立に向けた学習機会の提供													
(1) ライフステージに応じた学習機会の提供 ◎ ①家庭教育支援の充実	家庭教育支援事業では、参加者が自ら学級運営に参加し、活動を通じて仲間づくりや家庭での課題等を話し合ったり、講師を招いての講演会・学習会を通じて家庭での教育が原点であることを再確認できた。しかし、課題として、働いている保護者への参加機会の不足があげられる。また、子育て支援拠点事業では、子育て親子の交流の場の提供や子育て相談、情報提供を行うことで、子育てへの不安感や負担感の緩和に繋げることができた。	B	1	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級支援事業	中	中	B	1			
				地域子ども・子育て支援事業の推進	こども政策課	子育て支援拠点事業	中	中	B	2			
	②青少年の健全育成	あいさつ・声かけ運動の実施で、あいさつをする児童生徒が増えている。また、「この指とまれ!事業」では、青少年の健全育成団体と連携が図れ、青少年を中心とした多世代間交流が実施できた。放課後子供教室事業では、新設する「秀峰筑波児童クラブ」施設の2階を放課後児童の居場所づくりとして施設整備をし、放課後子供教室の開催が定期的に行うことが可能となった。みどりの学園児童クラブ・学園の森児童クラブにおいて、児童の大幅な増加が見込まれるため、新たな専用施設を増設し、児童の受け入れの拡充ができた。	B	2	青少年の健全育成活動の推進	生涯学習推進課	青少年健全育成事業	中	中	B	3		
					放課後子供教室	こども育成課	放課後子供教室推進事業	中	中	B	4		
					児童館運営、児童クラブ		児童館運営事業	中	中	B	5		
					3	自ら学び、自ら考える力を育てる教育の推進等	教育指導課	学習指導助言事業	中	中	B	6	
	4	自立と社会参加をめざす特別支援教育の推進	特別支援教育推進室	教育支援委員会運営事業	高	中	A	7					
	③成人のキャリアアップ	男女参画に関するセミナーでは、ワークライフバランスの推進や、男性の家事育児参加に関して、情報提供・意識啓発を図ることができた。つくば市ふるさとハローワークを運営し、就職相談、職業紹介及び就業情報提供を行うことにより、再就職や職場復帰支援をすることができた。	B	5	男女参画に関するセミナー	男女共同参画室	男・女(ひとひと)セミナー事業	中	中	B	8		
					つくば市ふるさとハローワーク	産業振興課	雇用促進対策事業	中	中	B	9		
	④高齢者のいきがい対策	各種イベントやシルバークラブ活動への支援を行い、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。シルバークラブは会員が減少傾向であるため、会員数の増加への取り組みやシルバークラブ活動の活性化が課題である。長寿大学事業では、高齢者の学習と交流の機会を提供し、参加者から好評を得ることができた。	B	6	高齢者向けの社会活動の支援	高齢福祉課	高齢者生きがい活動支援事業	中	中	B	10		
高齢者労働能力活動事業費補助					中		中	B	11				
健康福祉祭りいばらきねんりんスポーツ大会					中		中	B	12				
シルバークラブ育成事業					中		中	B	13				
介護支援ボランティア					地域包括支援課	介護支援ボランティア事業	中	中	B	14			
長寿大学	文化芸術課	地域交流センター主催事業	中	中	B	15							
(2) 現代的課題解決のための学習機会の提供	次世代を担う高校生に対して、SDGsの理念の浸透やまちづくりへの関心を高めることができた。各団体(保護司会、更生保護女性会、人権擁護委員、青少年相談員ほか)との連携及び啓発活動の強化が図れた。社会を明るくする運動つくば市大会では団体だけではなく、一般市民へ募集を行い、運動の周知に努めた。	B	7	竹園高校クロスカリキュラム	企画経営課	まち・ひと・しごと創生事業	中	中	B	16			
				保護司等の資質向上	市民活動課	更生保護事業	中	中	B	17			
(3) 社会生活を円滑に営む上で困難を有する者への学習機会の提供(就業支援学習を含む)	チャレンジアートフェスティバルでは、広報の幅を広げ、作品展示・舞台発表の来館者ともに昨年度を上回った。また、おひさまサンサン生き生きまつりでは、屋外の研究学園駅前公園に会場を変更して実施した。しかし、会場変更により、チャレンジブース等での一般参加が減少した。出前講座「みんなのあんしん介護保険講座」を通して、介護保険制度の理解を深めていただく機会を提供できた。認知症サポーター養成講座では、数多くの認知症サポーターを養成することができた。特に小中学生といった若い世代への啓発ができたことは有意義であった。また認知症サポーター養成講座を受講し、見守り以外の活動を希望されるサポーターに対し、ステップアップ講座を受講してもらうことにより、認知症カフェのボランティアとして活動していただいたり、啓発活動等へ参加いただいた。	B	8	チャレンジアートフェスティバル、スポーツ教室等	障害福祉課	チャレンジアートフェスティバル事業	中	中	B	18			
				おひさまサンサンフェスティバル事業		中	中	B	19				
				体験乗馬療法事業		中	中	B	20				
				障害児スポーツ教室事業		中	中	B	21				
				出前講座「みんなの安心介護保険事業」	介護保険課	介護保険事務	中	中	B	22			
				出前講座「認知症サポーター養成講座」	地域包括支援課	認知症サポーター養成事業	中	中	B	23			
2 生涯学習環境の整備													
(1) 相談体制の整備	実務的内容や職務上の役割を意識した知識を取り入れ、社会教育指導員として、適切な指導をすることができた。	B	9	研修の充実等による社会教育指導員の相談能力の向上	生涯学習推進課	家庭教育学級支援事業	中	中	B	1			
				(2) 学習意欲を高めるための啓発活動	B	10	広報・ホームページの活用	広報戦略課	広報つばの編集・発行事業	中	中	B	24
									ホームページの運用・管理	中	中	B	25
(3) 学習成果を活かす支援と指導者の養成 ◎	OB人材活動支援事業では、地域交流センター講座や小学校の放課後教室等をはじめ市内外へ講師派遣をマッチングし、シニア層の活動を支援できた。生涯学習指導者として、「生涯学習インストラクター」を新たに登録するとともに、既に登録されている講師情報を更新し、最新の情報を提供できるようにした。市民文化祭では、市民が文化芸術を身近に接することにより、興味や関心を育むきっかけとなり、市全体の文化芸術に対する意識の高揚につながった。また、体験教室等を行う団体への助成金割合を引き上げ、団体の負担軽減を	B	11	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	企画経営課	つくば市OB人材活動支援事業	中	中	B	27			
				生涯学習推進課	生涯学習指導者情報提供事業	中	中	B	28				
				学習成果発表会(市民文化祭)の充実	文化芸術課	つくば市民文化祭開催事業	中	中	B	29			
3 生涯学習関連施設の充実													
(1) 市民同士が交流できる施設の充実 ◎	利用者アンケート結果から「サークル活動場所の提供」の役割が突出して求められており、サークル(地域活動団体)にとっての活動場所としての需要の高さが読み取れた。予約方法については、「現行のままが良い」という意見が最も多く、404件(68%)、続いて「インターネット予約優先」が95件(16%)、「利用者間協議」が63件(10%)となり、現行以外の方法に消極的であることが分かった。	B	12	地域交流センターでの学級・講座の充実	文化芸術課	地域交流センター主催事業	中	中	B	15			
				(2) 図書館機能の充実	B	13	図書館事業とボランティアとの連携・協力の推進	中央図書館	図書館ボランティア事業	中	中	B	30
図書館事業に関する広報「ヨモッカ」の充実	図書館の広報充実事業	中	中				B		31				
既存施設における機能充実	調査・研究の支援事務	中	中				B	32					
地域交流センター図書室との連携	図書館及び視聴覚センターの維持管理事業	中	中				B	33					
(3) 芸術・文化にふれあう施設の充実	ノバホール・カピオについては、経年劣化等により不具合等が生じた箇所について、修繕を実施することで、施設機能の維持を図ることができた。公共施設予約システムの導入について検討を行ったが、現行の予約システムは、市民ホールの利用者になじまないため導入にはいたらなかった。	B	14	既存施設における機能充実(ノバホール・カピオ)	文化芸術課	ノバホール管理運営事業	中	中	B	35			
				文化施設における公共予約システムの導入の推進		つくばカピオ管理運営事業	中	中	B	36			
				市民ホール管理事業		中	中	B	37				

施策の柱 施策の方向性 ◎:重点事業	① 方向性ごとの達成状況と課題 評価者:生涯学習推進課 評価:A計画以上に進んでいる、B計画どおり、C遅れている	施策 評価	頁	内容	担当課	事務事業名	② 30年度 事務事業評価			(参考) 事業 番号
							有効性	効率性	総合評価	
4 絆づくりと地域づくりに向けた学習機会の提供										
(1) 健康・スポーツ・レクリエーション活動の推進	当初の計画になかった、パラスポーツ体験会や車いすバスケ教室を新たに開催し、スポーツとふれあう機会を多く提供するとともに、障害者スポーツの普及を図ることができた。 ふれあいプラザのフィットネスプールについては、時間割をわかりやすくするなど、工夫している。引き続き見直しを行い、利用者の増加を図る。学校施設開放事業では、292団体が登録し(延べ464団体)、地域住民が身近にスポーツをできる場所として利用された。	B	15	スポーツ教室等の充実	スポーツ振興課	スポーツ教室開催事業	中	中	B	38
				ふれあいプラザの活用	文化芸術課	ふれあいプラザ指定管理事業	中	中	B	39
				学校施設開放の推進(体育館・グラウンドなど)	教育施設課	小学校施設開放事業	中	中	B	40
(2) 文化芸術活動の推進	国際的に著名なアーティスト等による音楽公演を行い、芸術文化と国際の二面性を持つ、つくばらしさを浸透させた。また、チケットのインターネット販売が認知されてきており、利便性の向上が図られた。	B	16	文化芸術活動の振興と鑑賞機会の充実、情報提供の充実	文化芸術課	芸術文化公演事業	中	中	B	41
(3) 文化財の保存と活用	小田城跡確認調査では、保存・整備・活用の計画作成に必要な基礎資料を得ることができた。 文化財展示施設・各種文化財の体系化 展示施設を更新することで、市民の見学環境の改善につながった。 各講座を開催・対応し、市民に郷土の歴史や市内の文化財に興味・関心を持ってもらう場を提供できた。	B	17	各種文化財の保護、調査研究	文化財課	小田城跡確認調査事業	中	中	B	42
				文化財展示施設・各種文化財の体系化		文化財展示展示施設管理事業	中	中	B	43
				各種文化財・郷土史に関する講座の開設、専任人材の配置による広報や情報提供の充実		文化財展示講座等事業	中	中	B	44
(4) 絆づくり・地域づくりにつながる学習機会の提供 ◎	地域のリーダーである市区会連合会役員を対象に、地区リーダー勉強会を開催し、区会の重要性を再確認できた。 地域まちづくり専門家の派遣により、勉強会の議論を深めることができた。 出前講座等を通して、防災・減災の意識向上、防災士の養成が図られた。シェイクアウト訓練については、民間企業でも実施していただけるよう企業訪問などしながら周知していく。また、各年齢層に即した交通安全教室を開催し、交通安全意識の向上が図れた。 人権講演会への参加や、人権啓発ポスターの募集を通じて、人権教育の推進・啓発を図り、人権問題の正しい理解を深めることができた。	B	18	市職員研修(市民参画に関する研修や学習会への参加)	人事課	職員研修事業	中	中	B	45
				地区リーダー勉強会	市民活動課	自治会関係に要する経費	中	中	B	46
				市民活動団体の支援		市民活動センター管理運営事業	中	中	B	47
				地域コーディネーター講習会、地域デビュー講座	文化芸術課	地域交流センター主催事業	中	中	B	15
				まちづくり専門家の派遣	都市計画課	地域まちづくり支援事業	中	中	B	48
				交通安全・防犯・防災活動への支援(出前講座等)	危機管理課	防災意識啓発事業	中	中	B	49
				交通安全・防犯・防災活動への支援(出前講座等)	防犯交通安全課	交通安全啓発事業	中	中	B	50
				人権教育	教育総務課	人権教育推進事業	中	中	B	51
5 生涯学習推進体制の強化										
(1) 全庁的な連携・協働体制	推進本部会議での意見を受け、評価対象事業を91事業から73事業に整理し、より社会力を高める事業に重点をおくことができた。	B	19	生涯学習まちづくり推進体制の充実	生涯学習推進課	生涯学習審議会開催事業	中	中	B	52
(2) 多様な主体とのネットワーク行政の推進 ◎	体育協会と連携し、市民のスポーツ・レクリエーション活動を促進したことにより、市民の健康の増進や活力あるまちづくりに寄与できた。自立して安定した組織運営を図るため、情報収集を行いながら方向性を検討する。 文化協会については、団体間の交流が活発に行われ、文化協会主催事業が増加し、文化活動の活性化につながった。 また、文化振興財団については、自助努力で、創意工夫のもとに事業運営が図られた。 アイラブつくばまちづくり補助金を通して、市民団体による公益事業を行うまちづくり活動を資金面から支援し、関係する市担当部署が協力して事業を実施することで、市民活動団体と行政との連携が深まった。 子育てサークル等の活動内容を子育て家庭に情報提供するなど、活動を支援することによって、市民による子育て支援を推進することができた。また、子育て総合支援センターが連携交流の拠点となるよう、事業内容の強化を図っていく。	B	20	社会教育委員会議の開催	生涯学習推進課	社会教育振興事業	中	中	B	53
				市民の会、市子ども会連合会の育成		青少年を育てるつくば市民の会補助	中	中	B	54
				市民との協働講座(人間学講座)		つくば子ども会育成連合会補助	中	中	B	55
				図書館協議会の開催		つくば人間学講座	中	中	B	56
				体育協会、スポーツ推進委員の育成	中央図書館	つくば市図書館協議会運営事業	中	中	B	57
				文化協会、文化振興財団の育成	スポーツ振興課	つくば市体育協会運営補助	中	中	B	58
				アイラブつくばまちづくり補助金	スポーツ推進委員協議会事業	中	中	B	59	
				子育て団体等の支援	文化芸術課	文化団体等育成支援事業	中	中	B	60
					市民活動課	(公財)つくば文化振興財団支援事業	中	中	B	61
					こども政策課	アイラブつくばまちづくり補助金事務事業	中	中	B	62
(3) つくばの特性を生かした生涯学習の推進	科学フェスティバル事業では、来場者が各出展ブースの企画に触れ、体験型イベントとして科学への興味や関心を高めることができた。 青少年、親子を対象に、研究学園都市に集積する最先端の科学技術を素材に、研究者とともに体験的に学習する場を構築し、つくばでしかできない「STEAM(Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics)教育」を行った。 農業体験を通して、都市住民と生産者の交流の場を創出し、つくばの農業・農産物のPRや理解等を促進することができた。 ジオパーク事業では、構成6市毎に様々な活動を積極的に進めることで、地域住民へのジオパークへの認識をさらに深めることができた。また、様々なイベントや講座等を実施し、生涯学習の場を提供した。 サイエンスラボ事業については、対象を中学3年生までに変更し、科学技術への興味・関心を向上させることができた。今後は、居場所事業の目的、概要を見直し、青少年が自主的な活動や体験ができるような事業を検討する必要がある。 外国人向け講座では、単なる語学学習ではなく、日本での日常生活や文化を交えながら、生活に密着した日本語教えることで、日本に対する理解を深めることができた。前年度に比べて参加者が減少しているの、開催日程や開催場所を再検討するとともに、学校長会等での周知強化を図る。	B	21	交流サロンの活用	広報戦略課	シティープロモーション事業	中	中	B	64
				科学フェスティバル	教育指導課	つくば科学フェスティバル事業	中	中	B	65
				イノベーションキャンパスinつくば、イノベーションワールドフェスタ、科学甲子園ジュニア全国大会、つくば科学教育マイスター認定	科学技術振興課	次代を担う人材育成と科学技術の理解の醸成事業	高	中	A	66
				農業体験	農業政策課	都市農村交流事業	中	中	B	67
				フォレストアドベンチャー、筑波山ビジターセンター、筑波山梅まつり	観光推進課	観光施設維持管理事業	中	中	B	68
				筑波山地域ジオパーク	ジオパーク室	筑波山地域ジオパーク推進事業	中	中	B	69
				桜川稚魚放流及び魚捕り体験事業、筑波山自然環境教育事業、エコ・クッキング事業	環境政策課	筑波山自然環境教育事業	中	中	B	70
				サイエンスラボ	生涯学習推進課	つくばサイエンスラボ事業	中	中	B	71
				外国人との交流事業、外国人向け講座	国際交流室	多文化共生推進	中	中	B	72
						国際交流員・留学生交流員事業	中	中	B	73

施策の柱	1	個人の自立に向けた学習機会の提供	子育て世代に対して、親としての成長を応援し、子育てへの自信や対処能力を持たせることができるような学習機会や講座を充実するとともに、つくば市子ども・子育て支援プランと連動した地域全体での子育て支援を推進します。							
方向性	(1)	ライフステージに応じた学習機会の提供/家庭教育支援の充実								
関連課	生涯学習推進課	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催				1頁				
	こども政策課	地域子ども・子育て支援事業の推進								
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<ul style="list-style-type: none"> ■家庭教育学級 社会教育指導員が指導・助言を行う※家庭教育学級は参加者自らが企画・運営するもの ■家庭教育講演会 学級の枠を超えた学習機会として年3回開催 ■家庭教育セミナー 幼稚園・小中学校から希望があった際に開催 ■地域子育て支援拠点事業 親子（乳幼児及びその保護者）の交流の場の提供、子育てに関する相談・情報提供、拠点同士の情報交換会 		<ul style="list-style-type: none"> ■家庭教育学級 ■家庭教育講演会 ■家庭教育セミナー ■地域子育て支援拠点事業 		<ul style="list-style-type: none"> ■家庭教育学級 ■家庭教育講演会 ■家庭教育セミナー ■地域子育て支援拠点事業 		<ul style="list-style-type: none"> ■家庭教育学級 ■家庭教育講演会 ■家庭教育セミナー ■地域子育て支援拠点事業 9箇所 			
実績	<ul style="list-style-type: none"> ■家庭教育学級 78学級（学級生12,006名、延べ23,571名参加）16人の社会教育指導員が運営に際し助言・指導を行った ■家庭教育講演会 3回開催405名 7/10（172名）、9/25（79名）、10/30（154名） ■家庭教育セミナー 4,041名参加（幼稚園10回225名、小学校37回2,215名、中学校11回1,601名） ■地域子育て支援拠点事業 8箇所（前年度7）129,513名利用。出張広場は子育て総合支援センター、交流センター、民間保育園等8箇所で開催。各拠点からの聞き取りや、利用者の推移から地域のニーズ把握に努めた 		<ul style="list-style-type: none"> ■家庭教育学級 77学級（学級生12,256名、延べ20,243名参加）16人の社会教育指導員が運営に際し助言・指導を行った ■家庭教育講演会 3回開催670名 7/12（512名）、10/1（44名）、11/21（114名） ■家庭教育セミナー 4,176名（幼稚園10回255名、小学校30回2,303名、中学校13回1,618名） ■地域子育て支援拠点事業 8箇所、140,214名利用。出張広場は子育て総合支援センター、交流センター、民間保育園等5箇所で実施。各拠点からの聞き取りや、利用者の推移から地域のニーズ把握に努めた 		<ul style="list-style-type: none"> ■家庭教育学級 70学級（学級生数12,158名、延べ17,997名参加）16人の社会教育指導員が運営に際し助言・指導を行った。 ■家庭教育講演会 3回開催670名 6/28（375名）、9/30（54名）、12/1（350名） ■家庭教育セミナー 4,279名（幼稚園15回354名、小学校27回1,640名、中学校11回1,585名、義務教育学校4回700名） ■地域子育て支援拠点事業 新たな拠点が1箇所増え、支援拠点は9箇所となった。また、子育て出張広場についても研究学園地区に1箇所新規開設し、計6箇所で実施した。支援拠点及び出張広場で151,976人の利用があった。 					
成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ■家庭教育学級 参加者が自ら学級運営に参加し、活動を通じて仲間づくりや家庭での課題等を話し合ったり、講師を招いての講演会・学習会を通じて家庭での教育が原点であることを再確認できた。また、学級運営に関わった市民の成長の場につながった。社会教育指導員の助言・指導により、家庭教育学級の円滑な運営が行われた ■家庭教育セミナー 入園・入学前検診または入園・入学説明会時に家庭教育の重要さの意識啓発を講演会形式で行った ■地域子育て支援拠点事業 親子交流の場の提供や子育て相談・情報提供を行うことで、子育てへの不安感や負担感の緩和に繋げることができた。また、定期的に連絡会議を開催し、情報交換等を行いながら各拠点が連携を深めることで、サービスの質の向上が図れた 		<ul style="list-style-type: none"> ■家庭教育学級 参加者が自ら学級運営に参加し、活動を通じて仲間づくりや家庭での課題等を話し合ったり、講師を招いての講演会・学習会を通じて家庭での教育が原点であることを再確認できた。また、学級運営に関わった市民の成長の場につながった。社会教育指導員の助言・指導により、家庭教育学級の円滑な運営が行われた ■地域子育て支援拠点事業 親子の交流の場の提供や子育て相談、情報提供を行うことで、子育てへの不安感や負担感の緩和に繋げることができた。また、定期的に連絡会議を開催し、情報交換等を行いながら各拠点が連携を深めることで、サービスの質の向上が図れた 		<ul style="list-style-type: none"> ■家庭教育学級 （成果）参加者が自ら学級運営に参加し、活動を通じて仲間づくりや家庭での課題等を話し合ったり、講師を招いての講演会・学習会を通じて家庭での教育が原点であることを再確認できた。また、学級運営に関わった市民の成長の場につながった。社会教育指導員の助言・指導により、家庭教育学級の円滑な運営が行われた。（課題）働いている保護者への参加機会の不足がある。 ■地域子育て支援拠点事業 子育て親子の交流の場の提供や子育て相談、情報提供を行うことで、子育てへの不安感や負担感の緩和に繋げることができた。また、定期的に拠点会議を開催し、情報交換等を行いながら連携を深めることで、サービスの質の向上が図られた。 					
改善見直し	—		—		<ul style="list-style-type: none"> ■家庭教育学級 保育所の保護者に対して、保育所での家庭教育講座の開催の検討や、入所説明会等において、家庭教育学級についてお知らせすることにより、参加機会を増やす。 					

施策の柱	1	個人の自立に向けた学習機会の提供	これからのつくば市を支えていく青少年に対し、居場所づくりや自主的な活動への支援体制を充実するとともに、つくば市教育振興基本計画（つくば市教育振興プラン）等と連動して、自然体験、ボランティア活動体験、国際交流体験等の様々な体験活動を推進します。							
方向性	(1)	ライフステージに応じた学習機会の提供/青少年の健全育成								
関連課	生涯学習推進課	青少年の健全育成活動の推進				2頁				
	こども育成課	放課後子供教室、児童館運営、児童クラブ								
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<ul style="list-style-type: none"> ■青少年育成団体「青少年相談員」との連携 あいさつ声かけ運動/学校訪問/地区巡回パトロール等 ■青少年の居場所づくり 中高生が主体的に学習や文化・スポーツ活動等ができる場を提供する。7つの地域交流センター（筑波・大穂・豊里・松代・竹園・荻崎・吾妻）で週1回無料で開設 ■放課後子供教室 一体型を中心とした放課後子供教室及び放課後児童クラブの実施整備（放課後子ども総合プラン） ■児童館 児童対象に実施 スポーツクラブ等の各種クラブ活動/児童館における各種行事活動/児童館対抗ドッジボール大会（児童館相互の交流を図る）		<ul style="list-style-type: none"> ■青少年相談員 ■青少年の居場所 ■放課後子供教室 ■児童館 		<ul style="list-style-type: none"> ■青少年相談員 H29年度実施事業のほか、環境健全化啓発活動 ■青少年の居場所 生涯学習推進課と地域交流センターとが連携し、自主的な活動ができる場となるよう工夫する ■放課後子供教室 ■児童館 		<ul style="list-style-type: none"> ■青少年相談員 あいさつ・声かけ運動、図書等自動販売機の立入調査、学校訪問、地区巡回パトロール、「青少年の健全育成に協力する店」登録活動 ■青少年の居場所 地域交流センター7館で週1回居場所を開設 ■この指とーまれ！事業 キックオフ説明会 中高生自身が企画して実施 ■放課後子供教室 市内小学校及び義務教育学校、児童館、交流ひろばを活用し地域住民の参画を得て、放課後子供教室を開催し、児童の放課後の居場所づくりとして実施する。 ■児童館・児童クラブの運営 放課後の児童に対し、遊びや生活の場を提供し、児童の健全育成を図るため、各種クラブ活動や行事活動などを行う。 			
実績	<ul style="list-style-type: none"> ■青少年相談員 あいさつ声かけ運動120回/運動会のテント設営バザーで模擬店活動/イオンモールつくばで夜間巡回パトロール等 ■青少年の居場所 4,364名利用。吾妻交流センター：中高生の未来をデザインする夏キャンプ1泊2日@ふれあいの里（竹園高校生10名、市内中学生10名） 竹園交流センター：ふれあいコンサート ■放課後子供教室 169回実施（5～3月）対象校：市内全小学校と県立つくば特別支援学校 ■児童館 児童クラブ利用者を除く小学生170,147名（前年比11,463名増） 中高生の児童館利用者数2,720名（前年比298名減） 		<ul style="list-style-type: none"> ■青少年相談員 あいさつ声かけ運動120回/学校訪問36校/地区巡回パトロール ■青少年の居場所 4,098名利用。市民文化祭では校生ボランティアが参加/地域ふれあいコンサート204名/竹園高校生との交流会44名 ■放課後子供教室 180回実施（6～2月）2か所の児童館で初めて放課後子供教室を開催。H30年度に新設される「秀峰筑波児童クラブ」施設2階に放課後児童の居場所づくりとして「放課後交流ひろば」を整備。H30年度より、7校の小学校が統廃合される旧筑波地区の児童はスクールバス利用の登下校になることから、放課後、学区外生徒との交流の場がないため、秀峰筑波児童クラブ施設2階を整備し、児童の交流の場を提供するとともに、放課後子供教室を定期的実施することが可能になる ■児童館 児童クラブ利用者を除く小学生195,442名（前年比 		<ul style="list-style-type: none"> ■青少年相談員 あいさつ声かけ運動120回/学校訪問34校/地区巡回パトロール ■青少年の居場所 3,132人利用。地域ふれあいコンサート118人/竹園高校生との交流会12人参加 ■この指とーまれ！事業 市内在住・在学する中高生に企画募集をし、「イラスト・折り紙・茶道・ゴミ拾い体験交流会等を実施。企画者数16人、ボランティア参加者数10人 ■放課後子供教室 217回実施（4月～3月）市内小学校29校、義務教育学校4校、茨城県立つくば特別支援学校1校、児童館5か所、秀峰交流ひろば1か所で放課後子供教室を実施。参加児童数は、11,310人。「秀峰交流ひろば」を整備し、放課後子供教室を定期的開催し、189日間で2,121人の児童の利用があった。 ■児童館・児童クラブ運営 児童館来館者数363,753人（一般来館小学生155,571人、児童クラブ208,182人）児童数増加が著しいTX線沿いの2つの児童クラブのクラブ室増設し、今後の受入人数を拡充することができた。 					
成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ■青少年相談員 各支部の活動により、地区巡回パトロールを積極的に実施でき、青少年健全育成活動に貢献できた。 ■青少年の居場所 居場所としての利用だけでなく、青少年がボランティア活動をする場にもなった ■放課後子供教室 各児童館において児童を対象とした行事及びクラブ活動を実施した 		<ul style="list-style-type: none"> ■青少年相談員 あいさつ・声かけ運動の実施で、あいさつをする児童生徒が増えている ■青少年の居場所 主体的に活動できる場を提供できた ■放課後子供教室 放課後児童の居場所をつくることができた。また、新設する「秀峰筑波児童クラブ」施設2階を放課後児童の居場所づくりとして施設整備をし、放課後子供教室の開催が定期的に行うことが可能となった。 ■児童館・児童クラブ運営 各児童館において児童を対象とした行事及びクラブ活動を実施した。児童館対抗ドッジボール大会に300人の児童が参加した。みどりの学園児童クラブ・学園の森児童クラブにおいて、児童の大幅な増加が見込まれるため、新たな専用施設を増設し、児童の受入れの拡充ができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ■青少年相談員 あいさつ・声かけ運動の実施で、あいさつをする児童生徒が増えている ■青少年の居場所 主体的に活動できる場を提供できた ■この指とーまれ！事業 青少年の健全育成団体と連携が図れ、青少年を中心とした多世代間交流が実施できた。 ■放課後子供教室 放課後児童の居場所をつくることができた。また、新設する「秀峰筑波児童クラブ」施設2階を放課後児童の居場所づくりとして施設整備をし、放課後子供教室の開催が定期的に行うことが可能となった。 ■児童館・児童クラブ運営 各児童館において児童を対象とした行事及びクラブ活動を実施した。児童館対抗ドッジボール大会に300人の児童が参加した。みどりの学園児童クラブ・学園の森児童クラブにおいて、児童の大幅な増加が見込まれるため、新たな専用施設を増設し、児童の受入れの拡充ができた。 					
改善見直し	—		<ul style="list-style-type: none"> ■青少年の居場所 利用者が少ない場所もあるので、開催する場所や内容の検討が必要。PR方法も見直す必要がある ■放課後子供教室 充実を図るためには、放課後の居場所の拡大、放課後子供教室のボランティア・サポーター等のスタッフ確保については拡充が必要 		—					

施策の柱	1	個人の自立に向けた学習機会の提供	これからのつくば市を支えていく青少年に対し、居場所づくりや自主的な活動への支援体制を充実するとともに、つくば市教育振興基本計画（つくば市教育振興プラン）等と連動して、自然体験、ボランティア活動体験、国際交流体験等の様々な体験活動を推進します。							
方向性	(1)	ライフステージに応じた学習機会の提供/青少年の健全育成								
関連課	教育指導課	自ら学び、自ら考える力を育てる教育の推進等				3頁				
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<ul style="list-style-type: none"> ■学力向上アクションプラン・学校改善プラン 各校の学力向上に向けた取り組みに対して的確な指導・助言を行う ■つくばスタイル科 各学校自校化を図りながら1～9年生において、各学校ともにコア単元として位置づけをし、年間12～15時間実施。学んだことについて、各学校の児童生徒がプレゼンを行う ■体力アップ推進プラン 4月作成、8月に体力テストの結果を踏まえた進捗状況について確認する。年度内の取り組み目標を検討し、実践化を図りながら体力の向上に努める ■環境 I E C 運動 節電やエコについて各学園で目標を設定・実施、年度末に検証と報告。地域と連携して取り組む。Improvement(改善)、Environment(環境保護)、community(地域社会) 		<ul style="list-style-type: none"> ■学力向上アクションプラン・学校改善プラン ■つくばスタイル科 ■体力アップ推進プラン ■環境 I E C 運動 		<ul style="list-style-type: none"> ■学力向上アクションプラン・学校改善プラン ■つくばスタイル科 ■体力アップ推進プラン ■環境 I E C 運動 		<ul style="list-style-type: none"> ■学力向上アクションプラン・学校改善プラン ■つくばスタイル科 ■体力アップ推進プラン ■環境 I E C 運動 			
実績	<ul style="list-style-type: none"> ■学力向上アクションプラン・学校改善プラン 全51校への訪問し、プラン作成～実施～実績報告に至るまでの指導と助言 ■つくばスタイル科 各学校でキャリア単元として実施。児童生徒のプレゼンコンテストには9,028人参加、2976作品の応募があり、市長賞・教育長賞を授与。入賞作品は「2020年の学びを変える先進的ICT教育・小中一貫教育研究大会（全国大会）」で発表 ■体力アップ推進プラン 51校で作成実施。体育サポーター派遣事業は2校で実施 ■環境 I E C 運動 学園ごとに目標設定し実施 		<ul style="list-style-type: none"> ■学力向上アクションプラン・学校改善プラン 全51校への訪問し、プラン作成～実施～実績報告に至るまでの指導と助言 ■つくばスタイル科 各学校でキャリア単元として実施。児童生徒のプレゼンコンテストには11,343人参加、3351作品の応募があり、金賞・銀賞等を授与。入賞作品は「2020年の学びを変える先進的ICT教育大会（全国大会）」で発表 ■体力アップ推進プラン 51校で作成実施。体育サポーター派遣事業は2校で実施 ■環境 I E C 運動 学園ごとに目標設定し実施。検証 		<ul style="list-style-type: none"> ■学力向上アクションプラン・学校改善プラン 全45校への訪問し、プラン作成～実施～実績報告に至るまでの指導と助言 ■つくばスタイル科 各学校でキャリア単元として実施。児童生徒のプレゼンコンテストには9,098人参加、2,783作品の応募があり、市長賞・教育長賞を授与。入賞作品は「第16回つくば市プレゼンテーションコンテスト」で発表 ■体力アップ推進プラン 45校で作成実施。体育サポーター派遣事業 ■環境IEC運動 学園ごとに目標設定し実施、検証 					
成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ■学力向上アクションプラン・学校改善プラン 具体的な取り組みを展開するよう指導したことで、効果的な取り組みが行われた ■つくばスタイル科 身近な人や地域の人々との関わりを通して、自分らしさや自分の良さに気付くことができ、社会の一員としての役割や仕事の価値等について学ぶことができた ■体力アップ推進プラン 各校の課題に応じた運動を実施できた。体育サポーターは、体育授業の中で、温半演技を見せたり、運動のポイントを適切にアドバイスし、児童生徒の技能の向上につながった ■環境 I E C 運動 今後検証をし報告をする 		<ul style="list-style-type: none"> ■学力向上アクションプラン・学校改善プラン 具体的な取り組みを展開するよう指導したことで、効果的な取り組みが行われた ■つくばスタイル科 身近な人や地域の人々との関わりを通して、自分らしさや自分の良さに気付くことができ、社会の一員としての役割や仕事の価値等について学ぶことができた ■体力アップ推進プラン 各校の課題に応じた運動を実施できた。体育サポーターは、体育授業の中で、温半演技を見せたり、運動のポイントを適切にアドバイスし、児童生徒の技能の向上につながった 		<ul style="list-style-type: none"> ■学力向上アクションプラン・学校改善プラン 具体的な取り組みを展開するよう指導したことで効果的な取り組みが行われた。 ■つくばスタイル科 身近な人や地域の人々との関わりを通して、自分らしさや自分の良さに気付くことができ、社会の一員としての役割や仕事の価値等について、学ぶことができた。 ■体力アップ推進プラン 各校の課題に応じた運動を実施できた。体育サポーターは、体育授業の中で温半演技を見せたり、運動のポイントを適切にアドバイスし、児童生徒の技術の向上につながった。 					
改善見直し	—		■体力アップ推進プラン プランの中に運動の日常化を図るための手立てを盛り込む		—					

施策の柱	1	個人の自立に向けた学習機会の提供	これからのつくば市を支えていく青少年に対し、居場所づくりや自主的な活動への支援体制を充実するとともに、つくば市教育振興基本計画（つくば市教育振興プラン）等と連動して、自然体験、ボランティア活動体験、国際交流体験等の様々な体験活動を推進します。				
方向性	(1)	ライフステージに応じた学習機会の提供/青少年の健全育成					
関連課	特別支援教育推進室	自立と社会参加をめざす特別支援教育の推進				4頁	
年度	28年度		29年度		30年度	元年度	2年度
計画	<p>各学校・学級において、特別な支援や配慮を要する幼児や障害のある児童・生徒が、個々の教育的ニーズに応じた適切な指導及び支援が受けられるよう、就学相談・学校訪問の実施、教育支援委員会の運営、支援担当職員の配置・雇用管理、教職員への研修会実施等の事業を通じ、特別支援教育の推進を図る。</p> <p>4月 気になる幼児の調査 4月末～市内公立・私立幼稚園・保育所の幼児の観察 4月～学校訪問・就学相談 年間3回特別支援教育の理解促進のための研修会実施 7月～1月教育支援委員会実施</p>		<p>●特別な支援や配慮を要する幼児及び障害のある学齢児童・学齢生徒について学校等関係機関に調査を実施し、支援を要する者を把握するとともに、特別支援教育指導員及び指導主事による就学相談・学校訪問を実施する。</p> <p>●特別な教育的支援を必要とする未就学児及び小・中学校に在籍する児童生徒については、教育支援委員会（年間10回程度開催）での審議を行う。</p> <p>●各幼稚園・学校における特別支援教育支援員及び障害児介助員の必要数を精査し、適正な人員配置を行う。</p> <p>●特別支援学級担任教諭及び特別支援教育支援員に対して各3回程度の研修会を実施する。</p>		<p>●特別な支援や配慮を要する幼児及び障害のある学齢児童・学齢生徒について学校等関係機関に調査を実施し、支援を要する者を把握するとともに、特別支援教育指導員及び指導主事による就学相談・学校訪問を実施する。</p> <p>●特別な教育的支援を必要とする未就学児及び小・中学校に在籍する児童生徒については、教育支援委員会（年間10回程度開催）での審議を行う。</p> <p>●各幼稚園・学校における特別支援教育支援員及び障害児介助員の必要数を精査し、適正な人員配置を行う。</p> <p>●特別支援学級担任教諭及び特別支援教育支援員に対して各3回程度の研修会を実施する。</p>	<p>●つくば市教育支援委員会を年間10回程度（7月から12月を予定）開催し、特別な支援や配慮を必要とする幼児及び児童・生徒に関する就学先や教育措置の内容等について、各分野の専門家による審議及び判定を行う。</p> <p>●令和2年度に小学校・義務教育学校前期課程へ就学予定の幼児に対して、随時実態調査及び個別の就学相談を実施する。また、年度を通じて各学校及び関係機関を随時訪問し、就学後の児童・生徒に対する指導や支援が適切に行われるよう、実態把握を行うとともに教職員等への指導助言を行う。</p> <p>●年度を通じて、各学校・幼稚園への訪問や各校・園からの聞き取り等により特別な支援や配慮を必要とする幼児及び児童・生徒の実態把握を随時実施し、必要に応じて特別支援教育支援員・障害児介助員の応募と配置を行う。</p> <p>●①管理職・生徒指導主事等、②特別支援学級担任、③特別支援教育支援員、④特別支援教育コーディネーターの各対象職種に対してそれぞれ研修会等を実施する。</p>	
実績	<p>●特別支援教育の理解促進のための研修3回</p> <p>●教育支援委員会 開催回数9回</p> <p>●教育支援委員会 審議件数293件</p> <p>●就学相談員による就学相談 実施人数232人</p>		<p>●教育支援委員会 8回開催/286件審議</p> <p>●就学相談・学校訪問 相談回数312回/調査・観察訪問回数405回/電話相談1,877回</p> <p>●特別支援教育支援員の配置数 年度末106名（年度当初から14名増員）</p> <p>●障害児介助員の配置数 年度末39名</p> <p>●研修会（特別支援学級担任、特別支援教育支援員）各3回実施</p>		<p>●教育支援委員会 年間9回開催（審議件数計299件）</p> <p>●就学相談・学校訪問 就学・教育相談486回、幼稚園・学校等への調査・観察訪問530回、電話相談1,948回</p> <p>●特別支援教育支援員の配置数 市内39校に計123名</p> <p>●障害児介助員の配置数 市内全16園に計41名</p> <p>●研修会実施回数 特別支援教育コーディネーター及び特別支援学級担任対象：年間3回、特別支援教育支援員対象：年間3回以上、特別支援教育コーディネーター連絡協議会：年間5回</p>		
成果課題	<p>●教育支援委員会においては、事前の情報収集に努め、円滑に審議ができた。</p> <p>●就学相談については、保護者との十分な話し合いを実施し、個々に応じた適正な就学相談をすることができた。</p>		<p>●個々に応じた相談や学校等訪問を通し得た情報を教育支援委員会に提供することができ、適切な審議につなげることができた。教育支援委員会の運営に際しては、15名の委員の意見を総合し、適切な判定につなげることができた。●特別支援教育支援員及び障害児介助員の適正配置により、小中・義務教育学校においては学級等を担任する教員の負担が軽減され、児童生徒の安全確保及び学級の運営の改善が図られ、さらに、集団への参加や学習への取り組みが増し、円滑な教育活動を推進することができた。また、幼稚園においても特別な支援や配慮を要する幼児に適切な支援を実施できた。●教職員の発達障害に関する理解促進を図るとともに、特別支援学級等の指導に必要な指導方法について実践的な研修を行い、指導力の向上を図ることができた。</p>		<p>●当初計画どおりに教育支援委員会を開催し、対象児の適切な就学につなげることができた。</p> <p>●就学層を担当する嘱託員を3名増員するとともに、業務内容の拡大を行ったことで、児童等の実態把握や学校等への指導助言の充実を図ることができた。就学・教育相談や学校等への訪問を通じて得た情報を教育支援委員会に提供し、対象児の適切な就学につなげることができた。</p> <p>●各学校・幼稚園からの要望を基に、特別支援教育支援員・障害児介助員の必要人数を精査し、各校・園の需要に応えることができた。このことにより、幼児、児童・生徒個々のニーズに応じた適切な指導・支援を行うことができた。</p> <p>●各受講対象者の経験年数やニーズを踏まえ、また、各研修の中に実践的な演習を組み入れるなど、受講後すぐに指導に活かせる内容で実施した。その結果、実際の授業や指導場面においても研修内容が活かされ、授業の質の向上が図られた。</p>		
改善見直し	<p>H28年度までは教育指導課が担当で実施したが、H29年度からは新設される特別教育支援推進室で実施した。</p>		<p>委員改選により活発な議論が行われた結果、会議時間や再審議の回数が昨年度より増加したため、審議する案件や提出する情報を精査する必要がある。</p> <p>在学児童生徒に関する相談に対応する人員がおらず、常時室長と指導主事に対応に追われていたため、次年度は相談員を増員し、在学児童生徒に対する相談に対応するよう事業内容を検討する必要がある。</p>		<p>●円滑な審議・判定が行えるよう教育支援委員会の実施回数及び時期を検討していく。</p> <p>●技術的な指導助言を行うための専門職の配置要望や業務内容の見直し等を随時検討していく。</p> <p>●管理職や通常の学級担任に対する研修会の実施を検討していく。</p>		

施策の柱	1	個人の自立に向けた学習機会の提供	現代社会に対応した職業に関する学習内容の充実を図るとともに、学習成果が実際の就職や転職といったキャリアアップに結びつくようなプログラムの開発や学びや							
方向性	(1)	ライフステージに応じた学習機会の提供/成人のキャリアアップ	すい講座の設定、サポート体制づくりを検討します。							
関連課	男女共同参画室	男女参画に関するセミナー				5頁				
	産業振興課	つくば市ふるさとハローワーク								
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<p>■男女参画に関するセミナー</p> <p>年15回のうち2～3回を、結婚・出産・子育て等により職を離れた女性が、再就職を目指すうえで必要な知識を得るためのセミナーとして実施する</p> <p>■つくば市ふるさとハローワーク</p> <p>つくば市ふるさとハローワークの運営</p> <p>ハローワーク土浦との連携事業：就業関連情報の提供や職業相談等を実施し、月50人（年間600人）の女性に対する就業を支援する</p>		<p>■男女参画に関するセミナー</p> <p>柔軟な働き方や、女性の職業生活における活躍の推進のためのセミナーを実施</p> <p>■つくば市ふるさとハローワーク</p>		<p>■男女参画に関するセミナー</p> <p>職業生活と家庭生活との両立を図るために必要な働き方の意識改革や、再就職・職場復に役立つセミナーを実施する</p> <p>■つくば市ふるさとハローワーク</p>		<p>■男女参画に関するセミナー</p> <p>男性の家事育児参加や男性の育児休業取得を促進するためのセミナーを実施する。</p> <p>■つくば市ふるさとハローワーク</p> <p>・つくば市ふるさとハローワークの管理運営</p> <p>・求職者、企業等への情報発信、啓発事業の実施</p> <p>・市内認定こども園・保育所見学ツアーの実施</p> <p>・元氣いばらき就職面接会への協力</p>			
実績	<p>■男女参画に関するセミナー3回</p> <p>①復職応援セミナー6名参加</p> <p>②自宅で働く新スタイルで女性の働き方を変える！34名参加</p> <p>③これからの男女の働き方と離職中にやってみたいこと15名参加</p> <p>■つくば市ふるさとハローワーク</p> <p>就職した1,019人のうち女性は671人。671人のうち常時雇用273人、パート398人。ハローワーク土浦と連携し市内保育所の見学会を3回実施、23名参加</p>		<p>■男女参画に関するセミナー2回</p> <p>①自宅で働く新スタイルで女性の働き方を変える！32名参加/定員30名</p> <p>②女性の活躍で社会が変わる！女性が働くということ7名参加/定員30名</p> <p>■つくば市ふるさとハローワーク</p> <p>女性676人就職（常時雇用261人、パート415人）</p> <p>ハローワーク土浦との連携事業：保育職求職者に対して、市内保育所の見学会を2回実施（15名参加）</p> <p>就職面接会を1回実施（11事業所、求職者7名参加）</p>		<p>■男女参画に関するセミナー5回</p> <p>①“介護離職” その前に－介護をしながら仕事を続けるための知恵と戦略－9名参加/定員30名</p> <p>②パパ&キッズで楽しく 夏野菜でクッキング18名参加/定員20名</p> <p>③育休後も自分らしく働き続けるために20名参加/定員30名</p> <p>④男の料理教室11名参加/定員30名</p> <p>⑤男性の育児休業応援セミナー 先輩パパとの座談会5名参加/定員30名</p> <p>■つくば市ふるさとハローワーク</p> <p>・つくば市ふるさとハローワークの運営実績</p> <p>相談件数8,053件、紹介人数3,370人、就職者数878人</p> <p>・市内認定こども園、保育所等見学ツアー実績</p> <p>6月開催：8名参加、4名採用</p> <p>9月開催：8名参加、1名採用</p>					
成果課題	<p>■男女参画に関するセミナー</p> <p>アンケート結果から、9割近くの講座受講者が「とてもよかった」「よかった」と感じたことがわかった。受講したことにより、再就職・職場復帰について前向きな気持ちや不安の緩和という意識改革を図ることができた</p> <p>■つくば市ふるさとハローワーク</p> <p>就職相談や職業紹介、就業関連情報の提供を行うことにより、再就職や職場復帰の支援が図られた</p>		<p>■男女参画に関するセミナー</p> <p>アンケートでは「とてもよかった」「よかった」の回答をえられた。新しい働き方や、女性活躍推進に関して、意識醸成を図ることができた</p>		<p>■男女参画に関するセミナー</p> <p>アンケートでは「とてもよかった」「よかった」の回答をえられた。ワークライフバランスの推進や、男性の家事育児参加に関して、情報提供・意識啓発を図ることができた。</p> <p>■つくば市ふるさとハローワーク</p> <p>つくば市ふるさとハローワークを運営し、就職相談、職業紹介及び就業情報提供を行うことにより、再就職や職場復帰支援をすることができた。</p>					
改善見直し	-		<p>■男女参画に関するセミナー</p> <p>アンケート結果から、内容についての満足度は高いと推測できるため、継続して実施する</p>		<p>■男女参画に関するセミナー</p> <p>アンケート結果では、満足度の高いセミナーを実施することができたが、内容によって参加者数に差が出てしまったので、参加者数少なかったセミナーについては内容を検討する。</p>					

施策の柱	1	個人の自立に向けた学習機会の提供	高齢者がいつまでも元気でいきいきと地域社会と関わり暮らしていけるよう、生涯学習の振興による高齢者の生きがい対策を推進します。								
方向性	(1)	ライフステージに応じた学習機会の提供/高齢者のいきがい									
関連課	高齢福祉課	ねんりんスポーツ大会	高齢福祉課	シルバー人材センターの支援と活用		6頁					
	高齢福祉課	シルバークラブ大会、シルバークラブ活動への補助	地域包括支援課	介護支援ボランティア							
	高齢福祉課	おひさまさんさん生き生きまつり	文化芸術課	長寿大学							
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度		
計画	<p>■各種イベント・シルバークラブ活動への支援 各種研修会や教養講座等の開催、ねんりんスポーツ大会、シルバークラブ大会、おひさまさんさん生き生きまつり、補助金交付</p> <p>■シルバー人材センターの支援と活用 補助金交付</p> <p>■介護支援ボランティア ボランティア登録の増加のため、ボランティア受け入れ機関の拡大を図る。登録はしているが活動できていない方への調査を行い、受け入れ機関との連携により実活動者を増やす（ボランティアは活動の実績に応じてポイントを換金し交付金を受け取ることができる）</p> <p>■長寿大学 筑波・大穂・吉沼・豊里の4交流センターで実施</p>		<p>■各種イベント・シルバークラブ活動への支援 各種研修会や教養講座等の開催、ねんりんスポーツ大会、シルバークラブ大会、おひさまさんさん生き生きまつり、補助金交付</p> <p>■シルバー人材センターの支援と活用</p> <p>■介護支援ボランティア</p> <p>■長寿大学</p>		<p>■各種イベントやシルバークラブ活動への支援 ねんりんスポーツ大会、シルバークラブ大会、おひさまさんさん生き生きまつり、補助金交付</p> <p>■シルバー人材センターの活用と支援</p> <p>■介護支援ボランティア 受入施設の情報随時登録者に発信することでマッチングを促し、交付金の上限を引き上げて、登録者の活動意欲を上げられないか検討する</p> <p>■長寿大学</p>		<p>■各種イベントやシルバークラブ活動への支援 ねんりんスポーツ大会、シルバークラブ大会、おひさまさんさん生き生きまつり、補助金交付</p> <p>■シルバー人材センターの活用と支援</p> <p>■介護支援ボランティア ・広報やホームページ、チラシ、ポスター等の活用や会議、イベント等でのチラシ配布を行い、制度の周知を進めていく。 ・年に1回は登録者のボランティア継続の意思確認をし、登録者の整理を行っていく。</p> <p>■長寿大学 筑波・大穂・吉沼・豊里の4交流センターで実施</p>				
実績	<p>■各種イベントやシルバークラブ活動への支援 各種研修や講座を実施、ねんりんスポーツ大会560名、シルバークラブ大会（活動功労者表彰・講演会550名）、おひさまさんさん生き生きまつり（障害者と高齢者によるレクリエーションイベント1,950名）、補助金交付（単位シルバークラブ131団体、市シルバークラブ連合会1団体）</p> <p>■シルバー人材センター 契約件数5,009件</p> <p>■介護支援ボランティア 登録者172名（平均年齢73.4歳）、延活動人数1,847名、延活動時間3,166時間</p> <p>受入施設48施設、受入施設意見交換会実施</p> <p>交付金交付申請者数58名、交付額187千円</p> <p>■長寿大学 コーラス・芸術鑑賞・出前講座等を実施 筑波「寿大学」全6回延285名、大穂「筑宝大学」全10回延204名、吉沼「いきいき学級」全6回延296名、豊里「長寿大学」全6回延825名</p>		<p>■各種イベントやシルバークラブ活動への支援 各種研修会や教養講座等の開催、ねんりんスポーツ大会567名、シルバークラブ大会（活動功労者表彰・講演会655名）、おひさまさんさん生き生きまつり開催（障害者と高齢者によるレクリエーションイベント1,800名）、補助金交付（単位シルバークラブ137団体、市シルバークラブ連合会1団体）</p> <p>■シルバー人材センター 契約件数4,962件 新規入会者97名 退会者68名 市からは、施設の夜間当番/草刈り/清掃等を依頼している</p> <p>■介護支援ボランティア 登録者数123名（平均年齢70.3歳） 延べ活動人数1,607人名、延べ活動時間2,664時間</p> <p>受入施設数53施設、受入施設意見交換会実施</p> <p>交付金交付申請者数47名、交付額165千円</p> <p>■長寿大学 コーラス、芸術鑑賞、出前講座等を実施 筑波「寿大学」全6回延305名、大穂「筑宝大学」全10回延204名、吉沼「いきいき学級」全4回延219名、豊里「長寿大学」全6回延712名</p>		<p>■各種イベントやシルバークラブ活動への支援 ねんりんスポーツ大会592名、シルバークラブ大会（活動功労者表彰・講演会720名）、おひさまさんさん生き生きまつり開催（障害者と高齢者によるレクリエーションイベント1,605名）、補助金交付（単位シルバークラブ134団体、市シルバークラブ連合会1団体）</p> <p>■シルバー人材センター 契約件数4,609件 新規入会者58名 退会者49名 市からは、施設の夜間当番/草刈り/清掃等を依頼している</p> <p>■介護支援ボランティア ・ボランティア活動実績が活発な施設へ視察を行った。 ・介護支援ボランティア実活動者数：77人 ・介護支援ボランティア登録者数：146人 ・介護支援ボランティア受入機関数：54か所 ・介護支援ボランティア延べ時間：2,945時間 ・交付金申請額204,000円</p> <p>■長寿大学 コーラス・芸術鑑賞・出前講座等を実施 筑波「寿大学」全5回延205名、大穂「筑宝大学」全10回延219名、吉沼「いきいき学級」全5回延236名、豊里「長寿大学」全6回延808名</p>						
成果課題	<p>■各種イベントやシルバークラブ活動への支援 高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した</p> <p>■シルバー人材センター 円滑な運営を支援し、社会参加の促進や高齢者の生きがいの充実等につながった</p> <p>■介護支援ボランティア 登録者、受入施設ともに増やすことができた。しかし、登録者が増えても活動に至らない方が半数以上いる。ボランティア層を広げていくために高齢者施設以外も受入施設にする。登録に行くのが大変という声があるため、改善する必要がある</p> <p>■長寿大学 高齢者の生きがい対策として学習と交流の機会を提供し、参加者から好評を得た</p>		<p>■介護支援ボランティア 登録者の活動への意識調査として筑波で活動の確認ができていない方に電話連絡を実施した、その結果登録者人数は減ったが登録者と活動人数の差を縮めることができた。しかし、活動実績の無い登録者が多いため、さらなる改善が必要</p>		<p>■各種イベントやシルバークラブ活動への支援 高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。シルバークラブは会員が減少傾向であるため、会員数の増加への取り組みやシルバークラブ活動の活性化が課題である。</p> <p>■シルバー人材センター 補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。</p> <p>■介護支援ボランティア ・施設の視察でボランティアに参加するまでの経緯や意識について聞き取り調査を行い、どのようなニーズがあるのかを把握できた。 ・制度の周知により、市民ボランティアへの理解が進み、社会参加による生きがいづくりを進めていくことができた。</p> <p>■長寿大学 高齢者の学習と交流の機会を提供し、参加者から好評を得ることができた。</p>						
改善見直し	<p>■介護支援ボランティア 登録者を増やすだけでなく、活動人数を増やしていく必要がある。</p>		<p>■介護支援ボランティア 受入施設の仕事の幅を広げ、活動を促す必要がある。</p>		<p>■各種イベントやシルバークラブ活動への支援 令和元年度に向け、会員数増加を促進できるよう、単位シルバークラブの補助金額を増額するように見直しを行った。</p> <p>■介護支援ボランティア 制度の申請方法や内容について、引き続き啓発活動を実施していく。</p>						
施策の柱	1	個人の自立に向けた学習機会の提供	急速な少子高齢化と経済のグローバル化が進む現代社会においては、社会保障制度の見直し、経済格差、雇用環境の悪化等様々な問題が市民生活に影響を与えていま								

方向性	(2) 現代的課題解決のための学習機会の提供	9. こつしに課題を解決するに、個人が生き抜くために必要な知識や術としての生涯学習機会を提供していきま。				
関連課	企画経営課	竹園高校クロスカリキュラム	(生涯学習推進課)	青少年相談員		7頁
	市民活動課	更生保護事業				
年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	
計画	<p>■竹園高校クロスカリキュラム</p> <p>『竹園高校生が考える「将来の自分」×「将来のつくば」～つくば市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略とともに～』を開催</p> <p>■社会を明るくする運動つくば市大会</p> <p>保護司、人権擁護委員、青少年相談員等を対象に、罪を犯した人たちの更生や青少年の健全育成等をテーマにした講演会を開催する</p>	<p>■竹園高校クロスカリキュラム</p> <p>『竹園高校生が考える「将来の自分」×「将来のつくば」～つくば市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略とともに～』を開催</p> <p>■講演会・研修</p> <p>つくば地区保護司会総会、つくば市更生保護連合会総会</p> <p>つくば市更生保護女性会総会</p> <p>第67回社会を明るくする運動つくば市大会</p> <p>茨城県更生保護大会</p> <p>県南ブロック更生保護関係者等連絡協議会</p> <p>茨城県更生保護女性のつどい</p> <p>更生保護女性連盟県南ブロック研修会</p>	<p>■竹園高校クロスカリキュラム</p> <p>未定（依頼により実施）</p> <p>■講演会・研修</p> <p>社会を明るくする運動つくば市大会において、大会関係者の他に、一般市民にも参加を呼びかける</p>	<p>■竹園高校クロスカリキュラム</p> <p>昨年度と同様に学校側の要請に応じて開催することを検討する。</p> <p>■保護司の資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> つくば地区保護司会総会 つくば市更生保護連合会総会 つくば市更生保護女性会総会 第69回社会を明るくする運動つくば市大会 茨城県更生保護大会 県南ブロック更生保護関係者等連絡協議会 茨城県更生保護女性のつどい 更生保護女性連盟県南ブロック研修会 		
実績	<p>■竹園高校クロスカリキュラム</p> <p>高校生につくば市の特性や強みを伝えることができた</p> <p>■社会を明るくする運動つくば市大会（第66回）</p> <p>約80名参加（保護司、人権擁護委員、青少年相談員等）</p> <p>講演会テーマ「少年非行の現状について」</p> <p>講師「少年サポートセンターつくば 根守 由美子氏」</p>	<p>■竹園高校クロスカリキュラム</p> <p>高校生につくば市の特性や強み、今後、懸念される問題点などを伝えることができた</p> <p>■講演会・研修</p> <p>4/20つくば地区保護司会総会、つくば市更生保護連合会総会、第67回社会を明るくする運動つくば市大会推進委員会</p> <p>4/25つくば市更生保護女性会総会</p> <p>5/18第67回社会を明るくする運動茨城県推進委員会</p> <p>7/9第67回社会を明るくする運動つくば市大会（約60名参加）講演者：水戸保護観察所長押切久遠氏</p> <p>10/31県南ブロック更生保護関係者等連絡協議会</p> <p>11/9茨城県更生保護大会（水戸市）</p> <p>2/28更生保護女性連盟県南ブロック研修会</p> <p>3/6茨城県更生保護女性のつどい（守谷市）</p> <p>平成30年度の社会を明るくする運動つくば市大会について、一般市民が参加できるように開催概要の検討を行った</p>	<p>■竹園高校クロスカリキュラム</p> <p>平成30年度は、テーマをまち・ひと・しごとからSDGsへ改めて実施した。つくば市におけるSDGsの取組の講演のあと、「10年後に当たり前になってほしいこと」及び「そのために自分ができること」について考えるワークショップを開催した。</p> <p>■講演会・研修</p> <p>4/20つくば地区保護司会総会、つくば市更生保護連合会総会</p> <p>4/24つくば市更生保護女性会総会</p> <p>7/16第68回社会を明るくする運動つくば市大会開催</p> <p>10/17更生保護女性連盟県南ブロック研修会</p> <p>11/15茨城県更生保護大会（水戸市）</p> <p>2/27県南ブロック更生保護関係者等連絡協議会</p> <p>3/6茨城県更生保護女性のつどい（水戸市）</p>			
成果課題	<p>■竹園高校クロスカリキュラム</p> <p>授業で学んだ知識を活用して地域の問題解決に取り組んでいただいたことで、将来の自分自身のライフプランや社会との関係性について考える好機とすることができた</p> <p>■社会を明るくする運動つくば市大会</p> <p>保護司が資質向上のため少年非行の現状について学習することができたとともに、人権擁護委員や青少年相談員等を交えた学習機会としたことで、罪を犯した人たちの更生などに、それぞれの立場で力を合わせて、連携して取り組むきっかけとなった</p>	<p>■竹園高校クロスカリキュラム</p> <p>グループワークにより課題解決に向けた提案を行っていただいたことで、将来のまちづくり等について興味・関心を高めることができた</p> <p>■講演会・研修</p> <p>保護司、更生保護女性会会員の資質向上及び地域でのネットワーク構築が図れた。各団体(保護司会、更生保護女性会、人権女御委員、青少年相談委員(ほか)との連携及び啓発活動の強化がはかれた</p>	<p>■竹園高校クロスカリキュラム</p> <p>次世代を担う高校生が、10年後に当たり前になってほしいことの実現のために自分ができることについて考えるきっかけをつくったことで、SDGsの理念の浸透やまちづくりへの関心を高めることができた。</p> <p>■講演会・研修</p> <p>【成果】各団体（保護司会、更生保護女性会、人権擁護委員、青少年相談員(ほか)）との連携及び啓発活動の強化が図れた。社会を明るくする運動つくば市大会では団体だけではなく、一般市民へ募集を行い、運動の周知に努めた。</p> <p>【課題】社会を明るくする運動をととして犯罪や非行のない明るい社会づくりを目指すため、市民に周知し「社会を明るくする運動つくば市大会」の参加者を増やす。</p>			
改善見直し		<p>■講演会・研修</p> <p>社会を明るくするつくば市大会において、保護司会や更生保護女性会、人権擁護委員など大会関係者のみで行うのではなく、一般市民にも参加できるイベントとする必要がある</p>	<p>■竹園高校クロスカリキュラム</p> <p>引き続き、学校側と実施方法について対話を重ね、若い世代に対して効果的な意識付けを行っていく。</p> <p>■講演会・研修</p> <p>社会を明るくする運動の参加者を増やすために広報を積極的に行う必要がある。</p>			

施策の柱	1	個人の自立に向けた学習機会の提供	外出が困難な高齢者やその介護者、障がい者やその支援者の方などへの必要な配慮や支援を行うとともに、適切な学習機会の提供を行います。							
方向性	(3)	社会生活を円滑に営む上で困難を有する者への学習機会の提供（就業支援学習を含む）								
関連課	障害福祉課	チャレンジアートフェスティバル、スポーツ教室等	(生涯学習推進課)	出前講座事務						
	介護保険課	出前講座「みんなの安心介護保険事業」								
	地域包括支援課	出前講座「認知症サポーター養成講座」								
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<p>■チャレンジアートフェスティバル 舞台発表3/4 作品展示3/7～3/11</p> <p>■のびのびスポーツ教室 障害児のスポーツ活動を通して、体力の増強、交流、余暇活動の充実を図る。対象：市内の障害児（小学生）</p> <p>■体験乗馬療法 障害児と健常児の交流の中で、アニマルセラピーの効果により、障害児の精神的安定と共に啓発を図る。対象：障害児と健常児の小学生</p> <p>■出前講座 依頼の都度開催 【みんなのあんしん介護保険講座】 【認知症サポーター養成講座】1,200名以上のサポーターを養成する</p>		<p>■チャレンジアートフェスティバル 舞台発表3/3 作品展示3/6～3/11 一般市民来場者を増加させ、障害福祉に対する市民の意識啓発及び理解の促進を図る。事業終了後に、市庁舎等での作品展示を行う</p> <p>■おひさまサンサン生き生きまつり 10/28 スポーツやレクリエーション活動、障害者が創意工夫を凝らして制作した作品の展示・販売等を行い、一般市民及びボランティア協力団体との交流を図る</p> <p>■のびのびスポーツ教室</p> <p>■体験乗馬療法</p> <p>■出前講座 依頼の都度開催 【みんなのあんしん介護保険講座】 【認知症サポーター養成講座】1,200名以上のサポーターを養成する</p>		<p>■チャレンジアートフェスティバル 舞台発表3/2 作品展示3/5～3/10</p> <p>開催前に、茨城県庁及びつくば市役所庁舎内にて29年度制作の作品展示を行い、一般市民に向けた広報啓発を行う</p> <p>■おひさまサンサン生き生きまつり 10/27</p> <p>■のびのびスポーツ教室</p> <p>■体験乗馬療法</p> <p>■出前講座 依頼の都度開催する 【みんなのあんしん介護保険講座】 【認知症サポーター養成講座】1,200名以上のサポーターを養成する</p>		<p>■チャレンジアートフェスティバル 舞台発表2/29 作品展示3/3～3/8</p> <p>開催前に、茨城県庁及びつくば市役所庁舎内にて30年度制作の作品展示を行い、一般市民に向けた広報啓発を行う</p> <p>■おひさまサンサン生き生きまつり 10/26</p> <p>■のびのびスポーツ教室</p> <p>■体験乗馬療法</p> <p>■出前講座 依頼の都度開催する「みんなのあんしん介護保険講座」</p> <p>■認知症サポーター養成講座 認知症サポーター養成講座を実施し、年間を通して1,200名以上の認知症サポーターを養成する。</p>			
実績	<p>■チャレンジアートフェスティバル 計画通り実施。作品展示は3/12まで実施。県立つくば美術館での展示の後、市役所でも展示を実施</p> <p>■のびのびスポーツ教室19名</p> <p>■体験乗馬療法194名</p> <p>■介護保険講座 3回32名参加</p> <p>■認知症サポーター養成講座 59回2,231名参加。銀行や郵便局等の職域団体や小中学校関係からの依頼が多かった</p>		<p>■チャレンジアートフェスティバル 計画のほかブレ企画も実施(2/25)</p> <p>■おひさまサンサン生き生きまつり 計画通り実施。例年の活動に加え、いきいき茨城ゆめ大会開催競技の体験会のブースを用意し、障害者スポーツの推進も実施</p> <p>■のびのびスポーツ教室20名</p> <p>■体験乗馬療法409名</p> <p>■出前講座 【みんなのあんしん介護保険講座】6回開催、184名参加 【認知症サポーター養成講座】43回開催し、1,426名のサポーターを養成した。銀行やカスミ社員等の職域団体や小中高等学校関係からの依頼が多かった。つくば市職員に対しても職員研修として講座を実施した</p>		<p>■チャレンジアートフェスティバル 計画通り実施。</p> <p>■おひさまサンサン生き生きまつり 計画通り実施。本年度は開催場所を研究学園駅前公園に変更。</p> <p>■のびのびスポーツ教室24名</p> <p>■体験乗馬療法403名</p> <p>■出前講座「みんなのあんしん介護保険講座」5回開催 約200名参加</p> <p>■認知症サポーター養成講座 認知症サポーター養成講座を77回開催し、3,079名のサポーターを養成した。職域団体や</p>					
成果課題	<p>■チャレンジアートフェスティバル 広報活動は、新たに市内小中学校、つくバス内でのチラシ配布。試験的にFacebookでの事業周知(リーチ数約450)を行った</p> <p>■出前講座 【介護保険講座】市民（主に高齢者の方）に対して、介護保険制度について知っていただく機会を提供できた</p> <p>【認知症サポーター養成講座】地域での見守り以上の活動意欲のある認知症サポーターに、ステップアップ講座を受講してもらい認知症カフェのボランティアや認知症の啓発活動等に参加してもらうことができた</p>		<p>■チャレンジアートフェスティバル 昨年度よりも多くの情報発信をし延べ参加者数が増加したと思われるが関係者以外の参加が少ない</p> <p>■おひさまサンサン生き生きまつり いきいき茨城ゆめ大会競技の体験会を行ったことで一般参加の促進が図れた。27年度よりつくばカピオ（屋内会場）で開催しているが、屋外会場での実施を望む方もいる</p> <p>■のびのびスポーツ教室 障害児の体力増強・交流・余暇活動等の充実を図ることができた。また、事業前後の時間で、参加保護者や児童達が交流する様子が見られた。開催ごとに数人の欠席があることから、定員を若干名増やすことも検討する</p> <p>■体験乗馬療法 体験乗馬及びポニーへの餌やりをとおして、効果的なアルマセラピーを実施し、障害児の精神的安全を図ることができた。臭いへの苦情がある</p> <p>■出前講座 【みんなのあんしん介護保険講座】28年度の参加者は高齢者が多かったが、29年度は高齢者のほか、これから両親の介護を控える比較的若い層の参加があり、介護保険制度を知る機会を提供できた</p> <p>【認知症サポーター養成講座】認知症徘徊模擬訓練をきっかけに地域で数多くの認知症サポーターを養成し、地域での認知症の方の見守り活動の充実を図れた。認知症ステップアップ講座を受講したサポーターのボランティアや啓発活動への参加も活発に行われた</p>		<p>■チャレンジアートフェスティバル 広報の幅を広げ、作品展示・舞台発表の来館者ともに昨年度を上回ったが、関係者以外の一般来館者数が少ないと思われる。</p> <p>■おひさまサンサン生き生きまつり 研究学園駅前公園を会場とし、屋外で開催した。会場変更により、チャレンジブース等での一般参加が減少した。</p> <p>■のびのびスポーツ教室 障害児の体力増強・交流・余暇活動等の充実を図ることができた。また、事業前後の時間で、参加保護者や児童達が交流する様子が見られた。開催ごとに数人の欠席があることから、定員を若干名増やすことも検討する</p> <p>■体験乗馬療法 体験乗馬及びポニーへの餌やりをとおして、効果的なアルマセラピーを実施し、障害児の精神的安全を図ることができた。臭いへの苦情がある</p> <p>■出前講座「みんなのあんしん介護保険講座」 介護保険制度の理解を深めていただく機会を提供できた。</p> <p>■認知症サポーター養成講座 認知症の方とその家族を支える地域づくりを推進していくため、数多くの認知症サポーターを養成することが出来た。特に小学生といった若い世代への啓発ができたことは有意義であった。また認知症サポーター養成講座を受講し、見守り以外の活動を希望されるサポーターに対し、ステップアップ講座を受講してもらうことにより認知症カフェのボランティアとして活動していただいたり、啓発活動等へ参加いただいた。</p>					
改善見直し	—		<p>■チャレンジアートフェスティバル より効果的な事業とするため、広く一般市民へ情報発信できるよう、広報活動を充実させる</p> <p>■おひさまサンサン生き生きまつり 屋外会場で実施する要望があったことから、メリット・デメリットを十分協議して、屋外開催の方針で定めていく</p> <p>■のびのびスポーツ教室 毎年度、定員を超えての申し込みがあるため、教室参加の経験がない新規の申込者を優先できるように調整する。</p> <p>■体験乗馬療法 場所の配置を検討する</p>		<p>■チャレンジアートフェスティバル 市民の障害に対する理解を深めるため、関係者でない方にも多く来館してもらえよう、広報活動を充実させていく。</p> <p>■おひさまサンサン生き生きまつり 障害者や高齢者との交流を図るため、チラシの配布等広報を強化し、一般参加を増やす必要がある。</p> <p>■のびのびスポーツ教室 毎年度、定員を超えての申し込みがあるため、教室参加の経験がない新規の申込者を優先できるように調整する。</p>					

施策の柱	2	生涯学習環境の整備	学習や活動に興味を持ってもらえるよう、また活動へとつないでいけるよう、様々な媒体による情報提供を充実するとともに、きめ細やかな相談体制を整備します。							
方向性	(1)	相談体制の整備								
関連課	生涯学習推進課	社会教育指導員の相談能力の向上				9頁				
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<p>国及び県の生涯学習・社会教育行政の動向を受け、研修を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ■社会教育指導員自らによる研修企画を立案し、年2回以上開催する ■茨城県と県南教育事務所主催「生涯学習・社会教育担当者研修会」に派遣社会教育主事と担当職員が参加する ■社会教育指導員の配置 家庭教育の充実のため、文化芸術課に2名、各地域交流センターに14名を配置 		<ul style="list-style-type: none"> ■社会教育指導員自らによる研修企画を立案し、年2回以上開催する ■茨城県と県南教育事務所主催「生涯学習・社会教育担当者研修会」に派遣社会教育主事と担当職員が参加する ■社会教育指導員の配置 家庭教育の充実のため、文化芸術課に2名、各地域交流センターに14名を配置 		<ul style="list-style-type: none"> ■社会教育指導員自らによる研修企画を立案し、年2回以上開催する ■茨城県と県南教育事務所主催「生涯学習・社会教育担当者研修会」に派遣社会教育主事と担当職員が参加する ■社会教育指導員の配置 家庭教育を充実させるため、生涯学習推進課に3名、各地域交流センターに13名を配置 		<ul style="list-style-type: none"> ■社会教育指導員自らによる研修企画を立案し、年2回以上開催する ■茨城県と県南教育事務所主催「生涯学習・社会教育担当者研修会」に派遣社会教育主事と担当職員が参加する ■社会教育指導員の配置 家庭教育を充実させるため、生涯学習推進課に13名を配置 			
実績	<ul style="list-style-type: none"> ■自主企画研修 社会教育指導員新人研修/地域と学校連携・協働における交流センター/社会教育指導員の役割についての研修/中学校家庭教育セミナー-模擬学習研修/企画書、チラシの作り方についての研修 ■茨城県と県内教育事務所主催研修 県南管内社会教育担当者研修会2回/県社会教育主事研修会2回 		<ul style="list-style-type: none"> ■自主企画研修 社会教育指導員新人研修/子供に手渡す3つの幸せ力と地域の役割についての研修/地域と学校をつなぐ社会教育指導員の役割についての研修 ■茨城県と県内教育事務所主催研修 県南管内社会教育担当者研修会2回参加/生涯学習・社会教育担当者研修会・県社会教育主事研修会3回参加 		<ul style="list-style-type: none"> ■自主企画研修 社会教育指導員新人研修/つくば市の教育についての研修/つくばの子育て支援についての研修 ■茨城県と県内教育事務所主催研修 県南管内社会教育担当者研修会1回参加/生涯学習・社会教育担当者研修会・県社会教育主事研修会3回参加 					
成果課題	実務的内容・職務上の役割を意識した知識を取り入れ、社会教育指導員として、適切な指導をすることが出来た		実務的内容・職務上の役割を意識した知識を取り入れ、社会教育指導員として、適切な指導をすることが出来た		実務的内容・職務上の役割を意識した知識を取り入れ、社会教育指導員として、適切な指導をすることが出来た					
改善見直し	—		—		—					

施策の柱	2	生涯学習環境の整備	生涯学習により自己実現につながる事、さらに地域社会への還元・貢献ができることなど、生涯学習の意義や理念を理解し、一人でも多くの市民が生涯学習に取り組むよう啓蒙・啓発活動を行います。							
方向性	(2)	学習意欲を高めるための啓発活動								
関連課	広報戦略課	HP、広報発行				10頁				
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<p>■広報 毎月、情報コーナーに「講座」「スポーツ」欄を設け、学習情報を分類分けし掲載 地域交流センター講座の特集を前期(5月)、後期(9月)の年2回、各4ページで発行</p> <p>■ACCS/ラヂオつくば 広報紙に掲載された情報を基に放送する ACCS:14分番組を1日5回(番組の更新は週1回) ラヂオつくば:15分番組を1日1回(番組の更新は週1回)</p>		<p>■広報 ■ACCS/ラヂオつくば</p>		<p>■広報 ■ACCS/ラヂオつくば</p>		<p>■広報 毎月1回1日発行。 地域交流センター講座の特集を前期(5月)、後期(9月)の年2回掲載。 ■ACCS/ラヂオつくば ACCS:14分番組を1日5回(更新は週1回)。 ラヂオつくば:15分番組を1日1回(更新は週1回)。</p>			
実績	<p>■広報 毎月、「講座」や「スポーツ」欄を設け、学習情報を発信した。また、地域交流センター講座特集を、広報つくば5月号に前期分4ページ、9月号に後期分4ページ掲載した。</p> <p>■ACCS/ラヂオつくば ACCS:年間を通じて毎日放送 ラヂオつくば:月～金の261日放送</p>		<p>■広報 予定通り実施</p> <p>■ACCS/ラヂオつくば ACCS:年間を通じて毎日放送 ラヂオつくば:月～金の260日放送</p>		<p>■広報 毎月発行。 5月及び9月号に、地域交流センター講座の特集(各4ページ)を増刷した。</p> <p>■ACCS/ラヂオつくば ACCS:年間を通じて毎日放送。 ラヂオつくば:月～金の260日放送。</p>					
成果課題	<p>広報やACCS・ラヂオつくばを通じて、市民に学習情報を提供することができた。特にACCSではイベントや講座などを映像で紹介でき、学習や活動に興味を持つきっかけとして効果があるものと考えられる</p>		<p>■広報 毎月、講座や講演、スポーツ、イベントなど、様々なジャンルの学習情報を市民に提供することができた</p> <p>■ACCS/ラヂオつくば ACCSやラヂオつくばを通じて、市民に学習情報を提供することができた。特にACCSは、イベントや講座などの情報を映像で紹介できるので、興味を持つきっかけや学習を継続する励みとして効果があるものと考えられる</p>		<p>■広報 毎月発行の広報紙の中で、講座や講演、スポーツ、イベントなどの学習に必要な情報を提供することができた。</p> <p>■ACCS/ラヂオつくば ACCSやラヂオつくばを通じて、市民に必要な学習情報を提供することができた。特にACCSは、イベントや講座などの情報を映像で紹介することができるので、学習に興味を持つきっかけとして効果があるものと考えられる。</p>					
改善見直し	—		—		—					

施策の柱	2	生涯学習環境の整備	市民が充実した学習や活動を行うために、その活動を様々な面から支援する豊富な知識や経験を持った人材を発掘・確保し、生涯学習の指導者として養成します。また、学習成果を適切に評価し、学習者の意欲を更に高めていけるよう、学習成果の発表の場の充実や地域社会へ還元するシステムを構築します。							
方向性	(3)	学習意欲を高めるための啓発活動								
関連課	企画経営課	OB人材活動支援事業				11頁				
	生涯学習推進課	指導者情報提供事業								
	文化芸術課	市民文化祭の充実								
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<p>■OB人材活動支援事業</p> <p>シニア・エキスパート便覧の発行・配布。広報紙等の掲載により事業の周知</p> <p>■生涯学習指導者情報提供事業</p> <p>市民の問合せに応じて指導者を紹介</p> <p>■市民文化祭 会場：筑波・大穂・豊里・谷田部・桜・荳崎・中央 11/5～6（荳崎のみ11/1～11/6）体験教室や子供たちの作品展示を通し、集客につなげる。参加団体への助成金の上限引き上げを検討する</p>		<p>■OB人材活動支援事業</p> <p>■生涯学習指導者情報提供事業</p> <p>■市民文化祭</p> <p>会場：筑波・大穂・豊里・谷田部・桜・荳崎・中央</p> <p>11/4～11/5（荳崎のみ10/31～10/5）</p>		<p>■OB人材活動支援事業</p> <p>■指導者情報提供事業</p> <p>■市民文化祭 11/3～4（荳崎のみ10/28～11/4）体験教室や子供たちの作品展示を通し、集客につなげる。また、参加団体への助成金割合の変更について検討する</p>		<p>■OB人材活動支援事業</p> <p>シニア・エキスパート便覧の発行や配布、広報紙等の掲載により事業を周知</p> <p>■指導者情報提供事業</p> <p>市の講座、家庭教育学級の講座等で活用できるよう生涯学習指導者の情報を整理する。</p> <p>指導者情報をホームページに掲載し、市民の問合せに応じて、講師の紹介をする。</p> <p>チラシの作成、配布</p> <p>■市民文化祭</p> <p>日時：11/2～3（荳崎会場のみ10/29～11/4）（ノバホール音楽会は11/9・10）</p> <p>会場：筑波・大穂・豊里・谷田部・桜・荳崎・中央</p>			
実績	<p>■OB人材活動支援事業</p> <p>シニア・エキスパート便覧第13版（平成28年5月）及び第14版（平成28年11月）の発行や広報紙に掲載し、広く周知した</p> <p>■生涯学習指導者情報提供事業</p> <p>紹介件数80件（うち25件開催）</p> <p>新規登録84名（総数291名）</p> <p>■市民文化祭</p> <p>参加団体数：358団体</p> <p>参加者数：4,837名</p> <p>来場者数：27,780名</p>		<p>■OB人材活動支援事業</p> <p>649回（前年度比約16%増）</p> <p>シニア・エキスパート便覧第15版（平成29年7月）の発行や広報紙に掲載し、広く周知した</p> <p>■生涯学習指導者情報提供事業</p> <p>紹介件数72件（うち17件開催）</p> <p>新規登録指導員36名（総数232名）</p> <p>継続の意思確認をし、講師情報を更新した</p> <p>■市民文化祭</p> <p>参加団体377団体4,961名参加</p> <p>来場者数28,084名</p>		<p>■OB人材活動支援事業</p> <p>登録者活動回数：686回（前年度比約6%増）</p> <p>シニア・エキスパート便覧第16版（平成30年5月）の発行や広報紙に掲載し、広く周知した</p> <p>■生涯学習指導者情報提供事業</p> <p>紹介件数 79件（うち4件開催）</p> <p>新規登録者数 32名（総数223名）</p> <p>2月に登録している指導者全員に通知を出し、登録情報の更新作業を行った。</p> <p>また、新規登録者で指導経験が少ない講師を対象に、おためし講座を実施した。</p> <p>■市民文化祭</p> <p>参加団体数：379団体</p> <p>参加者数：4,879名</p> <p>来場者数：30,458名</p>					
成果課題	<p>■OB人材活動支援事業 シニア・エキスパート登録者の活動実績が昨年より約50回増えるなど生涯学習機会の提供に寄与した</p> <p>■生涯学習指導者情報提供事業</p> <p>紹介件数に対する開催件数の割合が31%だった原因を探り、開催件数を増やす</p> <p>■市民文化祭 市民が文化芸術を身近に接することにより、興味や関心を育むきっかけとなり、市全体の文化意識の高揚につながった。また、体験教室や子供たちの作品展示を行い、アンケートでも高評価を得ることができた</p>		<p>■生涯学習指導者情報提供事業</p> <p>紹介件数に対する開催件数の割合が23%だった原因を探り、開催件数を増やす</p> <p>■市民文化祭</p> <p>市民が文化芸術を身近に接することにより、興味や関心を育むきっかけとなり、市全体の文化意識の高揚につながった。また、体験教室や子供たちの作品展示を行い、アンケートでも高評価を得ることができた。助成金の上限引き上げを行った</p>		<p>■OB人材活動支援事業</p> <p>地域交流センター講座や小学校の放課後教室等をはじめ市内外へ講師派遣をマッチングし、シニア層の活動を支援できた。</p> <p>■生涯学習指導者情報提供事業</p> <p>「生涯学習インストラクター」を新たに登録するとともに、既に登録されている講師情報を更新し、最新の情報を提供できるようにした。おためし講座を実施することで、登録者に講師の機会を提供するとともに、事業の利用促進を図ることができた。</p> <p>■市民文化祭</p> <p>市民が文化芸術を身近に接することにより、興味や関心を育むきっかけとなり、市全体の文化芸術に対する意識の高揚につながった。また、荳崎会場では、くまざきまつりとの同時開催を行い、来場者の増加につながった。</p> <p>体験教室等を行う団体への助成金割合を引き上げ、団体の負担軽減を図った。</p>					
改善見直し	—		<p>■市民文化祭 参加者・来場者アンケートで多かった意見（谷田部会場の照明が暗い、助成金の割合を上げてほしい等）について検討し、さらなる参加者満足度の向上をめざす</p>		—					

施策の柱	3	生涯学習関連施設の充実	市民の主体的な学習を支援する身近な生涯学習施設として、地域交流センター等の整備・活用を進めます。							
方向性	(1)	市民同士が交流できる施設の充実								
関連課	文化芸術課	地域交流センターでの学級・講座の充実				12頁				
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<p>■利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果の内容等を踏まえ、市民ニーズに対応した講座の実施する</p> <p>■公共施設予約システムを利用した仮予約の受付を行う</p> <p>■交流センターで活動しているサークル・グループの情報を集約し、新たにサークル活動に参加したい方に提供することで、市民の絆づくり・地域づくりのための学習機会の提供を図る</p>		<p>■利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果の内容等を踏まえ、市民ニーズに対応した講座の実施する</p> <p>■公共施設予約システムを利用した仮予約の受付を行う</p> <p>■交流センターで活動しているサークル・グループの情報を集約し、新たにサークル活動に参加したい方に提供することで、市民の絆づくり・地域づくりのための学習機会の提供を図る</p>		<p>■利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果の内容等を踏まえ、市民ニーズに対応した講座の実施する</p> <p>■公共施設予約システムを利用した仮予約の受付を行う</p> <p>■交流センターで活動しているサークル・グループの情報を集約し、新たにサークル活動に参加したい方に提供することで、市民の絆づくり・地域づくりのための学習機会の提供を図る</p>		<p>■利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果の内容等を踏まえ、市民ニーズに対応した講座の実施する。</p> <p>■公共施設予約システムを利用した仮予約の受付を行う。</p> <p>■交流センターで活動しているサークル・グループの情報を集約し、新たにサークル活動に参加したい方に提供することで、市民の絆づくり・地域づくりのための学習機会の提供を図る。</p>			
実績	<p>■年間で178講座実施</p> <p>小中学生対象10講座/一般対象133講座/高齢者対象9講座/親子対象26講座</p> <p>■利用者アンケートの結果（回収数1,012）</p> <p>（1）講座の認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座に参加したことのある割合48% ・参加したことがない割合51% <p>（2）講座に参加したことがない理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間の都合が合わなかった 5 1% ・興味のある講座がなかった 2 1% ・講座があることを知らなかった 1 9% <p>■公共施設予約システムを利用した仮予約の受付を行った。</p> <p>■サークルグループの活動内容や連絡先などの情報について、代表者の了解のもとで提供を実施</p>		<p>■年間で142講座実施</p> <p>小中学生対象3講座/一般対象116講座/高齢者対象5講座/親子対象18講座</p> <p>■利用者アンケートの結果（回収数766）</p> <p>（1）講座の認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座に参加したことのある割合：39% ・参加したことがない割合：61% <p>（2）講座に参加したことがない理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間の都合が合わなかった：46% ・興味のある講座がなかった：31% ・講座があることを知らなかった：19% <p>■公共施設予約システムを利用した仮予約の受付を行った。予約開始日の早朝から窓口に並ぶ団体が見受けられることから、予約方法の全体的な見直しを視野に入れたアンケートを実施した</p> <p>■サークルグループの活動内容や連絡先などの情報について、代表者の了解のもとで提供を行った</p>		<p>■年間で131講座実施</p> <p>小中学生対象3講座/一般対象107講座/高齢者対象6講座/親子、託児付き対象15講座</p> <p>■利用者アンケートの結果（回収数766）</p> <p>（1）講座の認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座に参加したことのある割合：40% ・参加したことがない割合：60% <p>（2）講座に参加したことがない理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間の都合が合わなかった：27% ・興味のある講座がなかった：27% <p>■公共施設予約システムを利用した仮予約の受付を行った。</p> <p>■サークルグループの活動内容や連絡先などの情報について、代表者の了解のもとで提供を行った。</p>					
成果課題	<p>利用者に実施したアンケート調査の結果を踏まえ、講座専門部会等で講座内容の充実を図った。特に、平日昼間の講座参加が難しい方にも対応し、夜間及び土日祝日開講の講座を昨年度より多く開催したことにより、参加者に好評を得た。</p>		<p>■利用者に実施したアンケート調査の結果を踏まえ、講座専門部会等で講座内容の充実を図った。特に、平日昼間の講座参加が難しい方にも対応し、夜間及び土日祝日開講の講座を昨年度より多く開催したことにより、参加者に好評を得た</p> <p>■予約方法についてのアンケート結果から、73%の利用者が現行の予約方式を継続することを希望していることが分かった</p>		<p>■利用者アンケート結果から「サークル活動場所の提供」の役割が突出して求められており、サークル（地域活動団体）にとっての活動場所としての需要の高さが読み取れた。「地域のコーディネーターとしての機能」については、割合としては低いものの68件の回答があった。</p> <p>■予約開始日の早朝から多くの団体が窓口に並ぶ状況を改善するため、最も望ましい方法を現行の「先着順により2か月分を一括して予約する方法」を含めた5種類の方法の中から選択させた。</p> <p>結果、「現行のままが良い」という意見が最も多く、404件（68%）、続いて「インターネット予約優先」が95件（16%）、「利用者間協議」が63件（10%）となり、現行以外の方法に消極的であることが分かった。</p>					
改善見直し	—		—		—					

施策の柱	3	生涯学習関連施設の充実	市民が知りたいことを調べ考え身につけるための身近な情報拠点として、図書館等の整備・活用を進めます。							
方向性	(2)	図書館機能の充実								
関連課	中央図書館	図書館事業とボランティアとの連携	(文化芸術課)	地域交流センター図書室との連携促進		13頁				
		図書館事業に関する広報の充実								
		既存施設における機能充実								
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<ul style="list-style-type: none"> ■ボランティアとの共催事業 おはなし会/ボランティア公演（グループスイミー、パネルシアターかくれんぼ）/図書館わくわくランド ■ボランティア主催事業 古典ブックトーク/おとなのためのブックトーク ■公園通りの図書館通信「ヨモッカ」と「こどもヨモッカ」の発行（年2回） ■交流センターとの連携 蔵書点検/図書資料の発注/委託要員研修を実施 ■調査・研究しやすい環境整備 料の収集により、調査・研究の援助する ■計画的な施設の修繕 		<ul style="list-style-type: none"> ■ボランティアの募集/説明会 ■9つのボランティアグループの支援 お話し会/地域文化/地域資料/修理/配架/音訳/点訳/国際文化サービス/児童サービス ■各ボランティアグループの見学（新規） ■ヨモッカ：年2回発行・区会回覧・図書館窓口配布等 ■ヨモッカ：年2回発行・各小学校中学年に配布等 ■交流センターとの連携 ■調査・研究しやすい環境整備 ■計画的な施設の修繕 		<ul style="list-style-type: none"> ■ボランティア H29年度と同じ ■ヨモッカ H29年度と同じ ■平成31年度業務委託契約準備/委託要員研修/蔵書点検/図書資料の購入 ■調査・研究しやすい環境の整備 資料の収集により、調査・研究の援助/国立国会図書館デジタル配信サービスの利用開始 ■計画的な施設の修繕 		<ul style="list-style-type: none"> ■ボランティアの支援 前年度3月中：ボランティアの募集、ボランティア説明会、各ボランティア見学（新規）/本年度4月～：各9つのボランティアで活動開始 ■広報活動 図書館ホームページの運営管理(随時)/広報つくばへの催事案内等掲載(毎月)/南1 駐車場エレベーターホールへの催事案内等掲示(毎月)/公園通りの図書館通信「ヨモッカ」(年2回発行・区会回覧・図書館窓口配布等)/こどもヨモッカ(年2回発行・各小学校中学年に配布等)/マスコミへの情報提供 ■調査・研究の支援 資料の収集により、調査・研究の援助 ■計画的な施設の維持管理 ■地域交流センター図書室運営 委託要員研修/図書資料の発注/蔵書点検の実施 			
実績	<ul style="list-style-type: none"> ■ボランティアとの共催事業 おはなし会（毎週土曜日等）、ボランティア公演（6/18グループスイミー、5/28パネルシアターかくれんぼ）、5/7図書館わくわくランド ■ボランティア主催事業 古典ブックトーク（毎月第3土曜日）/おとなのためのブックトーク（毎月第1土曜日） ■ヨモッカ 計画通り発行。区会回覧や各小中学校に配布 ■交流センターとの連携 図書資料の発注と蔵書点検/委託要員研修2回/リーダー座談会2回 ■調査・環境整備 司書の参考図書購入163冊/調査・研究質問1,794件/研修会へ参加 ■館内の空調管理や照明管理を実施 		<ul style="list-style-type: none"> ■4月から9つのグループで活動した。ボランティア会員数132名 ■ヨモッカ 計画通り発行。区会回覧のほか、夏休み・冬休み前に各小中学校に配布 ■交流センターとの連携 リーダー研修会/図書資料の発注/蔵書点検/図書館情報システムの更新 /交流センター蔵書充実のため各図書室の図書備品費の予算を増額要求 以下平成30年4月から実施↓ ■土・日の開館時間を午後5時までだったものを午後7時に延長 ■駐車場無料サービスをこれまでの1時間から2時間に拡充 		<ul style="list-style-type: none"> ■ボランティアの支援 4月から9つのボランティアに分かれて活動した。/ボランティア会員数142名 ■広報活動 図書館ホームページの更新/広報つくばへの催事案内等掲載（毎月）/南1 駐車場エレベーターホールへの催事案内掲示(毎月)/つくばイベントカレンダーの案内掲載（毎月）/公園通りの図書館通信「ヨモッカ」(年2回発行・区会回覧・図書館窓口配布等)/こどもヨモッカ(年2回発行・各小学校中学年に配布等)/マスコミへの情報提供 ■調査・研究の支援 参考図書購入冊数：179冊/調査・研究質問件数：1,808件/研修会への参加/国立国会図書館デジタル配信サービスの利用開始（10月） ■施設維持管理 施設維持管理業務や改修工事、その他修繕についてはほぼ計画とおりに執行することができた。 ■地域交流センター図書室運営 リーダー会議の開催/中央図書館の在架資料のWEB予約開始：9,194件/図書資料の発注 4,681冊（昨年比 1,530冊増）/蔵書点検 					
成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ボランティア事業 多くのボランティアの方にご協力いただき、事業を実施できた ■交流センターとの連携 委託先要員の研修を実施したため、効率よく連携できた 		<ul style="list-style-type: none"> ■ボランティア 活動日重複のため会議室確保調整が課題 ■交流センターとの連携 委託業者と配送ルートの見直しや図書館情報システムを更新。中央図書館に遠い方の利便性向上のため、蔵書の少ない交流センターについて、中央図書館の在架の資料がWeb予約できるよう検討、H30年度開始 ■調査・研究しやすい環境整備 レファレンスコーナーで支援。相互貸借等を活用し利用者の要望にほぼ応えた。課題は、レファレンスコーナーの役割周知、研修時間に制約がある、司書の資格がある職員が不足している事 ■施設設備 年数が増すごとに老朽化の度合いを増してくるので、今後修繕箇所が増加してくると考えられる。優先順位をつけて計画的に適切に対応する必要がある 		<ul style="list-style-type: none"> ■ボランティアの支援 市民協働により、図書館サービスを充実させることができた。/活動日の重複により、活動するための作業室の確保、調整が必要である。また、新規登録者を増やしたい。/ボランティア間の連携強化のため、ボランティア連絡会の開催の検討が必要である。 ■広報活動 様々な手段で広報し、多くの人へ情報発信できた。/広報に努めているが図書館利用者以外への周知が難しく、情報発信力の更なる強化が必要である。 ■調査・研究の支援 利用者の調査研究の支援が行えた。/利用者にレファレンスサービスが浸透していないため、広報が必要である。また、通常業務繁忙により、レファレンスを受ける職員が十分な研修を受けられない。 ■施設維持管理 各修繕についてはほぼ計画通りに執行し、市民が安全で快適に使用できるよう適切な維持管理を行うことができた。/施設設備は老朽化が進んでおり、計画的な修繕が必要。特に蔵書の半数近くが所蔵されている電動書架に不具合が発生しているため、早急な対応が必要である。 ■地域交流センター図書室運営 希望の資料を手に取りやすい環境を整備し、地域交流センター図書室の利便性が向上した。/各交流センター図書室ごとに利用者の年齢層などが異なるための、細やかな選書。また、利用が増えている図書室の事務繁忙への対応。特に谷田部交流センター図書室の利用者が急増している 					
改善見直し			<ul style="list-style-type: none"> ■ボランティア活動を円滑に進めるため、図書館とボランティア/ボランティアグループ同士の連携を強化する ■修繕については、費用対効果を考えて進める 		<ul style="list-style-type: none"> ■ボランティア活動を円滑に進めるため、図書館とボランティア・ボランティアグループ同士の連携を強化する。/図書館ホームページの適切な更新を行うとともに、広報つくばをはじめとした各種媒体を通し、継続的な情報発信を行う。/資料の収集により、利用者の調査・研究の援助を行う。/利用者が安全に快適に使用できるよう維持管理し、費用対効果を考え修繕を進める。/オンラインで結ばれている4交流センター図書室の図書資料の収集に努め、蔵書増を目指す。 					

施策の柱	3	生涯学習関連施設の充実	市民が気軽に参加でき、発表できる場として、また、優れた文化芸術に触れる鑑賞機会の場として、市民ホール等の整備・活用を進めます。							
方向性	(3)	芸術・文化にふれあう施設の充実								
関連課	文化芸術課課	ノバホール、カピオの機能充実				14頁				
		市民ホールにおける公共施設予約システム導入の推進								
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<p>■ノバホール・カピオ 施設利用者の利便性等を図るため必要な改修工事等を実施する</p> <p>■市民ホール 予約システムの導入について検討する</p>		<p>■ノバホール・つくばカピオ 施設利用者の利便性等を図るため必要な改修工事等を実施する</p> <p>■市民ホール 予約システムの導入について検討する</p>		<p>■ノバホール・カピオ 施設機能の維持向上を図るため必要な改修及び修繕を実施する</p> <p>■市民ホール 引き続き市民ホールにおけ公共施設予約システムの導入について検討をする</p>		<p>■ノバホール・カピオ・市民ホール 施設機能の維持向上を図るため、必要な改修及び修繕を実施する。</p>			
実績	<p>■ノバホール 9月 調光器盤内関数発生器交換修繕 2月 舞台用内線電話修繕</p> <p>■つくばカピオ 2月 消防設備修繕、移動式バスケットゴール修繕 3月 冷温水ポンプ修繕</p> <p>■市民ホール 公共施設予約システムの導入について担当者会議等で検討を実施</p>		<p>■ノバホール 6月 トイレ改修工事（洋式化） 2月 舞台照明設備修繕 3月 空調機修繕</p> <p>■カピオ 10月 ホール舞台照明音響室排煙窓装置修繕 11月 監視カメラ及び放送設備改修</p> <p>■市民ホール 公共施設予約システムの導入について担当者会議等で検討を実施した</p>		<p>■ノバホール 6月 ピンスポット修繕 1月 小ホールピアノ修繕 3月 消防設備修繕</p> <p>■カピオ 5月 誘導灯修繕 7月 照明機器修繕</p> <p>1月 ホールマイク装置修繕</p> <p>■市民ホール 公共施設予約システムの導入について、担当者会議等で検討を実施</p>					
成果課題	<p>■ノバホール・カピオ 経年劣化等により不具合等が生じた箇所について修繕を実施することで、施設機能の維持を図ることができた</p> <p>■市民ホール 公共施設予約システムの導入について検討を行ったが、現行の予約システムは市民ホールの利用者になじまないため導入にはいたらなかった</p>		<p>■ノバホール・カピオ 経年劣化等により不具合等が生じた箇所について修繕を実施することで、施設機能の維持を図ることができた</p> <p>■市民ホール 公共施設予約システムの導入について検討を行ったが、現行の予約システムは市民ホールの利用者になじまないため導入にはいたらなかった</p>		<p>■ノバホール・カピオ 経年劣化等により不具合等が生じた箇所について、修繕を実施することで、施設機能の維持を図ることができた。</p> <p>■市民ホール 公共施設予約システムの導入について検討を行ったが、現行の予約システムは、市民ホールの利用者になじまないため導入にはいたらなかった。</p>					
改善見直し	—		—		—					

施策の柱	4	絆づくりと地域づくりに向けた学習機会の提供	「つくば市スポーツ推進計画」に基づき、各ライフステージに応じたスポーツプログラムの開発や情報提供を進めるとともに、市民の健康維持・増進に役立つ生涯学習機会を提供します。							
方向性	(1)	健康・スポーツ・レクリエーション活動の推進								
関連課	スポーツ推進課	スポーツ教室	教育施設課	学校開放事業						
	(国体推進課)	スポーツ教室								
	文化芸術課	ふれあいプラザ								
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<p>■スポーツ教室 公募や国体種目等（キックボクシング5回、アフロリズムダンス4回、アーチェリー教室6回、トレイルラン4回、太極拳8回、ゴルフ8回、バレーボール8回、子どもの水泳5回、大人のラート3回、子どものラート体験1回、合気道8回、子どものスキー2泊3日）</p> <p>■ふれあいプラザの活用 フィットネスプール・軽運動室を使った健康増進講座を実施する</p> <p>■学校施設開放 学校施設を定期的・継続的に使用する団体から、学校施設使用許可申請書を受け、学校教育に支障がない範囲で学校施設使用許可書を交付する</p>		<p>■スポーツ教室 企画公募や国体種目等（トレイルラン4回、アフロリズムダンス4回、スポーツ鬼ごっこ1回、ダンス&パフォーマンス4回、カポエイラ5回、体幹トレーニング4回、大友愛のバレーボール4回（小・中学生1回大人3回）、アーチェリー7回、大人のラート3回、子どものラート1回、子どものスキー 小学6年・2泊3日）</p> <p>■ふれあいプラザ</p> <p>■学校施設開放</p>		<p>■スポーツ教室 企画公募や国体種目等（トレイルラン4回/体幹トレーニング6回/ダンス&パフォーマンス4回（国体）/スポーツ鬼ごっこ2回（国体）/脳と身体のトレーニング4回（公募・新規）/ウエイトトレーニング4回（国体）/子どものラート1回、アーチェリー4回（国体）/リズムに合わせて心と身体のストレッチ3回/大友愛のバレーボール4回/ランニング4回/大人のラート3回/子どものスキー2泊3日）</p> <p>■ふれあいプラザ</p> <p>■学校施設開放</p>		<p>■スポーツ教室 企画公募や国体種目等（トレイルラン4回/体幹トレーニング6回/ストリートダンス4回（国体）/スポーツ鬼ごっこ2回（国体）/リズムトレーニング3回（公募・新規）/ウエイトトレーニング4回（国体）/子どものラート1回、アーチェリー3回（国体）/バレーボール4回/ランニング4回/大人のラート3回/子どものスキー2泊3日）</p> <p>■ふれあいプラザ フィットネスプール・軽運動室を使った健康増進講座を実施する</p> <p>■学校施設開放 学校施設を定期的・継続的に使用する団体から、学校施設使用許可申請書を受け、学校教育に支障がない範囲で学校施設使用許可書を交付する。</p>			
実績	<p>■スポーツ教室 事業計画通り、12種類の教室を実施。キックボクシングは好評だったことから、追加で第2回を実施</p> <p>■ふれあいプラザ 年間施設利用件数/人数 フィットネスプール13,216件/17,151名 軽運動室1,063件/7,216名</p> <p>■学校施設開放 4月代表者会議を開催（会議により調整が必要な団体との調整、申請に対し内容確認とデータ作成）、5月使用許可に併せ許可書の発行、12月本年度の追加受付終了、3月：4月に開催する代表者会議の通知発送</p>		<p>■スポーツ教室 事業計画通り、12種類の教室+ウエイトトレーニング教室とランニング教室を新たに開催。企画公募で採用した教室2つ（音楽に合わせて楽しくカポエイラ/体幹トレーニングで身体の使い方をマスターしよう）国体関係種目3つ（アーチェリー/スポーツ鬼ごっこ/ダンス&パフォーマンス）ランナーに愛されるまち関係2つ（トレイルラン/ランニング）</p> <p>■ふれあいプラザ 年間施設利用件数/人数 フィットネスプール13,700件/18,009名 軽運動室1,075件/6,606名 プール講座16（3,923名参加）</p> <p>■学校施設開放 4月代表者会議（会議により調整が必要な団体との調整、申請に対し内容確認とデータ作成）5月使用許可に併せ許可書の発行、12月本年度の追加受付終了、3月：4月に開催する代表者会議の通知発送</p>		<p>■スポーツ教室 13種類の教室を開催。（トレイルラン4回/体幹トレーニング6回/ストリートダンス4回（国体）/スポーツ鬼ごっこ2回（国体）/脳と身体のトレーニング4回（公募・新規）/ウエイトトレーニング4回（国体）/バラスポーツ体験会1回/子どものラート1回/アーチェリー4回（国体）/大友愛のバレーボール4回/ランニング4回/大人のラート3回/子どものスキー（2泊3日）/車いすバスケット2回）</p> <p>■ふれあいプラザ 年間施設利用件数/人数 フィットネスプール 11,895件/16,925名 軽運動室 1,182/6,604名 プール講座 9(3,004名参加)</p> <p>■学校施設開放 4月：代表者会議を開催、会議により調整が必要な団体との調整、申請に対し内容確認とデータ作成 5月：使用許可に併せ許可書の発行 3月：4月に開催する代表者会議の通知発送</p>					
成果課題	<p>■スポーツ教室 主に初心者向けの教室を実施することにより、市民にスポーツを始めるきっかけを提供できた。また、アフロリズムダンスについては、教室参加者によりクラブを作り今後も継続して続けていく動きがみられた。</p> <p>■学校施設開放 292団体登録・延活動団体数464団体</p>		<p>■スポーツ教室 当初の計画になかった、ウエイトトレーニング教室とランニング教室を新たに開催するなど、様々な種類のスポーツ教室を広く開催することにより、スポーツとふれあう機会を多く提供するとともに、スポーツをする習慣作りのきっかけとなった。教室の内容によっては、参加者数が少ない教室もある</p> <p>■ふれあいプラザ フィットネスプール時間割を、利用者にとってわかりやすいものとなるよう見直したことが、前年度からの利用者の増加につながった。来年度は再度見直し、さらなる利用者増を図る</p> <p>■学校施設開放 292団体登録・延活動団体数464団体</p>		<p>■スポーツ教室 当初の計画になかった、バラスポーツ体験会や車いすバスケット教室を新たに開催し、また、好評だった体幹トレーニング教室の第2回目を開催したことで、スポーツとふれあう機会を多く提供するとともに、障害者スポーツの普及を図ることができた。一方で、申込者が少なく中止になった「リズムに合わせて心と身体のストレッチ」のように、教室によっては参加者数が少ないものもある。</p> <p>■ふれあいプラザ フィットネスプール時間割を利用者にとってわかりやすくしている。前年度と比較して利用者は減となったが例年と比較して安定している。来年度は見直しを行い、利用者増を図る。</p> <p>■学校施設開放 活動団体数：292団体（延べ464団体）</p>					
改善見直し	—		<p>■スポーツ教室 参加者数が少ない教室もあるため、教室参加者のアンケートや他市町村・民間企業で開催している教室も参考にし、市民のニーズに合う教室を開催していく</p> <p>■ふれあいプラザ 引き続きフィットネスプール時間割の見直しを行う</p>		<p>■スポーツ教室 参加者数が少ない教室もあるため、教室参加者のアンケートや他市町村・民間企業で開催している教室も参考にし、市民のニーズに合う教室を開催していく。</p> <p>■ふれあいプラザ 引き続きフィットネスプール時間割の見直しを行う</p>					

施策の柱	4	絆づくりと地域づくりに向けた学習機会の提供	市民一人一人が身近に文化・芸術に接し、参加できる環境を整備するとともに、必要な人材の育成や情報提供の充実により文化芸術活動を推進します。							
方向性	(2)	文化芸術活動の推進								
関連課	文化芸術課	文化芸術活動の振興と鑑賞機会の充実				16頁				
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<ul style="list-style-type: none"> ■文化芸術事業 つくば市文化振興財団との共同主催の形式で市内の文化施設を利用し、音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルで実施する ■国際音楽事業 芸術性の高いクラシック公演に身近に感じてもらうため、良質なプログラムを厳選して開催する ■文化振興財団との協定締結 ■事業PR 集客のためお互いにきめ細やかに広範に行うとともに、インターネット予約の普及を図る ■チケット販売促進のため、特典制度等を実施する 		<ul style="list-style-type: none"> ■文化芸術事業 17事業（音楽4、演劇・芸能5、舞踏1、参加体験型5、美術2） ■国際音楽祭 5事業 		<ul style="list-style-type: none"> ■文化芸術事業 ■国際音楽事業 ■事業PRを広範に行い、インターネット予約を普及させ、入場率の向上を図る 		<ul style="list-style-type: none"> ■芸術文化事業 26事業 ・内訳（国際音楽祭5、音楽6、演劇・伝統芸能8、舞踊1、参加・体験型4、美術2） ・開催時期 5月～3月 			
実績	<p>全体入場率65%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■文化芸術事業 19事業実施（音楽5、演劇・芸能3、舞踏2、参加体験型7、美術2）14,007名来場 ■国際音楽祭 5事業2,387名入場 ■ノバホール 14事業11,308名入場 ■カピオ 7事業1,958名入場 ■その他会場 3事業3,120名入場 		<p>全体入場率74%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■文化芸術事業 16事業（音楽4、演劇2、舞踏2、演芸2、伝統芸能1、参加・体験型14、美術2） ■国際音楽祭 4事業3,000名入場 ■ノバホール 13事業11,701名入場 ■カピオ 4事業1,922名入場 ■その他会場 3事業1,212名入場 		<p>全体入場率 82%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■芸術文化事業 21事業（音楽5、演劇・朗読2、舞踊5、伝統芸能2、参加・体験型5、美術2）19,629名入場 ■国際音楽祭 5事業 4,188名入場 ・ノバホール開催 12事業 10,834名入場 ・カピオ開催 4事業 2,316名入場 ・その他会場開催 5事業 6,409名入場 					
成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ■文化芸術事業 国際的に著名なアーティスト等による音楽活動を行い、芸術文化と国際性の二面性を持つつくばらしさを浸透させた。チケットのインターネット販売を開始し、利便性の向上が図られた 		—		<p>国際的に著名なアーティスト等による音楽公演を行い、芸術文化と国際の二面性を持つ、つくばらしさを浸透させた。また、チケットのインターネット販売が認知されてきており、利便性の向上が図られた。</p>					
改善見直し	<ul style="list-style-type: none"> ■文化芸術事業 公演プログラムの選定にあたっては、限られた予算の中で多様な質の高い公演を紹介しなければならぬため、広報力を上げて情報を周知し、集客の向上を図る必要がある 		<ul style="list-style-type: none"> ■文化芸術活動 公演プログラムの選定にあたっては、限られた予算の中で多様な質の高い公演を紹介しなければならぬため、広報力を上げて情報を周知し、集客の向上を図る必要がある 		<p>多様な質の高い公演等を文化振興財団や市内の芸術文化団体等から情報を収集する。また、事業のPRを広範に行うとともに、インターネット予約を更に普及させ、入場率の向上を図る。</p>					

施策の柱	4	絆づくりと地域づくりに向けた学習機会の提供	文化財や伝統文化を市民に身近なものとして親しんでもらい、後世に引き継いでいけるよう、地域に残る文化財の保護や情報発信、活用などに取り組みます。							
方向性	(3)	文化財の保存と活用								
関連課	文化財課	各種文化財の保護、調査研究		専任人材の配置による広報や情報提供の充実		17頁				
		文化財展示施設・各種文化財の体系化								
		各種文化財・郷土史に関する講座の開設								
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<p>■文化財の保護、調査研究 10月～2月に小田城跡発掘調査</p> <p>■文化財展示施設・各種文化財の体系化 小田城跡歴史ひろばの開園準備、各文化財展示施設の展示内容の更新</p> <p>■講座 小田城跡確認調査の成果を公表する現地説明会、小田城跡歴史ひろばの開園に伴う企画展とシンポジウム等の開催。古文書講座の開催。各交流センター等からの講座依頼に対応する</p> <p>■広報 刊行図書を交流センター図書室・中央図書館へ配布</p>		<p>■各種文化財の保護、調査研究 11月～1月に小田城跡発掘調査。各種開発等に伴う試掘・確認調査や非営利目的での本発掘調査等</p> <p>■文化財展示施設・各種文化財の体系化 各施設の展示内容の更新や追加</p> <p>■講座の開設 小田城跡確認調査の成果を公表する現地説明会や、巡回企画展と講演会等を開催する。古文書講座の開催。各交流センター等からの講座依頼に対応する</p> <p>■広報</p>		<p>■各種文化財の保護、調査研究 10月～1月に小田城跡で発掘調査。</p> <p>■文化財展示施設・各種文化財の体系化 展示内容の更新</p> <p>■講座 小田城跡確認調査の成果を公表する現地説明会、巡回企画展と講演会等、古文書講座、各交流センター等からの講座依頼に対応する。</p>		<p>■各種文化財の保護、調査研究 小田城跡確認調査事業では、これまでの現地調査の基礎整理を実施。</p> <p>■文化財展示施設・各種文化財の体系化 展示内容の更新。</p> <p>■講座 巡回企画展と講演会、古文書講座等の開催、各交流センター等からの講座依頼に対応。</p>			
実績	<p>■文化財の保護、調査研究 11月～1月に史跡西側付近の曲輪V西側と周辺の堀跡を中心に228㎡で発掘調査を実施。開発に伴う調査は試掘・確認調査35件、本発掘調査が1件</p> <p>■文化財展示施設・各種文化財の体系化 4/1に小田城跡歴史ひろばを開園、谷田部郷土資料館で展示資料の追加・改善を実施</p> <p>■講座 小田城跡確認調査に伴う現地説明会214名、小田城跡歴史ひろば開園に伴う企画展1,108名・シンポジウム215名、歴史めぐりバスツアー48名。古文書講座は前・後期各8回開催し、47名が参加。公民館講座・出前講座6件</p> <p>■広報 刊行図書1冊を9館の交流センター図書室・中央図書館へ配布</p>		<p>■文化財の保護、調査研究 11月～1月に史跡西側の曲輪V中部とその周辺の292㎡で発掘調査を実施。開発に伴う調査は、試掘・確認調査が29件、本発掘調査が2件</p> <p>■文化財展示施設・各種文化財の体系化 小田城跡歴史ひろば案内所や、谷田部郷土資料館で展示資料の追加・改善を行った。</p> <p>■講座の開設 小田城跡確認調査に伴う現地説明会（102名）、巡回企画展「鎌倉時代の高僧忍性と三村山極楽寺」（2,358名）・講演会「小田氏と忍性」（216名）・史跡ウォーキング（13名）を開催した。古文書講座は前・後期各8回の講座を開催し、47名参加。公民館講座・出前講座17件</p> <p>■広報 刊行図書1種類13冊を中央図書館などの図書館分として配布</p>		<p>■文化財の保護、調査研究 11月～1月に史跡西側の曲輪V北西部ほかで393㎡で発掘調査を実施。</p> <p>■文化財展示施設・各種文化財の体系化 小田城跡歴史ひろば案内所や、谷田部郷土資料館で展示資料の追加・改善を実施。</p> <p>■講座の開設 小田城跡確認調査に伴う現地説明会（161名）、巡回企画展「小田氏治と戦国時代の城館」（2,769名）・講演会（295名）・体験発掘（6名）、古文書講座（前・後期各8回、55名）を開催のほか、公民館講座・出前講座（9件）に対応。</p>					
成果課題	<p>■文化財の保護、調査研究 小田城跡確認調査では、曲輪V西側の堀跡の規模や構造を把握でき、保存・整備・活用の計画作成に必要な基礎資料を得ることができた。開発等に伴う調査では、文化財の適切な保存ができ、西大橋塚山古墳の規模を把握するなど、その成果は市の歴史資料になった</p> <p>■展示 施設を更新し市民の見学環境の改善につながった。新たに開園した小田城跡歴史ひろばについて、多くの市民に認識してもらう機会となった</p> <p>■講座 市民に郷土の歴史や市内の文化財に興味・関心を持ってもらう場を提供できた</p> <p>■広報 文化財の問合せに対して、レファレンスサービスが充実している図書館や室において市の文化財関係刊行物の閲覧により情報を提供した</p>		<p>■各種文化財の保護、調査研究 小田城跡確認調査では、16世紀後半に曲輪Vが大規模に改修された様子を確認するなど、保存・整備・活用の計画作成に必要な基礎資料を得ることができた。開発等に伴う調査では、文化財の適切な保存ができ、上ノ室野中遺跡で方形周溝墓を確認する等、その成果は市の歴史資料になった</p> <p>■文化財展示施設・各種文化財の体系化 展示施設を更新することで、市民の見学環境の改善につながった</p> <p>■講座 忍性という人物とつくば市との関わりや、三村山極楽寺という大規模な寺院があったことを広く紹介することができた。各講座を開催・対応し、市民に郷土の歴史や市内の文化財に興味・関心を持ってもらう場を提供できたが、大幅に件数が増加し、繁忙期の説明依頼を断るケースも出るなど、本事業の対応に苦慮する場面もあった</p> <p>■出前講座について 義務的な業務である各種調査業務や施設等の維持管理業務が増加している中での、出張対応ということから、他業務の実施時期や時間配分等を見直し、効率良く実施する必要がある</p>		<p>■各種文化財の保護、調査研究 小田城跡確認調査では、保存・整備・活用の計画作成に必要な基礎資料を得ることができた。</p> <p>■文化財展示施設・各種文化財の体系化 展示施設を更新することで、市民の見学環境の改善につながった。</p> <p>■講座 小田氏治と小田城跡を中心に市内の戦国時代について広く紹介することができた。各講座を開催・対応し、市民に郷土の歴史や市内の文化財に興味・関心を持ってもらう場を提供できた。</p>					
改善見直し	—		—		—		—		—	

施策の柱	4	絆づくりと地域づくりに向けた学習機会の提供	一人一人の学習成果をお互いで共有することは、よりよい地域づくりにつながられます。また、防災にも役立つ絆づくりや地域づくりとなるよう、団体や自主サークル活動などの支援や学習・研修機会の提供を行います。							
方向性	(4)	絆づくり・地域づくりにつながる学習機会の提供								
関連課	人事課	市職員の市民参画に関する研修	都市計画課	まちづくりのアドバイザーやコンサルタントの派遣	教育総務課	人権教育				
	市民活動課	地区リーダー勉強会、市民活動団体登録	危機管理課	出前講座	(教育指導課)	人権教育				
	文化芸術課	地域コーディネーター講習会、地域デビュー講座	防犯・交通安全課	出前講座、交通安全教室	(生涯学習推進課)	出前講座、人権教育				
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<ul style="list-style-type: none"> 市職員の研修 主査級の職員に対して年1回 地区会リーダー勉強会/地域コーディネーター講習会 コミュニティ・自治会に関連した専門の講師を招いてのグループワークなど実践的な研修を中心にした講習会、先進事例の学習 市民活動団体登録 主体的な社会貢献活動を支援するため、中間支援施設の拠点となる市民活動センター（指定管理者制度）を活用して市民活動団体の登録を行う まちづくり専門家の派遣 まちづくり活動を行う団体に派遣 交通安全・防犯・防災活動 出前講座実施。交通安全教室開催。防犯パトロールの実施 人権教育 全体計画の作成、人権教育推進協議会の開催、教育講演会の開催、人権啓発ポスターの募集、講座の実施 		<ul style="list-style-type: none"> 市職員の研修 係長級及び主査級の職員に対して年1回 地区リーダー勉強会 区長対象に行う 地域コーディネーター講習会/地域デビュー講座 市民活動団体登録 登録を促しその情報をもとに相談業務を行う まちづくり専門家の派遣 交通安全・防犯・防災活動 人権教育 		<ul style="list-style-type: none"> 市職員の研修 主査及び主任級の職員に対して実施 地区リーダー勉強会 市民活動団体登録 登録を促しその情報をもとに相談業務を行う 地域まちづくり専門家の派遣 地域まちづくり団体5、地域まちづくり推進団体2 交通安全・防犯・防災活動 出前講座の実施。交通安全教室の開催。防犯パトロールの実施。マンション連絡会と共同で防災セミナーを開催する 人権教育 全体計画の作成、人権教育推進協議会の開催、教育講演会の開催、道徳の教科化に向け道徳研修講座を3回実施、人権啓発ポスターの募集、講座の実施 		<ul style="list-style-type: none"> 市職員の研修 主査及び主任級の職員に対して基本編の研修を実施し、係長級に対し応用編の研修を行う。 地区リーダー勉強会 ・テーマを決定し勉強会を開催 地域コーディネーター講習会の開催 地域デビュー講座の開催 地域まちづくり専門家の派遣 防災活動 防災、減災に関しての出前講座 交通安全活動 出前講座の実施。交通安全教室の開催。 人権教育 全体計画の作成。人権教育推進協議会の年2回開催。人権教育研修会や講演会への参加や、人権啓発ポスターの募集を通じて、人権教育の推進・啓発を図り、人権問題の正しい理解に努める。 			
実績	<ul style="list-style-type: none"> 市職員の研修 修了者30名 地区リーダー勉強会 45名参加 テーマ：住民に必要とされる自治会づくり 講師：大山自治会前会長 佐藤 良子氏 地域コーディネーター講習会 40名参加 市民活動団体登録 個人含む145団体登録 まちづくり専門家の派遣 アドバイザー派遣1回 交通安全・防犯・防災活動 出前講座19回、防災備蓄倉庫内容説明4回、自主防災組織結成説明回1回、防災啓発イベント1回、交通安全教室420回27,555名、自転車シュミレーター24回456名、車両広報26,350回、パトロール（金融機関8,479箇所/学校周辺8,260箇所/コンビニ11,983箇所/駐車場11,290箇所/その他3,190箇所） 人権教育 市内全校に全体計画を整備・人権啓発ポスターを要請し114点応募があり、市民文化祭で展示。協議会2回開催。講演会167名参加。家庭教育学級で78学級実施。交流センターで講座開催 		<ul style="list-style-type: none"> 市職員の研修 修了者66名 地区リーダー勉強会 29名参加 テーマ：地域の底力 講師：石岡市東の辻二部町内会長 佐藤信夫氏 地域コーディネーター講習会 59名参加 地域デビュー講座 50名参加 市民活動団体登録 個人を含む155団体登録。相談13件。マッチング11件 まちづくり専門家の派遣 推進団体に3回派遣 交通安全・防犯・防災活動 出前講座20回、防災備蓄倉庫内容等説明2回、防災啓発イベント1回、広報紙・防災マップ作成配布、シェイクアウト訓練、地区防災計画策定支援、交通安全教室400回25,787名、自転車シュミレーター60回566名、防犯についての車両広報25,723回、パトロール（金融機関7,725箇所/学校周辺9,002箇所/コンビニ12,882箇所/駐車場10,899箇所/その他3,017箇所） 人権教育 市内全校に全体計画を整備・人権啓発ポスターを要請し130点応募があり、市民文化祭で展示した。協議会2回開催。講演会へ参加。家庭教育学級で77学級実施。交流センターで講座開催 		<ul style="list-style-type: none"> 市職員の研修 修了者62名 地区リーダー勉強会 ・「ハートのコミュニケーション ～誰1人知り合いのいない茨城に来て～」参加者27名 地域活動ステップアップ講座 41名参加 地域デビュー講座 23名参加 地域まちづくり専門家の派遣 まちづくりグループへ3回派遣。まちづくり推進団体へ6回派遣 防災活動 出前講座28回、校防災備蓄倉庫内容等説明2回、シェイクアウト訓練44,983名参加、防災啓発イベント1回、市マンション連絡会と共同で防災セミナー1回、防災士フォーラム75名参加、自主防災組織結成説明会1回 交通安全活動 ・交通安全教室開催363回 24,743人 自転車シュミレーター教室開催33回 675人 交通キャンペーン実施（つくば中央署管内・北署管内）春2回、夏2回、秋1回（合同）、年末2回 人権教育 ・人権教育推進協議会の開催（年2回） 人権講演会への参加（つくば市教育研究会主催） 人権啓発ポスターの募集及び展示（総応募数114点。つくばカピオで開催された、つくば市民文化祭において全作品を展示した） 					
成果課題	<ul style="list-style-type: none"> 市職員の研修 理解度アンケートでは、4段階評価での平均値が3.63となり、研修の効果があったと考えられる 地区リーダー勉強会 役員の高齢化や加入率の低下など活動が困難な自治会が増えつつある中、魅力ある自治会づくりを進める参考となった 地域コーディネーター講習会 アンケートから講師・講演の内容とともに概ね満足という結果を得た まちづくり専門家の派遣 アドバイザーの助言により、活発な議論が行われ、内容が深まった 交通安全・防犯・防災活動 意識の向上・犯罪の予防・抑止効果が図れた 人権教育 教員に対しても適宜研修会を実施したことにより授業力の向上が見られた 		<ul style="list-style-type: none"> 市職員の研修 理解度アンケートでは、4段階評価での平均値が3.37となり、研修の効果があったと考えられる 地区リーダー勉強会 役員の高齢化や加入率の低下など活動が困難な区会が増えつつある中、県内の先進地事例や質疑応答にて区会の身近な課題等の解決の参考となった 地域コーディネーター講習会・地域デビュー講座 アンケートから講師・講演の内容とともに概ね満足という結果を得た 交通安全・防犯・防災活動 東日本大震災や竜巻災害直後は防災意識が高いが年月とともに低下していく。自治会単位で防災意識や活動状況に差があり、自助・共助の市内全域的な広がりにはなっていない。防犯パトロール活動の活性化により、犯罪の予防・抑止効果が図れた 人権教育 人権啓発ポスターを市民文化祭で展示することで、児童・生徒・来場者に対する人権の啓発、人権問題の正しい理解の浸透が図られた 		<ul style="list-style-type: none"> 市職員の研修 理解度アンケートでは、4段階評価での平均値が3.57となり、研修の効果があったと考えられる 地区リーダー勉強会 ・地域のリーダーである市区会連合会役員を対象に開催し、区会の重要性を再確認できた。 地域活動ステップアップ講座・地域デビュー講座 アンケートの結果から、講師・講演の内容について、満足という結果を得た。 地域まちづくり専門家の派遣により、勉強会の議論を深めることができた。 防災活動 防災・減災の意識向上、防災士の養成が図られた。 交通安全活動 各年齢層に即した教室を開催し、交通安全意識の向上が図れた。交通安全キャンペーンを通じて、市民等への交通安全の周知・啓発が行えた。 人権教育 人権講演会への参加や、人権啓発ポスターの募集を通じて、人権教育の推進・啓発を図り、人権問題の正しい理解を深めることができた。 					
改善見直し	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動団体登録 市民協働の推進を図るため登録を促し、その情報をもとに相談業務を行う 		<ul style="list-style-type: none"> 市職員の研修 H30は対象職員を主任級まで拡大する 地区リーダー勉強会 役員区長が興味のある事例を検討し参加者増に努める 市民活動団体登録 マッチングの多様化に備え相談業務の強化に努める まちづくりの専門家の派遣 年度当初よりも登録グループが増え派遣回数が増えた 		<ul style="list-style-type: none"> 市職員の研修 係長級を対象に、応用編の研修を行う。 防災活動 シェイクアウト訓練について民間企業でも実施していただけるよう企業訪問などしながら周知していく。 					

施策の柱	5	生涯学習推進体制の強化	すべての市民の学習権を保障するため、「生涯学習推進本部」を中心に、全庁的な連携・協力のもと生涯学習を推進します。							
方向性	(1)	全庁的な連携・協力体制								
関連課	生涯学習推進課	生涯学習推進本部の開催				19頁				
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	年1回、推進本部を開催し、進行管理にあたって事業の進捗を評価する。平成31年度に生涯学習に係る市民意識調査を予定		年1回、推進本部会議を開催し、第2次生涯学習推進基本計画の進捗状況の点検・評価を行い、計画に沿った事業の推進を図る		年度前半に、前年度の進捗状況の評価を行い、推進本部を開催して、計画に沿った事業が推進されているかを確認する		上半期及び下半期に、それぞれ1回、推進本部会議を開催し、計画の進捗状況の確認とともに（仮称）第3次生涯学習推進計画策定に向けて、市民意識調査や計画の骨子等について協議を行う。			
実績	第2次つくば市生涯学習推進基本計画をスタート本部会議10/14実施		12/22に推進本部会議を開催し、計画の平成28年度の進捗状況を確認した		6/5に推進本部会議を開催し、平成29年度の進捗状況について確認した。					
成果課題	—		開催日が年度の後半になってしまった		推進本部会議での意見を受け、91事業から73事業に整理し、より社会力を高める事業に重点をおくことができた。					
改善見直し	—		年度前半に、前年度の進捗状況の評価を行い、推進本部を開催して、計画に沿った事業が推進されているかを確認する		—					

施策の柱	5	生涯学習推進体制の強化	生涯学習は、社会教育といった教育による学習のみならず、市民一人一人の自己学習にいたるまで、生涯の各期における学習を生活全域にわたって継続して行う行為です。このことから、社会教育委員からの助言や指導はもとより、様々な組織、団体とのネットワークを構築しながら生涯学習を推進します。			
方向性	(2)	多様な主体とのネットワーク行政の推進				

関連課	生涯学習推進課	社会教育委員会議、市民の会、市子連、人間学講座	市民活動課	アイラブつくばまちづくり補助金		
	中央図書館	図書館協議会	こども政策課	市内の子育て団体・サークルの活動支援		
	スポーツ推進課	体育協会、スポーツ推進委員	文化芸術課	文化協会、文化振興財団		

20頁

年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画	<p>■社会教育委員会議 年2回以上 ■図書館協議会 年3回</p> <p>■青少年を育てるつくば市民の会（市民の会）、つくば市子ども会育成連合会（市子連） 補助金交付</p> <p>■つくば市体育協会（体協） 補助金交付、体育施設使用料の減免</p> <p>■スポーツ推進委員 市主催事業への協力</p> <p>■文化協会 H27年度に地域の支部を廃止し、活動分野ごとの組織へ改編した。指導・助言等を行い軌道に乗せる。芸術展/芸能祭の実施</p> <p>■文化振興財団 専門職員育成支援/国際音楽祭事業/芸術文化事業/美術展事業等への補助金交付</p> <p>■アイラブつくばまちづくり補助金（アイラブ） 補助金交付（申請事業を年3回審査・決定）</p> <p>■子育て団体等の支援 協働事業の実施</p> <p>■つくば人間学講座 つくば市民で構成される団体と協働で実施</p>	<p>■社会教育委員会議 年2回以上 ■図書館協議会 年3回</p> <p>■市民の会、市子連 補助金交付</p> <p>■体協 補助金交付、体育施設使用料の減免</p> <p>■スポーツ推進委員 市主催事業への協力</p> <p>■文化協会 指導や助言等で支援する。芸術展/芸能祭。入会促進のための広報</p> <p>■文化振興財団 専門職員育成支援/国際音楽祭事業/芸術文化事業/美術展事業等への補助金交付</p> <p>■アイラブ 補助金交付（申請事業を年3回審査・決定）9月下旬表彰式・フォーラム</p> <p>■市民活動団体・区会・市民活動イベント等のSNS（フェイスブック）掲載</p> <p>■市内の子育て団体・サークルの活動支援 大穂地区子育て応援「くすのき会」の活動を協働事業により支援。他地域への拡大を検討</p> <p>■人間学講座 4回開催</p>	<p>■社会教育委員会議 年2回以上。委員の改選</p> <p>■図書館協議会 年3回程度。「つくば市民参加推進に関する指針」に基づき委員を選任</p> <p>■市民の会、市子連</p> <p>■体協 ■スポーツ推進委員</p> <p>■文化協会 特に広報を強化</p> <p>■文化振興財団 専門職員育成支援</p> <p>■アイラブ 補助金交付（申請事業を年3回審査・決定）9月下旬に表彰式・フォーラム</p> <p>■SNS市民活動団体・区会・市民活動イベント等の取材、情報発信</p> <p>■市内の子育て団体・サークルの活動支援 情報提供や交流声援 地域主体で子育てしやすいまちづくりの活動をコミュニティ団体との協働事業により支援</p> <p>■人間学講座 4回開催</p>	<p>■社会教育委員会議 年2回以上 ■青少年を育てるつくば市民の会 本部、4支部（大穂・桜・豊里・荳崎）に補助金交付、6月 総会、7月 あいさつ・声かけ運動（つくば駅）、11月「家庭の日」絵画・ポスターコンクール展示会、あいさつ・声かけ運動（つくば駅）、「子どもを守る110番の家」推進事業</p> <p>■つくば市子ども会育成連合会 本部、4支部（大穂、桜、豊里）に補助金交付 ■つくば人間学講座 つくば人間学講座実行委員会と市が協働して開催する。年4回開催予定（7月、9月、10月、1月）</p> <p>■図書館協議会 つくば市図書館協議会の開催(年3回程度) ■体協 補助金交付、体育施設使用料の減免</p> <p>■スポーツ推進委員 市主催事業への協力 ■文化協会 補助金交付。歌謡祭・芸術展・芸能祭等の実施。庁舎1階で1か月ごとに、文化団体の作品展示を実施。 ■文化振興財団 補助金交付及び市職員派遣。様々な分野の芸術文化事業を実施。 ■アイラブつくばまちづくり補助金の実施</p> <p>■SNS SNSを活用し、市民活動団体・区会・市民活動イベント等の取材、情報発信を行う。</p> <p>■子育て団体・サークルの活動支援 地域主体による子育てしやすいまちづくりの活動をコミュニティ団体との協働事業により支援。子育て関係サークルの情報提供や活動支援。</p>	
実績	<p>■社会教育委員会議8,11月 ■図書館協議会7,11,3月</p> <p>■市民の会 本部・豊里・大穂・谷田部・荳崎へ補助金交付</p> <p>■市子連 本部・桜・大穂・豊里支部へ補助金交付</p> <p>■体協 計画通り実施</p> <p>■スポーツ推進委員 ウォークラリー大会、スポーツフェスティバル、つくばマラソン、健康マラソン</p> <p>■文化協会 補助金交付。加盟者数538名。芸術展や芸能祭等の実施（5回）。庁舎1Fで1か月ごとに文化団体の作品展示</p> <p>■文化振興財団 補助金交付。市職員派遣。各種事業の実施</p> <p>■アイラブ 年3回の審査で26事業を採択</p> <p>■子育て団体等の支援 くすのき会：あいさつ・声かけ運動/くすのきだより発行/フォーラム開催/小中学生交流会・絵画展開催。ほか団体とも協働事業</p> <p>■人間学講座 4回開催315名参加</p>	<p>■社会教育委員会議8,3月 ■図書館協議会7,12,3月</p> <p>■市民の会 本部・豊里・大穂・谷田部・荳崎へ補助金交付</p> <p>■市子連 本部・桜・大穂・豊里支部へ補助金交付</p> <p>■体協 計画通り実施</p> <p>■スポーツ推進委員 ウォークラリー大会、スポーツフェスティバル、つくばマラソン、健康マラソン</p> <p>■文化協会 補助金要綱を改正し、補助対象経費の2分の1から3分の2に変更。加盟者数562名。芸術展・芸能祭（7回）、庁舎1Fで1か月ごとに文化団体の作品展示</p> <p>■文化振興財団 補助金交付。市職員派遣</p> <p>■アイラブ 3回の審査を行い30事業を採択</p> <p>■SNS 72回の取材（団体33回/イベント27回/区会12回）、230回投稿。筑波大学との連携でSNS（フェイスブック）運営会議を4回開催</p> <p>■市内の子育て団体・サークルの活動支援 くすのき会：あいさつ・声かけ運動/くすのきだより発行/フォーラム開催/小中学生交流会・絵画展開催。他団体とも協働事業</p> <p>■人間学講座 4回開催344名</p>	<p>■社会教育委員会議 8,3月開催 ■青少年を育てるつくば市民の会 本部・豊里・大穂・谷田部・荳崎へ補助金交付 ■つくば市子ども会育成連合会 本部・桜・大穂・豊里支部へ補助金交付 ■人間学講座 4回開催 受講者総数298人 ■図書館協議会 任期満了に伴い、新たな委員11名を選任した。（うち公募委員3名） 8、1月開催 ■体協 計画通り実施</p> <p>■スポーツ推進委員 ウォークラリー大会、スポーツフェスティバル、つくばマラソン、健康マラソン</p> <p>■アイラブ 参加者数72名、実践団体証29団体交付</p> <p>庁内各課等が市民団体等と連携・協働を図りながら、事業を実施した。 ■SNS 団体取材50回、イベント取材12回、区会取材8回、計70回の取材を行い、245回の投稿を行った。・筑波大学との連携によるフェイスブックの運営会議を3回開催 ■文化協会 補助金交付。加盟団体：46団体 596名。歌謡祭・芸術展・芸能祭等（11事業）を開催。庁舎1階で1か月ごとに、文化団体の作品展示を実施。 ■文化振興財団 補助金交付及び市職員派遣。様々な分野の芸術文化事業を実施。 ■子育て支援団体・サークルの活動支援</p> <p>くすのき会が実施する「あいさつ・声かけ運動、くすのきだよりの発行、くすのきフォーラムの開催、小中学生交流会・絵画展の開催等」の地域活動を支援。他2団体の市民活動事業を支援した。子育て総合支援センターにおいて、子育て家庭に子育てサークル等の情報提供及び子育てサークルの活動に対し支援を行った。</p>		
成果課題	<p>■体協 連携して市民のスポーツ・レクリエーション活動を促進したことにより、市民の健康の増進や活力あるまちづくりに寄与できた。</p> <p>■文化協会 文化振興財団と協力し加入者の費用負担を軽減</p> <p>■文化振興財団 自助努力が芽生え創意工夫運営されている</p> <p>■アイラブ 市民団体による公益事業を行うまちづくり活動を資金面から支援し、関係する市担当部署が協力して事業を実施ことで、市民活動団体と行政との連携が深まった</p> <p>■くすのき会 あいさつ・声かけ運動や交流会等の様々な活動を通して、小学生と中学生、地域の方々、学校の枠を越えた保護者の交流、団体間の交流などが図れ「子育て支援」を核に地域をつなぐことの一助となった</p>	<p>■図書館協議会 図書館事業の報告をし意見を受け、今後の図書館運営に反映させる。H30年度委員の改選があり、市民公募等協議が必要</p> <p>■体協 連携し市民のスポーツ・レクリエーション活動を促進したことにより、市民の健康の増進や活力あるまちづくりに寄与できた。自立して安定した組織運営を図るため、情報収集を行いながら方向性を検討する</p> <p>■文化協会 組織を活動分野ごとに再編し、団体間の交流が活発に行われた。主催事業が増え、市民との交流も促進された</p> <p>■SNS 市民活動イベントを中心に取材し、情報発信をすることで数多くの市民活動団体を紹介することができた。</p> <p>■子育て支援団体 市民による子育て支援を推進することができた。課題は、子育て総合支援センターを中心とした子育て支援ネットワークの構築が必要なことである</p> <p>■くすのきフォーラムでは、参加者も年々増加し地域の方が集まる場として定着し、地域主体で子育てしやすいまちづくりを推進できた。課題としては、他の地域でも同様な地域特性に応じたコミュニティ活動の普及が望まれるが、自発的な活動であることが必要である</p>	<p>■青少年を育てるつくば市民の会総会後に、PTA・子ども会育成連合会・つくば市PTA連絡協議会の三者で会議を実施したことで、連携を密にし、相互理解を深めることができた。 ■人間学講座 企画から実施まで、市民（実行委員会）が主体となって事業を実施することで、市民のニーズを反映した講座を用意することができ、市民の生涯学習の推進及び協働を図ることができた。 ■図書館協議会 報告内容について委員から、今後の図書館運営に資する意見を受けた。/交流センター 図書館の現状について協議会委員の認識を新たにし、運営等に対する意見を受けた。 ■体協 連携し市民のスポーツ・レクリエーション活動を促進したことにより、市民の健康の増進や活力あるまちづくりに寄与できた。自立して安定した組織運営を図るため、情報収集を行いながら方向性を検討する ■スポーツ推進委員 連携し市民のスポーツ・レクリエーション活動を促進したことにより、市民の健康の増進や活力あるまちづくりに寄与できた。 ■文化協会 団体間の交流が活発に行われ、文化協会主催事業が増加し、文化活動の活性化につながった。 ■文化振興財団 自助努力で、創意工夫のもとに事業運営が図られた。 ■アイラブ 市民団体による公益事業を行うまちづくり活動を資金面から支援し、関係する市担当部署が協力して事業を実施することで、市民活動団体と行政との連携が深まった。 ■くすのきフォーラムでは、参加者も年々増加し地域の方が集まる場として定着し、地域主体で子育てしやすいまちづくりを推進できた。他の地域へも同様な活動が自然な形で普及していくことが望ましいと考えるが、行政の関わり、支援のあり方については、検討していく必要がある。</p> <p>■子育てサークル等の活動内容を子育て家庭に情報提供するとともに、活動を支援することによって、市民による子育て支援を推進することができた。子育て総合支援センターが連携交流の拠点となるよう、事業内容の強化を図っていく。</p>		
改善見直し	<p>■文化振興財団 文化芸術の振興・文化施設の管理に特化した組織として今後は専門性を有し安定した財政運営を目指していくための強い組織力が求められる</p>	<p>■文化協会 来場者数の向上を目指す。H30年度より補助金の上限の増額・補助対象経費の割合の変更を行い、金銭的な負担を軽減する。会員の減少や高齢化が進んでいるため、入会促進の広報を強化する</p> <p>■アイラブ 活動間もない団体の申請が増えてきたので、活動支援だけでなく事後の書類作成の補助など側面的サポートをしていく必要がある</p>	<p>■青少年を育てるつくば市民の会及びつくば市子ども会育成連合会 社会教育指導員やつくば市PTA連絡協議会等の関係団体と協議を更に行い、つくば市子ども会育成連合会の加入促進及び支援を図る。</p>		

施策の柱	5	生涯学習推進体制の強化	つくば市は、多くの研究者・学生が世界中から集まり、様々な分野の専門家が活動しています。また、世界に開かれた国際都市であるとともに、筑波山をはじめとした豊かな自然環境にも恵まれ、つくば特有のライフスタイルを守り育てる活動も盛んです。市内にある研究機関、大学、外国人、専門家、豊かな自然、意識の高い市民など、つくばの持つ特色や資源を活かした生涯学習を推進します。					
方向性	(3)	つくばの特性を生かした生涯学習の推進						
関連課	広報戦略課	交流サロン	科学技術振興課	イノベーションキャンパスinつくば	科学技術振興課	つくば科学教育マイスター認定	21頁	
	教育指導課	科学フェスティバル	科学技術振興課	イノベーションワールドフェスタ				
	科学技術振興課	G7関係、大学・研究機関紹介展示	科学技術振興課	科学の甲子園ジュニア全国大会				
年度	28年度	B	29年度	0	30年度	元年度	科学教育マイスターの認定を	2年度
計画	<p>■交流サロン 科学のまちの魅力発信につながるよう、研究機関等と協議を行い、セミナー、展示会等を開催する。市民や来訪者が気軽に集まり交流できる場所を創出する</p> <p>■G7茨城・つくば科学技術大臣会合特別展つくば国際戦略総合特区紹介ブースの設置(5/18-21)</p> <p>■イノベーションキャンパスinつくば(8/18-20)</p> <p>■庁舎での大学・研究機関紹介展示</p> <p>■科学フェスティバル 11/12～11/13の2日間開催、来場予定者数は延約17,000名</p>		<p>■交流サロン 研究機関や大学等と協力し、交流サロンで、セミナー、展示会等を開催する。市民や来訪者が気軽に集まり、交流できる場所を創出する</p> <p>■つくば国際戦略総合特区プロジェクト成果発表会 11/7</p> <p>■イノベーションワールドフェスタ2017 6/3</p> <p>■イノベーションキャンパスinつくば2017 8/9-11</p> <p>■科学の甲子園ジュニア全国大会 12/1-3</p> <p>■通年庁舎での大学・研究機関紹介展</p> <p>■つくば科学教育マイスター認定</p> <p>■科学フェスティバル(サイエンスコラボ) 11/18～11/19の2日間開催。来場予定者数延約12,000名</p>		<p>■交流サロン 大学や研究機関と連携して、つくばの魅力をいかした、つくばらしいイベントを実施する</p> <p>■科学教育マイスター認定</p> <p>■科学フェスティバル</p> <p>11/10～11/11の2日間開催、来場予定者数延約12,000名</p>		<p>■交流サロン 体験型の催事を始め、様々な催事を数多く開催し、参加者、来館者を増加させ、センター地区の賑わい創出を図っていく。</p> <p>■科学フェスティバル 11/16～11/17の2日間開催、来場予定者数は延約14,000人</p> <p>■科学教育マイスターによる科学教室 11/16(土)、17(日)開催の科学フェスティバルに引き続き参加する。</p> <p>・今年度新たに1名、科学教育マイスターの認定を目標とし、「科学教育マイスター」の周知に努める。</p> <p>■体験型科学教育促進事業 体験型科学教育イベントの開催・学校教育への導入に向けた事業プログラム立案、試行及びプログラム成案の作成。・科学教育リソース情報の整理、集約及びポータルサイト化を目指す。</p> <p>■サイエンスカフェの実施 農研機構との共催のサイエンスカフェを引き続き実施する。</p>	
実績	<p>■交流サロン 来館者数29,379名(選挙除く) 催事回数182回5,383名参加、展示21回236日、つくば市及び筑波研究学園都市の情報を発信、市民や庁内各部署・大学・研究機関と連携してセミナー等を開催</p> <p>■G7ブース 延来場者数1,736名</p> <p>■イノベーションキャンパスinつくば 第1部参加者454名、第2部参加者97名</p> <p>■庁舎での大学・研究機関紹介展示 8件(物産研、高工ネ研、農研機構、理研、国土地理院、産総研、国総研、常設展紹介)</p> <p>■科学フェスティバル 53団体参加。予定通りの2日間で開催。延べ来場者数約17,000名</p>		<p>■交流サロン 来館者数39,106名(選挙除く) 催事回数199回11,275名参加、展示32回296日、つくば市及び筑波研究学園都市の様々な情報を発信、市民や庁内各部署・大学・研究機関と連携してセミナー等開催</p> <p>■つくば国際戦略総合特区プロジェクト成果発表会 142名来場</p> <p>■イノベーションワールドフェスタ2017開催 公式来場者数3,800名</p> <p>■イノベーションキャンパスinつくば2017開催 第1部参加者633名、第2部参加者156名</p> <p>■つくばサイエンスコラボにてつくば科学教育マイスターコート授与式・スタンブラリー実施</p> <p>■第5回科学の甲子園ジュニア全国大会実施</p> <p>■庁舎での大学・研究機関紹介展示 1件</p> <p>■科学教育マイスター 2名認定</p> <p>■科学フェスティバル 53団体参加。予定通りの2日間で延べ来場者数約12,000名</p>		<p>■交流サロン 来館者数41,478名(選挙除く)、催事回数201回(参加者人数12,272人)、展示22回(237日)、ちびっ子博士指定見学施設に登録(参加者4,333人)</p> <p>■科学フェスティバル 53団体参加。予定どおりの2日間で延べ来場者数約14,000名</p> <p>■科学教育マイスターによる科学教室 11月10日(土)、11日(日)に開催された科学フェスティバルで、科学教育マイスター(6名)が科学教室を実施。</p> <p>■体験型科学教育促進事業 青少年、親子を対象に、研究学園都市に集積する最先端の科学技術を素材に、研究者とともに体験的に学習する場を構築し、つくばでしかできない「STEAM(Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics)教育」を提供。</p> <p>■サイエンスカフェの実施</p> <p>1) 農研機構との共催で、平成30年10月から毎月第2土曜日10:00-11:30、市内交流センターや市役所、食と農の科学館で実施。各回約20～30名参加。</p> <p>2) 「子育て×サイエンスカフェ 人の知恵と人口知能で作る子どもの安全」・3/24(日)10:30-12:00 36名参加。</p>			
成果課題	<p>■交流サロン 他部署との連携により、夏休みに親子で参加する科学実験工作イベントの開催や、出前講座などの催事開催を充実させ、来館者を増やした。大学や研究機関と連携し魅力的な催事開催ができた</p> <p>■G7ブース 最先端の科学技術をいかした特区プロジェクトを紹介することにより、市民が最先端の科学技術を学ぶ機会を提供できた</p> <p>■科学フェスティバル 来場者が、各出展ブースの企画に触れ、体験型イベントとして科学への興味や関心を高めることができた。来場者アンケートでも96%の方が楽しかったと回答</p>		<p>■交流サロン 大学や研究機関等と連携し、夏休みに親子で参加する科学実験工作イベントの開催や、出前講座などの催事を充実させた</p> <p>■つくば市国際戦略総合特区プロジェクト成果発表会 最先端の科学技術をいかした特区プロジェクトを紹介することにより、市民が最先端の科学技術を学ぶ機会を提供することができた</p> <p>■イノベーションキャンパスinつくば 前年度よりも多くの参加者を得ることができた</p> <p>■つくばサイエンスコラボ内で科学教育マイスター関連事業を新規実施</p> <p>■科学フェスティバル 来場者が各出展ブースの企画に触れ、体験型イベントとして科学への興味や関心を高めることができた。来場者アンケートでも95%の方が楽しかったと回答</p>		<p>■交流サロン 多くの催事や展示を行い、科学分野だけでなく、スタートアップなど、様々な市の魅力を発信することができた。</p> <p>■科学フェスティバル 来場者が各出展ブースの企画に触れ、体験型イベントとして科学への興味や関心を高めることができた。来場者アンケートでも全体の95%の方が、楽しかったと回答。</p> <p>■科学教育マイスターによる科学教室</p> <p>マイスターの講座はどれも楽しく子どもたちに興味を持って貰えたと思うが、「科学教育マイスター」が普及できたかという疑問。制度の周知方法の見直しが必要。</p> <p>■体験型科学教育促進事業</p> <p>参加者からの評価は概ね良かったが、「STEAMのうち、A(プロトタイプ作り)は実践されていたが、STEMの要素があまりふみこめていなかった」という意見もあった。</p> <p>■サイエンスカフェの実施</p> <p>1) 農研機構のサイエンスカフェ 毎回会場を変えているため人の集まりにばらつきがある。会場を固定して開催した方が良いか、ばらつきはあっても各地域の人に参加してもらおう方が良いか検討が必要。</p> <p>2) 研究者を招いてのサイエンスカフェは、単発の事業となるため、次に繋がるようなイベントになるような工夫が必要。</p>			
改善見直し	—		<p>■成果発表会 プロジェクト毎に進捗状況や効果的な開催方法が異なるため、ターゲットの要望に合わせて、講座等の実施方法を検討する必要がある</p> <p>■イノベーションワールドフェスタ 次年度は都内開催</p> <p>■イノベーションキャンパスinつくば 次年度以降の実施が見送りとなったため、新規事業の実施を準備中</p>		<p>■交流サロン 交流スペースのさらなる活用促進に向けて、Wi-Fiの利用環境を整えるなど、利用者の利便性向上に向けた検討が必要である。</p> <p>■科学教育マイスターによる科学教室・科学教育マイスター制度の周知も合わせて行う。</p> <p>■体験型科学教育促進事業 継続的な学びに繋げるため、学校教育への拡大が必要。</p> <p>■サイエンスカフェの実施 市内研究機関が独自に実施しているサイエンスカフェの広報も行い、情報を集約できるようにする必要がある。</p>			

施策の柱	5	生涯学習推進体制の強化	つくば市は、多くの研究者・学生が世界中から集まり、様々な分野の専門家が活動しています。また、世界に開かれた国際都市であるとともに、筑波山をはじめとした豊かな自然環境にも恵まれ、つくば特有のライフスタイルを守り育む活動も盛んです。市内にある研究機関、大学、外国人、専門家、豊かな自然、意識の高い市民など、つくばの持つ特色や資源を活かした生涯学習を推進します。							
方向性	(3)	つくばの特性を生かした生涯学習の推進								
関連課	農業政策課	農業体験	環境政策課	桜川稚魚放流及び魚釣り体験事業	生涯学習推進課	サイエンスラボ				
	観光推進課	フォレストアドベンチャー、筑波山ビジターセンター、梅まつり	環境政策課	筑波山自然環境教育事業						
	ジオパーク室	筑波山地域ジオパーク	環境政策課	エコ・クッキング事業						
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<ul style="list-style-type: none"> ■農業体験 6回 ■フォレストアドベンチャー・つくば モバイルフォレストアドベンチャーを設置し「つくばフェスティバル2016」をはじめ各種イベントでPR ■筑波山ビジターセンター 筑波山観光案内所にて開設/筑波山自然情報の提供、展示、ガイド等 ■第44回筑波山梅まつり 筑波山梅林にて開催/筑波山梅林の案内、各種周遊バス、イベント等 ■ジオパーク 市民説明会、講座、筑ジオカフェ、ジオパーク講演会、3部会（教育・学術、市民活動、地域振興）、ジオツアー ■桜川稚魚放流及び魚釣り体験事業 茨城県水面行楽協同組合連合会、桜川漁業協同組合との連携事業。桜川流域9小学校で実施予定 ■筑波山自然環境教育事業 参加予定100名 ■エコ・クッキング事業（調理実習） 東京ガスとの連携事業。参加予定児童900名 ■サイエンスラボ 5コース実施 		<ul style="list-style-type: none"> ■農業体験 6回 ■フォレストアドベンチャー・つくば ■筑波山ビジターセンター 筑波山ケーブルカー山頂駅にて開設/筑波山自然情報の提供、展示、ガイド等 ■第45回筑波山梅まつり ■ジオパーク ■桜川稚魚放流及び魚釣り体験事業 ■筑波山自然環境教育事業 ■エコ・クッキング事業（調理実習と座学 ■サイエンスラボ 4コースで大学・自然体験や環境学習を取り入れる 		<ul style="list-style-type: none"> ■農業体験 6回 ■フォレストアドベンチャー・つくば ■筑波山ビジターセンタ ■ジオパーク 通常事業のほか、日本ジオパーク関東大会in筑波山地域ジオパーク開催 ■桜川稚魚放流事業 桜川流域4小学校 ■筑波山自然環境教育事業 参加予定100名 ■エコ・クッキング事業（調理実習と座学15回） 参加予定児童600名 ■サイエンスラボ つくばの特性を生かした生涯学習の推進ができるよう取り組む 		<ul style="list-style-type: none"> ■農業体験 6回 ■フォレストアドベンチャー・つくば モバイルフォレストアドベンチャーを設置し「つくばフェスティバル2019」でPRを実施する ■第47回筑波山梅まつり ■筑波山ネイチャーガイドツアー 秋の行楽シーズンに筑波山ケーブルカー山頂駅で開催。 ■ジオパーク室 通常業務のほか、拠点施設及びサテライト施設整備方針検討。 ■桜川稚魚放流事業 桜川流域4小学校 ■筑波山自然環境教育事業 100名 ■エコ・クッキング事業(調理実習と座学) 450名 ■サイエンスラボ つくばの持つ特色や資源を活かした生涯学習を推進するため、科学実験教室、自然体験ができる内容を計画。 			
実績	<ul style="list-style-type: none"> ■農業体験 4回207名参加 ■フォレストアドベンチャー・つくば 年度利用者数12,676名 ■筑波山ビジターセンター 11/3（木・祝）～11/13（日）2,823名来場 ■梅まつり 2/25（土）～3/20（月・祝）150,000名来場 ■ジオパーク 市民説明会（21回）、公民館講座（23回）、筑ジオカフェ（16回）、講演会・企画展（14回）、部会（14回）、ジオツアー（34回） ■桜川稚魚放流事業 8小学校 ■筑波山自然環境教育事業 126名 ■エコ・クッキング事業 435名 ■サイエンスラボ 合計177名参加 A：つくばエキスポセンター36名、B：ロボットと学ぼうエコとエネルギー38名、C：地図と測量の科学館学芸館見・学実験教室「昆虫の感覚と行動の不思議」34名、D：つくば宇宙センター見学34名、E：食と農の科学館、地質標本館35名 		<ul style="list-style-type: none"> ■農業体験 8回285名参加 ■フォレストアドベンチャー・つくば 年度利用者数16,178名 ■筑波山ビジターセンター 4/15（土）～4/23（日）1,049名来場、野外解説参加者数1,008名 ■梅まつり 2/14（水）～3/21（水・祝）170,000名来場 ■ジオパーク 市民説明会（17回）、公民館講座（69回）、筑ジオカフェ（11回）、講演会・企画展（15回）、部会（18回）、ジオツアー（54回）、ジオガイド養成講座 ■桜川稚魚放流事業 9小学校 ■筑波山自然環境教育事業 129名 ■エコ・クッキング事業 625名 ■サイエンスラボ 合計112名参加 Aコース：野菜収穫体験・ピザ作り、19組親子参加 Bコース：小田城歴史広場、応募62人、参加33人 Cコース：筑波山登山、応募84人、参加41人 		<ul style="list-style-type: none"> ■農業体験 8回205名参加 ■フォレストアドベンチャー・つくば 年度利用者数14,217名 ■梅まつり 2/16（土）～3/21（祝）19万人来場 ■筑波山ビジターセンター 秋（10/6～10/14）9日間で1,380人 ■ジオパーク 市民説明会（3回）、企画展・講演会（6回）、市民向け講座・イベント（35回）、ジオカフェ（12回）、ジオガイドスキルアップ講座（4回）、部会（16回）、ジオツアー（37回）、第5回日本ジオパーク関東大会in筑波山地域の開催 ■桜川稚魚放流事業 桜川流域4小学校 ■筑波山自然環境教育事業 107名 ■エコ・クッキング事業(調理実習と座学) 446名 ■サイエンスラボ 合計78人参加 Aコース：つくば工科高校で！楽しくロボットを学ぼう 参加40人 Bコース：科学実験教室「昆虫の感覚と行動の不思議」参加38人 Cコース：筑波山登山、応募84人（台風接近により中止） 					
成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ■農業体験 都市住民と生産者の交流の場を創出。つくばの農業・農産物のPRや理解等を促進 ■ジオパーク ジオパーク活動やPR活動を積極的に行うことによりジオパークサポーター登録数が増加（700名⇒2,382名）。更にJGCより指摘を受けた課題を一つ一つ解決しつつジオパーク活動を進めたことにより9/9に筑波山地域が日本ジオパークに認定された ■環境事業 子供から高齢者に至る多くの市民の参加により、環境保全や環境に関する理解・関心等の意識の高揚が図れた ■サイエンスラボ 別のコースにも参加したいとの意見が多く、科学に対するの興味がより深められた。市HPやチラシを配布した成果もあり、定員に達した 		<ul style="list-style-type: none"> ■筑波山ビジターセンター 展示スペースとは別にカタクリの野外解説を実施し、筑波山頂の登山客、観光客に実際に植物を観察しながら学べる機会を創出することができた。 ■ジオパーク 各市毎に様々な活動を積極的に進めることにより、徐々にではあるが市民の方々のジオパークについての認識が深まっているように感じる。また認定ジオガイド養成講座を開催し、筑波山地域ジオパークで初めて42名の認定ジオガイドが誕生 ■環境事業 自然が衰退している原因への対策や環境保全の意義等について意識の高揚を図れた ■サイエンスラボ 熱中症対策をしたものの登山・ピザ作りの時に体調不良者がでた。登山は保健師さんに介護援助をしてもらい無事登頂できたものの検討が必要 		<ul style="list-style-type: none"> ■農業体験 都市住民と生産者の交流の場を創出。つくばの農業・農産物のPRや理解等を促進。 ■フォレストアドベンチャー・つくば 利用者数5万名を達成し、5万名達成記念を行うことができた。 ■梅まつり 前年度と比較して来場者数が20,000名増加 ■ジオパーク 構成6市毎に様々な活動を積極的に進めることで、地域住民へのジオパークへの認識をさらに深めることができた。また、様々なイベントや講座等を実施し、生涯学習の場を提供した。2月には「第5回日本ジオパーク関東大会in筑波山地域」を開催し、ジオパーク事業をさらに推進することができた。 ■環境事業 豊かな自然を保全する意義や環境に関する理解・関心等の意識高揚が図れた。 ■サイエンスラボ（成果）今年度から市内の小学4年生から中学3年生までに変更した結果、中学生の参加を得ることができた。参加者には科学技術への興味・関心を向上させることができた。（課題）「つくばサイエンスラボ」事業名で事業を報告していたが、居場所事業の目的、概要を見直し、青少年が自主的な活動や体験ができるような事業を検討する必要がある。 					
改善見直し	<ul style="list-style-type: none"> ■エコ・クッキング事業 連携先と調整し15クラスに縮小して実施。H29年度は、連携先の負担軽減も考慮し座学だけの講座も取り入れる 		<ul style="list-style-type: none"> ■筑波山ビジターセンター 毎年、時期・場所を変えながら実施 ■ジオパーク 日本ジオパーク委員会から示された『日本ジオパーク自己評価表『未定稿』』に基づきアクションプランの見直しを行い進めて行く ■エコ・クッキング事業 連携先の都合で19クラスに縮小して実施 ■サイエンスラボ 定員を上回る応募があったので多くが参加できるよう内容等を見直す 		<ul style="list-style-type: none"> ■農業体験提供団体等との連携による参加者のニーズに合ったイベントを実施する。 ■フォレストアドベンチャー・つくば コースの改修を検討する。 ■エコ・クッキング事業 連携先と調整し、15クラスを対象に実施。 ■サイエンスラボ 課題を踏まえ、事業の見直しを検討し、体験学習ができる事業として展開していく。 					

施策の柱	5	生涯学習推進体制の強化	つくば市は、多くの研究者・学生が世界中から集まり、様々な分野の専門家が活動しています。また、世界に開かれた国際都市であるとともに、筑波山をはじめとした豊かな自然環境にも恵まれ、つくば特有のライフスタイルを守り育む活動も盛んです。市内にある研究機関、大学、外国人、専門家、豊かな自然、意識の高い市民など、つくばの持つ特色や資源を活かした生涯学習を推進します。							
方向性	(3)	つくばの特性を生かした生涯学習の推進								
関連課	国際交流室	外国人との交流事業、外国人向けの講座				23頁				
年度	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計画	<p>■交流事業</p> <p>①国際交流フェアの開催</p> <p>②つくばワールドフットサル2016の開催</p> <p>③米国ミルピタス市の高校生とのペンパル事業の実施</p> <p>④世界お茶のみ話（新規事業）の開催</p> <p>■外国人向け講座</p> <p>①日本語講座：ビギナーから初級レベルを対象に前期・後期で開催</p> <p>②日本料理講座の開催</p> <p>③外国人の子供向け日本語講座の調査</p>		<p>■交流事業</p> <p>①つくばワールドフットサル2017の開催</p> <p>②米国ミルピタス市の高校生との美術品交換</p> <p>③世界お茶のみ話</p> <p>■外国人向け講座</p> <p>①外国人のための日本語講座(昼と夜に分け、全20回程度開催。読み書きを中心に行うクラスや会話表現を中心に行うクラスがあり全6クラス)。</p> <p>②こども日本語勉強会（市内の小学校の児童が学校に馴染むことを目的として実施）。</p>		<p>【交流事業】</p> <p>①つくばワールドフットサル2018を開催（10/27開催予定）</p> <p>②ミルピタス市との電子ペンパル等の交流（5月以降随時）</p> <p>③世界お茶のみ話(毎月一回)</p> <p>④韓国テジョン市との青少年交流事業（7月予定）</p> <p>【外国人向け講座】</p> <p>①外国人のための日本語講座(昨年度同様、昼と夜に分け、全20回程度開催予定。)</p> <p>②こども日本語勉強会（本年度も長期休みに開催予定）</p>		<p>■交流事業</p> <p>①つくばワールドフットサル2019を開催（10/20開催予定）</p> <p>②ミルピタス市との電子ペンパル等の交流（秋以降随時）</p> <p>③世界お茶のみ話(毎月一回)</p> <p>④韓国テジョン市との青少年交流事業（8月予定）</p> <p>■外国人向け講座</p> <p>①外国人のための日本語講座(昨年度同様、昼と夜に分け、全20回程度開催予定。)</p> <p>②こども日本語勉強会（本年度も長期休みに開催予定）</p>			
実績	<p>■交流事業</p> <p>②11/26開催（443名のうち外国人86名21か国。外国人参加率19.4%）</p> <p>③9月～2月ミルピタス市の高校生と竹園高校生によるe-mail交流を実施（両市の高校生各13名計26名）。同市との交流20周年を記念して姉妹都市かるたを制作。</p> <p>■外国人向け講座</p> <p>①受講者256名</p> <p>②2/11開催13名参加</p> <p>③外国人の子供向け日本語講座開催のための講座等に参加。</p>		<p>■交流事業</p> <p>①11/11開催(492名のうち外国人144名21か国。外国人参加率29%)。</p> <p>②竹園高校とミルピタス高校による美術品の交換を行い、市民文化祭で展示した。</p> <p>③毎月第3土曜に開催し、本年度の4月で15回目の開催となった。</p> <p>■外国人向け講座</p> <p>①全9クラス、283名参加</p> <p>②長期休み実施し73名参加（夏29、冬27、春17）</p>		<p>■交流事業</p> <p>①10/27開催(321名のうち外国人56名21か国。外国人参加率17%)。</p> <p>②竹園高校とミルピタス高校による美術品の交換を行い、市民文化祭で展示した。</p> <p>③毎月第3土曜に開催し、年度末までに延べ26回開催した。</p> <p>■外国人向け講座</p> <p>①全9クラス、276名参加</p> <p>②長期休み実施し47名参加（夏25名、冬18名、春4名）</p>					
成果課題	<p>■交流事業</p> <p>②過去最高の参加者で、国籍を問わない交流が図れた。</p> <p>■外国人向け講座</p> <p>①日本語講座では、単なる語学学習ではなく、日本での日常生活や文化を交えながら教えることで、日本に対する理解を深めることができた。</p>		<p>■交流事業</p> <p>①外国人比率の目標値の30%に近づくことができたが、今後も維持または、増加させていくことが課題。</p> <p>②市内の高校生が両市について知る機会を提供できた。</p> <p>③Tsukuba International Schoolの学生が参加するなど、市民との外国人の交流の場となっている。</p> <p>■外国人向け講座</p> <p>①人間にとって欠かすことのできない「食」に関するテーマを主として単なる語学学習ではなく、日本での日常生活や文化を交えながら教えることで、日本に対する理解を深めることができた。</p> <p>②長期休みの実施なので、より多くの参加を促したい。</p>		<p>■交流事業</p> <p>①昨年度は外国人比率の目標値の30%に近づけたが、今年度は目標から遠ざかってしまった。今後、増加を図りながら、目標値の適正化も検討する。</p> <p>②市内の高校生が両市について知る機会を提供できた。</p> <p>③Tsukuba International Schoolの学生が参加するなど、市民との外国人の交流の場となっている。</p> <p>④市内中学生8名が韓国大田広域市を訪問し、交流できた。</p> <p>■外国人向け講座</p> <p>①単なる語学学習ではなく、日本での日常生活や文化を交えながら、生活に密着した日本語教えることで、日本に対する理解を深めることができた。</p> <p>②前年度に比べて参加者が減少しているので、開催日程や開催場所を再検討するとともに、学校長会等での周知強化を図る。</p>					
改善見直し	日本語カフェは27年度の参加者が少なかったことから実施しなかった。		-		-					

【生涯学習調査概要】

- ・ 方法：郵送によるアンケート調査
 - ・ 対象者：市内に在住している 18 歳以上の男女
 - ・ サンプル数：2,600
 - ・ 抽出方法：住民基本台帳による無作為抽出
 - ・ 時期：令和元年 10 月頃
 - ・ 期間：2 週間程度
- ※ウェブによる回答も受付

つくば市の生涯学習について ご意見をお聞かせください

市民意識調査へのご協力をお願い

あなたの回答が、つくば市の未来へいかされます。

このたび、つくば市では市民の皆様の社会力を高め、生涯学習の一層の充実を目指した（仮称）「第3次つくば市生涯学習推進基本計画」を策定いたします。策定にあたっては、市民の皆様の生涯学習の現状、生涯学習に対する考えやご要望を把握し、それらをいかし、反映させたいと考えています。本調査は、そのために実施するものであり、皆様の回答が、つくば市の今後の生涯学習の充実のための重要なデータとなります。何とぞ、趣旨をご理解の上、調査にご協力くださいますようお願いいたします。

なお、回答をお願いする方々につきましては、地区ごとに人数を割り振り、無作為に抽出しております。いただきました回答はすべて数字に直し統計的に処理いたしますので、回答した方の名前が出たり、回答の中身が他に漏れたりすることはありません。安心してご回答ください。

ご協力の程、よろしくお願いいたします。

令和元年(2019年)10月 つくば市

生涯学習とは

『生涯学習』とは、家庭、学校、職場、地域、TV マスメディア等で行われる全ての学習活動をさし、教養的なものだけでなく、スポーツ・芸術・文化・ボランティア・レクリエーション・趣味等も含まれます。

ご記入にあたってのお願い

1. ご回答は、調査票の宛名のご本人がご自分の考えでお答えください。ご本人が記入することが難しい場合は、ご家族や身近な支援者の方などが代わりにご本人の意見を聞きながら記入してください。
2. 調査票及び返信用封筒には、住所・氏名をお書きにならなくて結構です。
3. この調査は、調査票（紙）の他、パソコン、タブレット、スマートフォンから回答することができます。インターネットでの回答は別紙「インターネットによる回答方法」のように行ってください。
4. ご回答は、それぞれの質問の内容にしたがって、あてはまるところに○をつけたり、文字や数字を記入してください。
5. ご記入は、黒のボールペンまたは濃い鉛筆でお願いします。
6. この調査票は、10月22日（火）までにご記入いただきまして同封の封筒でご返送くださいますようお願いいたします。
7. ご不明な点がございましたら、次のお問合せ先までお問合せください。

＜お問合せ先＞

つくば市教育局生涯学習推進課

つくば市研究学園一丁目1番地1

TEL：029-883-1111（内線 4512、4501）

あなたご自身のことについてお伺いします

(1) 性別

1. 男性	2. 女性	3. 無回答
-------	-------	--------

(2) 年齢

1. 10歳代	3. 30歳代	5. 50歳代	7. 70歳代
2. 20歳代	4. 40歳代	6. 60歳代	8. 80歳以上

(3) あなたの職業

1. 自営業（商店や会社の経営）	4. アルバイト・パートタイマー	7. 無職
2. 農林業	5. 専業主婦（主夫）	8. その他（ ）
3. 会社員・公務員	6. 学生	

(4) あなたは「つくば市」に在住して何年になりますか。

1. 1年未満	3. 10年未満	5. 20年以上（他から転入してきた）
2. 4年未満	4. 20年未満	6. 20年以上（生まれてからずっと住んでいる）

(5) あなたが居住しておられる中学校区はどちらですか。

1. 秀峰筑波（筑波東）	7. 高山	13. 春日	中学校区がわからない場合は、 下記に地名を記入してください。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 地名 </div>
2. 秀峰筑波（筑波西）	8. 谷田部東	14. 荃崎	
3. 大穂	9. 桜	15. 高崎	
4. 豊里	10. 竹園東	16. みどりの	
5. 谷田部	11. 吾妻	17. 学園の森	
6. 手代木	12. 並木		

あなたの日頃の生活のことについてお伺いします

問1 あなたは普段の生活で下記のようなことについて、どのように感じていますか。下記の質問について、4つの中から1つ選んで、その番号に○をつけてください。

1	居住環境は	よい	1	2	3	4	わるい
2	近所づきあいや人間関係は	よい	1	2	3	4	わるい
3	地域で解決したり、改善しなければならない問題は	多い	1	2	3	4	少ない
4	地域の行事や活動への参加は	多い	1	2	3	4	少ない
5	地域の中で共通の関心や課題をもつ知人の数は	多い	1	2	3	4	少ない
6	地域のリーダーとして活動している人の数は	多い	1	2	3	4	少ない
7	今後ともこの地域に住み続けたいと思いますか	思う	1	2	3	4	思わない

問2 あなたが「地域」という言葉で思いうかべるのは、次のうちどれですか。1つ選んで、その番号に○をつけてください。

1. 隣近所	3. 小学校区	5. 旧町村地区（例：旧大穂町など）	7. その他
2. 自治会・区会	4. 中学校区	6. つくば市全体	（ ）

あなたご自身の学習についてお伺いします

問3 あなたは、何かを学んだり、身につけたり、技能を高めたりしたいと思っていますか。あてはまる番号に○をつけてください。（現在していることで、今後も続けたいと思っていることも含まれます。）

1. 思っている

2. 思っていない

↓
5ページ問4におすすみください。

問3－(1) 思っていると答えした方に伺います。あなたが学んでみたいことは次のうちどれですか。3つ選んでやってみたい順に□に番号を記入してください。（1つや2つだけでもかまいません。）

1位

2位

3位

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 仕事に役立つ学習や資格取得
(コンピュータなどの技能習得も含む) 2. 健康の維持・増進や医療 3. 消費・食生活など家庭生活の在り方 4. 子どものしつけや教育の在り方 5. カウンセリングなど心の悩みを解決すること 6. 老後の生活設計 7. 高齢者や障がい者などの福祉問題 8. ゴミ処理・リサイクル・自然保護などの環境問題 9. 外国語・文学・歴史・哲学・法律などの知識・教養の向上や自己啓発 | <ol style="list-style-type: none"> 10. 人権問題 11. 男女共同参画の実現 12. 文化財の理解・保護や活用 13. 芸術・芸能 14. スポーツ・レクリエーション活動 15. 自治会・区会などの地域活動 16. 子ども会やスポーツ少年団など青少年の育成活動 17. ボランティア活動 18. 外国籍の人たちとの交流 19. 自然体験や生活体験など 20. その他 () |
|---|---|

問3－(2) あなたは問3－(1)で1位にあげたものをどのような方法で学びたいと思いますか。主なものを1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 自宅での学習活動（書籍など） 2. インターネットによる情報収集 3. オンライン講座（YouTube など） 4. ラジオ・テレビの講座 5. 個人的に先生に習う | <ol style="list-style-type: none"> 6. 職場の研修 7. 学校の公開講座や教室 8. 市が行う講座や講習会 9. サークルなど仲間同士の学習会 10. その他 () |
|---|--|

問3－(3) あなたはそれをどの施設を利用し学びたいと思いますか。主なものを1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 小・中学校、高等学校 2. 大学（専門学校を含む） 3. 地域交流センター 4. 図書館 5. 体育館・運動公園などのスポーツ施設 6. 市民ホール、児童館、老人福祉センター、保健センター、市役所などの公共施設 7. 地域子育て支援拠点※ | <ol style="list-style-type: none"> 8. 商工会・農協 9. 職業訓練所・各種試験場・研究所 10. カルチャーセンターなどの民間施設 11. 地域の集会所 12. 講師・指導者宅 13. 自宅または知人宅 14. その他 () |
|--|---|

例えば、つくば市子育て総合支援センター、かつらぎクラブ、おひさまクラブ、ままとーんつどの広場、すぎのこクラブ、おとなり、なないろクラブ、出張子育て広場 等

問3－(4) あなたはそれを何のために学びたいと思いますか。主なものを1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1. 趣味・教養を深めるため | 7. 展示会、発表会、試合などに役立てるため |
| 2. 健康の維持や体力づくりのため | 8. 友人を作るため |
| 3. 生きがいづくりのため | 9. 老後を豊かに過ごすため |
| 4. 日常生活に必要な知識・技術を身につけるため | 10. 講師や指導者として他人に指導するため |
| 5. 職業生活や就職・転職に役立てるため | 11. その他 () |
| 6. ボランティア活動など、地域づくりに役立てるため | |

問3－(5) あなたはご自身の学習成果をつくば市のまちづくりに役立てたいと思いますか。どちらかあてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|



5ページ問4におすすみください。

問3－(6) あなたは学習の成果を地域や社会でどのような形でいかしたいと思いますか。○はいくつつけてもかまいません。あてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1. 学校での学習支援 | 8. 介護支援活動 |
| 2. 学校での部活動等の支援 | 9. 子育て支援活動 |
| 3. 地域美化活動 | 10. 講座などの講師 |
| 4. 交通安全活動 | 11. 知識・技能等の伝達、伝承 |
| 5. 防災・防犯活動 | 12. 学習やスポーツ、文化活動などの指導 |
| 6. ボランティア活動や地域活動等の指導 | 13. 個人の資格等を活用し、職業を通しての社会貢献 |
| 7. 民生委員児童委員、保護司、人権擁護委員等としての活動 | 14. 民間団体（企業含む）への指導・支援 |
| | 15. その他 () |

問3－(7) あなたは今後、「市民協働」※のまちづくりを進めていくために、その担い手として参加したいと思いますか。どちらかあてはまる番号に○をつけてください。

※「市民協働」とは
 市民や行政など様々な組織が、お互いの違いを認め、互いに尊重し合って対等な関係に立ち、それぞれが持っている知恵や資源を持ち寄り、責任と役割を分担し、協力し合いながら、課題に取り組んでいくことです。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|



問3－(8)①どのような協働が考えられますか。内容をご記入ください。



問3－(8)②参加したいと思わない理由をご記入ください。

内容	
-----------	--

理由	
-----------	--

この1年間のあなたの学習についてお伺いします

問4 あなたはこの1年間に何かを学んだり、身につけたり、技能を高めたりしたことがありますか。
どちらかあてはまる番号に○をつけてください。

(講座・教室に参加したり、展示会、演奏会、講演会などに行ったりするだけでなく、先生やコーチについたり、本を読んだり、テレビやラジオを見たり聞いたりして学んだことを含みます。)

1. ある

2. ない

学習しなかった理由は何ですか。○はいくつつけてもかまいません。あてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. ということは好きではない | 7. 学習できる場所がわからない |
| 2. 何をどのように学習してよいか
わからない | 8. 家族や職場などの周囲の理解が
得られない |
| 3. 一緒に学ぶ仲間がいない | 9. 特に理由はない |
| 4. 費用が高すぎる | 10. その他 () |
| 5. 時間がない | |
| 6. 近くに学習する場所がない | |

6ページ問5におすすみください。

問4－(1) あなたが学習していたことはどのようなことですか。3つ選び最も力を入れたものの順に
□に番号を記入してください。

1位

2位

3位

- | | |
|---|--|
| <p>1. 仕事に役立つ学習や資格取得
(コンピュータなどの技能習得も含む)</p> <p>2. 健康の維持・増進や医療</p> <p>3. 消費・食生活など家庭生活の在り方</p> <p>4. 子どものしつけや教育の在り方</p> <p>5. カウンセリングなど心の悩みを解決すること</p> <p>6. 老後の生活設計</p> <p>7. 高齢者や障がい者などの福祉問題</p> <p>8. ゴミ処理・リサイクル・自然保護などの環境問題</p> <p>9. 外国語・文学・歴史・哲学・法律などの
知識・教養の向上や自己啓発</p> | <p>10. 人権問題</p> <p>11. 男女共同参画の実現</p> <p>12. 文化財の理解・保護や活用</p> <p>13. 芸術・芸能</p> <p>14. スポーツ・レクリエーション活動</p> <p>15. 自治会・区会などの地域活動</p> <p>16. 子ども会やスポーツ少年団など青少年の育成活動</p> <p>17. ボランティア活動</p> <p>18. 外国籍の人たちとの交流</p> <p>19. 自然体験や生活体験など</p> <p>20. その他 ()</p> |
|---|--|

問4－(2) あなたはそれをどのような方法で学びましたか。主なものを1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. 自宅での学習活動（書籍など） | 6. 職場の研修 |
| 2. インターネットによる情報収集 | 7. 学校の公開講座や教室 |
| 3. オンライン講座（YouTube など） | 8. 市が行う講座や講習会 |
| 4. ラジオ・テレビの講座 | 9. サークルなど仲間同士の学習会 |
| 5. 個人的に先生に習う | 10. その他（ ） |

問4－(3) あなたはそれをどこで学びましたか。主なものを1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

- | | |
|---|----------------------|
| 1. 小・中学校、高等学校 | 8. 商工会・農協 |
| 2. 大学（専門学校を含む） | 9. 職業訓練所・各種試験場・研究所 |
| 3. 地域交流センター | 10. カルチャーセンターなどの民間施設 |
| 4. 図書館 | 11. 地域の集会所 |
| 5. 体育館・運動公園などのスポーツ施設 | 12. 講師・指導者宅 |
| 6. 市民ホール、児童館、老人福祉センター、保健センター、市役所などの公共施設 | 13. 自宅または知人宅 |
| 7. 地域子育て支援拠点※ | 14. その他（ ） |

例えば、つくば市子育て総合支援センター、かつらぎクラブ、おひさまクラブ、ままとーんつどいの広場、すぎのこクラブ、おとなり、なないろクラブ、出張子育て広場 等

問4－(4) あなたはその場所に満足していますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 満足している | 3. どちらともいえない |
| 2. 満足していない | |



問5におすすみください。

問4－(5) 「1. 満足している」又は「2. 満足していない」を選んだ方は、その理由をご記入ください。

理由

問5 あなたは、学習に関する情報として、今どのようなことを知りたいですか。主なものを3つまで選んで、その番号に○をつけてください。（1つや2つでもかまいません）

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. どんな催しものや講座があるか | 6. 学習について相談できる人や場所 |
| 2. 利用できる施設の内容や方法 | 7. 学習にかかる費用や期間 |
| 3. 一緒に活動する仲間やグループ | 8. 学習の成果を活かせる場所や機会 |
| 4. 学習を行うために必要な指導者 | 9. 特にない |
| 5. 学習に必要な資料や本 | 10. その他（ ） |

問6 あなたは、市が行う講座や講習会の情報をどのようにして知ることが多いですか。主なものを3つまで選んでその番号に○をつけてください。（1つや2つでもかまいません）

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1. 新聞・雑誌・ミニコミ紙 | 7. 市の Facebook・Twitter 等の SNS |
| 2. ポスター・チラシ・パンフレット | 8. インターネット（パソコン・携帯等） |
| 3. 自治会の回覧 | 9. 友人・知人を通じて |
| 4. 市役所や地域交流センター等の公共施設 | 10. 学校・職場 |
| 5. 広報つくば | 11. 特に情報は得ていない |
| 6. 市ホームページ | 12. その他（ ） |

問7 あなたは、現在、何か地域団体・クラブ・サークルに入っていますか。どちらかあてはまる番号に○をつけてください。（ただし、学校のクラブは除きます。）

1. はい	2. いいえ
-------	--------



どのようなグループですか。
(いくつ○をつけてもかまいません。)

1. 趣味のグループ・サークル
2. シルバークラブ・グループ・サークル
3. 女性団体・グループ・サークル
4. 社会的な奉仕活動をする団体・グループ・サークル
5. スポーツの団体・グループ・サークル
6. 少年の育成団体・グループ・サークル
7. その他 ()

なぜ入らないのですか。
(いくつ○をつけてもかまいません。)

1. そうということが好きではない
2. 近くに適当なものがない
3. 誘われたことがない
4. 忙しくて入れない
5. そういうことを考えたことがない
6. その他 ()

問8 あなたが学習や文化・趣味・スポーツなどの活動を行うために、つくば市にはどのような施設が必要だと考えますか。下記の選択項目の中から、主なものを3つ選んで必要だと考える順に□に番号を記入してください。（1つや2つだけでもかまいません。）

1位 <input style="width: 80px; height: 40px;" type="text"/>	2位 <input style="width: 80px; height: 40px;" type="text"/>	3位 <input style="width: 80px; height: 40px;" type="text"/>
---	---	---

<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習や文化・趣味・スポーツなど様々な情報が得られる施設 2. 指導者や相談ののってくれる人のいる施設 3. 一人でも気軽に利用できる施設 4. ボランティア活動の拠点となる施設 5. 自然とのふれあいができる施設 6. 作品展示等が気軽にできる施設 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 活動室がたくさんある施設 8. 託児室や保育をする人がいる施設 9. カフェやレストランなどがある施設 10. 学習や文化・趣味・スポーツなどができる設備を備えた複合施設 11. その他 ()
--	--

問9 あなたは、下記の選択項目で、今後つくば市に力をいれて欲しいと思うのはどれですか。力をいれて欲しい順に3つ選んで□に番号を記入してください。

1位 <input style="width: 80px; height: 40px;" type="text"/>	2位 <input style="width: 80px; height: 40px;" type="text"/>	3位 <input style="width: 80px; height: 40px;" type="text"/>
---	---	---

<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然環境の保全への理解と関心を深める 2. 学習や文化・趣味・スポーツなど多くの情報を市民に知らせる 3. 仕事に活かせる学習の機会をつくる 4. 公共施設の利用をより手軽にできるようにする 5. 地域交流センターなどの公共施設で行う講座・講習会を充実する 6. 指導者やボランティアの育成・支援 7. 資格や免許が取得できる講習会をひらく 8. 市民と外国人の交流の機会をつくる 9. 文化財の保存・保護や地域の祭り・伝統行事の継承 10. 市内の大学・研究機関との連携 11. 科学技術について市民の理解と関心を深める 12. その他 ()

問 10 つくば市では、これから生涯学習や社会教育を充実することで、市民一人ひとりの社会力を高めるよう努めてきておりますが、市のこのような考え方や今後の方向性について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. よいと思う | 3. どちらかといえば、よくないと思う |
| 2. どちらかといえば、よいと思う | 4. よくないと思う |
| | 5. わからない |



問 10- (1) 「1. よいと思う」又は「2. どちらかといえば、よいと思う」とお答えした方に伺います。あなたは、市民の社会力※を高めるために、どのようなことをしたらよいと思われませんか。提案やアイデアなどを、ご自由にお書きください。

※「社会力」とは

これまで、色々な場所や機会に学んで身につけた知識や技能などを、自分の人生を豊かにするだけでなく、他の人の人生を豊かにするために、お互いを役立て、そうすることで住みよい地域や社会を作ろうとする意識やそれを実行する力のことです。

問 11 どのようなことでもかまいません。学校教育、社会教育、生涯学習のあり方について御意見や御要望がありましたら自由にお書きください。

質問は以上です。お忙しいところご協力ありがとうございました。

お手数ですが、このアンケートを同封の返送用封筒に入れ、10月22日(火)までに、郵便ポストに投函してください。

なお、この調査の結果は十分検討いたしまして、今後の市政に役立てるとともに、市ホームページなどに公表する予定です。

会 議 録

会議の名称		令和元年度第2回つくば市生涯学習審議会会議		
開催日時		令和2年(2020年)1月23日(木) 開会10時 閉会11時半		
開催場所		つくば市役所コミュニティ棟3階 会議室A		
事務局(担当課)		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	相澤久志、一木正聡、伊藤達也、江原功、円城寺フミ子、 鴻巣統、後藤真紀、齋藤靖夫、中井聖、萩原武久、 橋本佳子、福田正雄、星埜祥子		
	その他	森田教育長		
	事務局	吉沼局長、伊藤課長、塚田参事、山岡課長補佐兼係長、 菊地主査		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 報告 「生涯学習に関する市民意識調査結果報告書」 について (2) 審議 今後の進め方について		
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 教育長あいさつ 3 局長あいさつ 4 諮問 (1) 報告「生涯学習に関する市民意識調査結果報告書」について (2) 審議「今後の進め方」について 5 その他 6 閉会 			

議長	資料に基づきまして、事務局よりお話をお願いいたします。
事務局	<p>生涯学習推進課事務局です。先日皆様にお送りしました通知文のほかに、資料として生涯学習に関する市民意識調査結果報告書を同封しましたが、修正がございますので、今日お配りしました差し替え資料版で説明いたします。</p> <p>その他の資料としましては、次第、まとめ、平成 24 年度生涯学習に関わる市民意識調査の集計結果が机上でございます。</p> <p>複数の資料を使って説明に入りたいと思います。</p> <p>それでは生涯学習に関する市民意識調査結果報告書の 3 頁の調査の目的から入ります。今回は単純集計のみの報告になります。今後クロス集計を行った際、改めて報告いたします。</p> <p>この調査は市民の社会力を高め、生涯学習の一層の充実を目指した第三次つくば市生涯学習推進計画を作成するにあたって行いました。</p> <p>18 歳以上の市民を対象に 2,600 人無作為抽出により、郵送及びインターネットによるアンケート調査を行っております。インターネット調査の導入は初めてとなります。調査期間は 10 月 4 日から 22 日までの間、今回は有効回収数 890 件、回収率は 34.2%と前回の 31.7%より 2.5 ポイントアップしております。郵送が 690 件、初の試みのインターネットが 200 件となっております。</p> <p>調査項目は 4 項目あり、回答者自身のこと、日頃の生活のこと、学習について、この 1 年間の学習について伺っております。</p> <p>調査結果ですが、属性から説明します。性別は男性 46.1%、女性が 53.0%と、女性が若干多くなっております。年齢は、40 代が 19.7%、50 代が 18.5%、60 代が 16.2%になっております。この属性の数字は後ほどクロス集計で使います。職業は会社員が 37.9%と最も多く、次いで無職 17.2%、アルバイト、パートタイマー、専業主婦の順になっております。次に居住年数は、つくば市に住んでから 20 年以上が 56.7%を占めています。居住地区ですが、中学校区に分けてたずねました。谷田部東が一番多く、次いで大穂、そして谷田部と荃崎の</p>

順に多く、17 の中学校区の中で、2.9%が吾妻と高崎、それ以外に筑波西が 1.8%です。特に少ないところはないと見受けました。

次に日頃の生活ですけれども、まず、学習について説明したいと思います。学習については学習の移行の関心度があるが、78.1%を占めております。

ここから少し話を変えますが、まとめの 31 頁をご覧ください。

こちらは平成 24 年度に実施した調査報告書の集計結果で、今日お配りした集計結果報告書の中から抜粋してコピーしました。こちらは前回の調査と今後の課題が書かれているのですが、この内容と今回の調査を比較したいと考えております。そして、まとめの 31 頁の一番上に生涯学習の関心度について載っているのですが、今回の調査結果と照らし合わせますと、前回は学習活動を行いたいと思っている人が 79.5%ですが、今回は 78.1%となっているのです。一方で、行いたいと思っているが、過去 1 年間に学習活動を行った人は全体の 52.6%となっております。これも比較しますと、今回は 57.9%でした。こちら先ほど、差し替えた 20 頁にあるのですが、最近 1 年間の学習について経験があるかないかで、あると答えた人は 57.9%で約 6 割の方が経験しております。思っている方が 78.1%、実際には 57.9%と、学習ニーズはあるのです。当時、調査結果を分析して、実際の学習活動につなげることが重要といえと記載があるのですが、数字にさほど変化は見られませんでした。まだまだ結論は出せませんが、今回もこのような考えがあるのではないかと、ということが考えられます。

次に学習阻害要因について、行わなかった理由として、忙しくて時間がないが前回は 47.1%ですが、今回は 45.2%。そして特に理由はないが前回は 20.7%ですが、今回は 20.3%。近くに学習の機会・場所がないが前回は 15.7%ですが、今回は 14.7%。次に何をどのように学習してよいかわからない、前回は 13.2%で、今回は 11.9%。比較してみますとさほど変化は見られませんでした。ところが、学習できる場所がわからないという設問は、前回は 5 番目だったのですが、

今回は 3 番目に多い回答となっております。学習できる場所がわからないが、前回は 12.6%です。今回は 14.7%と少し上がっております。これもよく考える必要があると思っております。

次に学習内容についてです。希望する学習内容と実際に行った内容の比較ですが、この表の左が希望、右が実態になっております。

前からの仕事に役立つ学習資格取得の希望が、一番多くて、27.9%だったのですが、今回は差し替え資料の 13 頁をご覧くださいと、今回のトップは 41.0%の健康の維持・増進や医療です。前回は 18.3%で 2 位だったのですが、1 位と 2 位が入れ替わっております。これを見ると、より健康志向が強まってきたと考えられます。そして、老後の生活設計 18.7%とあるのですが、前回は 3.5%ですので、より健康志向が高まっています。老後の生活設計も皆さん希望していると考えられます。では実態はどうかというと、差し替え資料の 21 頁を参考にしながらいきたいと思いますけれども、仕事に役立つ学習資格取得が前回はトップで 26.0%でしたが、今回は健康の維持、増進や医療がトップになっております。32.4%です。仕事に役立つことが 26.8%、こちらが入れ替わっています。老後の生活設計も実態は 1.3%のところ、今回は 8.3%という結果になっております。

次に学習の場所ですが、現状では自宅・知人宅が 33.8%と最も多いという前回の結果ですが、今回は、自宅・知人宅が 34.4%という結果が出ております。希望する学習場所ですが、地域交流センターや図書館です。こちらが 12.1%でした。次いで自宅・知人宅が 20.1%となっています。ところが今回は、地域交流センターと図書館、前回は地域交流センターと図書館が一緒だったのですが、今回は質問するときは分けて行いました。地域交流センターが 19.9%の希望、図書館が 8.8%の希望で、合計しまして、28.7%の希望がありました。自宅と知人宅が 20.1%のところ、今回は 18.7%になっております。

次に 32 頁学習成果の社会への貢献について移りたいと思います。差し替えの資料では 17 頁になります。前回の調査の時には新たに社会への貢献について設けたということがありました。時代ということ

もあったのですが、今回も当然社会への貢献についても入れております。前は過半数の 54.7%の方が貢献したいと回答しておりましたが、今回の調査では、差し替え後 17 頁を見ますと、49.6%となっております。年代別で見ますと、前は 30 代が最も比率が高かったのですが、個人的には 30 代がなぜ多かったかといいますと、この前の調査は平成 24 年（2012 年）の 11 月に行われております。前年の東日本大震災がありましたので、こういう社会貢献につながる若い方の考えが強いのではないかと思います。

次に社会貢献の内容についてですが、貢献したい内容として、前はキャリアアップとして自分の仕事を活かしたいが 40.5%です。子育て支援や介護が 25.5%。講師や仕事として活かしたいが 13.8%という順番になっております。ところが今回は、キャリアアップとして自分の仕事を活かしたいが 28.7%、子育て支援 15.4%、介護が 10.4%。子育て支援活動と、介護支援活動を合わせますと 25.8%になります。

前回と違って質問項目も多少増えていますので、比較対象がストレートにいかないところがあります。そして、講師・指導者として活かしたいが今回は 38.3%と前回と比較して多少増えています。これは、差し替え資料では知能・技能などの伝達、伝承、講座などの講師を足しますと 38.3%になります。

次にその一方、現状で過去 1 年間に行った生涯学習のうち、ボランティア活動が子ども会やスポーツなどの青少年などの育成活動、自治会区会など地域活動といった社会貢献活動の合計は全体の 3.3%にとどまるというのが前回の回答ですけれども、今回は 10.1%という数字になっております。

次に生涯学習施設についてみていきます。33 頁をご覧ください。

これは施設というものは生涯学習活動につながる非常に大事な要因の一つであります。そのことなのですが、まず施設の内容について、どのような内容が望まれているかを考えますと、前は、1 人でも気軽に利用できる施設が 28.5%。次に学習や文化、趣味、スポーツな

	<p>どのいろいろな情報が得られる複合施設が 24.3%。学習や文化、趣味、スポーツなどができる施設を備えた複合施設が 18.8%でした。今回は一人でも気軽に利用できる施設が 54.5%、学習や文化、趣味、スポーツなどができる施設は 51.1%。順位は同じです。実際に行った場所で最も多かったのが自宅・知人宅で、当時は 33.8%、今回は 34.4%。地域交流センターや図書館と回答した人は当方で 12.1%、今回は 10.7%にとどまっております。今回の結果は差し替え資料の 23 頁に載っております。</p> <p>今、生涯学習の関心度について、そして学習成果の社会への貢献についてと最後に生涯学習の施設について3つの大項目について、お話ししました。以上になります。</p> <p>何かございましたらお話をいただきたいと思えます。</p>
議長	<p>はい、ありがとうございます。何かありましたらご意見お願いします。</p>
副議長	<p>説明の中で、年齢層や職業などの比較がなかったような気がするのですが、前はどのような年齢層だったのか、もし分かればお願いしたい。それから職業別のところも、もし分かれば前回との比較というところをお願いします。</p>
事務局	<p>属性のところですが、前回の性別は男性 41.7%、女性が 57.7%です。年代別に見ますと、60代が 24.3%で最も比率が高く、次いで30代が 17.7%、50代が 17.1%です。</p> <p>職業別ですが、会社員が一番多く 22.2%となっており、次いで専業主婦が 18.7%となっております。</p>
議長	<p>今回は話の中身が非常に広いので、なかなか質問もしにくいと思えます。前回のこの調査の結果と今回の調査結果を見ますと、あまり変わらないのです。ほとんど変わりがないので、これは結果として、市</p>

委員	<p>民の方々のニーズに本当に適合しているのか、それに対するどういう働き方がこの中でされてきたのか、そういったところにもう少し焦点を当てないとこれは新しいものが出てこないだろうと私は思います。</p> <p>少し先走った話になりますが、今の発表の中にもありましたが、一番ニーズとして前回多かったのは、その職業に自分のキャリアアップのための研修をしたいという希望です。前回も 40.0%から今回も4割近くあります。実際にはそれほどはできませんでした。しかも、実施した場所は公の機関ではなくて、家庭の中で学習が主な場所と出ています。確かに講座そのものがキャリアアップするための講座を作ることにはなかなか簡単ではないと思います。でも、そこにもう少し焦点を当てていかないと、本当の市民の人の要求には応じられないのではないのでしょうか。そういったところもあり、やはり次回の計画の中ではある程度示していかないと、意味がなくなってしまうと思います。</p> <p>もう一点。少し感じたのですが、皆さんからもこの場でお話しをいただいて、今回の調査結果を踏まえて、次の計画の中に入れていくためには、また講座の中身も変えていかないと本当に繰り返しになってしまう、前進がないということになってしまうのではないかと思います。なので、忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくお願ひいたします。</p> <p>今の話で、私も感じていることがあります。前回の希望とか今回も意見がありまして、その中に多かったのは時間的なものがどうかってことがありました。今日も今年やられた講座を少し見てきたのですが、ほとんど昼間の時間帯しかないので、恐らく会社勤めの方がいらっしゃるって参加するのは難しいのではないかと思います。内容的にはいろんなことをやられて、興味を持って参加したいと思う方もいらっしゃるのですが、やはりアンケートのご意見の中に平日の昼間だけでは参加できないというような意見がありました。そのあたりを変えていかないといけないのではないかと思います。今、働き方改革で少し早く帰れるようになったのであれば、その時間帯で参加できる</p>
----	--

議長	<p>のではないかと思います。</p> <p>実は前々から課題になっており、夜の講座を増やすように今までもかなり努力をしてきたことがあります。しかし、すべて（の人）がそこには行けないので、夜間をやるとか、土日に行い、長期間にわたってやるとか、工夫はあるかと思うのですが、職員の方の勤務の問題もあるのだらうと思います。その中で、あと十何年間後、かなり努力をして改善も図られてきています。ですから、そういう流れは、これから進めていただければいいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>委員のおっしゃる通りです。実態はやっぱり夜間の講座が少ないのではないかと考えております。議長がおっしゃったような話も考えられますので、今後もその点について、検討していく課題の一つかなと考え改善していきたいと思います。</p>
委員	<p>これから先々の計画のことも議論があるのかと思うのですが、結局自分もその仕事のキャリアアップについて学びたい、その場所として自宅というのが多いという結果からすると、今、インターネットの動画や大学は、インターネットを通じて無料で視聴できる無料公開講座のようなものもありますし、そういう学び方のスタイルというのが、どこか特定の場所に決まった時間に集まって何か一方的に学ぶというような、そもそも学習のスタイル自体がどんどん今変わっているのかなと思うと、公共で提供する学習のあり方について特定の場所にそういった同じ興味関心を持った人が集って、学ぶことにどのような意義を見出すのかということから考え直していく時期に来ているのかなという風に思います。例えば、そのニーズに沿った講座をわざわざそこに寄せていくのかということよりは、例えば、その地域づくりであったり、本当のその社会貢献につながるような企画だったり、あるいは市民が自分達で提案して作り上げて講座を作り上げていくというような、リアルに集まって人同士が交流しながら学びあうというこ</p>

	<p>とこそが、これから後、公が提供していく生涯学習なのではと考えます。無料で一人一人の多様化するニーズに一方的に提供していくサービスを、市がやるべきことなのかということも考えていく必要があるのではないかと考えています。以上です。</p>
議長	<p>他に意見ありましたら、どうぞ。</p>
委員	<p>今おっしゃった意見とほとんど同じなのですが、世の中がものすごく変わってきています。生涯学習という言葉そのものも、少しそれぞれに焦点を絞っていった方が良いのではないかと考えています。今の生涯学習というここに書かれていることは、ある意味、高齢者というカリタイアした人たち中心とを感じるメニューが多いですね。交流センター講座なんかを見ましても、若いお母様とか若い方達向けの講座とうたった計画はされているのですが、実際私が子育て支援の場で、お母様達とお話ししていると、今ほとんどの方たちが、働き方改革、女性も輝く社会をとということで、ほとんど、子育て前半で復職なさります。そうするとそれ以上、家庭と仕事とその他に使える時間がありません。でもキャリアアップはしたいです。もちろんキャリアアップのための場所を提供することが必要だと思いますけれど、それは行政が関わらなくても、応援が必要だと思います。そこに積極的にメニューを提供することはどうなのでしょう。お一人お一人のキャリアアップをすればよいという言い方はとても冷淡な言い方ですが、1人1人の考え方でなされればよいこと。だけど、リタイアした人や多少自分の時間の余裕が持てる方に対して、もう少し絞った形で、メニューを考えることが必要だと思います。</p> <p>もう一つそのためには自宅ではなく、自宅ですることは自分の学習なので、生涯学習をみんなでということになれば、場所が必要だと思います。つくば市の中でそういう故郷的な交流センターっていうものが整備されているところと、新しいTX沿線はほとんどそういうものがないので、そこに住んでいる人たちに対して、どういう働きかけを</p>

委員	<p>するかという、そこは場所の確保も考えて生涯学習を推進するという部分をもうちょっと深く検討していただけたらと思います。</p> <p>今の施設のことにに関してちょっと私も感じていることがございまして、この意見も少し参考にさせていただきたいと思うのですが、この中でコミュニティセンターなどの、公共施設で講座をやっていることは知っているけれど行けないという方たち、そういう意見が多かったのを目につきました。車に乗れない方、または運転免許を返納してしまった方など高齢者の方になると思うのですが、生涯学習や社会的なこととか、皆と関わり合いを持ちたいと思っても、なかなかその地域から出ることができません。つくばの中にもいろいろな場所があります。コミュニティセンターに楽に行ける方と、そうでないという方といらっしゃいます。そういう方達のために、出前講座というような、要望があれば、講師を派遣していただくとか、そういう風な形でもいいと思います。例えば、地域の集会所というのが、出てきていますけれども、私は東光台に住んでいますので、東光台の例を申し上げますと、東光台体育館がございまして、そこはもちろん会議室もあれば、体育施設もあるのですが、非常に老朽化しており、避難所にも指定できないというところになっています。その地域も自治会に入っている方だけでも、400世帯くらいあり、高齢化が進んでいます。そして、避難所すら、小学校までかなりの距離をいかなければならない。そういった施設があるところで、なぜそこを改修して、もうちょっと地域が利用できるようなコミュニティセンター兼体育館兼高齢者も子どもたちも集まれるような施設を作り直せないのか、とかねがね思っております。自治会でもそういう話をしているのですが、なかなか予算のことがあって、できないということがあると思います。そういうところの見直しをしていただけたらと思います。先ほどもおっしゃいましたけれども、研究学園駅とか、TX沿線の施設の少なさというのは、やはり考え直していただければいけないと思います。そういう見直しをしっかりといただいて、費用対効果というこ</p>
----	---

委員	<p>とがいつも行政の中では精査されていてそこでチェックされていくようなことが、システムになっているのですが、ある程度の費用も覚悟していただかないと、生涯学習のこれからの在り方というものを変えていけないのではないかと思います。人口は増えている状態です。ですが、児童館やコミュニティセンターも無いというような場所もありますし、古くから住んでいる人たちが多地域では取り残されていくという社会現象も起きておりますので、やはりその辺の見直しを考えながら、生涯学習をどのように考え、恩恵を受けていける場所作りをしていくかということがとても大事なように思います。以上です。</p> <p>議長がおっしゃる通りだと思います。それぞれの数値で比較をして、何がそれから活かされるかというような、そこだという風に思うのです。</p> <p>もう一点は、数値だけがアンケートの評価ではないと思います。特にこれだけの自由記述があり、的確に書いてくださっている。そうするとひょっとしたら、数の威力よりも1人の言っていることの的確なことがこの中に含まれていると思います。その中の一つが、10の1の項目で、問われている社会力について、反応はあまり良くなく、皆さん聞いてパッと流しています。門脇先生がおっしゃっている社会力というのは、自らを活かして社会に参画する力です。それは社会的存在たるふさわしい人間の資質能力であるとおっしゃっています。それを身につけるのは何かといったら、他者を認識する力、他者への共感能力、この2つであると断言しています。ですので、つくば市もそういうことを本気になってやろうと思ったら、学校の先生方にも子どもたちにもそういうことを訴える努力をしているかどうか重要です。10の1の項目では社会力が何かわかりませんと言っている方がいるのです。これは的確な指摘です。それについて、つくば市は真摯にどう方策をもってこれを訴えていくかにかかっています。すごい言葉です。こういうことができるようになったら、本当にいじめがなく</p>
----	--

<p>議長</p>	<p>なるし、社会が良くなっていくのです。</p> <p>私もそう思います。実際自由記述の中身を見ますと、社会力という形で話が出ているのですが、ほとんどの方が理解していらっしゃらない。そこがやはり今回のアンケートに出てきています。それから、市民の方がそのことについて十分熟知していない、それに対するPR不足、その他にも、講座がどこにあるのかわからない、自由記述の中かなりそういった文言が出ております。ですから、そういったところも見直ししていく必要があるだろうと思います。</p> <p>もう一つついでにお話ししますと、自由記述についていろんなことが書いてありまして、回答を見ますと、どのような意味で書いたのかわからないものがたくさんありますが、大体市民の方の意見を3つくらいに集約できるのではないかと思います。</p> <p>一つはお話にあったように、広報の問題があります。あとは場所の問題、もう一つはつくばの良さ、つくばには優れた人材がたくさんいらっしゃる、その人材をいかに活用して、社会力を高めていくようなことにもっともっと活用すべきだろう。そういう意味での講座があっただろうと思います。この中にもいろいろな資産がありますので、一読していただいて、そういう意見を次回の計画の中に、盛り込んでいかないと、ただ漫然とアンケートを行うだけでは、全然進歩のない同じような数字がまた出てきます。ですので、一步踏み込んで、そういったところも取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。先ほどあったように、学習の仕方、確かに変わってきております。でも、公の、生涯学習という形のもの、残していかなければならないと思います。ただ、個人が自由にその通りだと思えますけども、インターネット繋がれば、どんなことでも勉強しようと思えばできます。でも、公がするものと、個人でするものはやっぱり分けて考えていかなければなりません。ぜひ、そういう方向に持っていけたらよいと考えます。</p> <p>また、このアンケートのことについて、意見があれば、伺いたいと</p>
-----------	---

<p>事務局</p>	<p>思います。</p> <p>先ほどの自由記述のことで、意見等出されておりますけれども、皆様にお配りした資料ですが、問 10 の 1 は件数が 379 件で記入率が 42.6%、問 11 の方が、記入件数が 333 件の記入率が 37.4%と書かれております。通常調査を行った場合、自由記述率は 10%～20%台がせいぜいだということを伺っております。これはいかに、市民の関心が高いかということが分かります。実はこのアンケートは、最初回収率が 20%いくか、いかないかという結果になってしまうかなと思ったので、お礼状と督促状を兼ねたものを送りました。そうしましたら反響がすごくありました。途端に回収率が高くなっております。中には電話や手紙で、「遅れて申し訳ない、これから送りますけれども、よろしいですか。」という内容の問い合わせもあり、苦情は 1 件もありませんでした。非常に好意的で肯定的な意見も多かった調査でありました。以上、そのようなことも報告いたします。</p>
<p>委員</p>	<p>少し拝見して、皆さん分析されているように変わっていない部分については不十分だったということもあると思うのですが、ある程度は、一定の効果があるという言い方もできると思います。そういうものについては継続的に行っていくことで、良いのではないかと思います。</p> <p>皆さん、ご指摘されているように、その間に例えば、自宅で 1 人で行っているのは、どちらかというと言葉としては、自習しているに近いようなものだと思います。そういうものについては、新たにこれから機会を増やしていくことが必要かどうかというのは、少し考える必要があります。本日は専門家がいらっしゃらないので、詳しいことがわからないかという部分もあるかと思いますが、もしわかれば、例えば、つくば市ではこうなのですが、他の自治体とか、取り組んでいる、非常にその有効性の高いものとかがあると、それと似たような内容をつくばの特性を活かしながら行うというのは比較</p>

的すぐできることなのかとっております。そういう事例があれば、私は知らないのですが、持ち寄って活用していくということ是可以すると思ひますし、先程もこの方からご指摘のあるようないろいろなものを試しにやってみて、有効だったら残していくということが基本的には良いのではないかと思ひます。そういうことは、自由意見の中でも企画を作つて行つてみてはどうかという意見もあります。そういうことがこれからできるのかなと思ひています。個人的に一般的に思ふことが、平日の夜や休日にやれると言つてゐる人は来ます。ただ、どうしても個人の努力に依存してしまうことがあるので、そればかりではなくて、私はむしろ、仕事や学校とかの活動の一部に入れ込んでいくようなことを新たに考えたらよいのではないかと思ひています。というのは、皆さん、やはり時間がないというのは仕事とか、学校に行つてゐるから時間がないのであつて、その中の一部にこういう活動が組み込まれていけば、それは平日の日中にできます。そういうことを通じて、その自治体等職場や学校とかの連携する枠組みなどを増やしてくれば良いです。これは個人ではできないので、まさに、こういうところから計画を作つて、自治体からも働きかけたり、職場の中で、例えば、講座をやるとか、仕事の一部が生涯学習とつながつてゐることができれば、最近力を入れられてゐるつくば市のSDGsとかのポリシーに結構あつてくると思ひます。そういうところは全く今も、一定程度、行つてゐると思ひますが、枠を広げていくことをすると、新しい試みになってくるのではないかと思ひます。ただ、有効かどうかはやってみないとわからないので、試しにいろいろやってみるとよいのではないかと思ひます。

少し今回の分析で入つてゐるのかどうかわかりませんが、前回のまとめの35頁の(5)、高齢者の生きがい対策というのが、比較的見出しで記載があり、今回も同じような分析ができるのかどうかわかりませんが、こういふことで、結局その地元とのつながりがないと比較的孤独になってくるでしょう。これは時間がないということで、続けていって、ずっとこういう活動でもしないと孤立化していく

委員	<p>のは明らかなので、現役のうちから時間がなくても、できていくような働きかけができれば、新しい試みになると思います。そういうことができればよいのではないかと思います。</p> <p>長くなったので、まとめると、何かその他の事例みたいなものがあると、いいのではないかと考えています。時間がないとはいっても、平日の日中や仕事の一部や学校の活動の一部としてできるようなことがより意識されると良いのではないかと思います。以上です。</p> <p>一つだけお話ししたいことがあります。今回回収率が良かったということの中には、アンケートの最初の中に第3次の推進基本計画に皆さんのご意見を生かしていきますと書いてあったので、皆さん自分たちがアンケートに書けば、ちゃんとやってもらえるのではないかと、という希望もあるのではないかと思います。</p> <p>それから、社会力について、気になっていることがありまして、市民協働参加意欲が前回は71.5%が53.6%に減少したということは、これは社会力とかなり関係があるのではないかと思います。なので、今後注視しなくてはいけないと感じました。</p> <p>孤立化の意見で、私も仕事を辞めて孤立しています。新聞に掲載されていたのですが、今、世界中で孤立化が問題になっています。イギリスは孤立化大臣がいるようです。やっぱり、みんなそうなのだなと思ったのです。そういうのを繋ぐのも、生涯学習の場だと思えますし、その中で、もう少し工夫してもらえるとどうかと思います。生涯学習の研修で、みんなで最初に自己紹介するとか、そういうことで、繋がっていくのではないのでしょうか。繋がりがあれば、次も行こうかな。少し遠いところでも頑張っていこうかな、という気持ちになると思います。そういうことを講師の方が意識して行くと、全員、取り残されないという状況になるのではないのでしょうか。</p> <p>そういう工夫をして、意識を変えると、変わっていくのではないかと思います。以上です。</p>
----	---

<p>委員</p>	<p>自由記述を見まして思ったことは、人と人を繋ぐということや、地域資源と人を繋ぐといった地域コーディネーターの不在です。今、生涯学習の方では、社会教育指導員の方たちが、過去には交流センターにいらして、実際に顔を合わせる関係性の中で、様々コーディネートされていたのかと思うのです。先ほど、仕事や学校の中、教育の中で、生涯学習を入れ込んでいけばよいのではないかという意見がありましたが、まさにそういった生涯学習の機会というのは社会教育指導員の先生方がコーディネートされていたとも思います。今もそれは続いているのですが、一時その都度、何かとその地域に出向いていくというような活動に変わっている状況に私はすごい危機感を覚えました。やはり、地域に行って、そこに実際に足を運ばれる方やその地域の人材ですとか、そういった形の間を取り持つ人たちがやっぱりその場にはいない、いつもいるわけではないという状況はどうであるのか。地域交流センターでのその名前の通り地域の中でその居場所を孤立させない居場所をであったり、学びの場ということであったりという機能をしっかり果たすためには、軸となる人の存在が非常に重要だと思うので、社会教育指導員の先生方もそこにあっているかどうか、また別の議論があるかもしれないのですが、このコーディネーターということについてはしっかり人を置いていくということをやっていく必要が、生涯学習の観点だけでなく、その間共助社会のような地域づくりを考えたらうえでも重要になってくるのではないのでしょうか。</p>
<p>副議長</p>	<p>アンケートの中からだとどうしても漏れてしまうというところで、今、障害を持つ方たちの生涯学習というのもまた一方では文科省も取り上げるようになってきております。そういったところも含めた生涯学習と位置づけを忘れてはならないということを改めて申し上げた方がいいかなと感じました。これだけで追っていきますと、どうしてもそこが取り残されていくところなので、そういったことも考えられるコーディネーターという視点は市の方でも今まであまりなかったと思います。人材や、情報を得るといようなこともしながら、中身</p>

<p>委員</p>	<p>をどうやっていくかを決めていけば、当然おのずと人の確保や地域に どういったものが必要なのか、というところに進んでいける気がしま す。そういった計画の案ができればいいのかなというように、皆さん の大変貴重な意見を聞きながら思ったところです。</p> <p>自由意見、あるいはアイデア等をいただきまして、少し気になった 点がございます。もう知識を得ることはいつになっても必要で、そう いった機会を提供するには専門的な知識を持った方々がつくば市に は数多くいらっしゃるの、そういった話を聞く機会を増やすことが 必要ではないかと思えます。私の意見が合うものがありましたので、 より今知識の向上を図るということでもいいなと思えます。</p> <p>それからもう一つ気になったのは、いじめや不登校があるというこ とです。教育プランではスクールカウンセラーなどを配置するような 記述がありますが、現在は市内の小中学校にスクールカウンセラーは どの程度配置されているのでしょうか。以上です。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどの新教育長のあいさつの中で社会力を含め、前教育長の教育 行政を引き継いでいかれるという話を聞きましたので、大変喜んでい るところです。それが、生涯学習の分野でも反映させるものと期待し たいと思えます。</p> <p>今回の調査については膨大な資料をこれからも分析する仕事が残 っているわけですが、項目によっては年齢層によって考え方が 違うところがだいぶあるのかなというような感じが致します。2,600 人が調査対象に選ばれたわけですが、その年齢構成がどんな風 になっているのか気になるところです。それから回答されたのが 30 数%ということで調査内容からすれば、高い回答と回収率かもしれま せん、その回答された年齢相応の方向性についてはそう大きな変化 は、格差はないような感じがしましたけれども、調査対象になった年 齢構成から回答をした人が何%くらいいるのか、年齢構成別に関心を 持ちました。それから、分析の中で年齢構成分析も必要だという話も</p>

事務局	<p>ありましたので、なおさら、その比率が気になるところです。回答者の年齢構成もまた気になる場所ですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>委員のご質問について、お答ひいたします。スクールカウンセラーにつきましては、県の配置事業がありまして、つくば市においても、中学校を拠点校とする形が一つの例として挙げられるのですが、時間を複数組み合わせることで、学校での調査をしながらスクールカウンセラーが曜日を決めて勤務をしてくださっているという状況にあります。あと、つくば市については、学校生活サポーターという人材も学校に配置しておりまして、これは児童生徒の学校生活、名称の通りですけれども、サポートしていただく、あるいは学習につまずきになる子をサポートしていただくような対応をしている状況にあります。</p> <p>もう1つは、先ほど副議長からいただきまして、障害のある方の生涯学習という点については、文科省からの通知を熟読しまして、さっそく本市には特別支援学校が設置されておりますので、特別支援学校との連携も家庭教育の観点から充実を図ってまいりましたけれども、障害のある方への生涯学習というものを検討し、今企画を練っているところです。今年度中に実現できるのではないかと考えております。以上でございます。</p>
議長	<p>まだご意見あるかと思いますが、時間が迫っておりますので、2番目に移りたいと思ひます。事務局の方から、今後のことについて、お話しお願ひします。</p>
事務局	<p>今後の進め方についてスケジュールをお知らせしたいと思ひます。現在単純集計が終わりまして、今日皆様に報告したわけですけれども、これからクロス集計、そして、骨子案を作成するに向けて、作業を進めていきます。生涯学習審議会は、この後3月中旬から下旬を予</p>

<p>議長</p>	<p>定しております。そして、令和2年度には第4回生涯学習審議会を6月頃に、第5回を9月頃、そして、第6回を1月頃に予定しております。それぞれが、素案の検討を行い、最後には計画の検討になり、最終的にはこの計画書の作成に至るわけです。このようなスケジュールで進めていきたいと思っております。詳細につきましては、それぞれの会議でまた明らかにしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>あと10分ほどあるのですが、どうしてもこの機会にお話ししておきたいという方がおりましたら、時間がありますので、お願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>広報と場所に関してなのですが、どこで何をしているのかわからないという意見もあるのですが、SNSをもっと活用したらよいのではないかという意見があります。市長のFacebookとかは、毎日市長がどこで寝ているか把握できるくらいのお知らせがあります。今、50代くらいの方までFacebookを利用していると思うのですが、3月にFacebookからしか申し込めない講演会などがあるので、活用できたらすごく良いお知らせになるのではないかと思います。</p> <p>今月イーアスホールで講演会を私が行うのですが、市としてイーアスホールを借りるときはタダだと言われました。生涯学習の講座などをイーアスホールやイオンの中のホールで開催されているのがあるので、そういうのはいかがかと思いました。</p> <p>自由記述のアンケートなのですが、私が目についたのは、高校がないという意見です。市内に高校が少なく、レベルの高い高校と低い高校しかなく、その中間のお子さんがいっぱいいるのに、下館とか下妻、土浦の方にすごく苦勞して通われています。生涯学習ではないのですが、そういう声があったということと、図書館をもう少し何とかしてほしいという意見がすごく目につきました。そういう意見はどこかに</p>

	<p>上げていただけるのか確認してもらいたいと思います。</p> <p>それから、先ほど障害者の方の話が出たのですが、ペアレントメンターというのがありまして、ペアレントメンター育成講座について、障害福祉課の方とも話しをしているのですが、なかなか進んでいません。近隣市では行っているのでも、もしも障害福祉課じゃなくて、生涯学習の講座でやっていただけると、需要はあると思うので、考えてみていただけたらありがたいと思います。以上です。</p>
委員	<p>アンケート集計の結果、非常にありがたいと思うのは、市民の社会力を高めるためのアイデア等をこれ全部掲載していただいているということと、それから自由意見のこの内容ですが、これがとても素晴らしい意見収集だと思います。全部書いていただいたのが、ありがたいのですが、学校教育に関する問題とか、あるいは生涯学習にも関係する問題とか、社会力に関する問題とか、わかりにくいと思いますので、集計が大変かと思いますが、内容別にどの程度どういう意見があるのか、まとめていただけると非常に次回分かりやすいと思います。よろしく願いいたします。</p>
議長	<p>私も同感です。そうしていただけると、市民の方がこのような意見を持っているのかということが、他のテーマでも参考になるかと思えます。</p>
委員	<p>高齢者のシルバークラブという組織と一緒にやっていますけれども、高齢者の方々が一通りいろんなことを経験した、豊富な知識、経験をもっていらっしゃいます。かしこまった形でやるのではなく、もっとフリーでお願いしたいです。リラックスしていきたいなど。</p> <p>そういうことで具体的に言いますと、例えば、遊ぶ場所がないのですよね。ちょっと集まって会合しようとする、集まる場所がないのです。会議で場所を予約しようとする、どこも空いてない。</p> <p>今生涯学習のことで一生懸命やっていますけれども、要望に応える</p>

様式第1号

委員	<p>ための施設なり、方法をどうしたらいいかってことを並行して、他の方にちゃんとアピールしながらやっていかないと、生涯学習（推進）課が一生懸命働いて、いい案ができて、方向性がきまったときに、受け皿はないということでは困るのです。</p> <p>私も高齢者なのですが、女性の方は非常に元気がいいのですが、高齢者の男性がなかなか出てこないのです。団塊世代の男性が出てくるようなきっかけ作りを、どういう風にしたらよいかもう少し考えていただけたらありがたいと思います。以上です。</p>
議長	<p>ありがとうございます。</p> <p>以上で議事を終わらせていただきます。ありがとうございました。</p>

令和元年度第2回生涯学習審議会会議次第

日時：令和2年(2020年)1月23日(木)

10時00分～11時30分

会場：つくば市役所コミュニティ棟3階 会議室A

1 開会

2 教育長あいさつ

3 局長あいさつ

4 議事 1) 生涯学習に関する市民意識調査結果報告

2) 今後の進め方

5 その他

6 閉会

生涯学習に関する市民意識調査結果 報告書

令和2年3月
つくば市

目 次

I. 調査の概要	
1. 調査の目的.....	
2. 調査の概要.....	
3. 調査の項目.....	
4. 調査結果を見る上での注意事項.....	
II. 調査結果	
1. 回答者属性.....	
(1) 性別.....	
(2) 年齢.....	
(3) 職業.....	
(4) 居住年数.....	
(5) 居住地区.....	
2. 日頃の生活について.....	
(1) 地域への関心度【問1】.....	
(2) 「地域」の範囲【問2】.....	
3. 学習について.....	
(1) 学習意向【問3】.....	
(2) 学習内容【問3-1】.....	
(3) 学習方法【問3-2】.....	
(4) 利用希望施設【問3-3】.....	
(5) 学習目的【問3-4】.....	
(6) まちづくり貢献意向【問3-5】.....	
(7) 貢献内容【問3-6】.....	
(8) 市民協働参加意向【問3-7】.....	
(9) 活動内容／参加したくない理由【問3-8】.....	
4. 最近1年間の学習について.....	
(1) 最近1年間学習経験【問4】.....	
(2) 学習内容【問4-1】.....	
(3) 学習方法【問4-2】.....	
(4) 学習場所【問4-3】.....	
(5) 学習場所満足度【問4-4】.....	
(6) 満足度の理由【問4-5】.....	
(7) 関心のある学習情報【問5】.....	
(8) 学習情報入手先【問6】.....	
(9) 団体等加入状況【問7】.....	
(10) 事業者の対応の満足度【問7】.....	
(11) 活動に必要な施設【問8】.....	
(12) 市に力を入れて欲しいこと【問9】.....	
(13) 社会力向上に関して【問10】.....	
(14) 社会力向上のための方法【問10-1】.....	
(15) 意見・要望【問11】.....	
III. 資料（調査票）	

1. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、市民の社会力を高め、生涯学習の一層の充実を目指した（仮称）「第3次つくば市生涯学習推進基本計画」を策定するにあたって、市民の生涯学習の現状、生涯学習に対する考えや要望を把握し、それらをかき、反映させるために実施された。

2. 調査の概要

調査地域	つくば市全域
調査回答者	市内在住の20歳以上79歳までの男女 2,600人
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送およびインターネットによるアンケート調査
調査期間	令和元年10月4日（金）～10月22日（火）
回収結果	有効回収数890件（有効回収率34.2%）
	【郵送】有効回収数690件（有効回収率26.5%）
	【インターネット】有効回収数200件（有効回収率7.7%）

3. 調査の項目

- ・回答者自身のことについて
- ・回答者の日頃の生活のことについて
- ・回答者自身の学習について
- ・この1年間の回答者の学習について

4. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

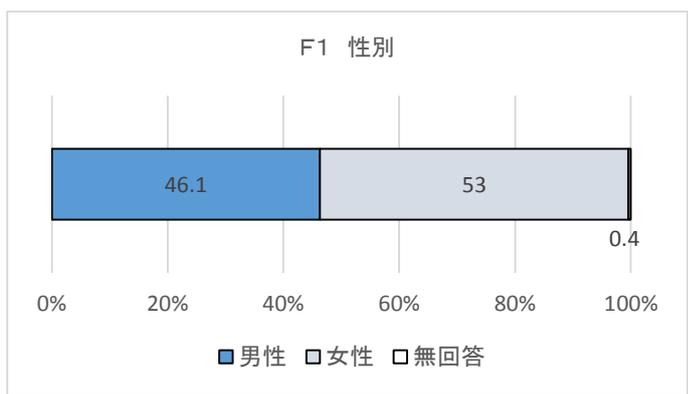
II. 調查結果

1. 回答者属性

(1) 性別

(1) 性別

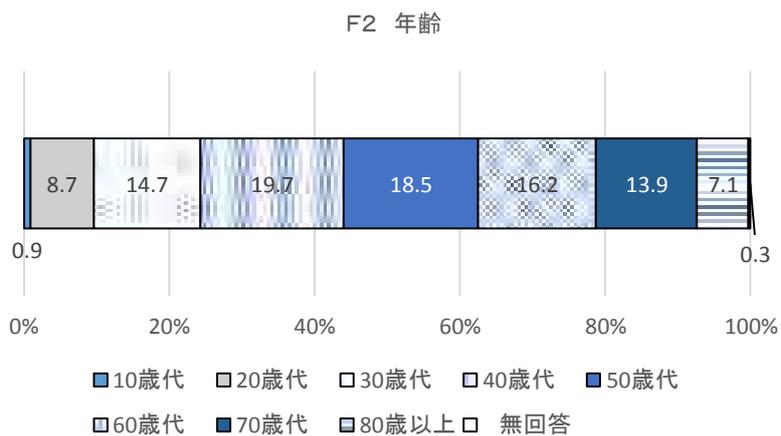
男性 46.1%、女性 53.0%で女性が男性よりも約7%多くなっている。



(2) 年齢

(2) 年齢

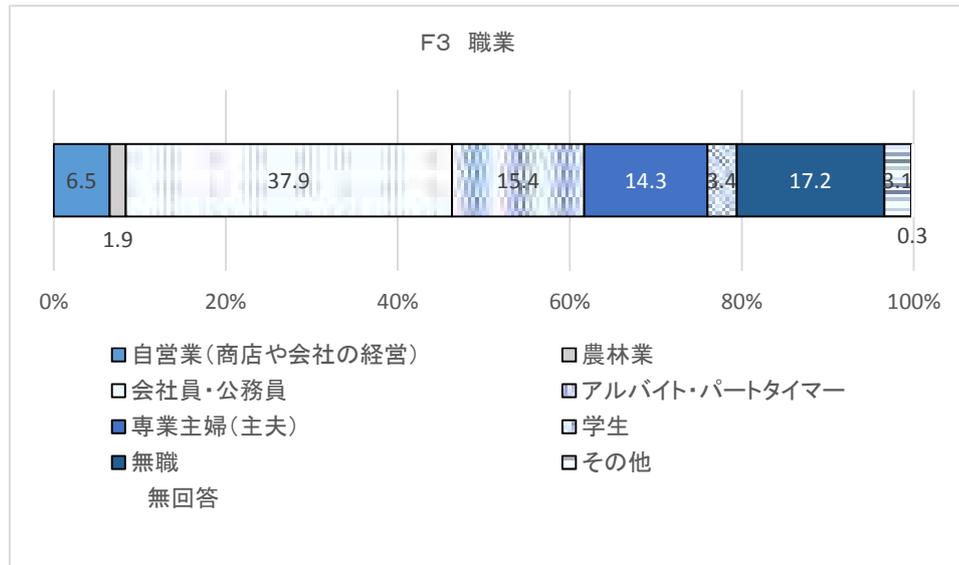
40代が19.7%で最も多く、次いで50代18.5%、60代16.2%となっている。



(3) 職業

(3) あなたの職業

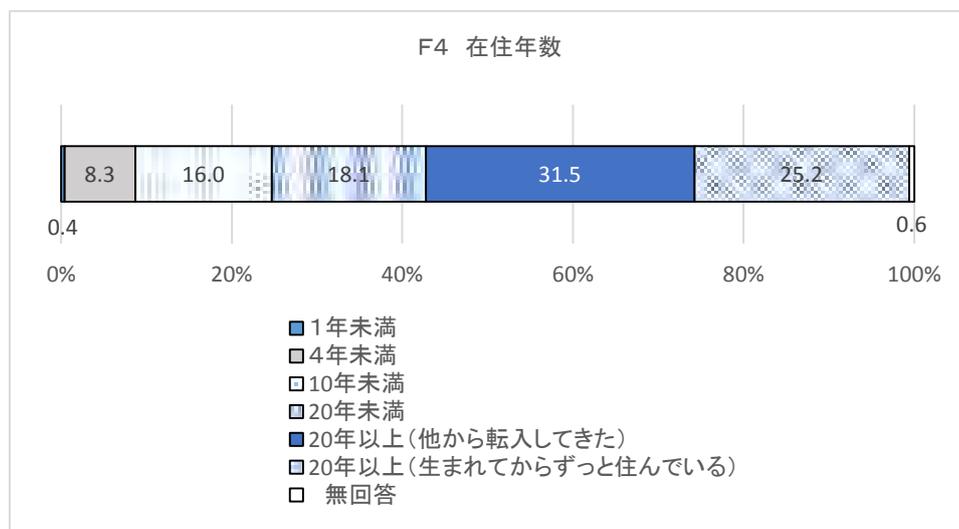
職業別内訳は、「会社員(事務職・その他)」が37.9%で最も多く、次いで「無職」17.2%、「アルバイト・パートタイマー」15.4%、「専業主婦」14.3%となっている。



(4) 居住年数

(4) あなたは「つくば市」に在住して何年になりますか。

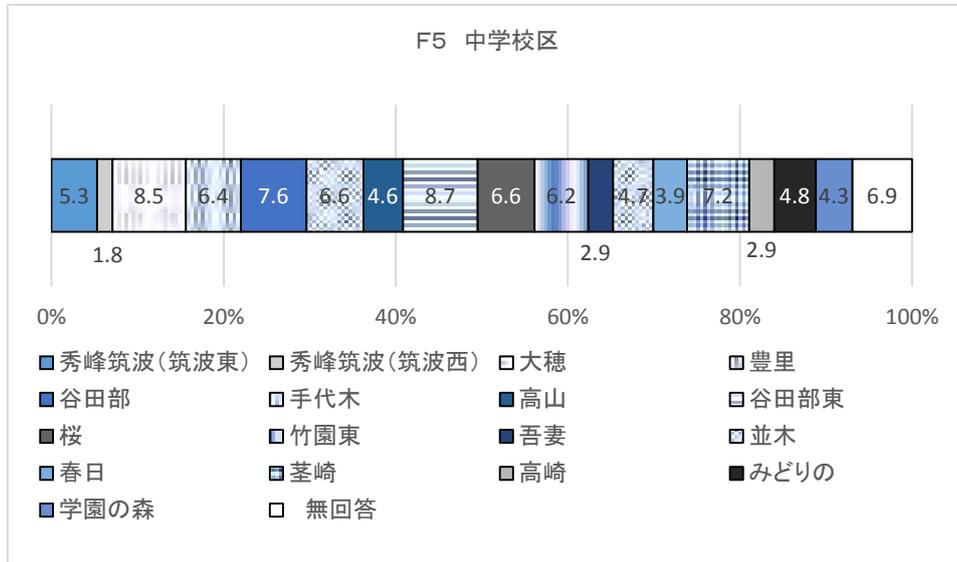
つくば市在住 20 年以上の合計が 56.7%を占めている。



(5) 居住地区

(5) あなたが居住しておられる中学校区はどちらですか。

「谷田部東」8.7%と「大穂」8.5%が8%台、次いで「谷田部」7.6%、「荃崎」7.2%となっている。



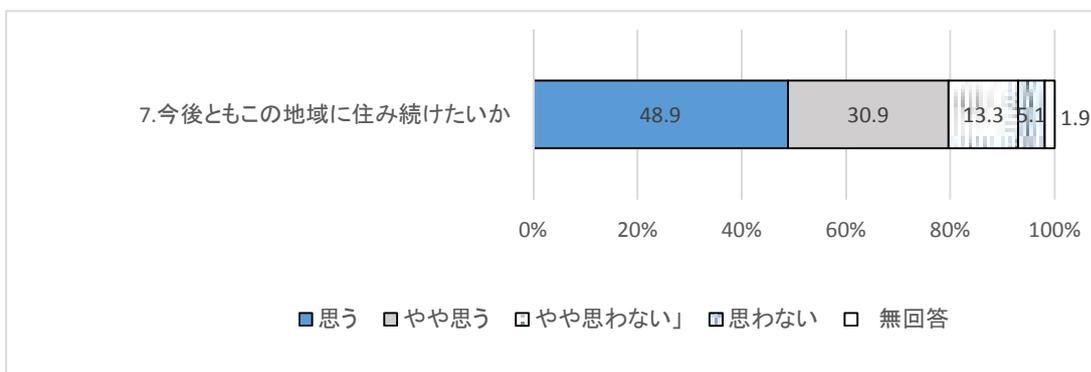
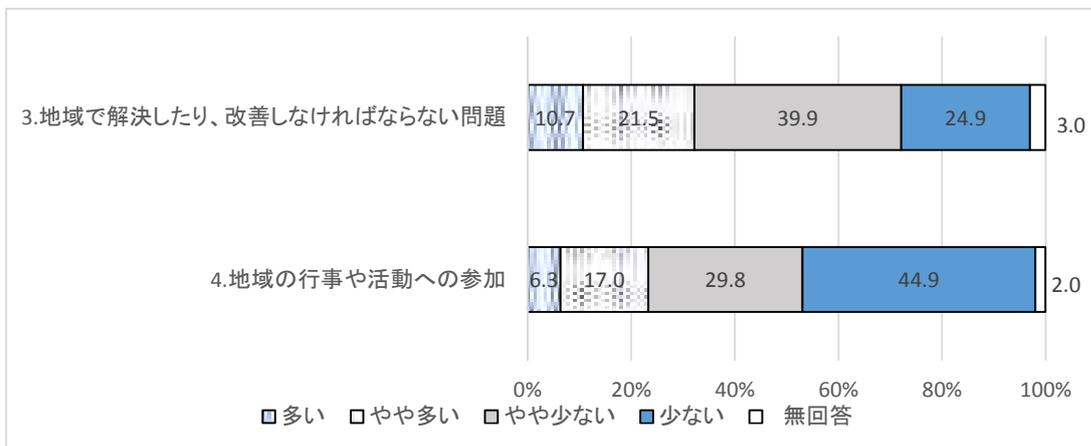
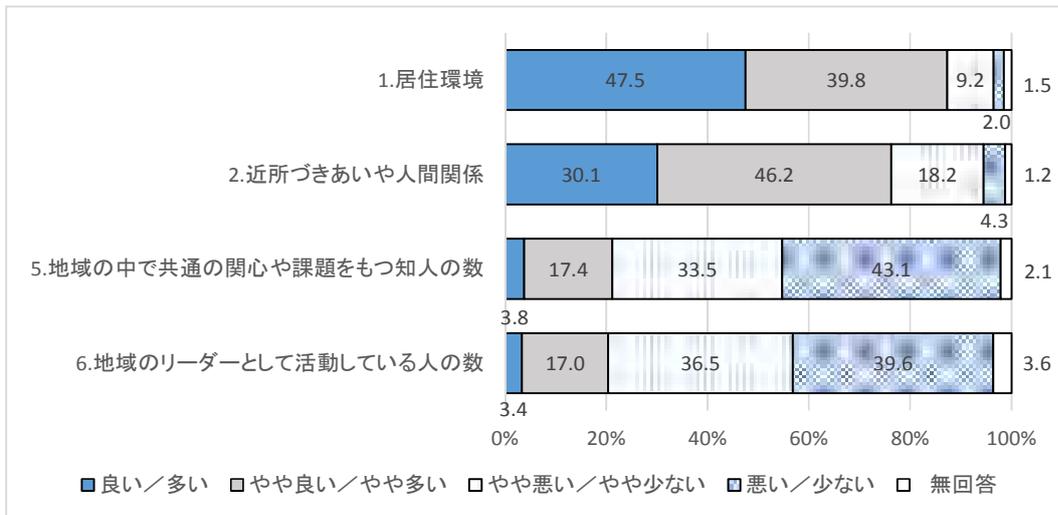
2. 日頃の生活について

(1) 地域への関心度

問1 あなたは普段の生活で下記のようなことについて、どのように感じていますか。下記の質問について、4つの中から1つ選んで、その番号に○をつけてください。

肯定的回答の割合（「良い」+「やや良い」等）をみると、[1. 居住環境] の87.3%が最も高く、次いで [7. 今後ともこの地域に住み続けたいか] 79.8%、[2. 近所づきあいや人間関係] 76.3%、[3. 地域で解決したり、改善しなければならない問題] 64.8%となっている。

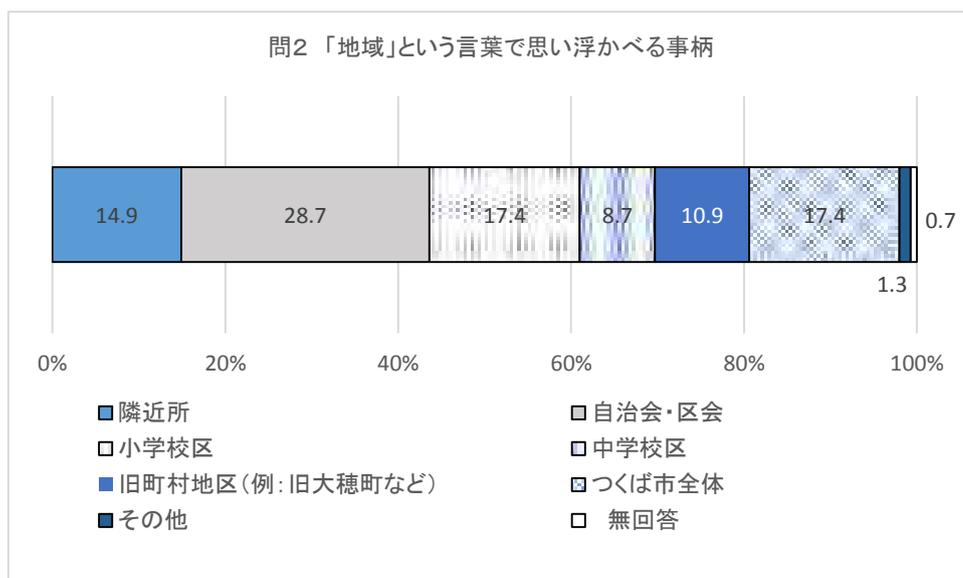
一方、[6. リーダーとして活動している人の数] 20.4%、[5. 地域の中で共通の趣味や話題をもつ友人の数] 21.2%、[4. 地域の行事や活動への参加] 23.3%の3項目は2割を超える程度となっている。



(2)「地域」の範囲

問2 あなたが「地域」という言葉で思いつかべるのは、次のうちどれですか。1つ選んで、その番号に○をつけてください。

「地域」という言葉で思いつかべるものとして、「自治会・区会」が28.7%で特に高く、以下、「小学校区」と「つくば市全体」が17.4%、「隣近所」が14.9%となっている。

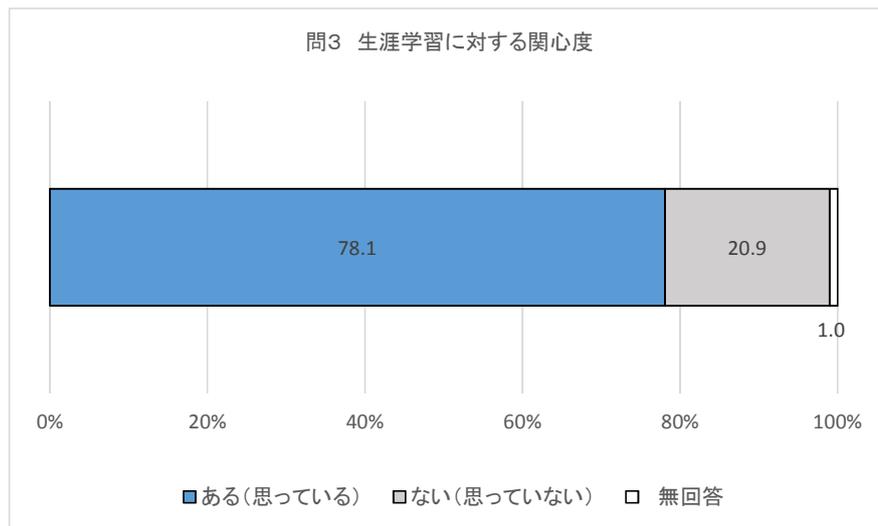


3. 学習について

(1) 学習意向

問3 あなたは、何かを学んだり、身につけたり、技能を高めたりしたいと思っていますか。あてはまる番号に○をつけてください。(現在していることで、今後も続けたいと思っていることも含みます。)

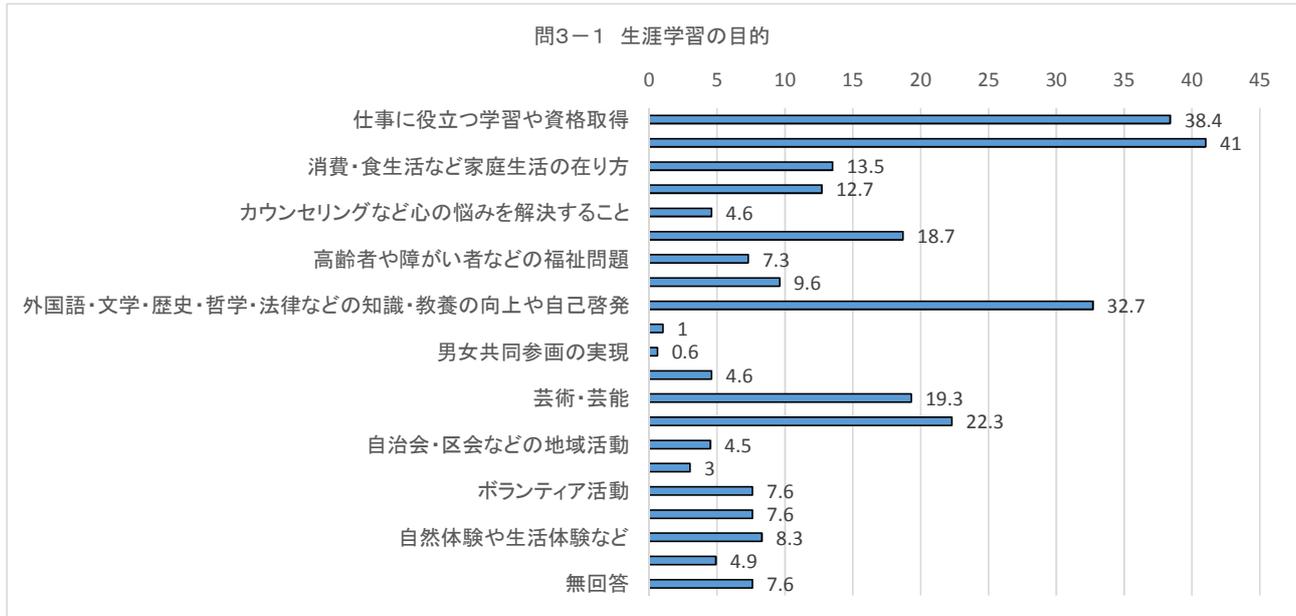
生涯学習に対する関心度は、「ある」が78.1%を占めている。



(2) 学習内容

問3- (1) 思っているとお答えした方に伺います。あなたが学んでみたいことは次のうちどれですか。3つ選んでやってみたい順に口に番号を記入してください。(1つや2つだけでもかまいません。)

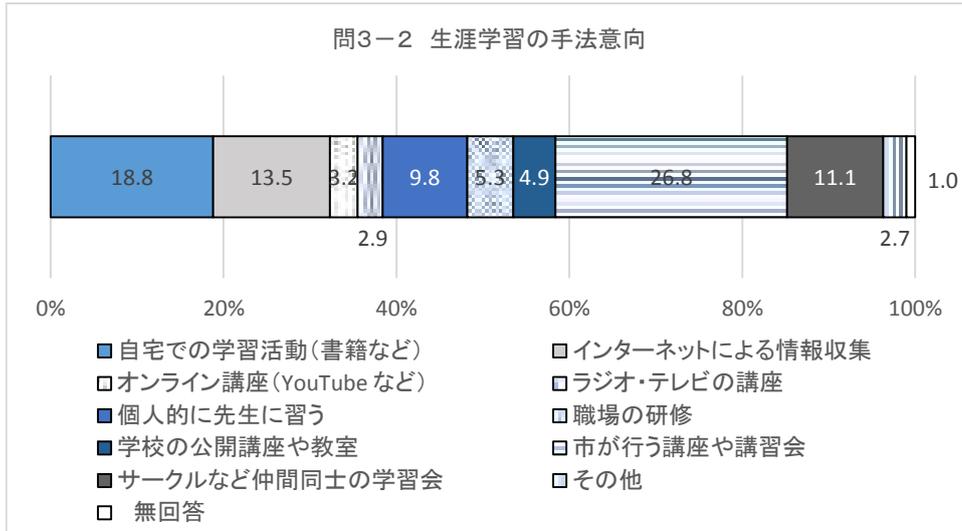
学習意向がある人が希望する学習内容は、「仕事に役立つ学習や資格取得」38.4%と、「外国語・文学・歴史・哲学・法律などの知識・教養の向上や自己啓発」32.7%が3割台、「スポーツ・レクリエーション活動」22.3%、「芸術・芸能」19.3%、「老後の生活設計」18.7%が2割前となっている。



(3) 学習方法

問3- (2) あなたは問3- (1) で1位にあげたものをどのような方法で学びたいと思いますか。主なものを1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

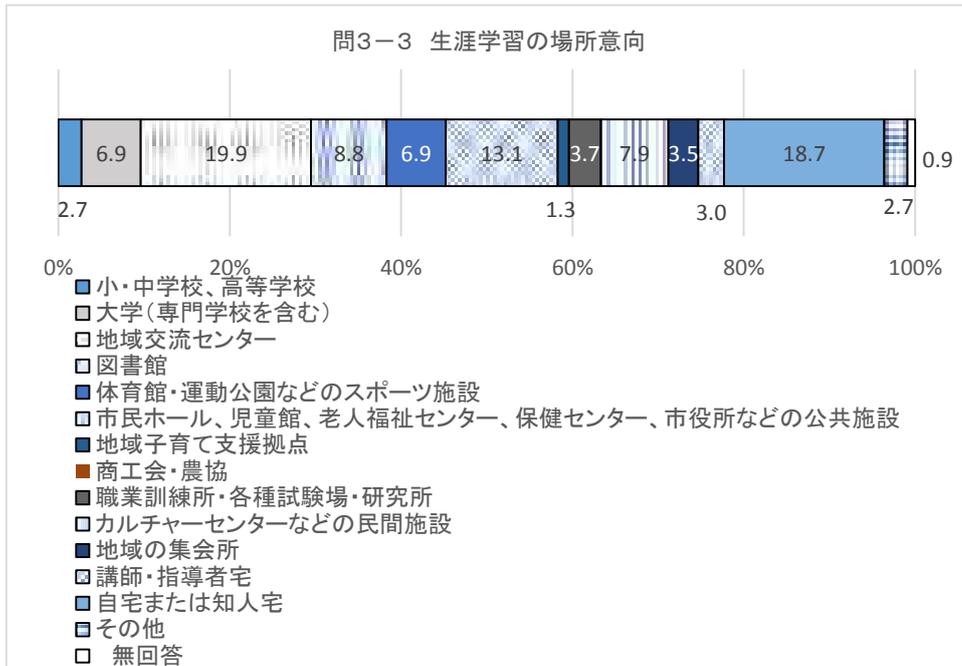
学習意向がある人が希望する学習方法は、「市が行う講座や講習会」が26.8%で最も高く、次いで「自宅での学習活動（書籍など）」18.8%、「インターネットによる情報収集」13.5%、「サークルなど仲間同士の学習会」11.1%となっている。



(4) 利用希望施設

問3- (3) あなたはそれをどの施設を利用し学びたいと思いますか。主なものを1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

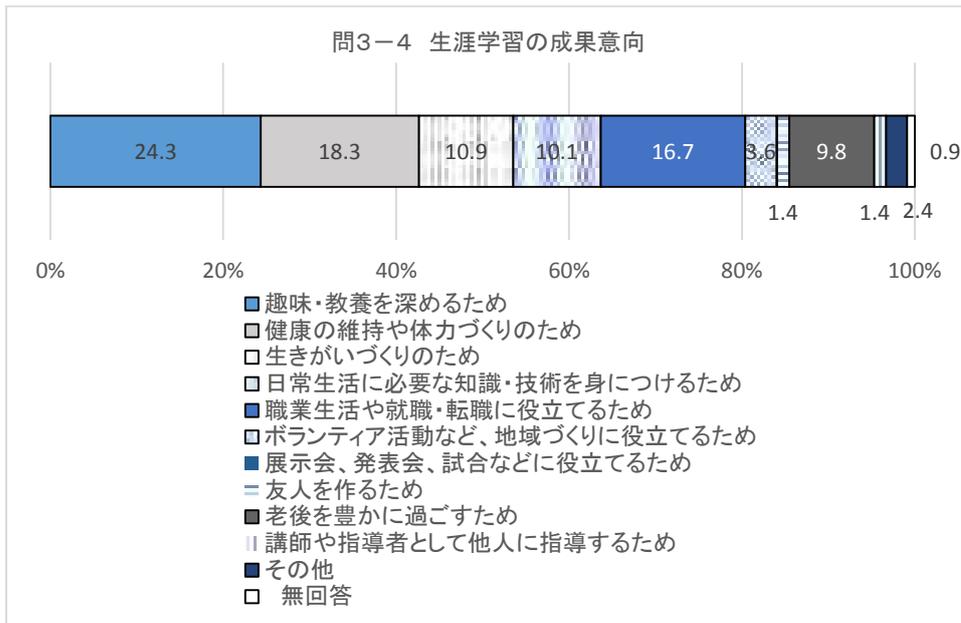
学習意向がある人が希望する学習場所は、「地域交流センター」19.9%と「自宅または知人宅」18.7%が2割弱となっている。



(5) 学習目的

問3－(4) あなたはそれを何のために学びたいと思いますか。主なものを1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

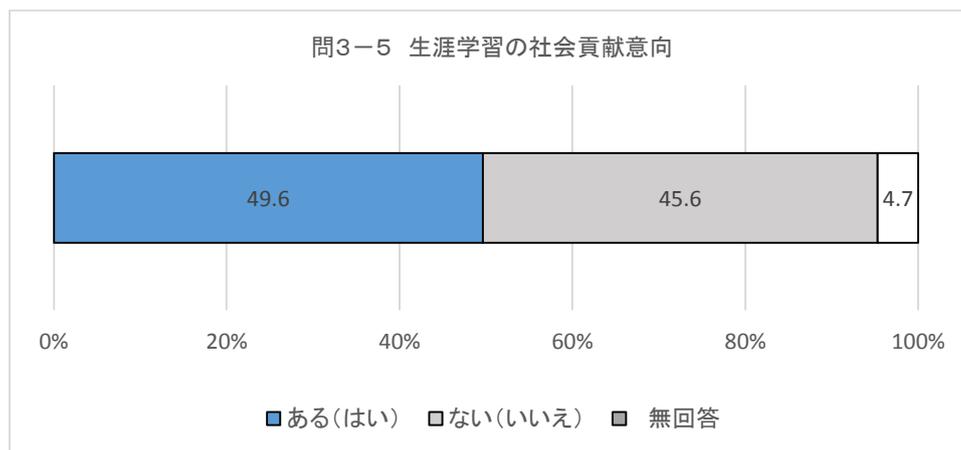
学習意向がある人の学習目的は、「趣味・教養を深めるため」が24.3%で最も高く、次いで「健康の維持・体力作り」18.3%、「職業生活や就職・転職に役立てるため」16.7%となっている。



(6) まちづくり貢献意向

問3－(5) あなたはご自身の学習成果をつくば市のまちづくりに役立てたいと思いますか。どちらかあてはまる番号に○をつけてください。

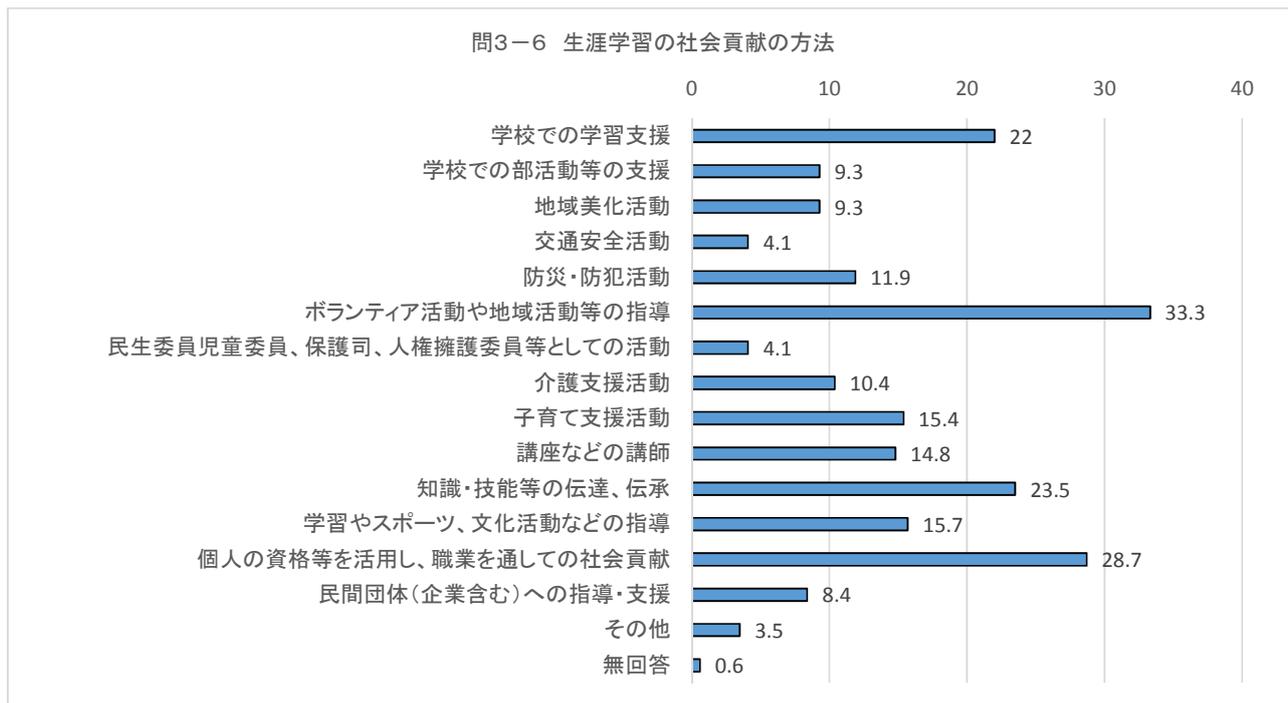
学習意向がある人の社会貢献意向は、「ある」49.6%と「ない」45.6%が拮抗した数字となっている。



(7) 貢献内容

問3－(6) あなたは学習の成果を地域や社会でどのような形で生かしたいと思いますか。○はいくつつけてもかまいません。あてはまる番号に○をつけてください。

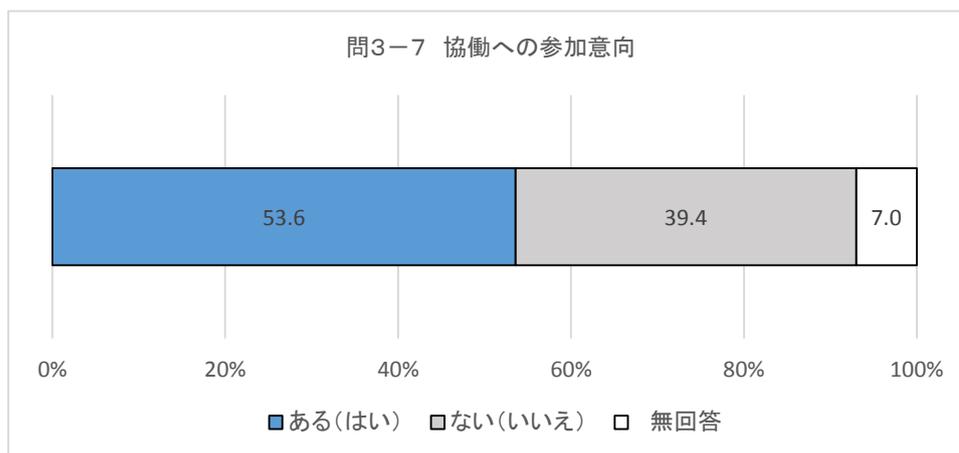
社会貢献意向がある人の貢献内容は、「ボランティア活動や地域活動等の指導」33.3%が唯一3割を超え、以下、「個人の資格等を活用し、職業を通しての社会貢献」28.7%と「知識・技能等の伝達、伝承」23.5%が2割台となっている。



(8) 市民協働参加意向

問3-(7) あなたは今後、「市民協働」のまちづくりを進めていくために、その担い手として参加したいと思いますか。どちらかあてはまる番号に○をつけてください。

社会貢献意向がある人の市民協働まちづくり参加意向は、「ある」が53.6%で半数を超えている。

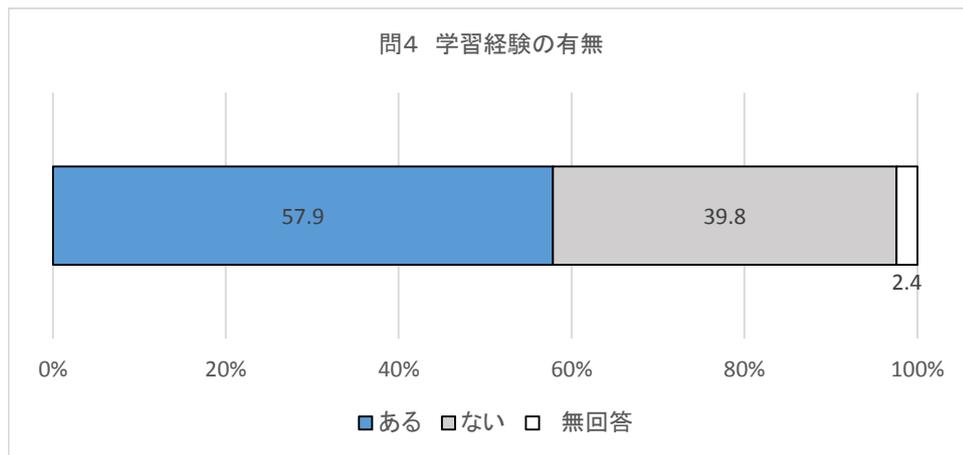


4. 最近1年間の学習について

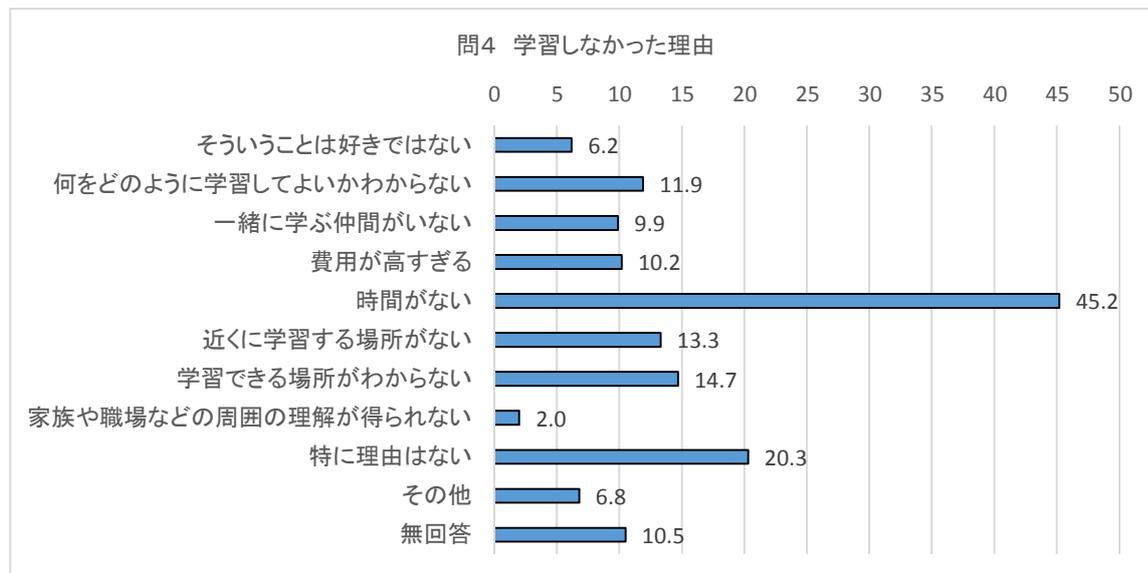
(1) 最近1年間学習経験

問4 あなたはこの1年間に何かを学んだり、身につけたり、技能を高めたりしたことがありますか。どちらかあてはまる番号に○をつけてください。
(講座・教室に参加したり、展示会、演奏会、講演会などに行ったりするだけでなく、先生やコーチについたり、本を読んだり、テレビやラジオを見たり聞いたりして学んだことを含みます。)

過去1年間の学習経験は、「ある」が57.9%で6割近くとなっている。



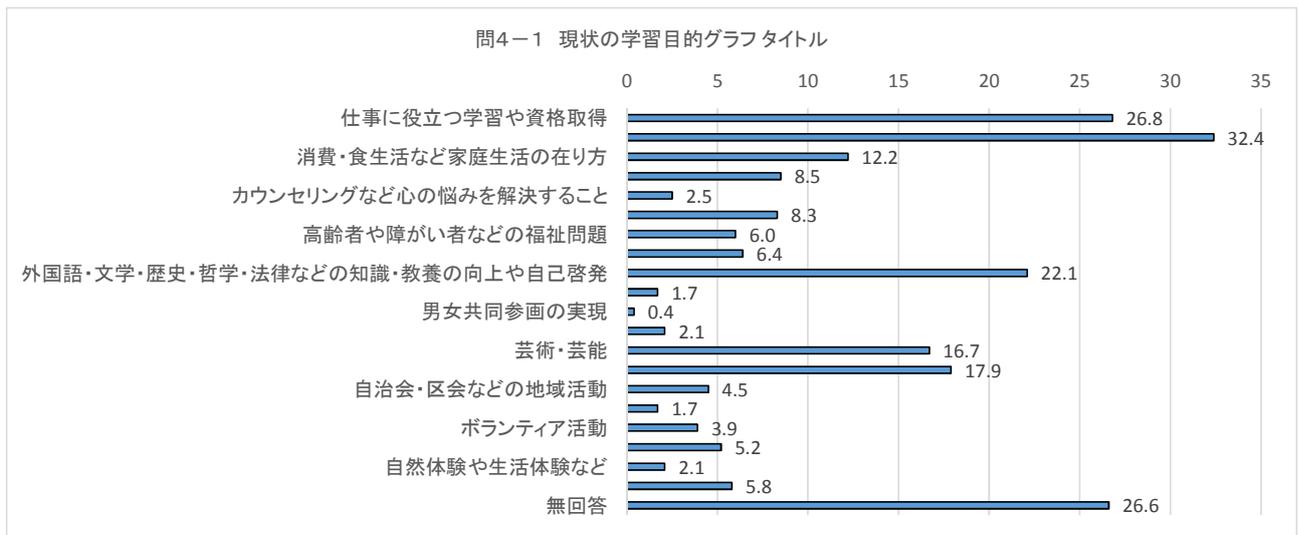
過去1年間に学習経験がない人の理由は、「時間がない」が45.2%で特に高く、以下、「特に理由はない」20.3%、「学習できる場所がわからない」14.7%、「近くに学習する場所がない」13.3%となっている。



(2) 学習内容

問4－(1) あなたが学習していたことはどのようなことですか。3つ選び最も力を入れたものの順に口に番号を記入してください。

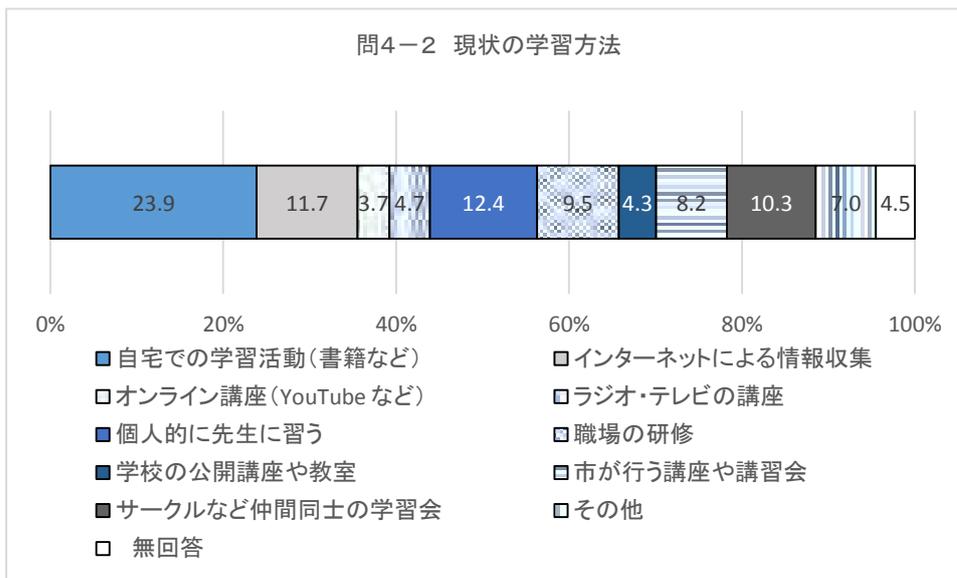
過去1年間学習経験者が学習した内容は、「仕事に役立つ学習や資格取得」32.4%が唯一3割を超えており、以下「仕事に役立つ学習や資格取得」26.8%、「外国語・文学・歴史・哲学・法律などの知識・教養の向上や自己啓発」22.1%が2割台となっている。



(3) 学習方法

問4－(2) あなたはそれをどのような方法で学びましたか。主なものを1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

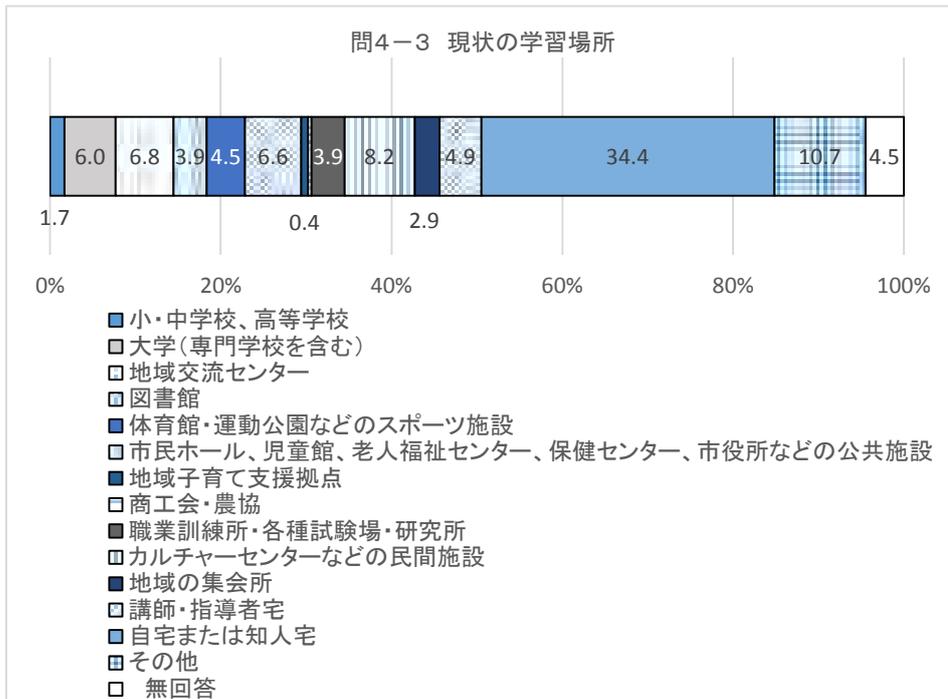
過去1年間学習経験者の学習方法は、「自宅での学習活動（書籍など）」が23.9%がで最も高く、次いで「個人的に先生に習う」12.4%、「インターネットによる情報収集」11.7%、「サークルなど仲間同士の学習会」10.3%となっている。



(4) 学習場所

問4－(3) あなたはそれをどこで学びましたか。主なものを1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

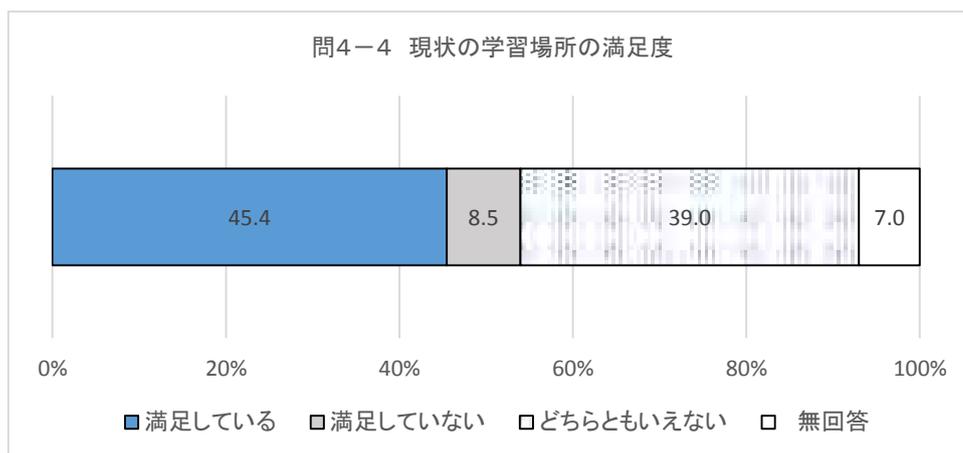
過去1年間学習経験者の学習場所は、「自宅・知人宅」が34.4%で特に高く、他はいずれも1割未満となっている。



(5) 学習場所満足度

問4ー(4) あなたはその場所に満足していますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

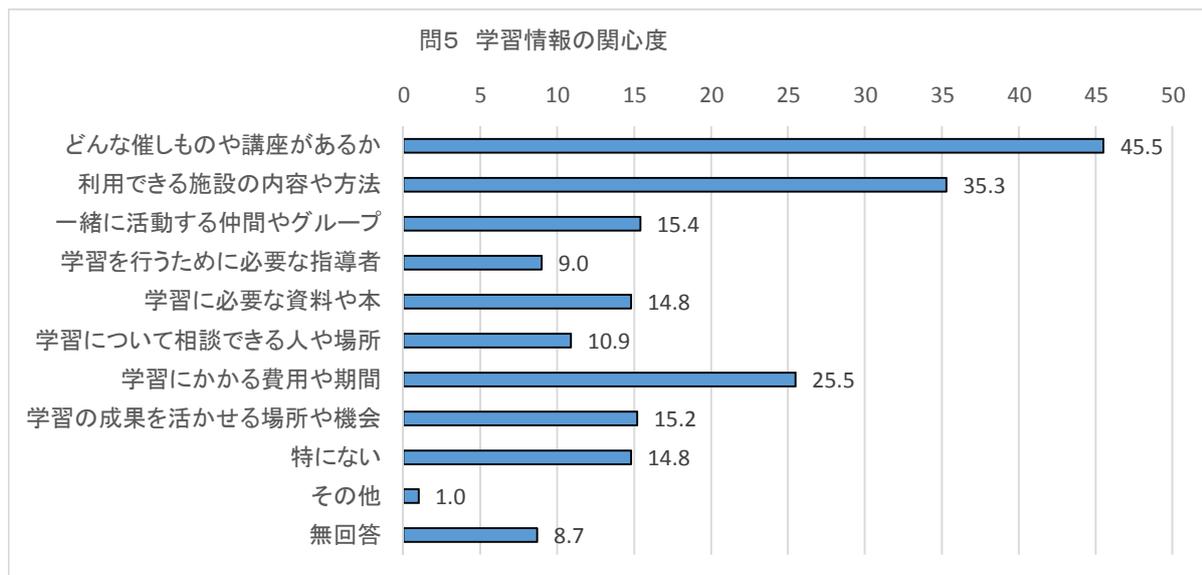
過去1年間学習経験者の学習場所に対する満足度は、「満足している」が45.4%、「どちらともいえない」が39.0%となっている。



(7) 関心のある学習情報

問5 あなたは、学習に関する情報として、今どのようなことを知りたいですか。主なものを3つまで選んで、その番号に○をつけてください。(1つや2つでもかまいません)

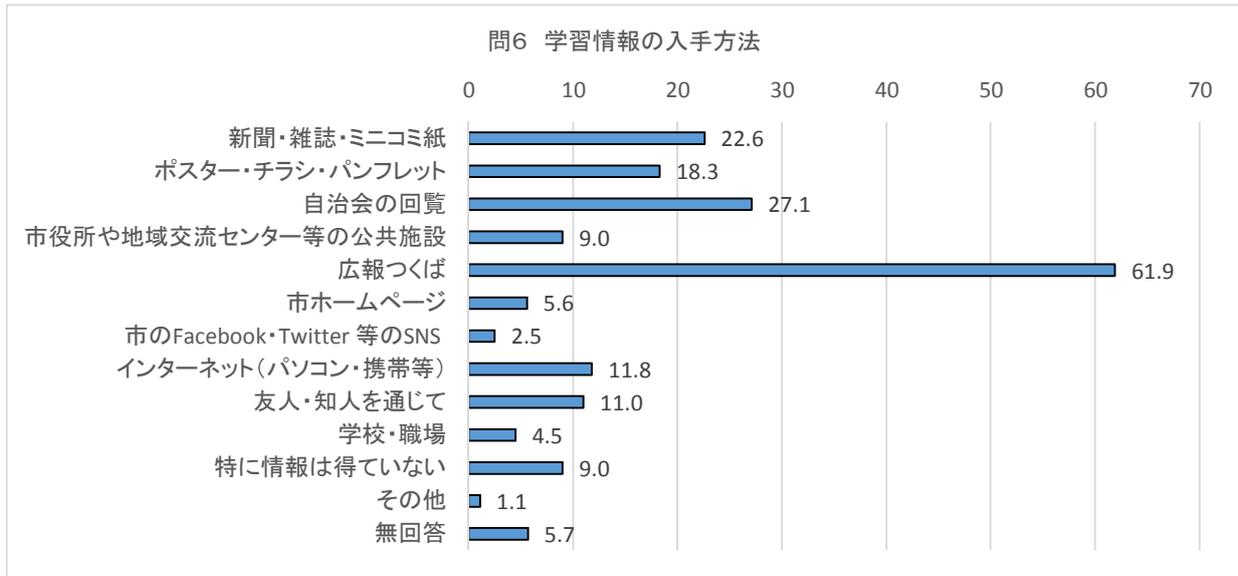
知りたいと思う学習情報は、「どんな催しものや講座があるか」が45.5%とで最も高く、次いで「利用できる施設の内容や方法」35.3%、「学習にかかる費用や期間」25.5%となっている。



(8) 学習情報入手先

問6 あなたは、市が行う講座や講習会の情報をどのようにして知ることが多いですか。主なものを3つまで選んでその番号に○をつけてください。(1つや2つでもかまいません)

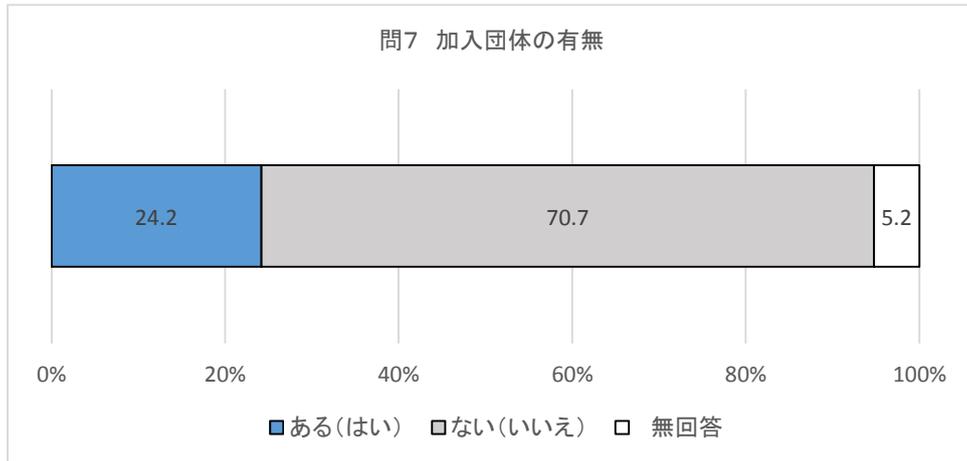
学習情報の入手方法は、「広報つくば」が61.9%と特に高く、次いで「自治会の回覧」27.1%、「新聞・雑誌・ミニコミ紙」22.6%となっている。



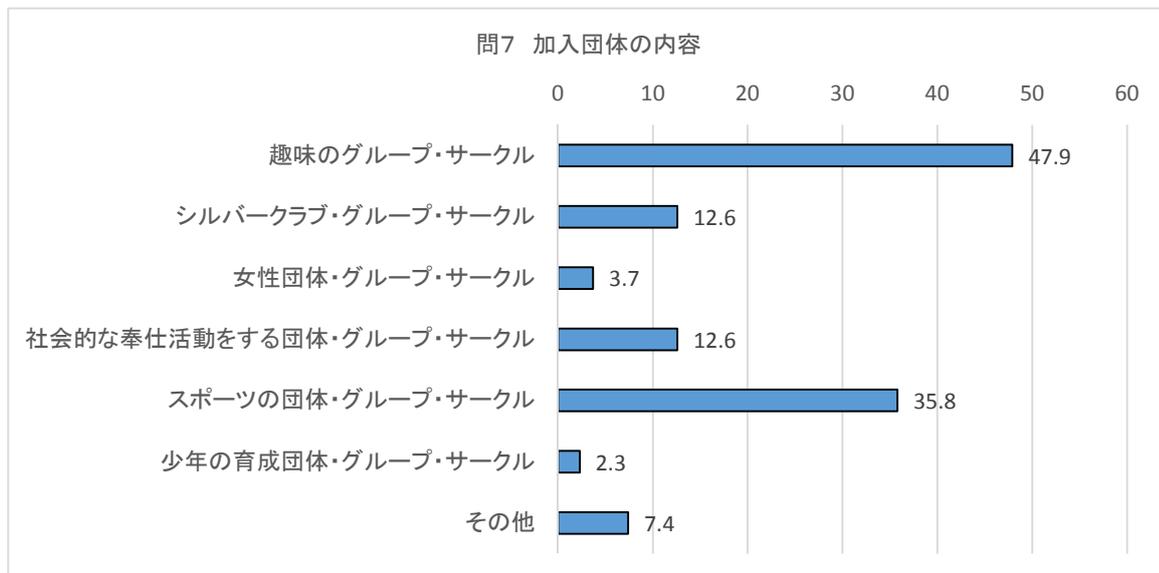
(9) 団体等加入状況

問7 あなたは、現在、何か地域団体・クラブ・サークルに入っていますか。どちらかあてはまる番号に○をつけてください。(ただし、学校のクラブは除きます。)

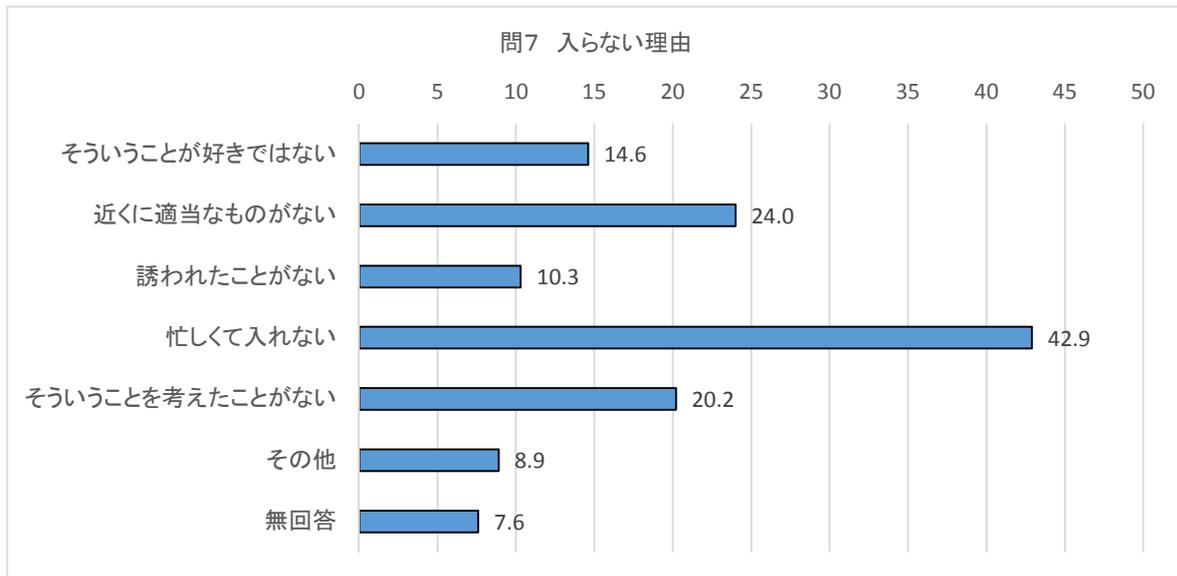
地域団体やクラブ・サークル等の加入率は24.2%であり、非加入の70.7%を大きく下回っている。



加入者の所属団体は、「趣味のグループ・サークル」が47.9%と半数近くを占め、「スポーツの団体・グループ・サークル」35.8%がこれに次いでいる。



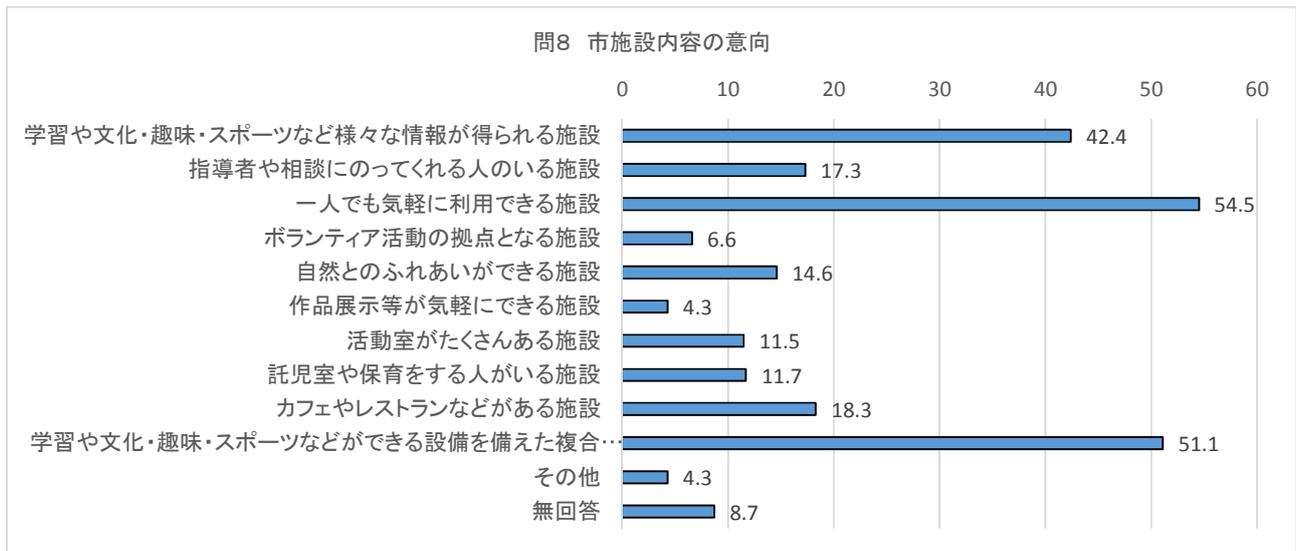
非加入者の非加入理由は、「忙しくて入れない」42.9%が特に高く、次いで「近くに適切なものがない」24.0%、「そういうことを考えたことがない」20.2%となっている。



(10) 活動に必要な施設

問8 あなたが学習や文化・趣味・スポーツなどの活動を行うために、つくば市にはどのような施設が必要だと考えますか。下記の選択項目の中から、主なものを3つ選んで必要だと考える順に口に番号を記入してください。(1つや2つだけでもかまいません。)

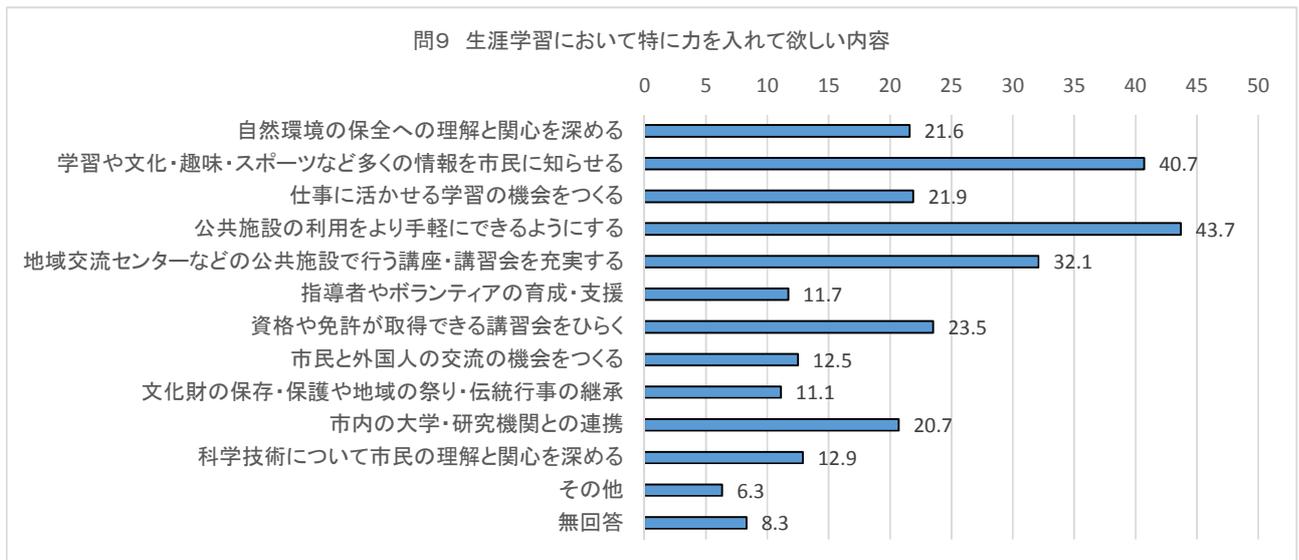
学習等の活動を行う上で必要と思われる施設は、「一人でも気軽に利用できる施設」54.5%と「学習や文化・趣味・スポーツなどができる設備を備えた複合施設」51.1%が5割を超え、「学習や文化・趣味・スポーツなど様々な情報が得られる施設」42.4%がこれらに次いでいる。



(11) 市に力を入れて欲しいこと

問9 あなたは、下記の選択項目で、今後つくば市に力を入れて欲しいと思うのはどれですか。力を入れて欲しい順に3つ選んで口に番号を記入してください。

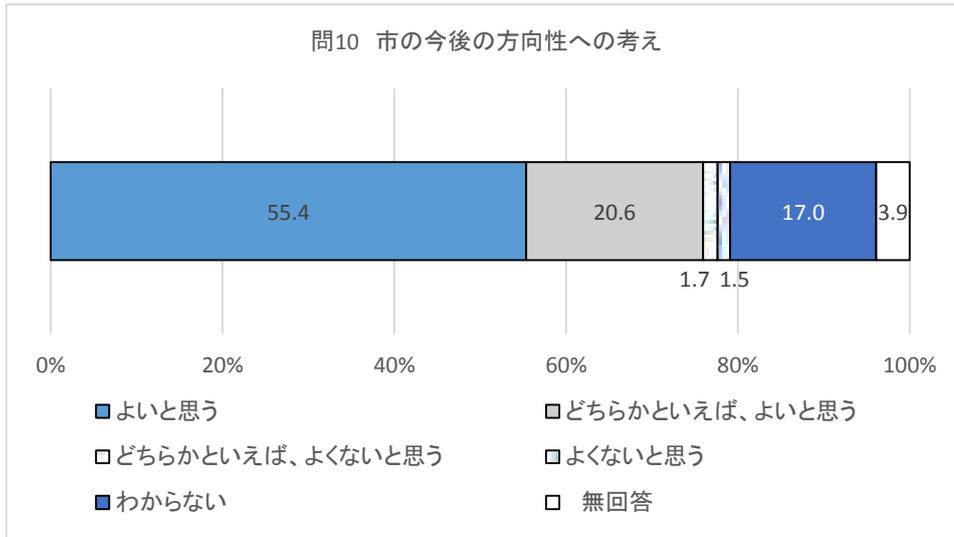
生涯学習で市に力を入れて欲しい内容は、上位から「公共施設の利用をより手軽にできるようにする」43.7%と「学習や文化・趣味・スポーツなど多くの情報を市民に知らせる」40.7%が4割を超え、以下「地域交流センターなどの公共施設で行う講座・講習会を充実する」32.1%、「資格や免許が取得できる講習会をひらく」23.5%となっている。



(12) 社会力向上に関して

問 10 つくば市では、これから生涯学習や社会教育を充実することで、市民一人ひとりの社会力を高めるよう努めてきておりますが、市のこのような考え方や今後の方向性について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。

市民の社会力を高めようとする市の方向性に関しては、「よいと思う」55.4%が過半数を占めている。一方、「よくないと思う」と「どちらかといえば、よくないと思う」の合計は3.2%となっている。



平成24年度

生涯学習に係る市民意識調査の集計結果について

報告書

平成25年3月

つくば市

【目次】

I	調査の概要	
1.	調査の目的	1
2.	調査の方法	1
3.	回収結果	1
II	調査の結果	
1.	回答者属性の内訳	2
(1)	性別	2
(2)	年代	2
(3)	職業別	3
(4)	在住年数	4
(5)	中学校区	4
2.	市民意識調査の各項目の集計結果	6
(1)	自由時間の過ごし方【問1－(1)】	6
(2)	自由時間の現状【問1－(2)】	9
(3)	地域への関心度【問2】	10
(4)	地域の定義意向【問3】	11
(5)	生涯学習に対する関心度【問4】	12
(6)	生涯学習の目的意向【問4－(1)】	13
(7)	生涯学習の手法意向【問4－(2)】	14
(8)	生涯学習の場所意向【問4－(3)】	15
(9)	生涯学習の成果意向【問4－(4)】	16
(10)	生涯学習の社会貢献意向及びその方法意向【問4－(5)・(6)】	17
(11)	協働への参加意向【問4－(7)】	18
(12)	学習の現状及び学習の阻害要因【問5】	19
(13)	現状の学習目的【問5－(1)】	21
(14)	現状の学習方法【問5－(2)】	22
(15)	現状の学習場所及び満足度【問5－(3)・(4)】	23
(16)	学習情報の関心度【問6】	24
(17)	学習情報の入手方法【問7】	24
(18)	団体への帰属度【問8】	25
(19)	NPO法人への帰属度【問8－(1)】	26
(20)	学習費用の意向【問9】	27
(21)	市主催事業の費用負担の意向【問10】	27
(22)	市施設内容の意向【問11】	28
(23)	市へ期待する生涯学習の振興方策意向【問12・問13】	29
(24)	自由意見・要望【問14】	30
III	まとめ	
1.	生涯学習の関心度について	31
2.	学習成果の社会への貢献について	32
3.	生涯学習施設について	33
4.	今後の生涯学習振興方策について	33

IV 資料

【添付資料1】自由意見・要望.....	36
【添付資料2】調査票.....	47
【添付資料3】つくば市年齢別人口統計表.....	55

I 調査の概要

1. 調査の目的

つくば市では、生涯学習関連事業を体系的かつ効率よく推進するために平成 18 年に生涯学習推進基本計画を策定し、平成 27 年度を目標年度とする 10 カ年計画を定めている。

この計画の後期期間にあたり、社会情勢の変化に応じた見直しを行い、さらに今後策定する第 2 次生涯学習推進基本計画の基礎資料とする目的で、市民の学習・文化・スポーツなどの活動についての意見をきき、多様化する生涯学習に関する市民のニーズについて調査を行った。

2. 調査の方法

- (1) 調査地域： つくば市全域
- (2) 対象者： 市内在住の 20 歳以上 79 歳までの男女 2,400 人
- (3) 収集方法： 無作為抽出
- (4) 調査期間： 平成 24 年 11 月 1 日～11 月 19 日
- (5) 調査方法： 調査票を郵送にて配布・回収

3. 回収結果

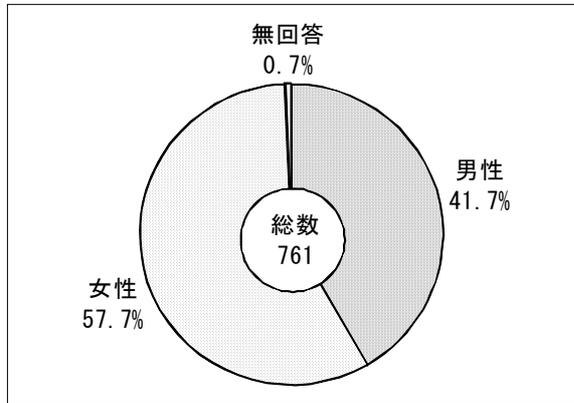
配布数	2,400
有効回収数	761
有効回収率 (%)	31.7

Ⅱ 調査の結果

1. 回答者属性の内訳

(1) 性別

男性 41.7%、女性 57.5%で女性が過半数となっている。



(過去に実施した生涯学習に係る市民意識調査)

項目名	2012年		2004年	1993年
	集計値	構成比 (%)	構成比 (%)	構成比 (%)
全体	761	100.0	100.0	100.0
男性	317	41.7	44.6	45.5
女性	439	57.7	55.0	52.7
無回答	5	0.7	0.4	1.9

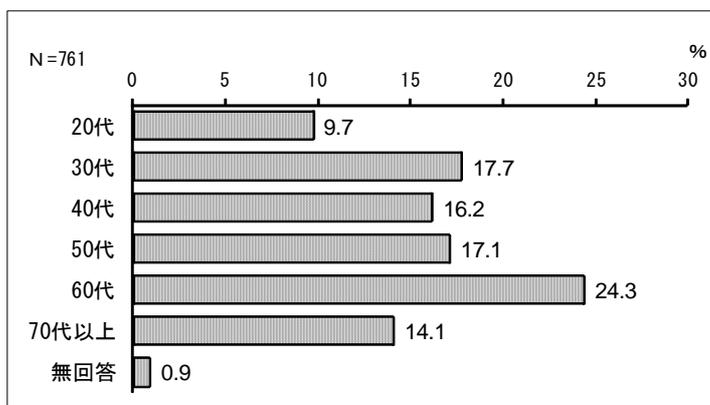
2012年の有効票数 (N) = 761

2004年の有効票数 (N) = 1061

1993年の有効票数 (N) = 1403

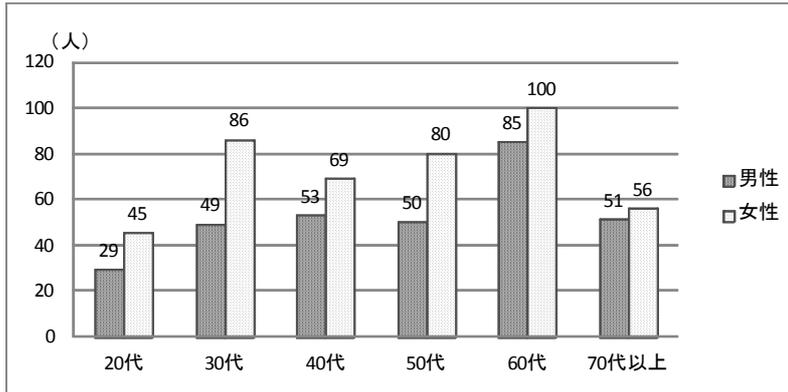
(2) 年代

60代が24.3%ともっとも比率が高く、次いで30代 17.7%、50代 17.1%となっている。



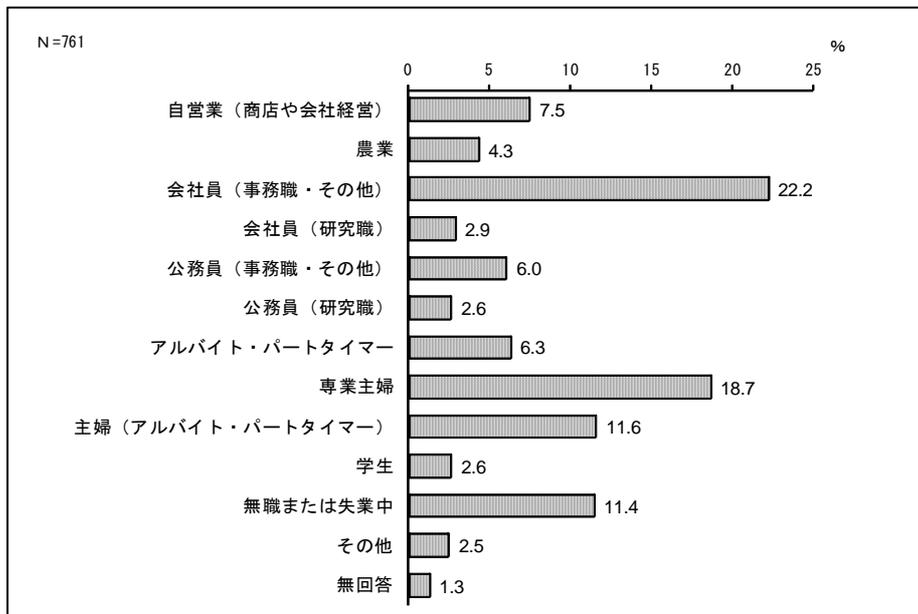
項目名	集計値	構成比 (%)
全体	761	100.0
20代	74	9.7
30代	135	17.7
40代	123	16.2
50代	130	17.1
60代	185	24.3
70代以上	107	14.1
無回答	7	0.9

また、年齢別男女内訳では、30代で女性が男性の約1.8倍と開きが大きい。



(3) 職業別

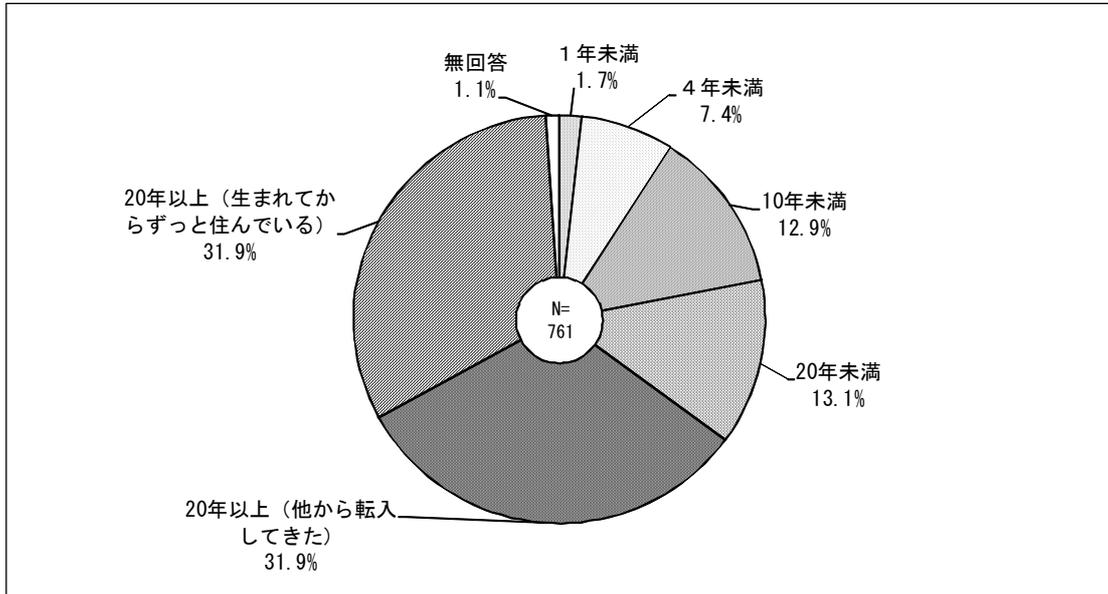
職業別内訳は、「会社員(事務職・その他)」が22.2%で最も比率が高く、次いで「専業主婦」が18.7%となっている。また、前回調査と比較して、「アルバイト・パートタイマー」及び「無職または失業中」の比率が上がっている。



項目名	2012年		2004年	1993年
	集計値	構成比 (%)	構成比 (%)	構成比 (%)
全体	761	100.0	100.0	100.0
自営業 (商店や会社経営)	57	7.5	9.3	9.3
農業	33	4.3	4.0	11.5
会社員 (事務職・その他)	169	22.2	19.5	20.2
会社員 (研究職)	22	2.9	3.4	4.6
公務員 (事務職・その他)	46	6.0	6.9	9.3
公務員 (研究職)	20	2.6	5.2	5.3
アルバイト・パートタイマー	48	6.3	2.4	6.0
専業主婦	142	18.7	12.8	16.6
主婦 (アルバイト・パートタイマー)	88	11.6	8.4	10.9
学生	20	2.6	4.3	4.0
無職または失業中	87	11.4	6.0	8.7
その他	19	2.5	4.1	5.1
無回答	10	1.3	2.0	0.5

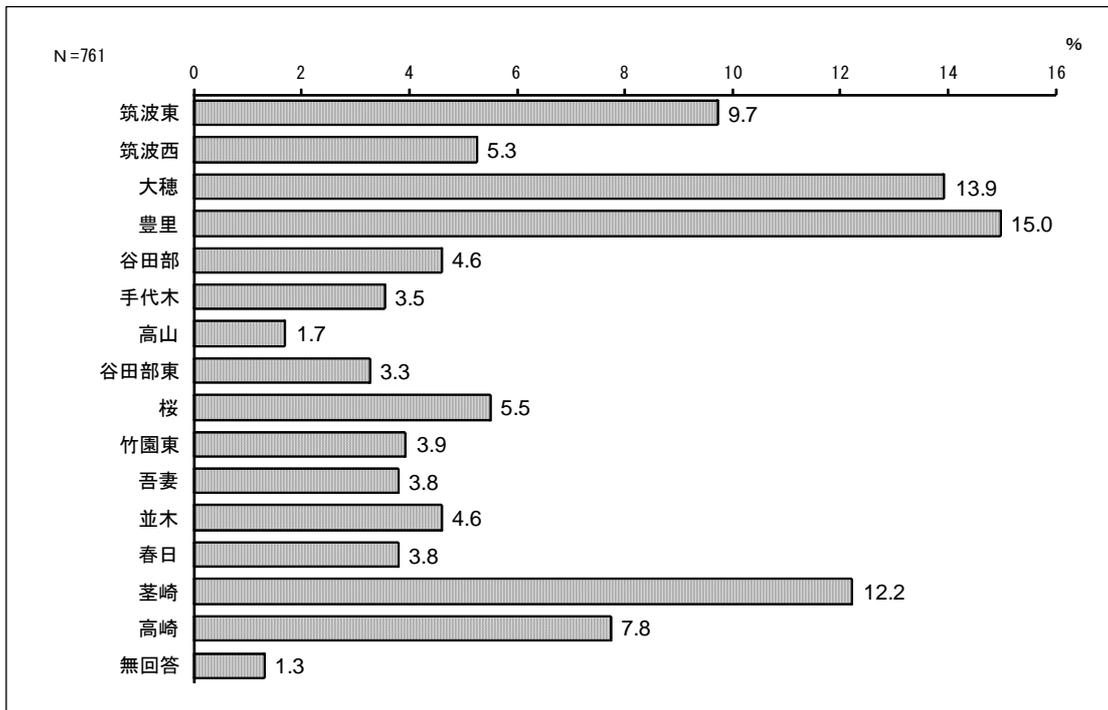
(4) 在住年数

つくば市在住 20年以上の合計が6割以上を占めている。

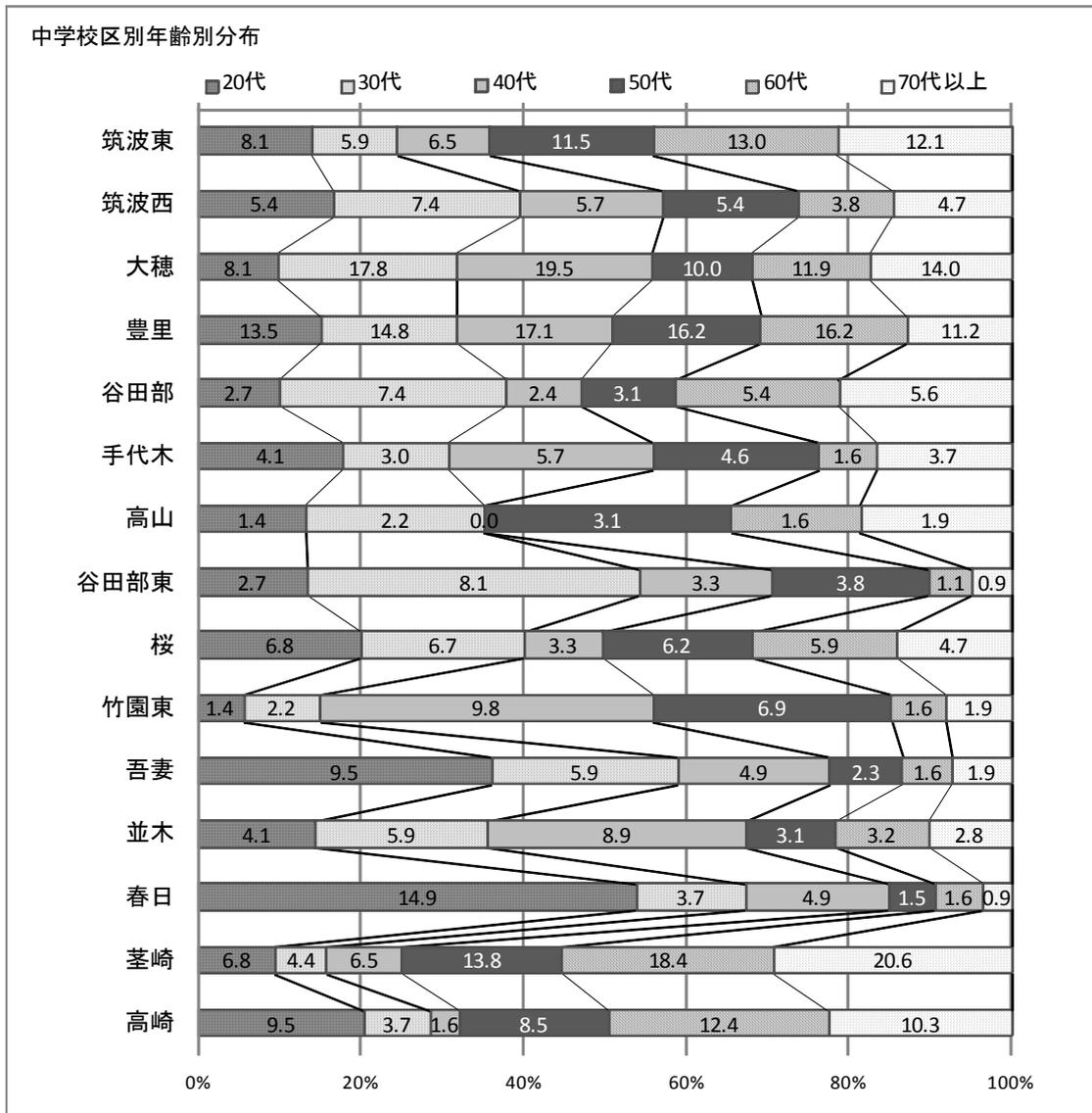


(5) 中学校区

「豊里」が15.0%と最も多く、次いで、「大穂」13.9%、荃崎12.2%となっている。



また、地区ごとの年齢別内訳については、「つくば市年齢別人口統計表」*とほぼ同様な比率となっている。

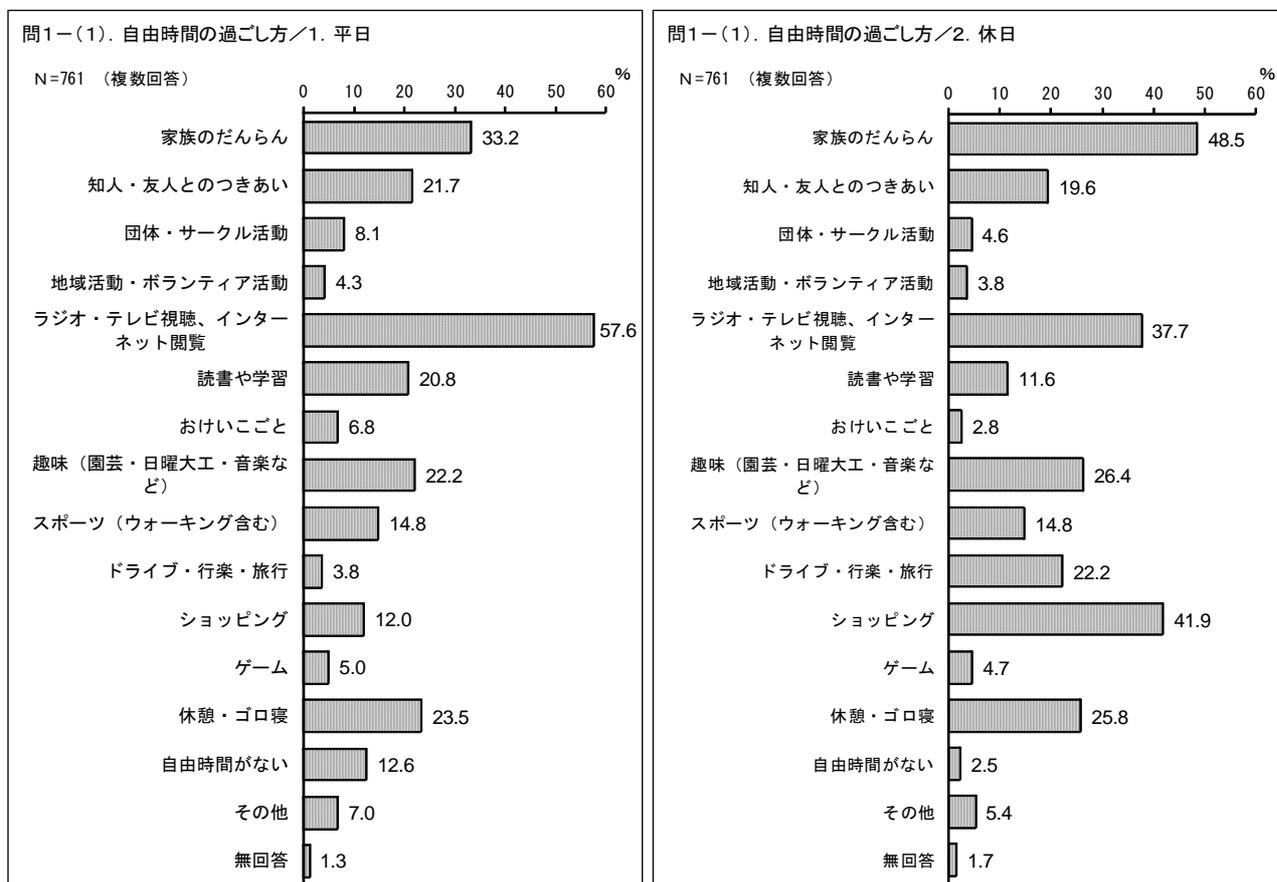


* (添付資料3 「つくば市年齢別人口統計表」参照)

2. 市民意識調査の各項目の集計結果

(1) 自由時間の過ごし方【問1-(1)】

①自由時間の過ごし方（平日・休日）



平日では、「ラジオ・テレビ視聴、インターネット閲覧」が過半数となりもっとも多く、ついで、「家族のだんらん」が3割をしめる。

休日では、「家族のだんらん」が48.5%と約半数を占め、ついで「ショッピング」が41.9%、「ラジオ・テレビ視聴、インターネット閲覧」が37.7%となっている。

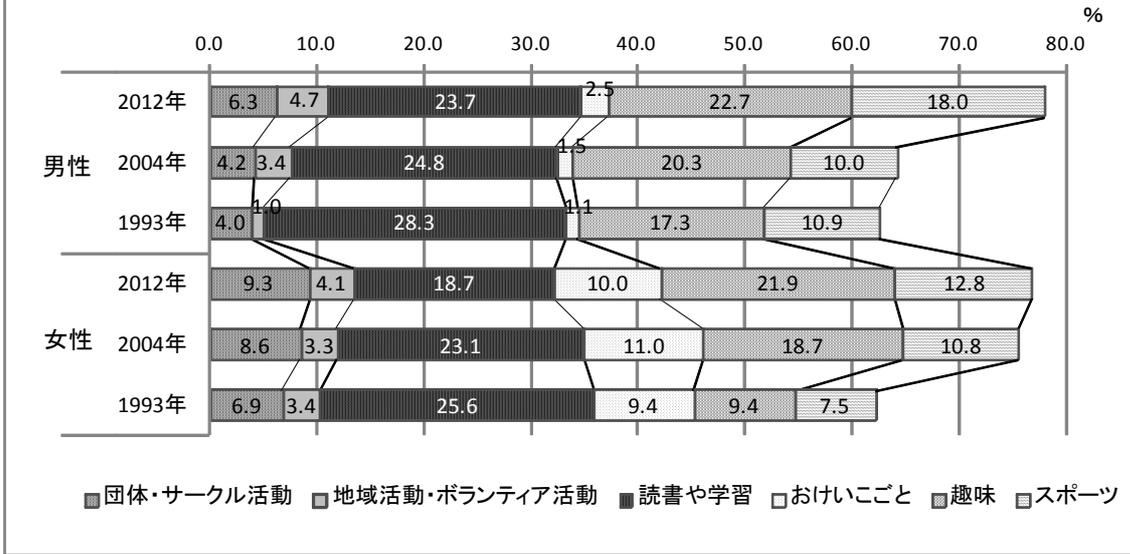
②学習的余暇活動

問1-(1). 自由時間の過ごし方

項目名【3つまでの複数回答】	平日				休日			
	2012年		2004年	1993年	2012年		2004年	1993年
	集計値	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)	集計値	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)
全体	761	100.0	100.0	100.0	761	100.0	100.0	100.0
学習的余暇活動								
読書や学習	158	20.8	23.8	26.8	88	11.6	12.9	12.5
おけいごと	52	6.8	6.7	5.6	21	2.8	2.1	1.5
趣味(園芸・日曜大工・音楽など)	169	22.2	19.4	16.2	201	26.4	29.1	24.4
スポーツ(ウォーキング含む)	113	14.8	10.5	9.1	113	14.8	12.4	13.8
団体・サークル活動	62	8.1	6.7	5.6	35	4.6	4.0	2.7
地域活動・ボランティア活動	33	4.3	3.2	2.6	29	3.8	2.9	1.6
家族のだんらん	253	33.2	32.5	30.6	369	48.5	45.4	36.4
知人・友人とのつきあい	165	21.7	23.0	24.3	149	19.6	21.8	20.7
ラジオ・テレビ視聴、インターネット閲覧	438	57.6	50.6	52.0	287	37.7	31.6	31.4
ドライブ・行楽・旅行	29	3.8	3.0	2.1	169	22.2	25.1	26.9
ショッピング	91	12.0	20.1	17.8	319	41.9	48.1	36.4
ゲーム	38	5.0	-	-	36	4.7	-	-
休憩・ゴロ寝	179	23.5	20.0	18.7	196	25.8	31.4	29.4
その他	53	7.0	6.7	5.2	41	5.4	5.9	5.5
自由時間がない	96	12.6	16.3	16.8	19	2.5	2.3	3.2
学習的余暇活動の合計(%)		77.1	70.3	65.9		64.0	63.4	56.5

学習的余暇活動（「読書や学習」、「おけいごと」、「趣味」、「スポーツ」、「団体・サークル活動」、「地域活動・ボランティア活動」）については、平日が77.1%、休日が64.0%となり、前回調査に比べ微増となっている。

性別にみた学習的余暇活動

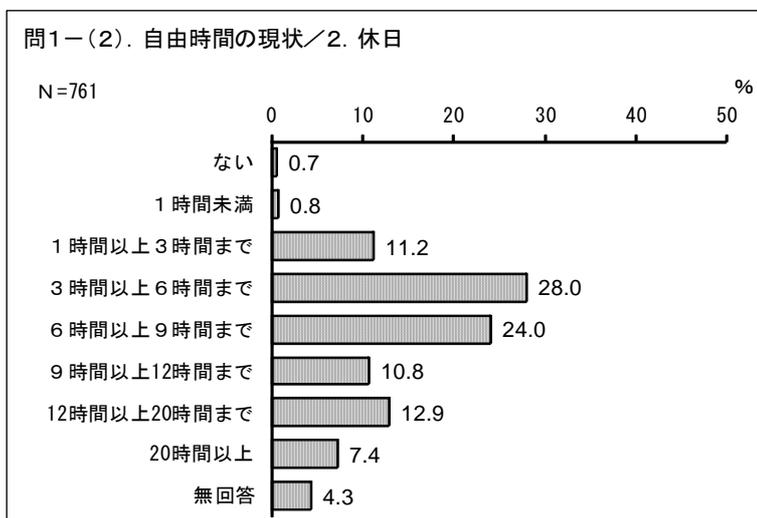
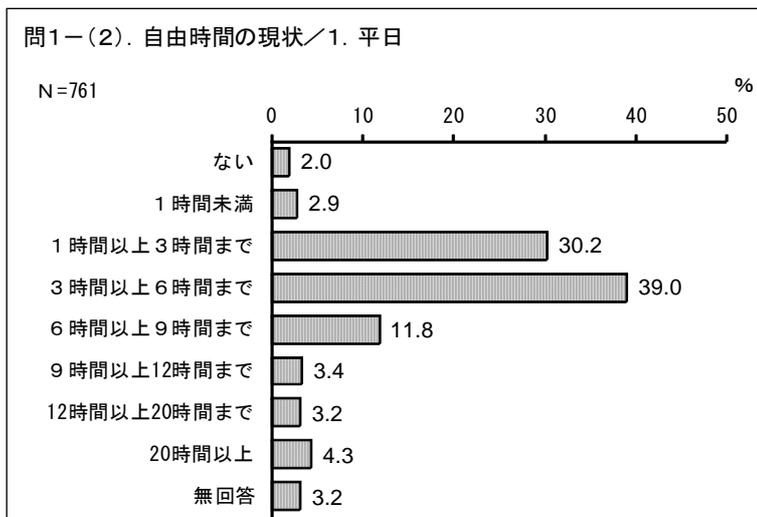


年齢別にみた学習的余暇活動

	(調査年)	団体・サークル活動	地域活動・ボランティア活動	読書や学習	おけいごと	趣味 (園芸・日曜大工・音楽など)	スポーツ (ウォーキング含む)	学習的余暇活動の合計 (%)
20代	2012年	8.1	2.7	27.0	1.4	13.5	9.5	62.2
	2004年	8.3	2.8	27.8	3.5	17.4	9.0	68.8
	1993年	8.1	0.4	38.9	6.0	14.1	10.7	78.2
30代	2012年	4.4	0.7	18.5	4.4	11.1	7.4	46.7
	2004年	5.9	3.4	23.2	5.9	12.8	6.4	57.6
	1993年	4.9	1.4	33.0	5.9	10.8	10.4	66.4
40代	2012年	3.3	1.6	27.6	4.9	14.6	7.3	59.3
	2004年	3.7	0.5	26.5	6.4	12.8	13.7	63.6
	1993年	5.5	1.5	25.9	5.1	11.7	7.9	57.6
50代	2012年	5.4	7.7	24.6	6.9	17.7	11.5	73.8
	2004年	7.5	3.1	22.7	9.4	17.6	9.4	69.7
	1993年	5.2	4.5	23.1	4.5	15.5	7.9	60.7
60代	2012年	11.9	5.9	16.2	10.8	33.0	27.6	105.4
	2004年	8.1	6.0	19.7	6.8	34.6	13.2	88.4
	1993年	2.0	5.6	13.1	5.9	30.1	5.9	62.6
70代以上	2012年	15.0	6.5	15.9	9.3	38.3	19.6	104.7
	2004年	-	-	-	-	-	-	0.0
	1993年	7.6	3.8	9.5	6.7	29.5	6.7	63.8

性別、年齢別では、男性・60代で「スポーツ」の比率が大幅に増加している。
 また、50代で「地域活動・ボランティア活動」が増加している。
 「おけいごと」は、60代以上を除き、減少傾向である。

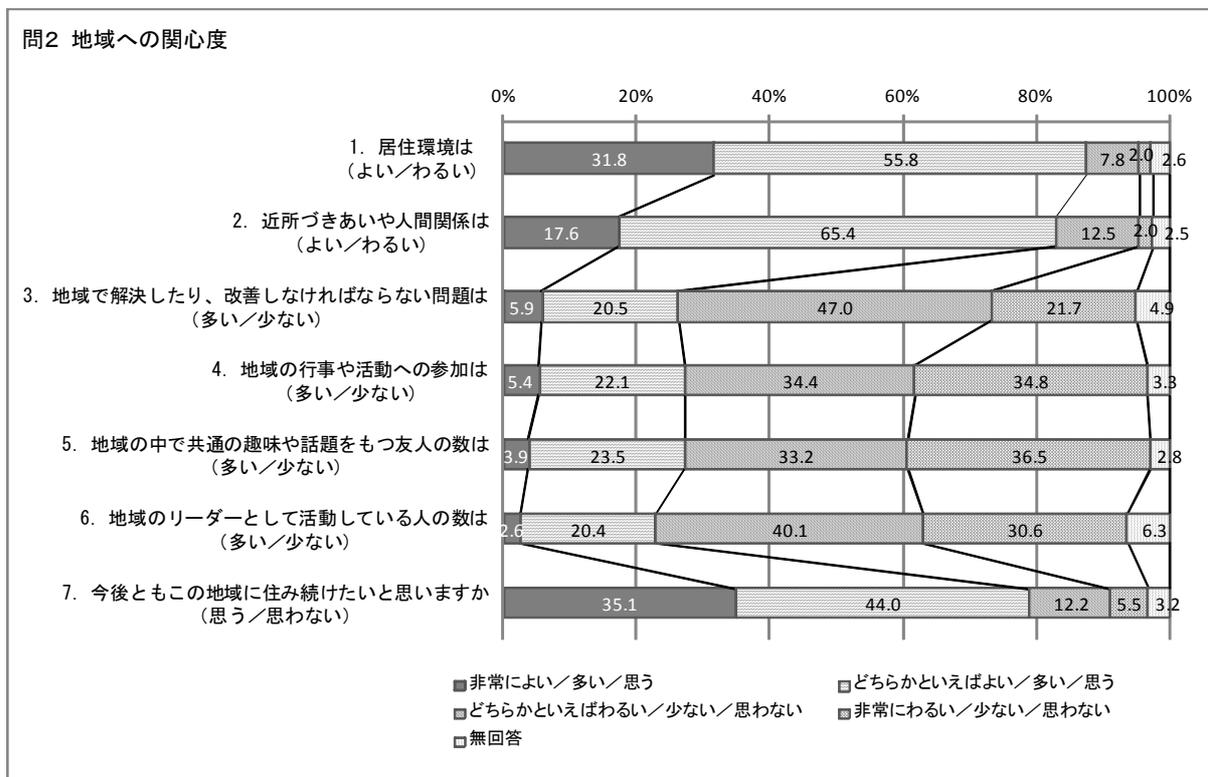
(2) 自由時間の現状【問1-(2)】



最近1週間の自由時間として、平日では、「3時間以上6時間まで」が最も多く、平日を5日と換算した場合、1日平均約30分～1時間程度となる。

休日では、「3時間以上6時間まで」が28.0%と最も多く、次いで「6時間以上9時間まで」が24.0%で比較的まとめて自由時間が取得できている。

(3) 地域への関心度【問2】



[1. 居住環境]、[2. 近所づきあいや人間関係] では、「どちらかといえばよい」及び「非常によい」との回答が約 8 割となっている。

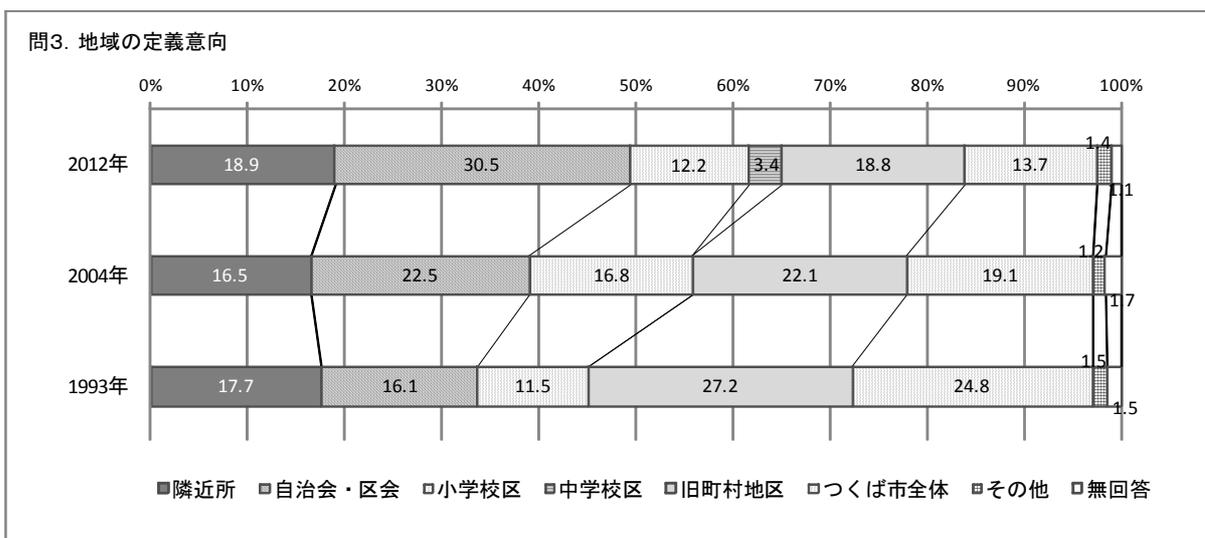
また [3. 地域で解決したり、改善しなければならない問題] について、「どちらかといえば少ない」が 47.0%、「非常に少ない」が 21.7%である。

[4. 地域の行事や活動への参加] や、[6. リーダーとして活動している人の数] については、「どちらかといえば少ない」及び「非常に少ない」との回答が約 7 割である。

[5. 地域の中で共通の趣味や話題をもつ友人の数] については、「非常に少ない」36.5%、「どちらかといえば少ない」33.2%、「どちらかといえば多い」23.5%となっている。

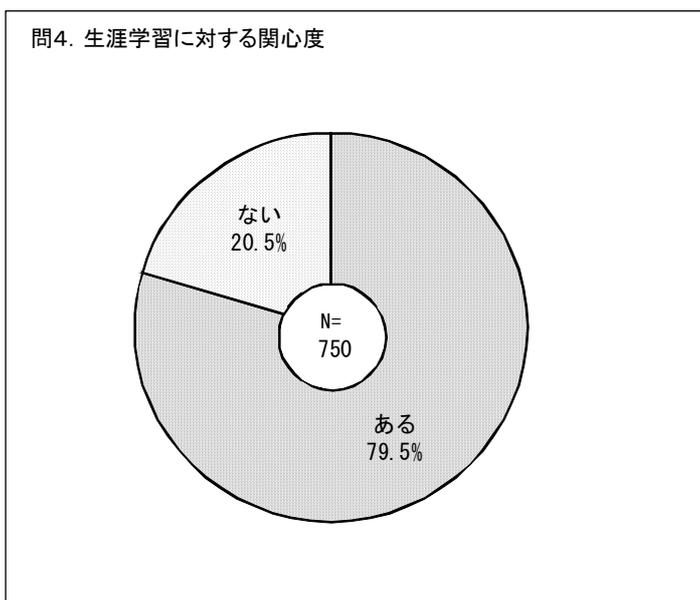
[7. 今後ともこの地域に住み続けたいか] との質問には「非常に思う」及び「どちらかといえば思う」との回答が約 8 割となっている。

(4) 地域の定義意向【問3】



「地域」という言葉で思い浮かべるものとして、「自治会・区会」との回答が 30.5%と最も多く、また、前回調査と比較しても、比率が高くなっている。

(5) 生涯学習に対する関心度【問4】



問4. 生涯学習に対する関心度
学習希望の有無 (性別)

(%)

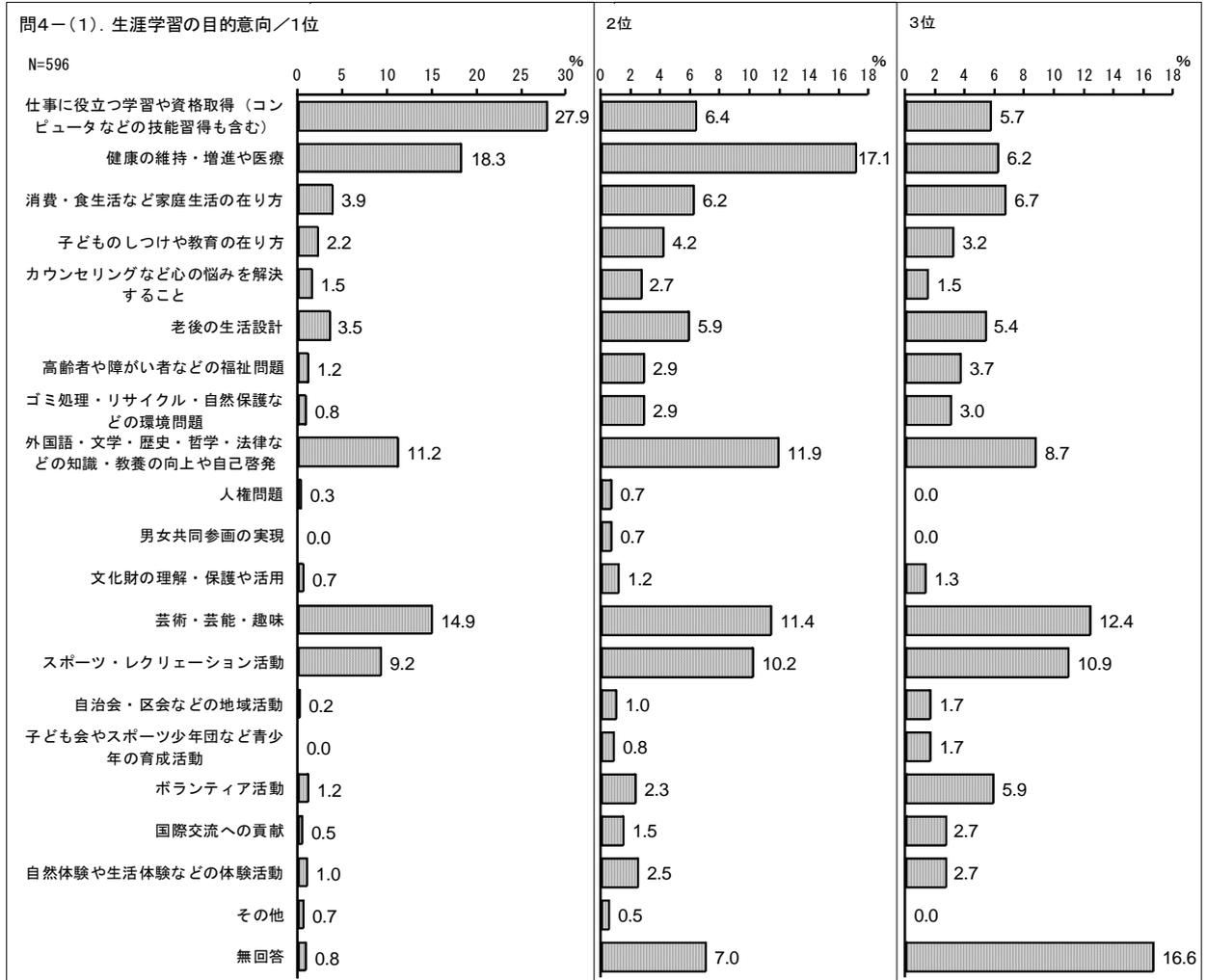
調査年		学習希望の有無		計
		ある	ない	
2012年	男性	77.6	22.4	100.0
	女性	80.7	19.3	100.0
	全体	79.5	20.5	100.0
2004年	男性	82.4	17.6	100.0
	女性	85.2	14.8	100.0
	全体	84.0	16.0	100.0
1993年	男性	80.3	19.7	100.0
	女性	83.4	16.6	100.0
	全体	81.9	18.1	100.0

学習希望の有無（何かを学んだり、身につけたり、腕をみがいたりしたいと思うか）については、約8割が「ある」と回答している。

また、前回調査と比較し、「ある」と回答した人は、約5ポイント減少している。

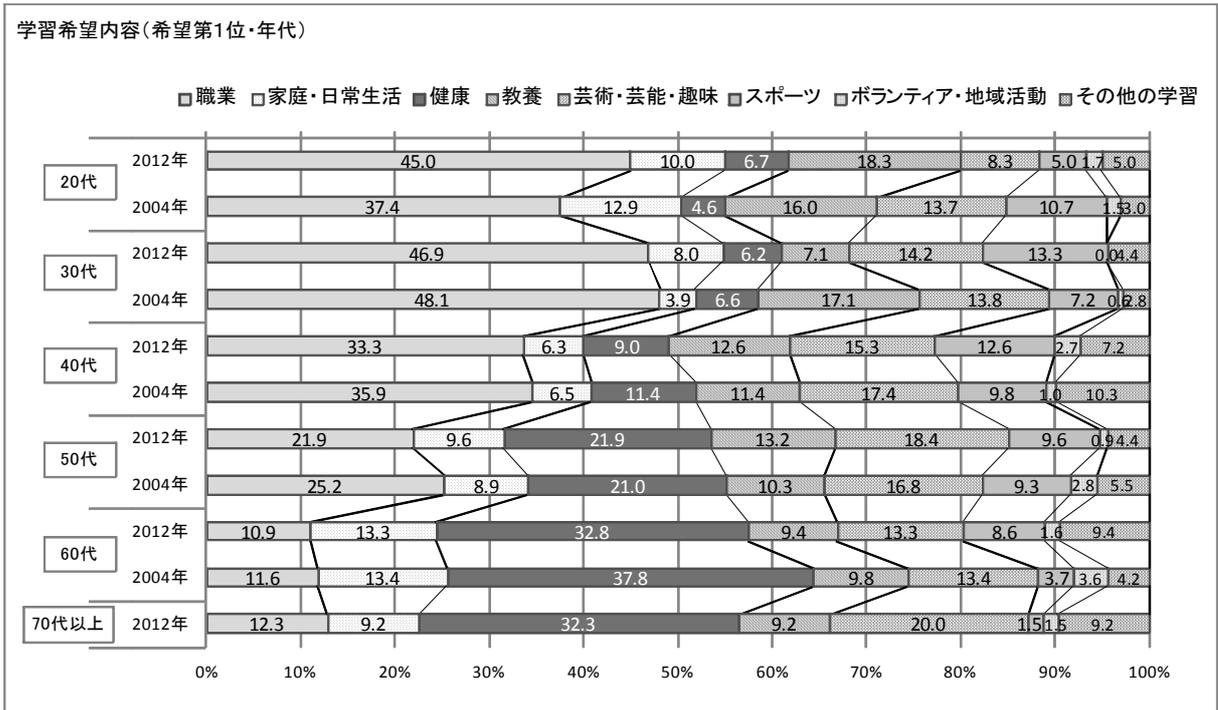
(6) 生涯学習の目的意向【問4—(1)】

①希望する学習内容（第1位～3位）



問4で生涯学習を行いたいと回答した人が希望する学習内容は、第1位「仕事に役立つ学習や資格取得」、第2位「健康の維持・増進や医療」、第3位「芸術・芸能・趣味」となっている。次いで、「スポーツ・レクリエーション活動」や「外国語／文学・歴史…などの知識・教養の向上や自己啓発」も関心が高い。

②希望する学習内容（年代別）



「職業に関する学習」は20代・30代で最も多く、特に20代では前回調査と比較し増加している。

また30代では、「教養に関する学習」が大幅に減少し、「スポーツ」が増加している。

60代・70代以上では、「健康に関する学習」の希望が最も多い。

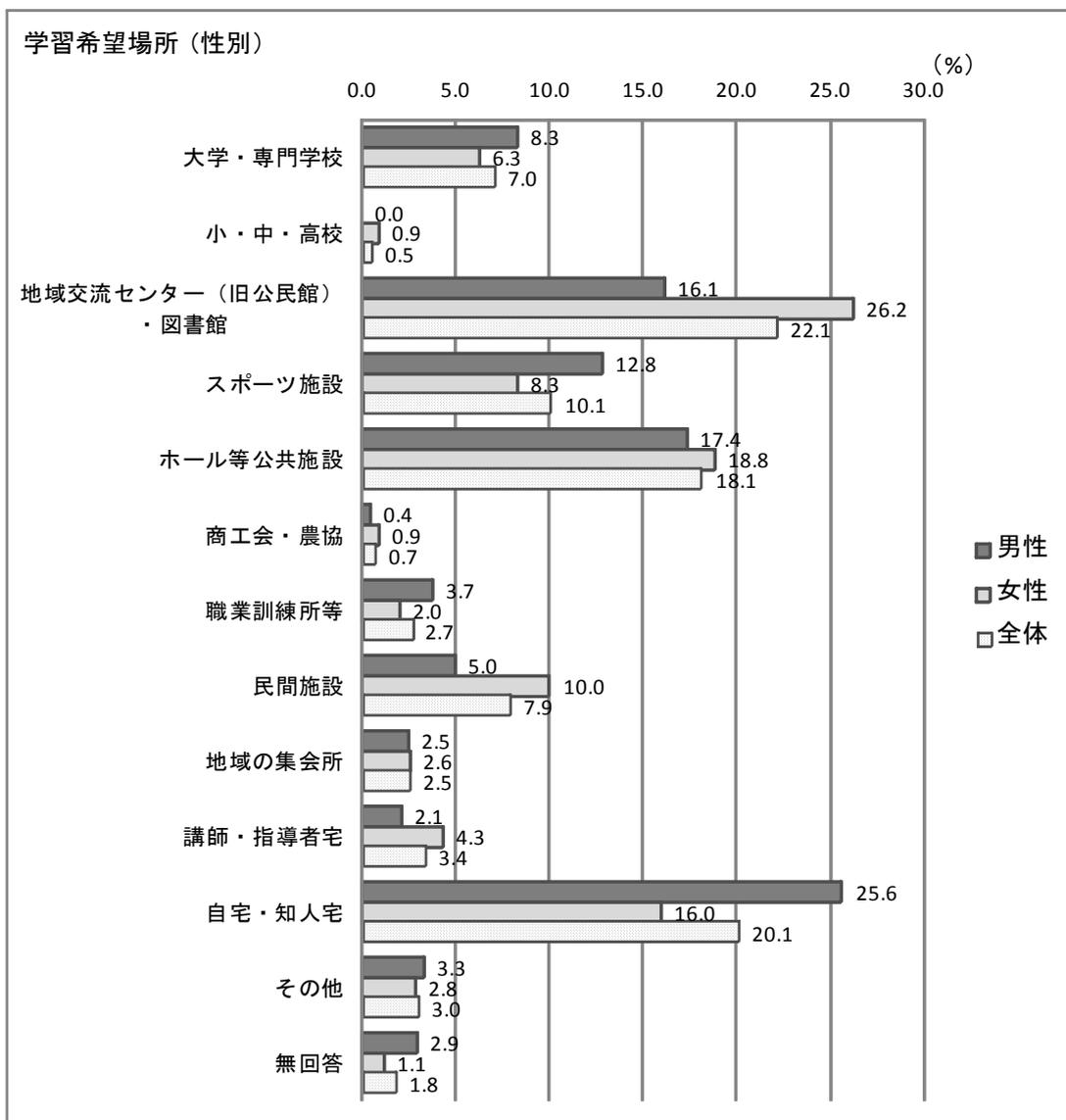
(7) 生涯学習の手法意向【問4—(2)】

問4—(2) 生涯学習の手法意向

項目名	2012年		2004年	1993年
	集計値	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)
全体	761	100.0	100.0	100.0
通信教育 (ラジオ・テレビ・インターネットの利用も含む)	72	12.2	10.0	11.0
サークル・地域活動に参加して	106	17.9	18.9	17.7
個人で先生について	39	6.6	9.2	8.2
本や専門誌などを読んで	118	20.0	18.6	19.2
講座・講習会に参加して	202	34.2	36.0	33.4
大学などで社会人入学を利用した専門教育を受けて	18	3.0	3.6	4.9
学習ソフトを利用して	5	0.8	-	-
その他	13	2.2	2.7	2.7
無回答	18	3.0	0.9	2.9

希望する学習方法は、「講座・講習会への参加」が34.2%と最も多い。次いで「本や専門誌などを読んで」20.0%、「サークル・地域活動に参加して」17.9%となっている。

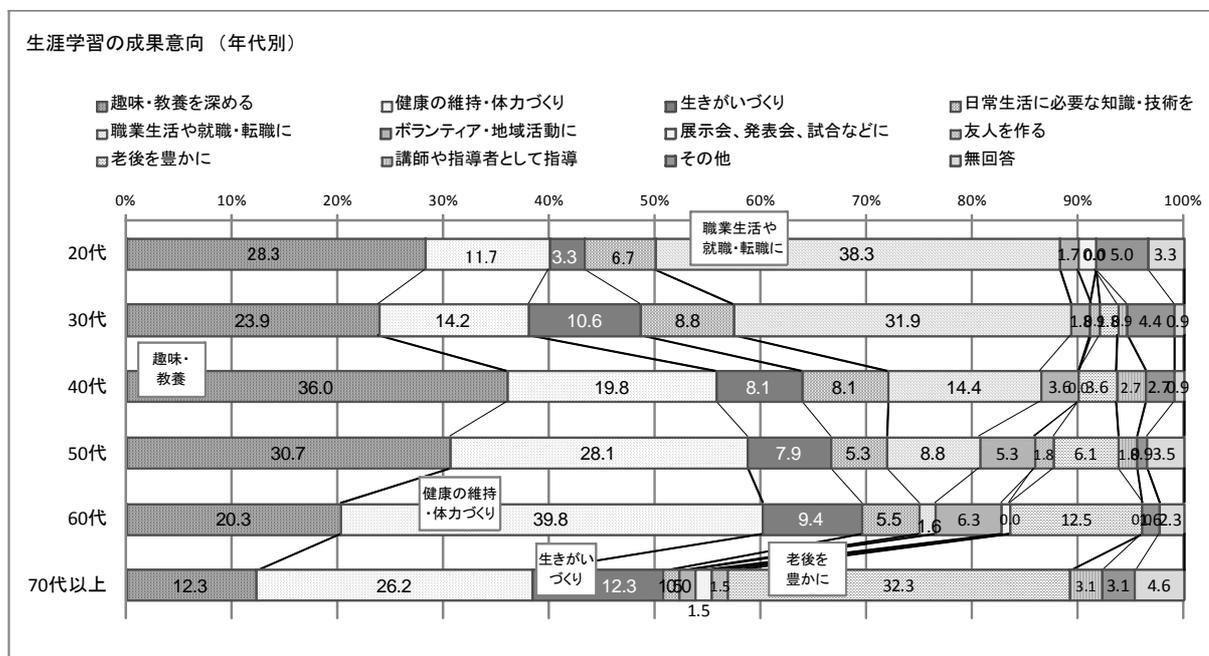
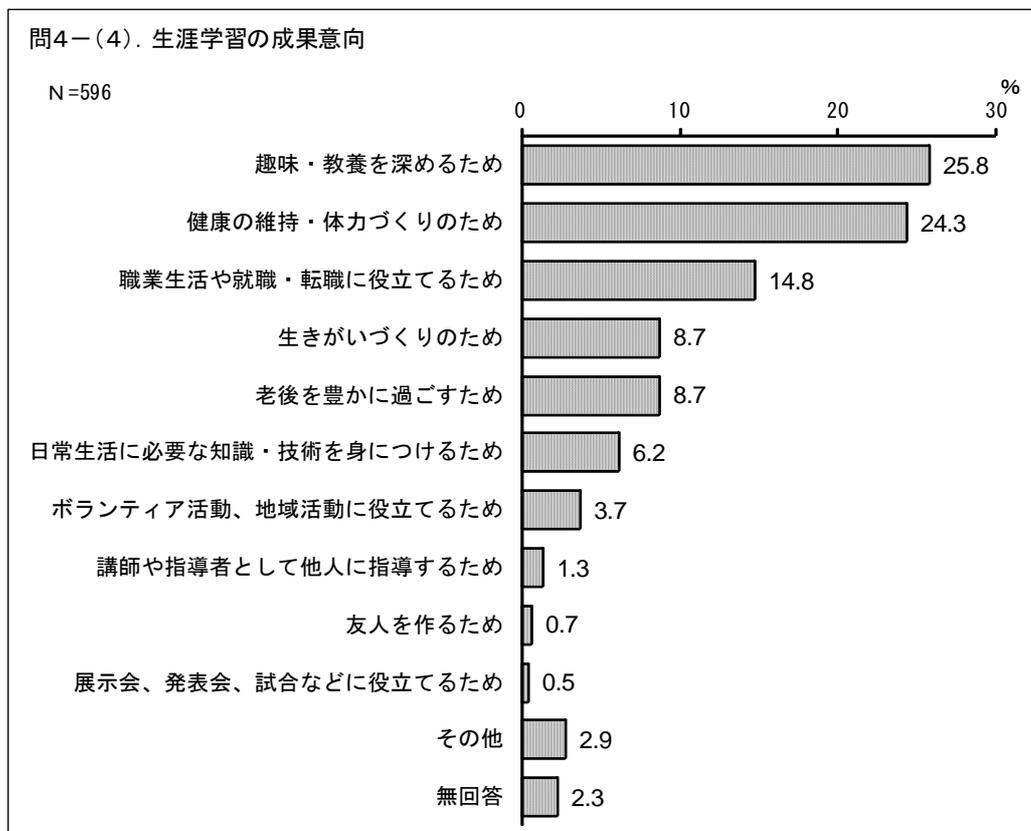
(8) 生涯学習の場所意向【問4—(3)】



希望する学習場所は、「地域交流センター・図書館」が 22.1%、次いで「自宅・知人宅」が 20.1%となっている。

性別では、「地域交流センター・図書館」については、女性の利用希望が高く、「自宅・知人宅」では、男性の利用希望が多くなっている。

(9) 生涯学習の成果意向【問4—(4)】

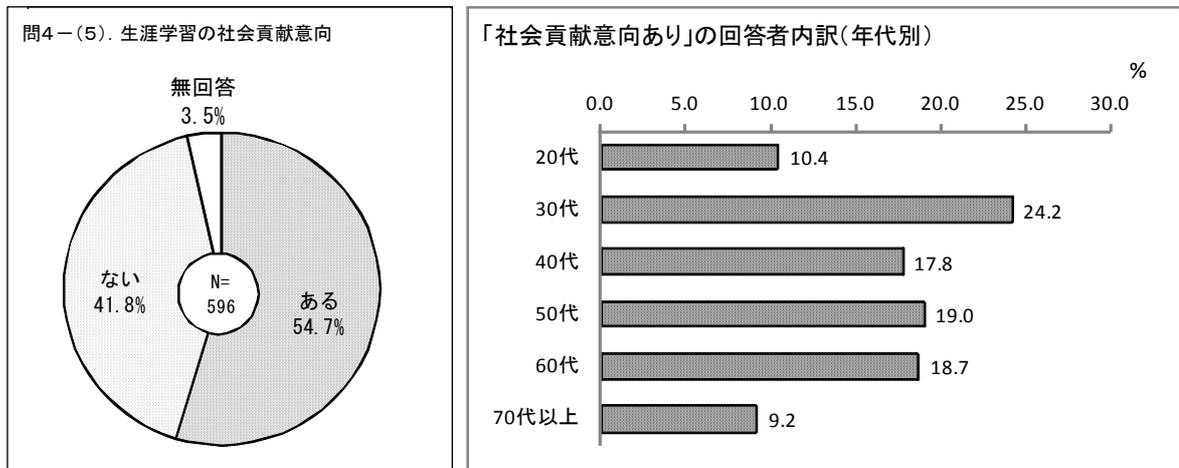


希望する学習成果については、「趣味・教養を深めるため」が 25.8%、次いで「健康の維持・体力作り」が 24.3%となっている。

また年代別の上位をみると、20代・30代は「職業生活や転職・就職に役立てる」、40代・50代は「趣味・教養を深める」、60代は「健康の維持・体力づくり」、70代以上は「老後を豊かに過ごす」となっている。

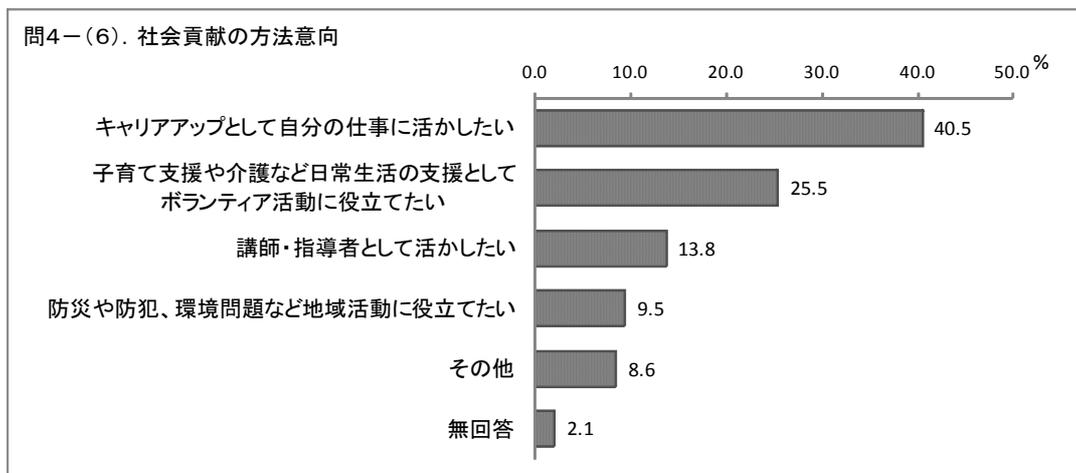
(10) 生涯学習の社会貢献意向及びその方法意向【問4—(5)・(6)】

①社会貢献意向



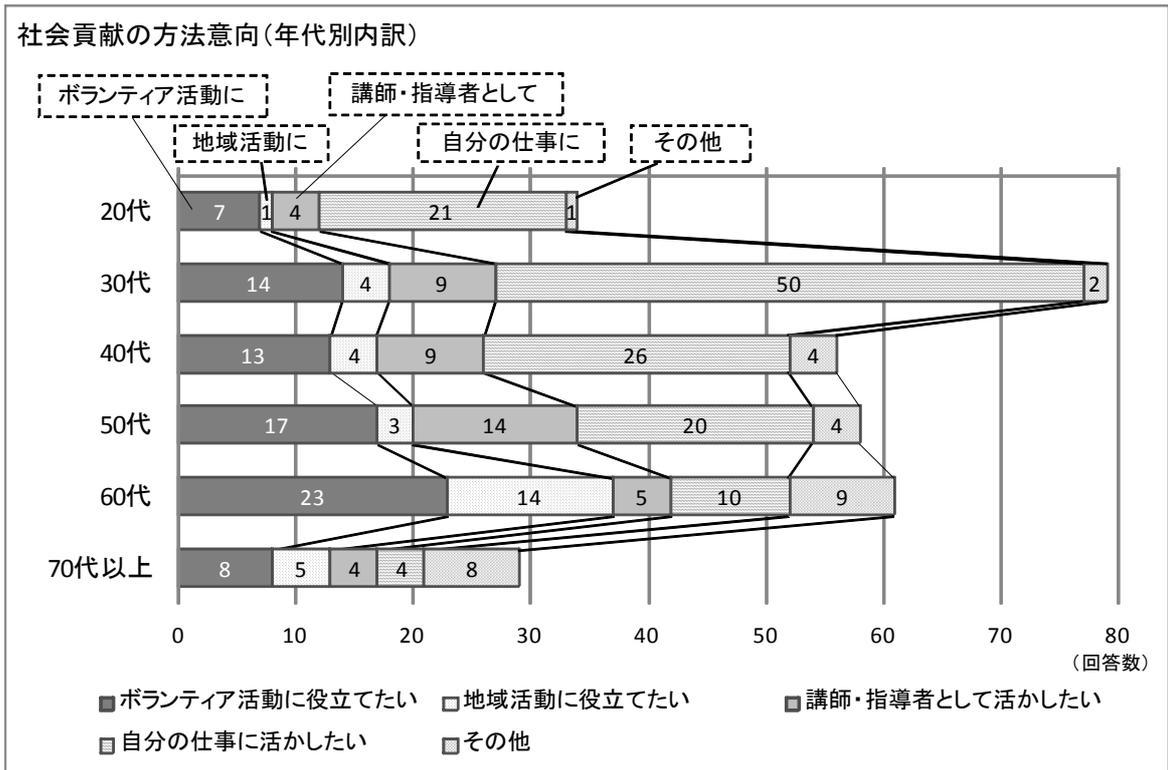
社会貢献意向の有無については、過半数の54.7%が「ある」と回答している。
また年代別では、30代が24.2%と最も多く、次いで50代が19.0%、60代が18.7%となっている。

②社会貢献の方法意向



- 問4—(6) 「その他」の回答内容
- ・ 市民の健康の維持増進に役立てたい。
 - ・ 健康維持の支援としてボランティア活動に役立てる。
 - ・ 国際社会の一員として自立するため。
 - ・ 海外交流のために活かしたい。
 - ・ 開発国等の力になりたい。日本は恵まれている。
 - ・ 自治会活動
 - ・ 新システムの開発。
 - ・ 自己の資質を上げて、社会とふれあいたいので。
 - ・ 人間としての成長のため、自分自身の成長のため。
 - ・ 見てもらった人に感動を与えたい。
 - ・ どう貢献できるか分からないが、できるとしたらしたい。
 - ・ 何かの時の縁の下の力持ちとして。

社会貢献の方法については、「キャリアアップとして自分の仕事に活かしたい」が40.5%ともっとも多く、次いで、「日常生活の支援としてボランティア活動に役立てたい」が25.5%となっている。

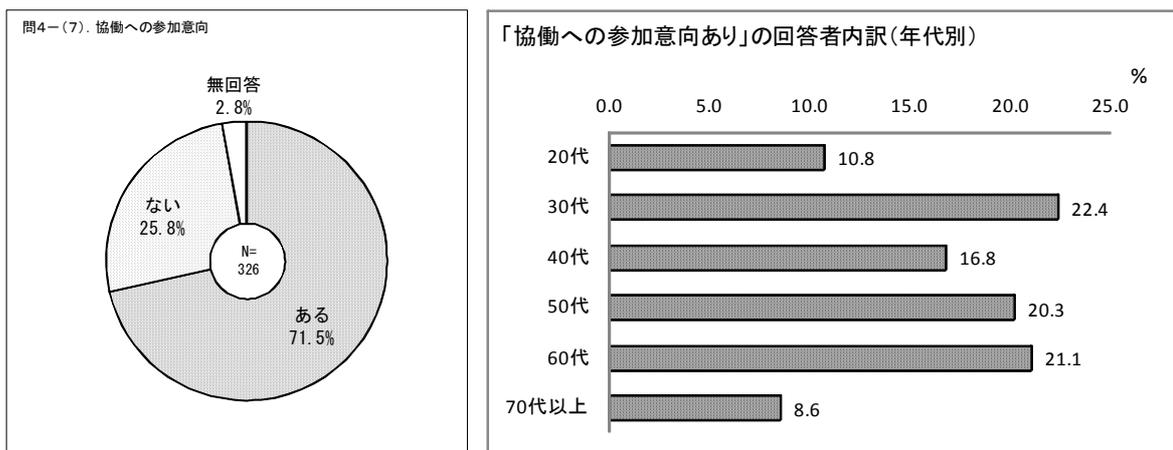


社会貢献の方法意向を年代別にみると、30代では、「自分の仕事に活かしたい」との回答が非常に多くなっている。

また、「ボランティア活動に役立てたい」及び「地域活動に役立てたい」との回答は、60代で最も多い。

「講師・指導者として活かしたい」については、50代が最も多い。

(11) 協働への参加意向【問4-(7)】

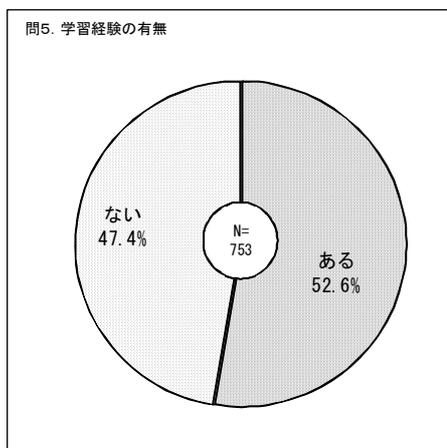


市民協働については71.5%が参加の意向を示している。

また年代別では、30代が22.4%ともっとも多く、次いで60代が21.1%、50代が20.3%となっている。

(12) 学習の現状及び学習の阻害要因【問5】

①学習経験の有無

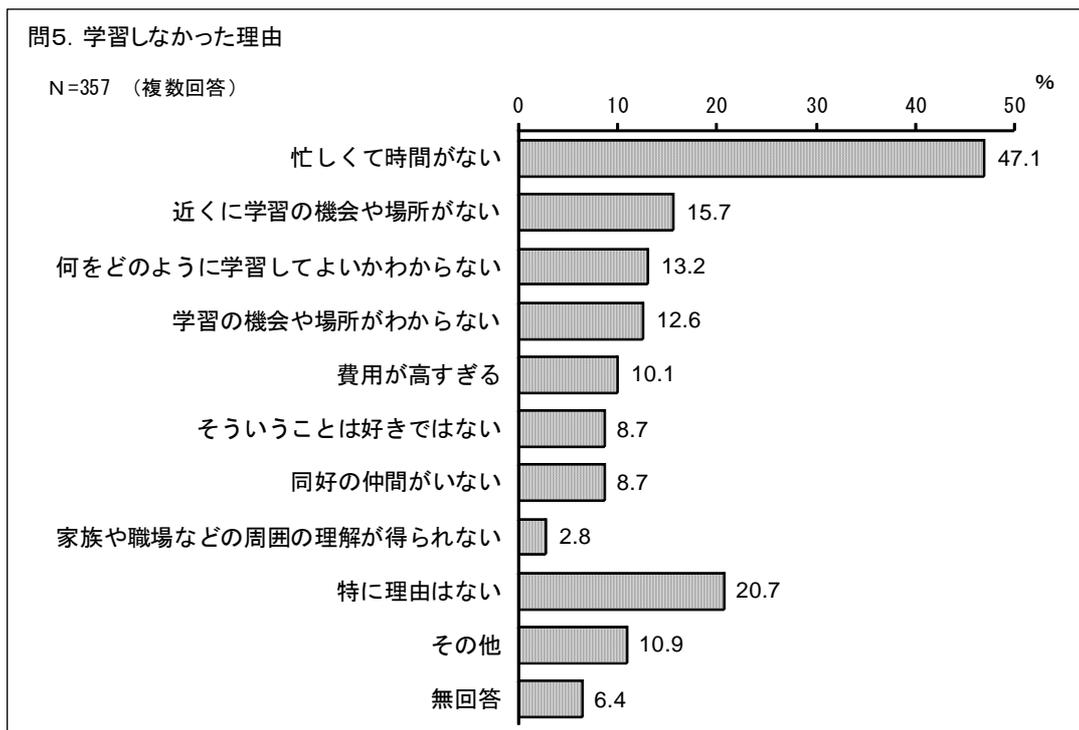


問4. 生涯学習に対する関心度
学習希望の有無 (性別)

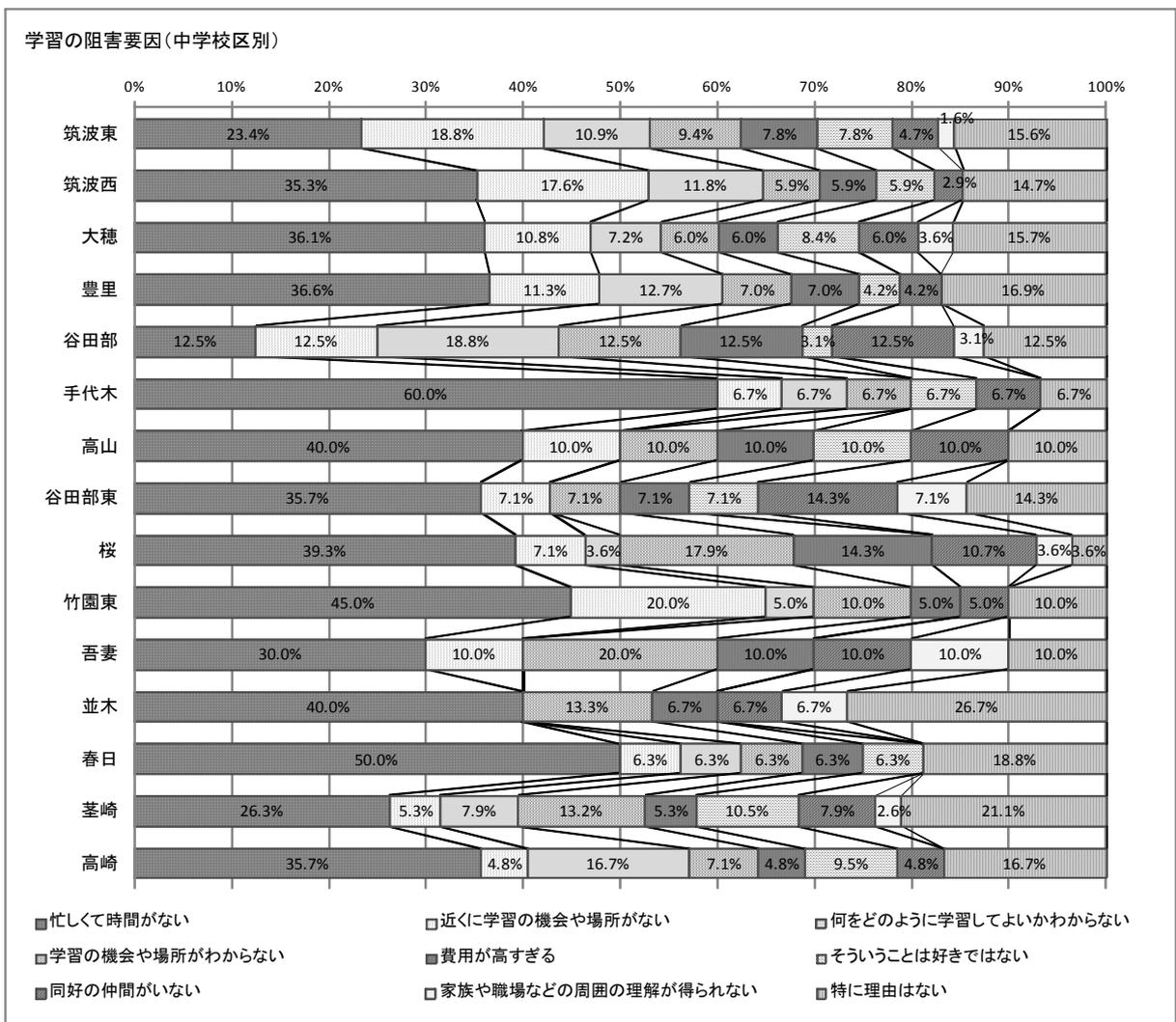
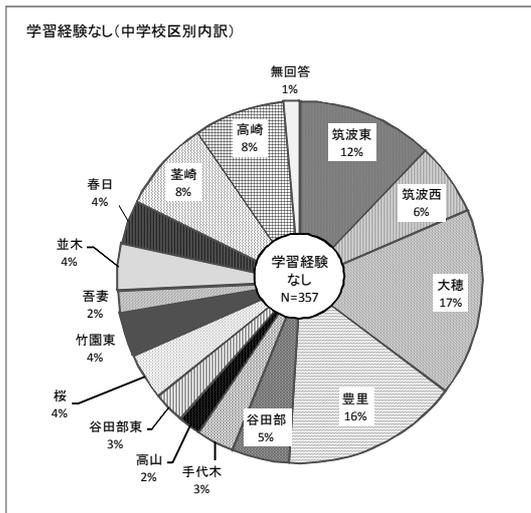
調査年		学習希望の有無		計
		ある	ない	
2012年	男性	77.6	22.4	100.0
	女性	80.7	19.3	100.0
	全体	79.5	20.5	100.0
2004年	男性	82.4	17.6	100.0
	女性	85.2	14.8	100.0
	全体	84.0	16.0	100.0
1993年	男性	80.3	19.7	100.0
	女性	83.4	16.6	100.0
	全体	81.9	18.1	100.0

過去1年間の学習経験について、過半数の52.6%が「ある」と回答している。また男女比はほぼ同じであり、前回調査と比較して、変動はほとんどない。

②学習の阻害要因



「学習経験なし」と回答した理由として「忙しくて時間がない」47.1%がもっとも多く、次いで「特に理由はない」20.7%、「近くに学習の機会や場所がない」15.7%があがっている。

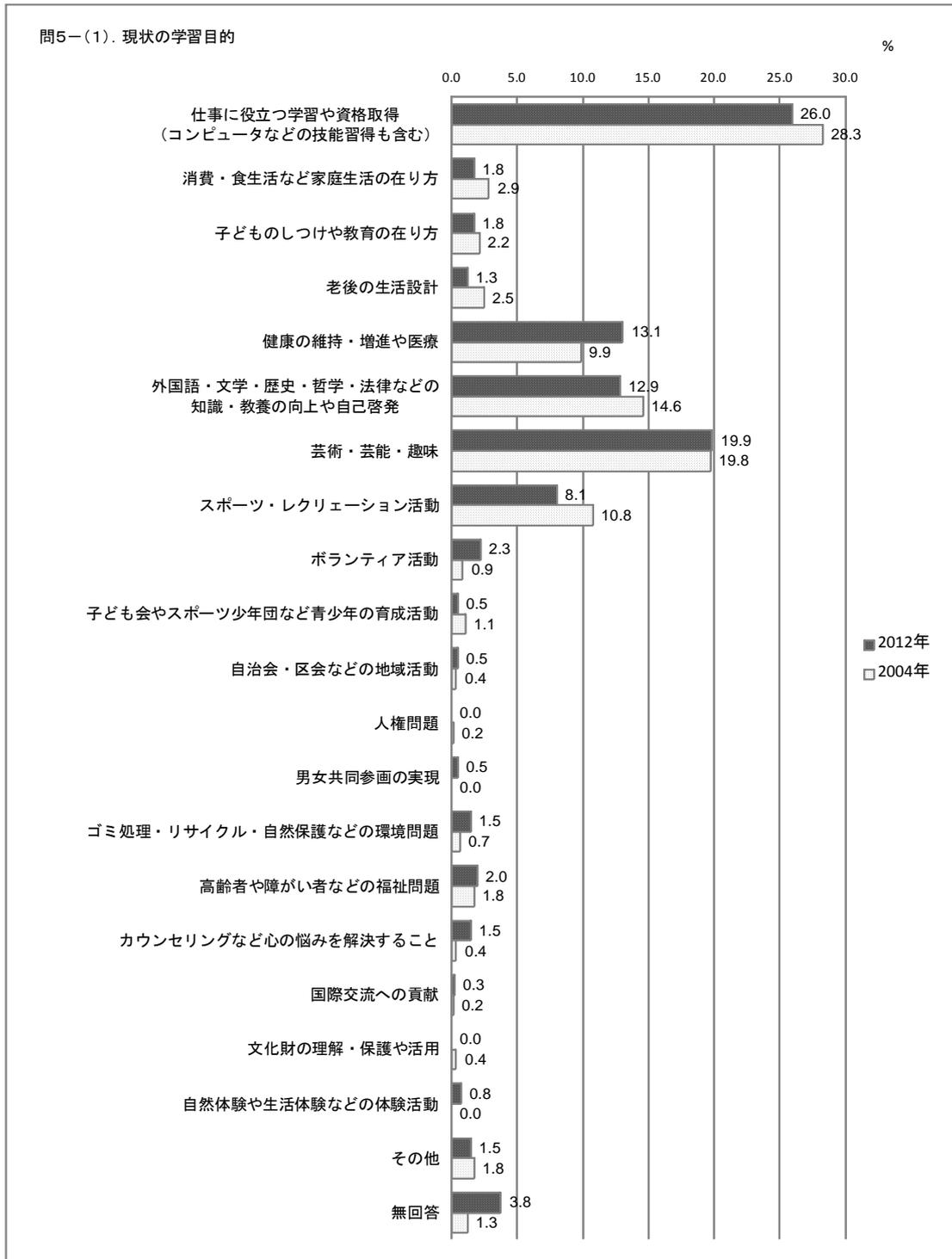


中学校区別に、学習の阻害要因の内訳比率をみると、谷田部以外は、「忙しくて時間がない」との回答がもっとも多い。

一方、谷田部では、「何をどのように学習してよいかわからない」がもっとも多い。

その他、「近くに学習の機会や場所がない」については、竹園東(20.0%)と筑波東(18.8%)で、「学習の機会や場所がわからない」については、吾妻(20.0%)と桜(17.9%)で比率が高くなっている。

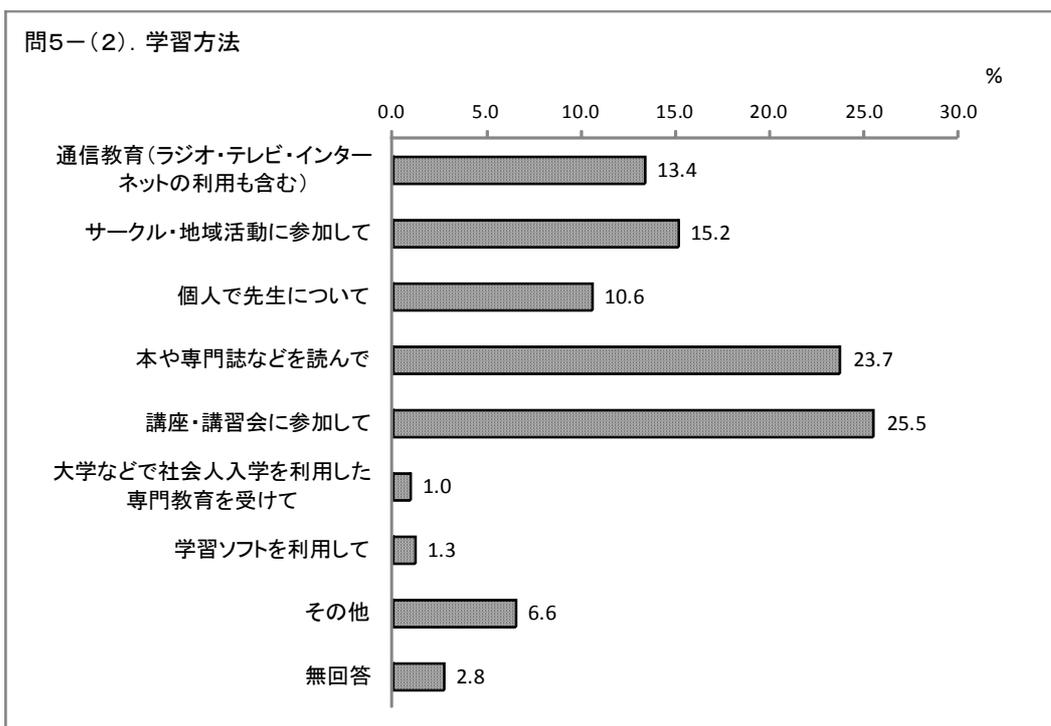
(13) 現状の学習目的【問5-(1)】



学習した内容については、「仕事に役立つ学習や資格取得」26.0%が最も多く、次いで「芸術・芸能・趣味」19.9%、「健康の維持・増進や医療」13.1%、「外国語・文学・歴史…などの知識・教養の向上、自己啓発」12.9%となっている。

前回調査と比較して、傾向はほぼ同じであるが、「健康に関する学習」が増加し、「仕事に関する学習」、「スポーツ・レクリエーション活動」が若干減少している。

(14) 現状の学習方法【問5－(2)】



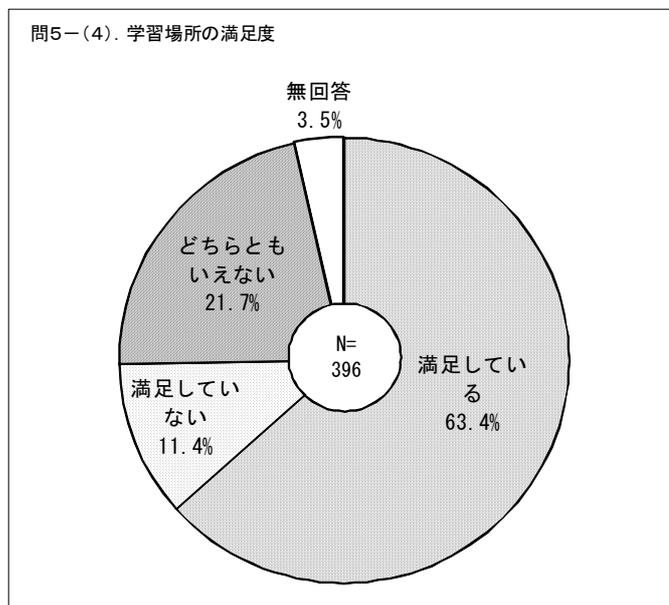
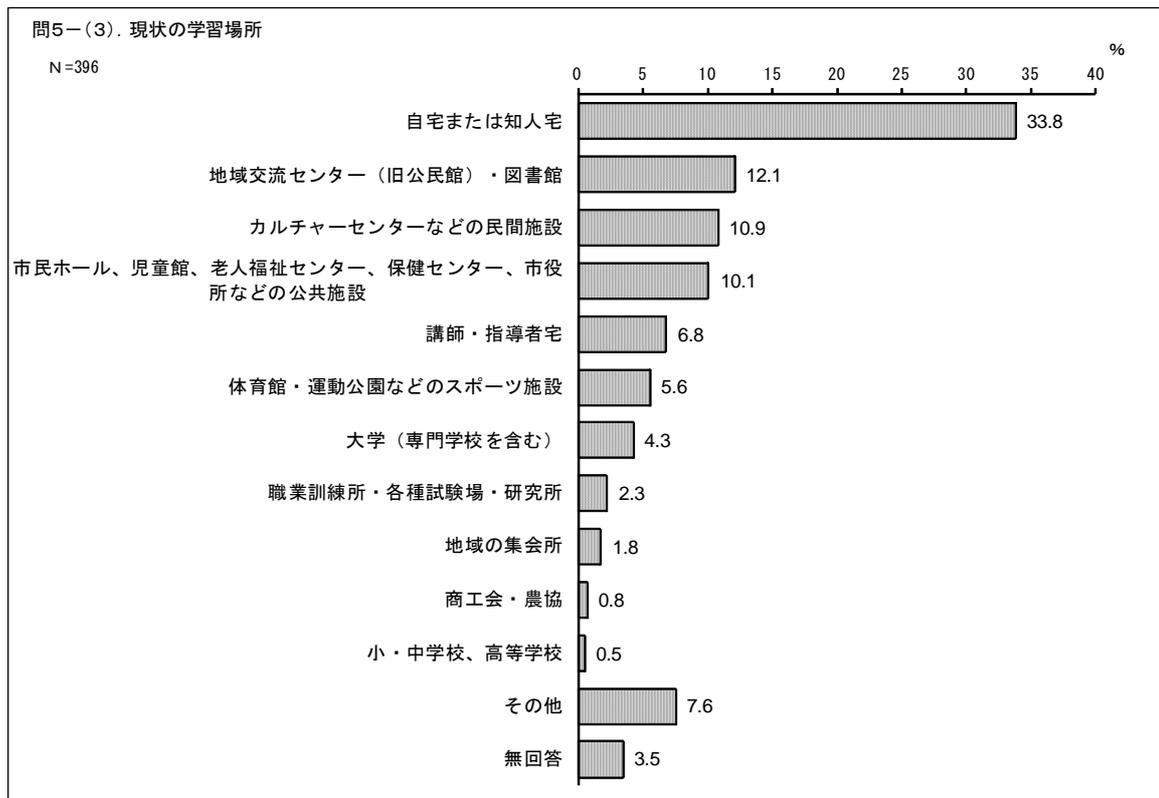
問5－(2). 学習方法

項目名	2012年		2004年	1993年
	集計値	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)
全体	761	100.0	100.0	100.0
通信教育(ラジオ・テレビ・インターネットの利用も含む)	53	13.4	10.1	14.3
サークル・地域活動に参加して	60	15.2	18.2	16.3
個人で先生について	42	10.6	13.0	12.3
本や専門誌などを読んで	94	23.7	25.4	22.7
講座・講習会に参加して	101	25.5	26.1	21.5
大学などで社会人入学を利用した専門教育を受	4	1.0	1.6	1.4
学習ソフトを利用して	5	1.3	-	-
その他	26	6.6	4.3	6.8
無回答	11	2.8	1.3	4.8

学習方法については、「講座・講習会への参加」が 25.5%、次いで「本や専門誌などを読んで」が 23.7%となっている。

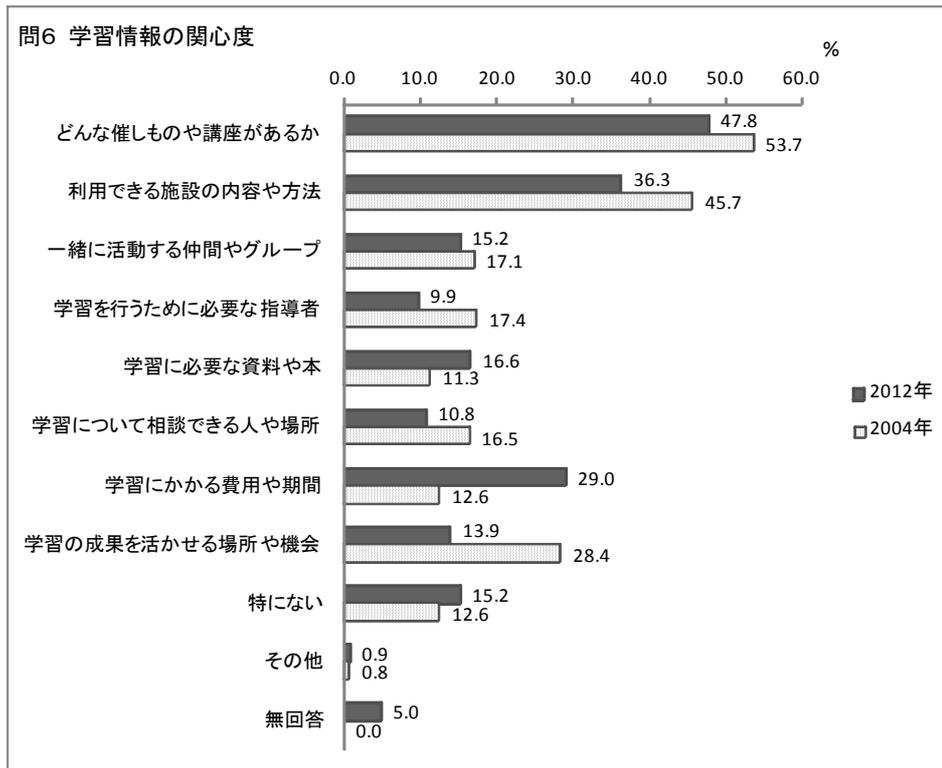
前回調査と比較し、大きな変化はみられない。

(15) 現状の学習場所及び満足度【問5-(3)・(4)】



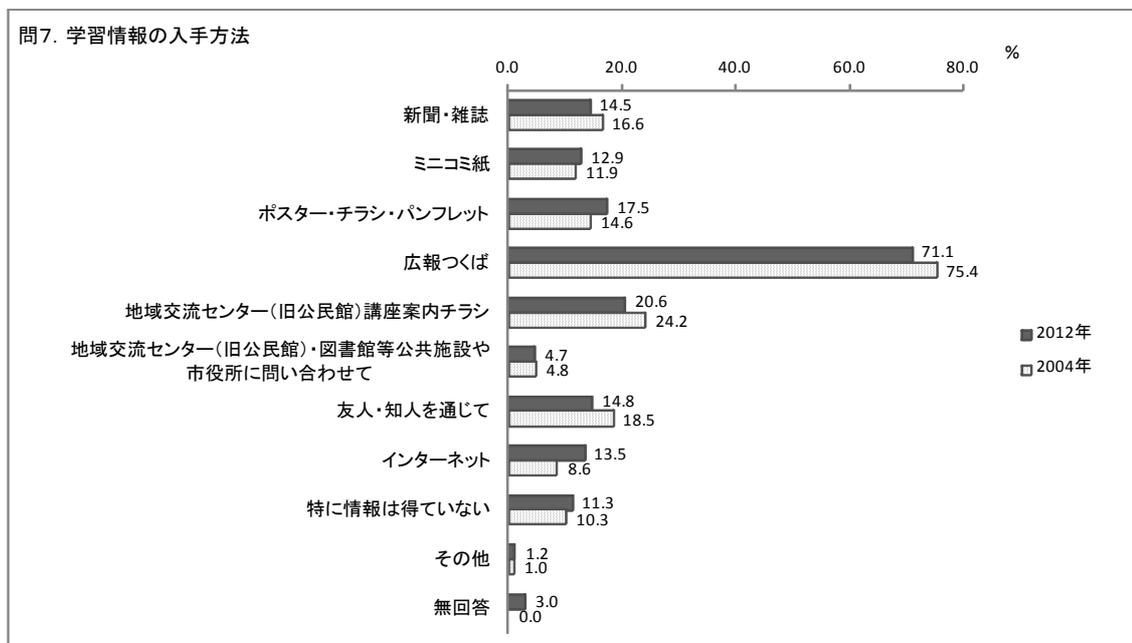
学習場所としては、「自宅・知人宅」33.8%、「地域交流センター・図書館」12.1%、「カルチャーセンター等の民間施設」10.9%となっている。
また、学習場所について63.4%が満足していると回答している。

(16) 学習情報の関心度【問6】



関心のある学習情報は、「催し物や講座について」が 47.8%と最も多く、次いで「利用できる施設の内容や方法」36.3%、「学習にかかる費用や期間」29.0%となっている。
また前回調査と比較して、「学習にかかる費用や期間」について関心が高まっている。

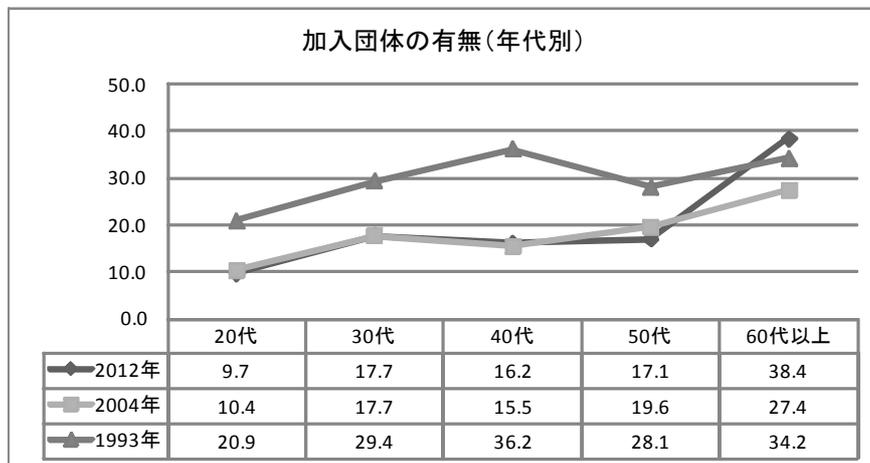
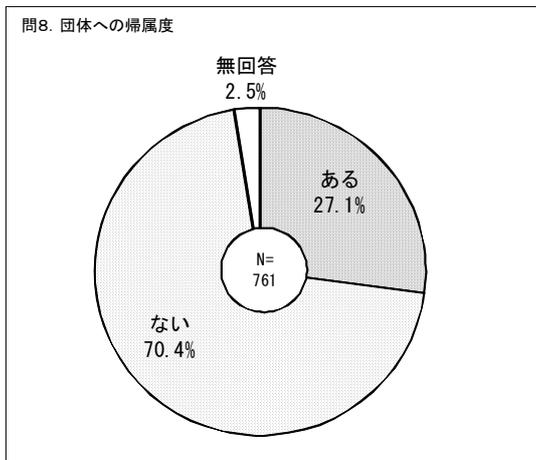
(17) 学習情報の入手方法【問7】



学習情報の入手方法は、「広報つくば」が 71.1%と最も多く、次いで「地域交流センターの講座案内のチラシ」20.6%、「ポスター・チラシ・パンフレット」17.5%となっている。
前回調査と比較して、「インターネット」が増加している。

(18) 団体への帰属度【問8】

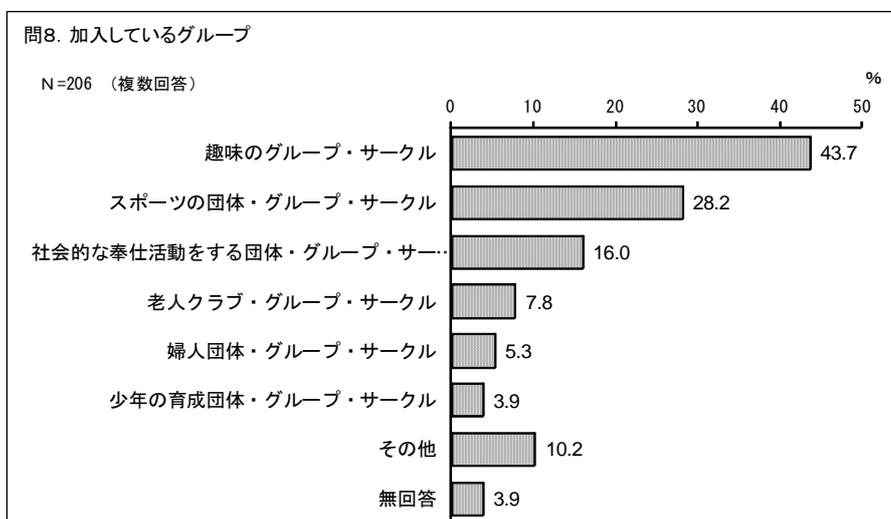
①加入団体の有無



現在、地域団体やクラブ・サークル等に加入しているとの回答は、27.1%であり、約7割は団体に加入していない。

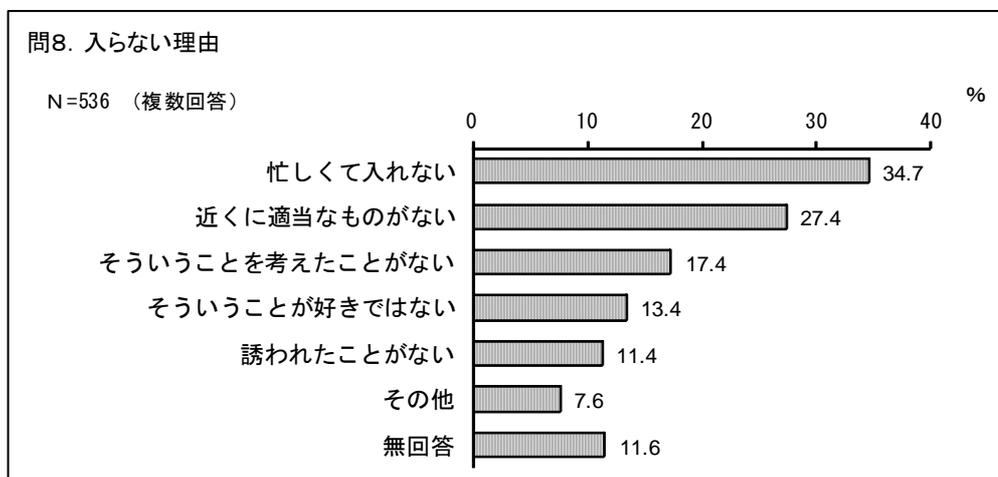
年代別には、60代以上が38.4%と最も比率が高く、20代が9.7%と最も低い。

②加入団体の内容



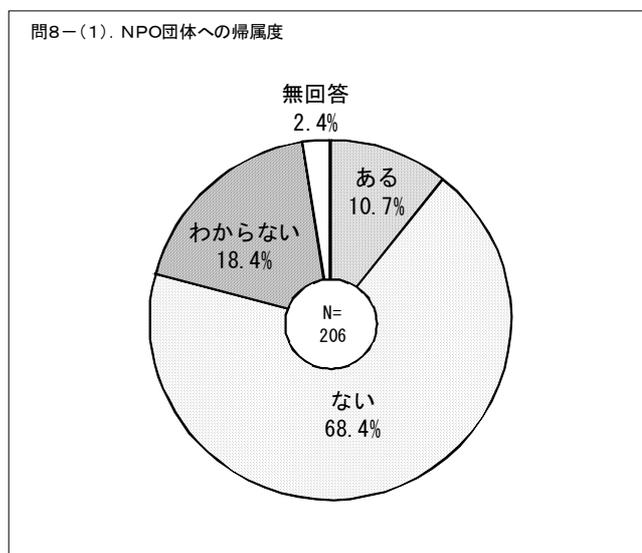
加入している団体の内容は、上位から「趣味のグループ・サークル」43.7%、「スポーツの団体・グループ・サークル」28.2%となっている。

③入らない理由



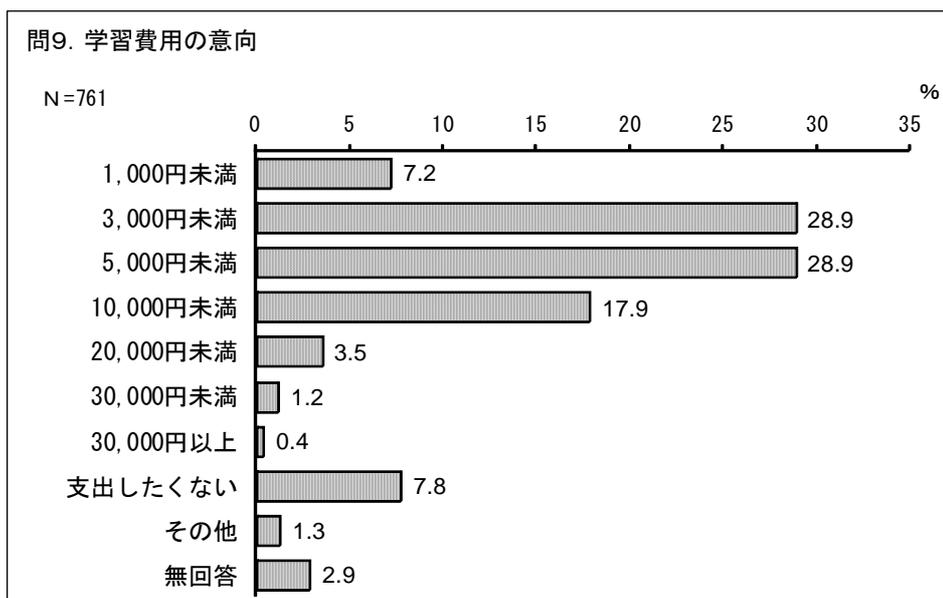
加入していない理由として、「忙しくて入れない」34.7%がもっとも多く、次いで「近くに適当なものがない」27.4%をあげている。

(19) NPO 法人への帰属度【問8-(1)】



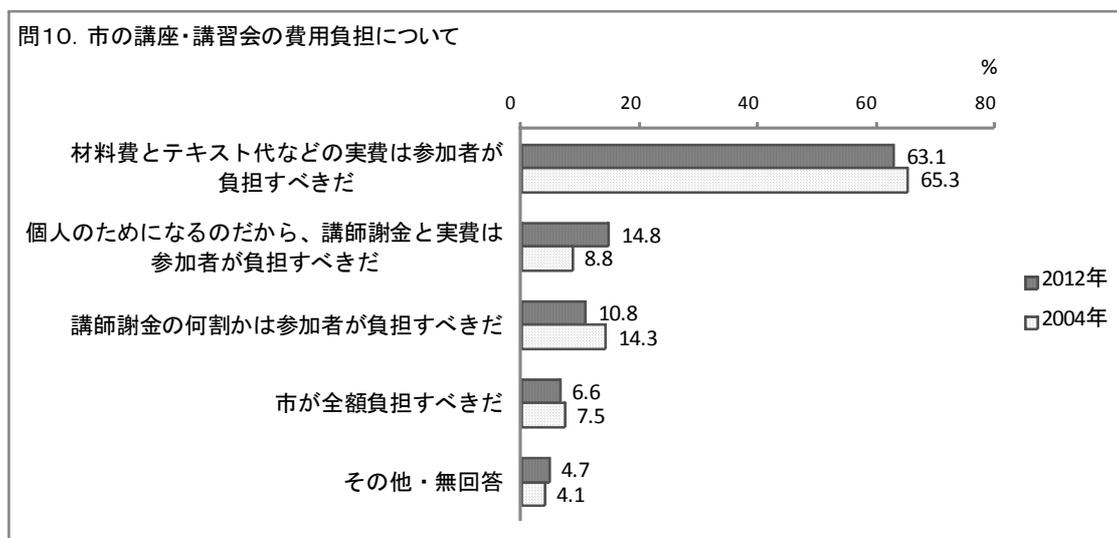
加入している団体が NPO 法人であるとの回答は 10.7%であった。

(20) 学習費用の意向【問9】



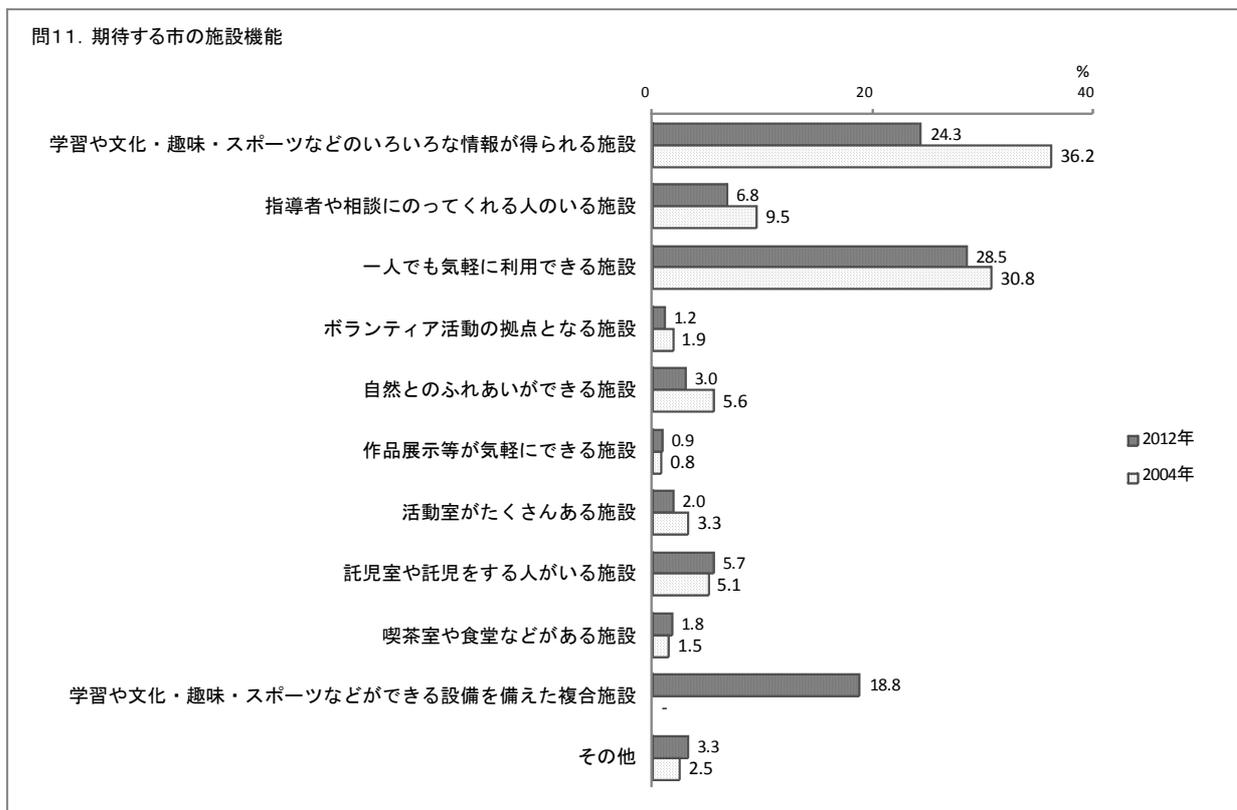
1か月の学習費用としては、「3,000円未満」28.9%、「5,000円未満」28.9%となっている。

(21) 市主催事業の費用負担の意向【問10】



市の主催する講座・講習会の参加者費用負担については、「材料費とテキスト代などの実費は参加者が負担すべきだ」が63.1%でもっとも多くなっている。

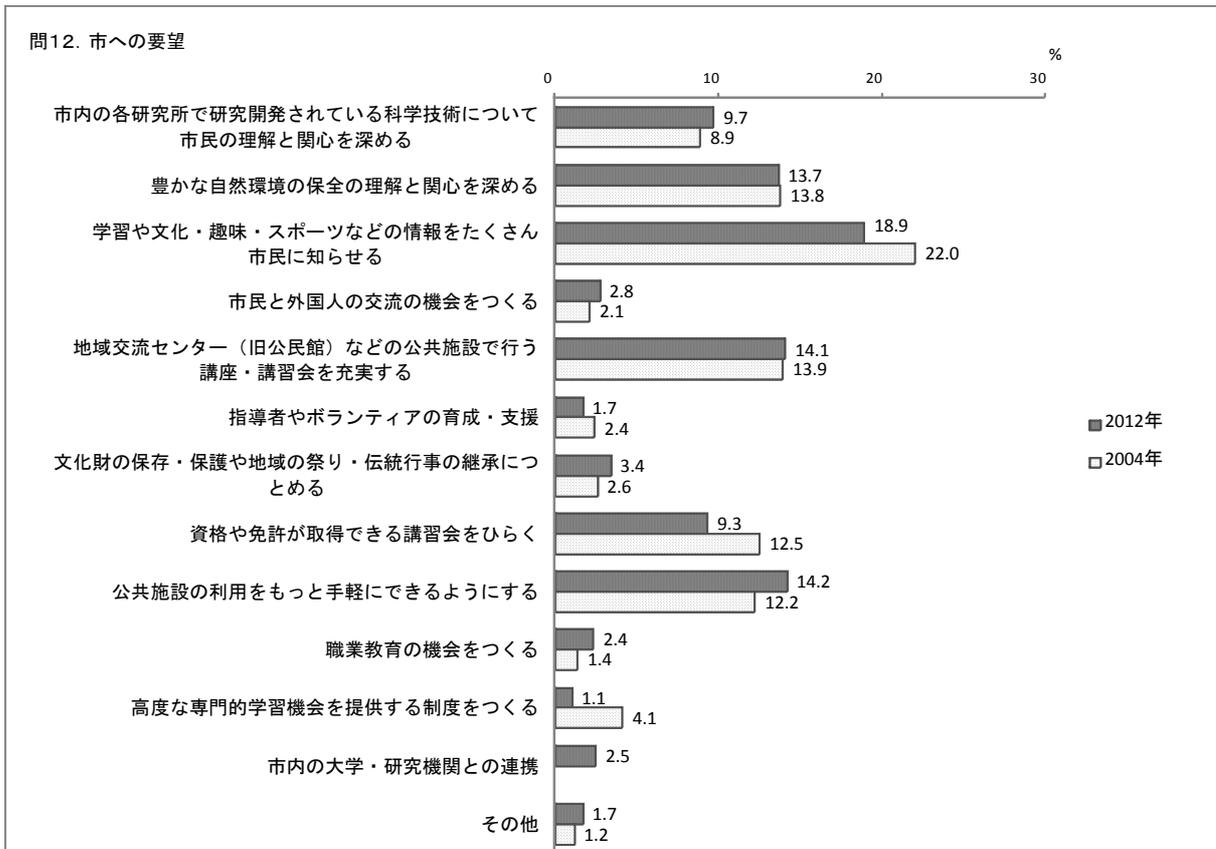
(22) 市施設内容の意向【問11】



学習活動を行う上で必要と思われる施設の内容としては、上位から「一人でも気軽に利用できる施設」28.5%、「学習や文化・趣味・スポーツなどのいろいろな情報が得られる複合施設」24.3%、「学習や文化・趣味・スポーツなどができる設備を備えた複合施設」18.8%があがっている。

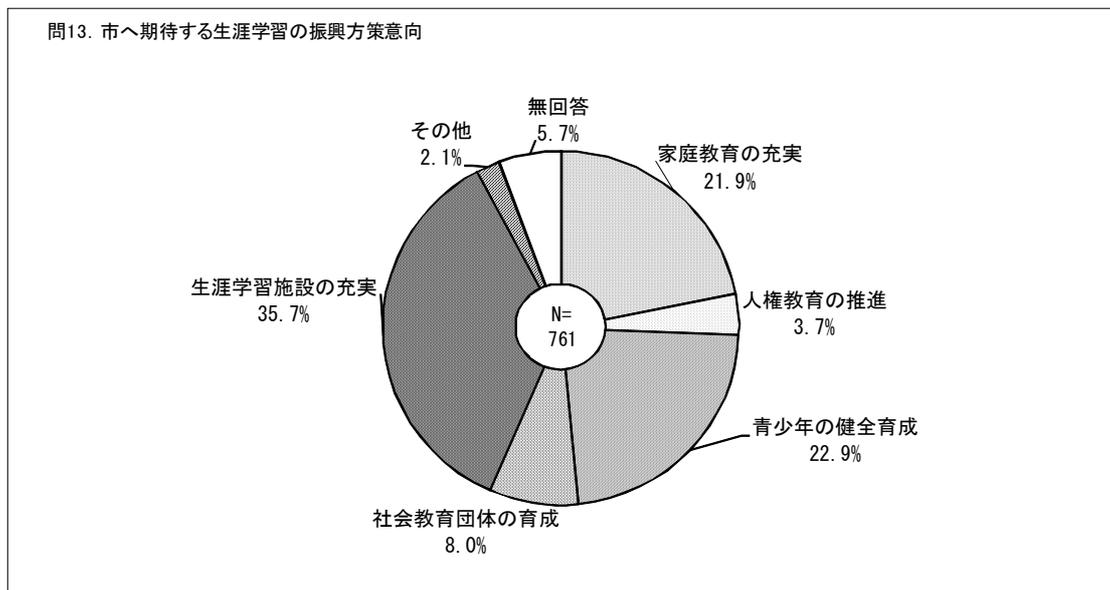
(23) 市へ期待する生涯学習の振興方策意向【問12・問13】

①生涯学習において特に力を入れて欲しい内容



生涯学習について市に力をいれてほしい内容としては、上位から「学習や文化・趣味・スポーツなどの情報をたくさん市民にしらせる」、「公共施設の利用をもっと手軽にできるようにする」、「地域交流センターなどの公共施設で行う講座・講習会を充実する」があがっている。

②重点的に取り組んで欲しい生涯学習施策

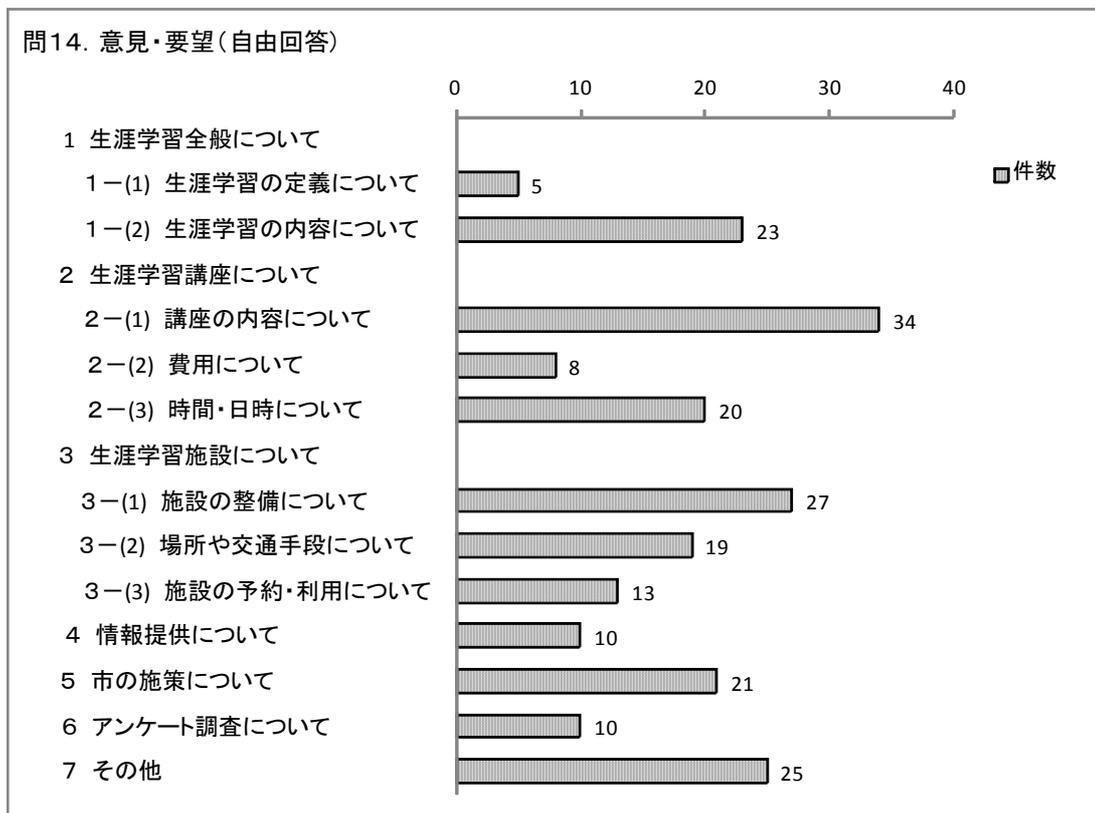


問13 「その他」の内容について

- ・ 民間活用の支援
- ・ つくばの特色（自然、歴史、地域文化）
- ・ 高齢化社会について
- ・ 愛国心、慈愛のある教育
- ・ 病気の進行状況によるので不明
- ・ 地域格差
- ・ 学力の地域格差の解消
- ・ 子ども会への支援
- ・ 娯楽的な施設

市の生涯学習施策において重点的に取り組んで欲しいと思う内容は、「生涯学習施設の充実」35.7%、「青少年の健全育成」22.9%、「家庭教育の充実」21.9%となっている。

(24) 自由意見・要望【問14】



自由意見・要望は全体で215件あり、「講座の内容」に関するものが最も多く、次いで「施設の整備」や「生涯学習の内容」についての意見・要望があがっている。

Ⅲ まとめ

1. 生涯学習の関心度について

学習活動を行いたいと思っている人の割合は、回答者全体の78.3%となっており、生涯学習に対する関心や意向は高い。

一方、生涯学習活動の現状では、過去1年間に学習活動を行った人は全体の52.0%である。学習ニーズはあることから、調査結果を分析し、実際の学習活動につなげることが重要といえる。

(1) 学習阻害要因について

学習活動を行わなかった理由として、「忙しくて時間がない」が47.1%と最も多く、次いで「特に理由はない」20.7%、「近くに学習の機会や場所がない」15.7%、「何をどのように学習してよいかわからない」15.7%となっている。

自由意見においては、平日仕事をもつ人から、夜間や土日の講座開設を望む声が多く出されている。また情報提供については、学習内容や開催場所について等、参加の仕方についての周知をはかって欲しいとの希望が上がっている。

(2) 学習内容について

希望する学習内容と実際に行った内容の比較は以下の通りである。

学習内容	希望 (%) *	実態 (%)
仕事に役立つ学習や資格取得	27.9	26.0
健康の維持・増進や医療	18.3	13.1
芸術・芸能・趣味	14.9	19.9
知識・教養の向上や自己啓発	11.2	12.9
スポーツ・レクリエーション活動	9.2	8.1
消費・食生活など家庭生活の在り方	6.2	1.8

* 希望1位で選択された項目の比率

希望する学習内容に対して、実際に行った学習活動とで差があるものは、「健康の維持・増進や医療」、「消費・食生活など家庭生活の在り方」である。希望する内容の講座がなかったり、学習情報が得られない等が考えられる。

(3) 学習場所について

学習場所について、現状では、「自宅・知人宅」が33.8%と最も多い。また、希望する学習場所としては、「地域交流センター・図書館」が22.1%、ついで「自宅・知人宅」が20.1%である。年代別では、特に20代～40代では、現状及び希望する場所ともに、「自宅・知人宅」を選ぶ傾向がみられる。

(4) 今後の課題

調査結果を踏まえ、講座内容の充実、開催時間、曜日の設定、情報提供の工夫をはかることにより、生涯学習活動への潜在的ニーズに幅広く対応していくことが必要といえる。

また、忙しくて学習時間がとれない人に対しては、個々のライフスタイルに合わせ、学習施設に限らず自宅で行えるようなeラーニング*等の学習方法を提供することも考えられる。

* パソコンやインターネット等の情報通信を利用した教育システム。時間や場所を選ばず学習が可能。

2. 学習成果の社会への貢献について

今回調査では、新たに、市民の生涯学習成果の活用として社会貢献の意向についての質問を設けた。今後、学習成果を社会に生かすための方策を検討していく上で参考になると思われる。

(1) 社会貢献意向

学習成果の社会貢献意向については、過半数の54.7%が貢献したいと回答している。

年代別内訳では、30代が24.2%と最も比率が高く、次いで50代が19.0%、60代が18.7%となっている。

(2) 社会貢献の内容

貢献したい内容としては、「キャリアアップとして自分の仕事に活かしたい」が40.5%と最も高く、次いで「子育て支援や介護など日常生活の支援としてボランティア活動に役立てたい」が25.5%、「講師・指導者として活かしたい」が13.8%となっている。

また年代別では、20代・30代で、「自分の仕事に活かしたい」との回答が、約6割を占めている。「ボランティア活動に役立てたい」及び、「地域活動に役立てたい」との回答は、60代が最も多く、「講師・指導者として活かしたい」との回答は、50代で最も多い。

若い世代では、仕事を通じた社会貢献活動を志向する傾向が強く、自らの仕事やスキルを活かすと同時にキャリアアップにつながる社会貢献活動が求められている。

自由意見において、「主婦や高齢者が社会参加のきっかけとなるような教育や社会貢献の機会があればいい」、「(学習の成果を)社会に発信できるような雰囲気、環境を提供して地域のつながりを広められるといい」といった内容が上がっている。

一方、現状では、過去1年に行った生涯学習活動のうち、「ボランティア活動」、「子ども会やスポーツ少年団など青少年の育成活動」、「自治会・区会などの地域活動」といった社会貢献活動の合計は、全体の3.3%にとどまっている。

社会貢献活動に関心はあるものの、実際に活動に参加するきっかけや、機会が乏しいと考えられる。

(3) 今後の課題

社会貢献への意欲はあることから、学習成果を実際に社会貢献活動につなげられるような機会や情報の提供、人材の育成等の環境作りが必要といえる。

3. 生涯学習施設について

「生涯学習施設の充実」は、今後、つくば市の生涯学習施策の中で重点的に取り組んで欲しい内容として上位にあがっており、生涯学習活動の推進につながる重要な課題の一つといえる。

(1) 施設の内容について

学習活動を行うために必要と考える施設の内容として、上位から「一人でも気軽に利用できる施設」28.5%、「学習や文化・趣味・スポーツなどのいろいろな情報が得られる複合施設」24.3%、「学習や文化・趣味・スポーツなどができる設備を備えた複合施設」18.8%があがっている。

自由意見においては、「今ある公共施設を工夫していかに利用していくかが大切」、「地域個々の設備（公民館等）を充実させて、中心には市民大会などできる複合施設があるとよい」、「学習成果を発表する場所を作り、互いのグループの交流をやすくしてほしい」といった内容が出された。

(2) 施設の利用について

生涯学習を行った場所として、もっとも多かったのは、「自宅・知人宅」33.8%であり、「地域交流センター・図書館」と回答した人は、12.0%にとどまった。

性別では、女性より男性が、年代別では、20代・30代で「地域交流センター・図書館」の比率が特に低く、現在の地域交流センターの利用者が中高年層の女性にやや偏っていると思われる。

自由意見においては、誰でも気軽に利用できることを望む声が多く上がっている。

予約については、「施設使用申請のため、朝5時から待たなければならない現状を改善してほしい」、「部屋の予約方法をもっと簡潔にしてほしい」といった要望が上がっている。

また、立地や交通手段については、「教育、娯楽、教養に関して学園地区と言われる中心部に集まり、中心から外れた旧町村（北部）地区は、全てに差がみられる、中心まで行くのにも交通の便も悪く出掛けにくい。近くの公民館等で学習の場や人との出会いの場など、気楽に出来ると良いと思う。」、「車のない人は行きたくても行けないのでバスを廻してほしい」等の要望が多く出ている。

(3) 今後の課題

施設の整備については、限られた年齢層、性別、居住区に偏らず、誰もが身近で気軽に利用できるような生涯学習施設を目指した施設内容や運営面の改善が必要といえる。

4. 今後の生涯学習振興方策について

今回の調査結果を踏まえ、今後のつくば市の生涯学習振興方策につき、重点課題を下記にあげる。

(1) ライフステージごとの生涯学習

学習成果の意向において、各年代別の上位項目をみると、20代・30代は「職業生活や転職・就職に役立てる」、40代・50代は「趣味・教養を深める」、60代は「健康の維持・体力づくり」、70代以上は「老後を豊かに過ごす」となっており、各年代で生涯学習の目的が変化していることがわかる。

また、学習希望内容において、「知識・教養の向上や自己啓発」、「スポーツ・レクリエーション活動」、「芸術・芸能・趣味」は、幅広い年齢層で選択されている。一方で「子どものしつけや教育の在り方」は20代・30代女性に限定されている。個々のライフスタイルによって、希望する学習が異なり、多様化しているといえる。

自由意見においても、「各地域ごとに世代別のセミナー等があれば良い。」、「ライフステージがどの段階にあるかで、学習したい内容は変わるので、市として生涯学習の場を提供してもらえるのであれば、幅広いニーズに応えられるようにしてほしい。」といった声があがっている。

今後の課題として、個々のライフスタイルやライフステージに応じた生涯学習プログラムや、参加しやすいサポート体制等を検討することが重要といえる。

(2) 家庭教育支援の充実

「家庭教育の充実」を望む意見は、幅広い年代から、数多く出された。たとえば、「将来を担う子どもたちを教育するのは、まず各自の家庭である。つくば市の生涯学習施策の中では、家庭教育の充実に重点的に取り組んでいただきたい」、「地域が一丸となって、子供たちの教育の為に取り組むべきことを考えていく必要がある。そのようなことを生涯学習の中へ取り入れていただきたい。」等である。

また、子育て世代からも「1才6ヶ月、3才検診時とかで、子育てについての勉強会、教育の場を設けてはどうか。同年代の子親が集まる場で、その年齢での特徴や配慮すべき事などレクチャーしては?」、「父親が、父親友達を作っている環境がほしい。家庭円満の為に父の仲間と子育てへの参加意識UPを」等の意見が出された。

今後の課題として、核家族化が進み、地域社会での関係性が希薄となっている現代社会において、地域に密着した家庭教育支援の更なる充実を図ることが重要といえる。

(3) 青少年の健全育成

市の生涯学習施策において重点的に取り組んで欲しいと思う内容として、「生涯学習施設の充実」に次いで、「青少年の健全育成」が上位に上がっている。

自由意見においても、「若い世代が健全に育ち、仕事や家庭、ボランティアなど幅広く活躍できるように。」、「若年者も興味の持てる様な内容のものをやって欲しい。」等の声が上がった。

青少年の健全育成については、今後、実社会での関わりを重視した幅広い内容と、若年層を対象とした情報提供や学習機会の充実をはかっていくことが重要といえる。

(4) 成人のキャリアアップ

希望する生涯学習の内容及び実際の学習活動の現状において、「仕事に役立つ学習や資格取得」がともに第1位となっている。特に20代で、前回調査と比べ、職業に関する学習を希望する比率が増加している。また生涯学習の成果意向においては、20代・30代で、「職業生活や就職・転職に役立てるため」の比率がもっとも高い。

生涯学習の内容として、職業実践的な学習への関心が高いといえる。

今後の課題として、現代社会に対応した職業に関する学習内容の充実をはかるとともに、学習成果が実際の就職や転職といったキャリアアップに結びつくようなプログラムの開発やサポート体制づくりが必要といえる。

(5) 高齢者の生きがい対策

生涯学習に対する関心度において、「ある」と回答した60代以上の比率は、25.4%で全体の約1/4を占める。また、過去1年間の生涯学習経験において、「ある」と回答した60代以上の比率は、20.1%であった。

高齢者の生涯学習への関心度は、他の年代と比較しても高いといえる。

自由意見においても、「定年後元気な第二の人生を送るためには生きがいが必要。子育ても、老後も孤独と、孤独が社会現象となっている。生涯学習が人と人との接点を作るためにも、生きがいを見つけるためにも必要」、「人生経験豊かな、高齢者が多くの自己開発、またグループを作るためにも指導者講習を行い、持てる力を発揮して頂きたい。」といった高齢者の生涯学習の充実を望む声が多く上がっている。

一方で、費用について、生涯学習活動にかける1ヶ月の支出として、「3,000円未満」に次いで、70代以上では、「支出したくない」が多くなっている。

「高齢者が参加できるように、市で行う講座の費用を安くしてほしい。」といった要望も上がっている。

また、施設への交通手段について、「交通の手段に問題がある。マイカーを使用できない年齢になったら不安」、「生涯学習は人生をイキイキさせると思うが、その前に高齢者の足の確保をお願いしたい。近くの交流センターの講座の内容充実を希望する。」といった要望が上がっている。

今後の課題として、少子高齢化が急速にすすむ社会において、高齢者の学習機会の提供、学習サポート体制づくり、高齢者が有する経験・知識を活用した社会参加の促進等、生涯学習振興施策において高齢者の生きがい対策を講じることが重要といえる。

(6) つくばらしさ

つくば市の地域特性を生かした生涯学習の内容として、「つくば市に多く在住している研究者、諸外国の方々に協力いただき、様々なジャンルや国の文化を学べる施設があると「つくばらしさ」や「つくばならではの」という感じが出るのでは」、「もっと大学と地域との連携を深めていくべきだと思う。」といった意見が出された。

研究学園都市として、大学や企業の研究拠点を多く有し、外国人住民数が総人口の3.5%を占めるつくば市において、つくば市の特色を生かした生涯学習施策を検討することも今後の重要な課題の一つといえる。

IV 資料

【添付資料1】 自由意見・要望について

1. 生涯学習全般について

(1) 生涯学習の定義

- ・生涯学習という定義がイマイチ分からない。イメージだけだと気軽に参加出来る様な印象がない。 30代・女性
- ・「生涯学習」の意味がわからない。定義？ 30代・男性
- ・生涯学習といわれてピンとくる内容がイマイチ分からない。 30代・男性
- ・生涯学習とは？ 60代・女性
- ・一口に生涯学習と言っても広すぎる。もう少し細かく分類して下さい。学習と言うと学ぶという精神があるが、皆でおしゃべりする感覚だと多くの人が集まると思う。 60代・女性

(2) 生涯学習の内容

- ・つくば市民の心（や気持ち）を、つくば市の特色を通じて結び付け深め合うための生涯学習に育ててほしい。 60代・男性
- ・生涯学習の中で力を入れて頂きたいのは、まず、青少年の育成、人権教育。子どもだけでなく、大人を見ているマナーの悪い自己中心の人間が多すぎる。少しでも生涯学習を充実させ、子どもも大人も育成してほしい。・それから次に講座を充実させ、つくば市民の活性化になる様にと
思う。 50代・女性
- ・上記の質問は、個々の生涯学習についてのものだが、その前に私共大人は、今後将来を担う子供たちの教育環境を整える為にしなくてはならないことを考えていくべきではないか。特に地域のつながりが希薄になっている中、最近の子供たちの行動、学習意欲が非常に低下しているように思う。地域が丸となって、子供たちの教育の為に私共大人が、取り組むべきことを考えていく必要があると思う。そのようなことを生涯学習の中へ取り入れていただきたい。 50代・女性
- ・子育て等終わって子供達も自分なりに社会に出ているが、今（現代っ子）の子供達を見ていると違うのかなと思う面がある。やはり子供は家庭の教育からだ実感している。次に学校教育時代が違うからとも言われるが…。子供が大人になった時に、日本を背負って行くのだから大事な事と思う。 60代・女性
- ・自分さえよければという考えの人が多。また我慢出来ない者も増えている。小さい時から家庭でのしつけ、兄弟げんかなどは社会に出て大きな意義が出てくるが、現在は家庭や社会における人間関係が極めて希薄になっていると痛感している。生涯学習は人間形成に役に立つものを期待する（個々人の自覚が必要だが）。 60代・男性
- ・家庭の躾教育を充実してよい社会を育ててみんなで楽しいコミュニケーションを望む。 70代・男性
- ・つくば市や市の中で活動されている団体の催し、非常に多種多様に活発で、これは面白い、ためになりそう！と思う事が多くある。良い事は沢山あり行っていると思うので、それを面白そう、やってみたいと思う市民がもっと増えると良いと思ったので、家族教育の充実からかな？と思う。もう一つ市民の中でも意識の違いが大きく「まさか、つくばで？」というような出来事があるので（コインロッカーの赤ちゃん）、やはり子どもの頃からの家庭教育が重要だと思う。 30代・女性
- ・これからの時代を担う子供達が健全に成長していく為には家庭の教育が一番大切な事だと思います。それには親がどのような子育てをしていくかが大事な事。 60代・女性
- ・子どもの頃の学習の質や学力そのものが、その後の学習意欲等に大きく影響あると思う。また学力の高い地域に良い教師が集中し、施設（設備）が整う傾向がある様に思う。学園中心部と郊外地域の義務教育の学力格差はひどいものである。郊外地域の教育の質を高め、学習意欲の高い大人を育てられないか。施設を作っても充分に利用出来なければもったいない。 40代・女性
- ・学校教育だけではなく、人が色々なことが学べるような生涯学習になるようにしていただきたい。そのためには今のように雇用のない世の中では、心に余裕を持つことが出来ず、自分の生活だけを考える毎日になってしまう。世の中を明るく豊かにしていかなければ、生涯学習も推進できない 50代・女性

- いと思う。
- ・人権教育の推進に関連して。お互いを大切にすることを幼児期から育むことが大切。平和な家庭、学校、職場、市町村・・・etc、全てここから出発すると思う。市の職員の皆さんも、身分が保障されている分、市民を大切に考え、仕事をしてほしいと思う。 60代・男性
 - ・若者向けにも広げた生涯学習の充実。 40代・男性
 - ・若い世代が健全に育ち、仕事や家庭、ボランティアなど幅広く活躍できるようにしたくなるように。 40代・女性
 - ・高齢化社会へと突入し、定年後元気な第二の人生を送るためには生きがいが必要。その為の情報と場と機会等々の提供を市がしてくれると、活気のある地域が維持出来るのではないかと。子育ても孤独、老後も孤独、とにかく孤独が社会現象となっている。生涯学習が人と人との接点を作るためにも、生きがいを見つけるためにも必要です。 50代・女性
 - ・人生経験豊かな、高齢者が多くの自己開発、またグループを作るためにも指導者講習を行い、持てる力を発揮して頂きたい。 60代・女性
 - ・つくば市は割合住みよいところと思っている。大体が高齢者二人の世帯で、時間のアンケートに家事がないのは理解できない。生涯学習とは、私は高齢者二人が清潔で健康な家庭生活を生涯自立に営んでいくことが、生涯現役の究極の目的と考えている。そしてその傍ら、市の方で色々高齢者向けに行っている事業等に参加して行きたいと思う。高齢者のための講座等を、身近に常に開催して下さることを希望する。 70代・女性
 - ・つくば市は広域であり、地域間で生涯学習のあり方が異なるように思う。健全な老人の（生涯）健全育成も必要ではないか。私はつくば市の生涯学習課の施策をよく知らない。そういう方々が多いのではないか。そういう方々と生涯学習のあり方の結びつけ方法などから論ずる必要性も感じる（つくば市に住んでよかったと思えるような）。 60代・男性
 - ・住民、行政、NPO等が一体となった活動組織によるボランティア活動による補完 60代・男性
 - ・主婦や高齢者が、社会参加できるきっかけとなるような教育と実際に社会貢献できる機会があればいいと思う。 40代・女性
 - ・市が「何かをしてあげる」といったスタンスでの取組は、一部の関係者のみが「身内の倫理」で運営され、公平・平等な機会を得られない。真に「ご自由にどうぞ」といったスタンスで脱会、一時脱会、再参加が容易なものが必要と思う。 40代・男性
 - ・自己完結するのも悪くはないが、それを社会に発信できるような雰囲気、環境を提供して、地域のつながりを広められるようにするといいのではないかと。 20代・男性
 - ・ほんの一部の人だけの関心事だと思う。 60代・男性
 - ・広く一般を啓蒙して下さい。資源の無い日本が生き延びる道は、高度な教育にあると思う。 50代・女性

2. 生涯学習講座について

(1) 講座の内容

- ・各地域ごとに世代別のセミナー等があれば良いと思う。 40代・男性
- ・子供（乳幼児）から大人老人までを対象にした、あたたかい文化活動の充実と体力づくり、身体を動かすスポーツ・音楽の充実。 60代・女性
- ・一人でも気軽に参加出来る講座やイベントがあると、自分にあった老後の楽しみが増えて明るく元気な老人になれると思う。 40代・女性
- ・年金生活の夫婦だが、女性の参加する学習内容の講座が多いと思うので、男性もどんどん気軽に参加できることを作ってもらいたいと思う。 60代・女性
- ・いつでも気軽に、自己負担の少ない楽しいサークル活動が見出せる企画等を全面に出していただきたい。 60代・男性
- ・市の講座等の募集は「帯に短したすきに長し」で初心者か上級者みたいなどころがあり、参加しにくい。これから学びたい人は、”少しできるので、もう少し上を”という希望があるのでは？ 70代・男性
- ・キャリアアップにつながる生涯学習なら参加してみたいと思う。 20代・女性

- ・生涯学習のカリキュラムについては短期集中型にしてほしい。 20代・男性
- ・最先端の生命科学を知りたい。 60代・男性
- ・つくば市に多く在住している研究者（博士）、諸外国の方々に協力いただき、様々なジャンルや国の文化（料理やスポーツ）を学べる施設があると「つくばらしさ」や「つくばならではの感じが出るのでは。 30代・女性
- ・大学等で2～3週間位、専門的な講座を開いてほしい。 60代・男性
- ・①それぞれの専門技能のレベルアップコースを作ってほしい。 ②語学ならそれぞれの言語のレベルアップコースを作ってほしい。 ③何事も初級、中級、上級コースを設けて学習したい。 70代・男性
- ・問12 「8. 資格や免許が取得できる講習会」（企画が実現すると、さらに魅力ある街になりそう。期待する。） 40代・女性
- ・1才6ヶ月、3才検診時とかで、子育てについての勉強会、教育の場を設けてはどうか。せっかく同年代の子親が集まる場で、その年齢での特徴や配慮すべき事などレクチャーしてもよいのではないか？ 女性
- ・受講したいものがない。 30代・男性
- ・カルチャースクールを充実させてほしい。 30代・女性
- ・最近車の運転をしている人が、ウインカーを出さず曲がる人を多く見かける。運転手のマナーの講習会でもすれば事故もなくなるのではと思う。 60代・男性
- ・外国人と交流できるようなイベントをもっと開催してほしい。例えば、各国の料理や音楽などをもっと知りたいと思う。 50代・男性
- ・例えば、市の講座を数ヶ月受けた事がきっかけで、もっと専門的に学びたいと勉強し職に就きたという人もいると思う。なのできっかけになる様な講座が幅広い分野で開設されていると良いのではないか。 30代・女性
- ・若年者も興味を持てる様な内容のものをやって欲しい。 40代・男性
- ・1. 小地域の人たちが気軽に行ける施設での、対話的学習の推進。 2. 地元の、東国の、日本の、世界の、歴史、つながりを学びたい（神話では、筑波山の祭神、いざなぎ、いざなみから国が生まれ、ひいては日本、筑波の歴史が始まる） 70代・男性
- ・心身共に健康でいられるような、内面の充実を図るもの。おいしい物を食べる、作るような機会→この辺の農作物の試食会とかあると行きたい。運動する機会、施設→プールとかジムとかあると良い。手軽に気軽に1回から参加できるような活動。 20代・女性
- ・せっかく学び始めてもすぐに終わり、体験したに過ぎず、長く続けたいのですが、次がなく終わってしまうので、もっと深く学びたい。 60代・女性
- ・以前は公民館等で語学講座が多くあった気がするが、今はあまりないように思う（あっても仕事をしていると通えない時間帯が多い）。もっと手軽に沢山あればいい。 30代・女性
- ・剪定（樹木）の講座を開いてほしいです。 40代・男性
- ・現在乳児の子育て中なので、子どもに関する学習に興味がある。ライフステージがどの段階にあるかで、学習したい内容は変わるので、市として生涯学習の場を提供してもらえれば、やはり幅広いニーズに応えられるようにしてほしい。 30代・女性
- ・子連れOKなカリキュラムを充実（もっと増やしてほしい）。新しいハコモノを作ってまで行う必要はないと思う。今ある施設を利用し、必要な改修等だけでよい。 30代・男性
- ・今は育児と仕事でいっぱい社会貢献までは考える余裕はない。仕事している母親でも参加してみたい内容の講習会を考えてください。ゆっくり学んで（1月1回位のペースなら働きながらでも続けられるのでは）、育児が落ち着いたときも続けられる内容で…。 40代・女性
- ・高齢者と幼児が一緒になって集える（活動できる）場所や企画（生涯学習とは少しはずれてしまうか？）。核家族が進む中、小さい子がお年寄りを身近に感じないで生活するケースも多い。子育て支援センターとデイサービスの隣接化（一部実施しているようだが。かつらぎ保育園で）。 50代・女性
- ・社会人向けの資格が取得できるような講座を充実させて欲しい。またそのような講座の情報についてはDMなどで知らせたい。今は情報が得にくい。 30代・女性
- ・健康の維持、増進に関する講座の充実を強く希望する。健康であることが生活の基本と考える。 50代・女性

- 市内で地域格差のない生涯学習の充実をお願いする。
- ・市内が広いので各地のコミュニケーションセンターで学習出来るのはありがたいが、年1回くらいは全体での発表会の様なものがあったらいいと思う。 60代・女性
 - ・地域交流センター。茨城県の文化財を見学してみたい。 60代・男性
 - ・外国人との交流の場を広げてほしい。 60代・男性

(2) 費用について

- ・定年後、費用等の負担を考えずに参加できる講座を増やしていただけると、気軽に友達も誘って参加でき、友達の和も広がるような気がする。 50代・女性
- ・青少年の健全育成が、つくば市の未来のために重要だと思うが、高齢者の生涯学習にも力を入れてほしい。今の高齢者は比較的金銭余裕があるが、今後は余裕が無くなりそうなので、費用の負担が少なくして楽しめるような企画、健康、体力の向上、頭を使うものなどをのぞむ。 50代・女性
- ・高齢者が参加できるように、市で行う講座の費用を安くしてほしい。 60代・女性
- ・カルチャーセンターなどでは費用が多額に及ぶ。気軽に参加出来る体制整備を望む。 60代・男性
- ・現在交流センターでサークル活動をしている。健康維持を目標にしている。センターが有料になる前は、二つのサークルに入っていたが、有料になってから、一つが遠方の無料の所に移ったため、やめてしまった。無料に戻るよう希望する。 60代・女性
- ・地域交流センターの講座がとても楽しみで、2年ほど前までは毎年受講していた。今は年金生活で経済的にとても苦しくやめている。受講料を無料にしていきたい。サークルも編み物や洋裁のサークルに5年ぐらい入っていたが、そこまで行くガソリン代、受講料、材料費等、経済的な理由で今年やめた。どうか無料の講座の開設をしてください。やる気と時間はいっぱいある。市役所などに無料で使えるパソコン（ネット）を置いて下さい。 60代・女性
- ・公民館使用の頃は無料だったが、交流センターに変わってから料金がかかるようになり、使用しづらくなった。 60代・女性
- ・年齢等の制限の有無とその費用、期間、および場所（複数は選択できるか?）。 50代・男性

(3) 時間・日時について

- ・現在、仕事が忙しくて趣味の時間が持てないが、将来、退職後のことを考えると何らかの趣味をもっていた方がよい。市の公民館などの講座をよく見ているが、平日の講座は受講不可能で残念に思っている。土日の講座の充実を願う。仕事の都合で、土日しか受講できない人もいるということも考慮していただきたい。 40代・女性
- ・土日の講座を充実して欲しい（平日に仕事で残業も多いため）。 40代・女性
- ・平日の夜間や土日祝の講座の種類を増やして欲しい。 30代・女性
- ・土日開催する機会が増えればありがたいです。 50代・女性
- ・講座はいろいろあるが、平日が多く、休日しか時間がとれない人が参加しにくい。休日にも開かれる講座を多くして欲しい。 50代・男性
- ・ややもすると、「生涯学習」というとお勤めを終えた方々のためと思い、平日の日中に広義が集中しがちである。ある程度理解出来るが、勤めている人達でも学びたいと思ってる方は多いはず。できれば土・日曜日や平日でも、夜間の時間帯など、勤務者でも参加しやすい環境整備を充実してほしい。 50代・男性
- ・学習の機会が少なすぎる。定年退職後は社会との接点もなくなるし、家にとじこもりがちになる。いろんな機会を提供してほしい。 60代・男性
- ・働いている人（特に平日が休みの人）にとっては、そういうものに参加出来る機会が非常に少なく、現在は現役を引退した人たちがほとんど利用していると思う。現役の人でも参加出来る機会（曜日や、時間帯など）をもっと考えてほしい。 50代・男性
- ・時間帯の工夫（休日夜間など）、または参加者の意向をある程度、組み入れる等をしてほしい。 30代・男性

- ・働いている人が参加しやすい日時や、子どもを持つ主婦が学びやすい環境など、みんなが気軽に利用出来る様な工夫をしてほしい。 20代・女性
- ・家庭環境（家庭構成）、住環境、職環境（本人はウィークデイは勤務）によって、曜日、場所を選択出来る機会の提供を頂けると活用しやすい。 70代・男性
- ・働いていて、あまり時間の取れない人達が、いつでも、1人でも気軽に参加できるものがたくさんあると良い。 50代・女性
- ・仕事をしているため、平日定期的に時間を作り、何かに参加するということはかなり厳しいです。参加できるときに気軽に行けるようなものがあると嬉しいです。無理ですよ。 40代・女性
- ・パートに出ているので、土日か夜、または15時から出来るものがないので、講座を増やしてほしい。 50代・女性
- ・土日など誰でも参加できる講座などを、市役所などで（予約なし）行って欲しい。やりたいことはたくさんあります。でも今は時間も金もなく、諦めています。 40代・女性
- ・サービス業なので、平日や仕事が終わってから参加出来る講座やサークル等があればよい。 40代・女性
- ・平日の講座が多いのが残念。 50代・女性
- ・地域交流センターで開催されている講座に魅力を感じる内容が少ない。また土日に開講されると参加しにくいので、平日の講座がもっと多彩になるとありがたい。 60代・女性
- ・夜の講座を増やしてほしい。・交流センターの職員を削減して料金を下げてほしい。 50代・男性
- ・市が運営している講座、公演は平日の朝～17:00 くらいまでに実施されるケースが多く会社員にとっては参加出来ないものが多い。参加者は高齢者や主婦の方が多いのではないかと予想出来るので参加もしにくい。そこで、①土日や夜間の講座を開く。②講座の対象年齢をある程度制限する。と言った取り組みをされてはどうか？特に②は参加者層が予想出来るので参加しやすくなる。ご検討の程よろしく願います。 20代・女性

3. 生涯学習施設について

(1) 施設の整備について

- ・学習成果を発表する場所（展示場）を作り、互いのグループの交流をやすくしてほしい。大人から子どもへ、例えば「茶道青年団」などを作り、青少年が日本の伝統文化を学べるようにする。 50代・女性
- ・以前、ベートーベン第9を歌う会に参加した。ぜひ、この様な催しを続けてもらいたい。つくば駅周辺を、今後商業的な乱開発でなく、図書館、美術館、音楽ホール、公園、体育館を中心とした生涯学習の場にしてもらいたい。 40代・男性
- ・安く利用できるスポーツジムや料理教室が近くにあるといい。 50代・女性
- ・気軽に利用できること。 70代・男性
- ・大穂交流センターにも図書館を設置してほしい。 60代・男性
- ・北部地域は発展が遅れていると思う。どうして大穂地区止まりで発展が止まっているのか？私共も税金は一緒に納めており、諸々の事に関して不満がある。旧庁舎の跡地を何らかの形で発展する為の施設にして欲しい。 60代・女性
- ・現在、研究学園地区の一戸建てに住んでいる。図書館の施設を利用するため、毎日つくば駅近くまで足を運んでいる。研究学園地区の急激な人口増加に伴い、近くに図書館を建設して欲しい。 30代・男性
- ・茎崎に体育館が必要。ぜひ願います。私は65才頃からスポーツやサークル、最近パソコンを始めた。室内のは交流センターとふれあいプラザがあるが、スポーツになると遠いために年のいってる人は車に乗れず、自転車では遠いので出来ない人が多くて困っている。 70代・女性
- ・吉沼公民館、早く修理して下さい。 70代・女性
- ・自分達の趣味を生かし充実した生涯学習の地域社会であると思う。つくば市の一括した総合施設があれば良いと思う。 60代・男性
- ・利用しやすい図書館があるとよい。 40代・女性
- ・公民館の充実＝勉強・運動の場所の確保。 40代・男性
- ・生涯学習に関する施設をつくるのではなく、今ある施設を利用して講座数を増やしてほしい。利 30代・女性

- 用してみても、交流センターよりも社協の施設（とよさと・北条）の方が雰囲気があってよかった。
- ・誰でも行える場所にして下さい。 70代・女性
 - ・健康増進、年齢を重ねても心身共に健康に過ごすことができる場を設けて欲しい。 50代・女性
 - ・生涯学習センターの施設（誰でも気軽に利用できる） 40代・女性
 - ・つくば市には歴史考古学に関する施設が、教育機関がありません。是非とも歴史博物館を造って欲しい。 70代・男性
 - ・施設などのハコモノでなく、ある施設で充実させてほしい。地域差がなくなる様、取り組んでほしい。 40代・女性
 - ・施設は新たに作るのではなく、今ある公共の施設を工夫して、いかに利用していくかが大切だと思う。 70代・女性
 - ・つくば市は範囲（距離）が広く、同じつくば市内でも移動に時間がかかりすぎる。バスなどは移動手段に使用するのに本数は少なく通る道に限られ、利用者が少ない。本当は利用したいが値段が高く、不便。もっと地域個々の設備（公民館等）を充実させて、中心には市民大会などが出来る複合施設があると良い。体育館、陸上競技場、サッカー場等のスポーツ施設もつくば市には少なすぎる。まわりの市町村には立派な複合施設がある。 40代・女性
 - ・自分が学びたいと思ったときに、自由にどこの研究所にも行ける場所（施設）があるといいと思う。 60代・女性
 - ・現在利用している施設は、清潔で使いやすいが、運動をする部屋（ヨガ等のあまり大きくない）が一つしかなく、なかなか希望の日が取れない。机のある部屋ばかりでなく、そのような部屋を増やしてほしい。 50代・女性
 - ・スポーツ施設がもう少しあればと思う。 50代・男性
 - ・地域交流センター（旧公民館）等がどこにあるか、説明不足に感じる。名前だけ聞いても、どうやって行ってよいか、場所はどこにあるかわからない。 60代・女性
 - ・つくば市の人口やその構成、東京などからのアクセスの良さなどを考えると、公共の文化施設や公式試合の出来るスポーツ施設が非常に貧弱であり、これではとても国際的な文化都市になれるとは思えない。 60代・男性
 - ・仕事の関係でつくば市に住んでいるが、地域のサークル等に参加したいが地元でないのでよくわからないのと、できればずっと住んでみたい市なので、老後一人でも参加できる施設を考えてもらえたらと思う。 40代・女性
 - ・子どもからお年寄りまで様々な年代の人が関わることが出来るような、学習なり施設があったらよいと思う。 40代・女性

(2) 場所や交通手段について

- ・居住地域及び周辺地域に、生涯学習の拠点となる施設がない。またお年寄りが多く、一般的交通機関の本数や学園中心地区へのアクセスも悪く、なかなかアンケート項目にあるような気持ちには至らない。 50代・男性
- ・学園だけがいろいろ充実していると思う。はずれの方は、段々不便になっている。車にのれなくなったら生涯学習も参加できない。 60代・男性
- ・交通が不便なところに住んでいるので、市内のことに参加することが出来ない気がする。 70代・女性
- ・つくば市は生涯学習を学べる施設等は随分充実してきたように思うが、交通の手段に問題がある。マイカーを使用できない年齢になった時を思うと不安になる。 60代・女性
- ・歩いて行ける距離で学習できるのが良い。 50代・女性
- ・交流センターへの交通手段を充実して下さい。 60代・女性
- ・何事でも市の中心に行っている様に思う。もう少し周りも見てほしい。勉強したいと思っても通るのが大変です。 50代・女性
- ・目的地に行くまでの交通がない。つくたくも障害者には不便。病院へ行くのにそこには入れてくれないで、信号もない道路を渡らなくてはならないところへ停留場だし。 70代・男性

- ・自動車がないので、交通の便が良いところで開催してほしい。 40代・女性
- ・私は車を運転するが、友達で運転しない人も多い。交通の便が悪い地区の人は本当に困っている人が多いので、この点が一番要望することす。 70代・女性
- ・生涯学習は人生をイキイキさせると思うが、その前に高齢者の足の確保をお願いしたい。近くの交流センターの講座の内容充実を希望する。 70代・女性
- ・気軽に出掛けられるプランと交通手段の確保。 70代・男性
- ・前は寿大学などはバスが各地区を廻ってくれたけれど、今は各自が行かなくてはならないので、車の出来ない人は行きたくても行けないので、またバスを廻して欲しい。 70代・女性
- ・利用出来る施設が市の中心部に偏っているように思う。つくば市は広いので、中心部まで出かけるのが、金銭的にも時間的にも大変。車を持っていない住民も生涯学習をしやすい環境整備をお願いする。 20代・女性
- ・旧荃崎エリアは施設が少なく施設までの公共の足が不便。 60代・女性
- ・利用出来る施設が中心部だけでなく、在の方にも出来ると良い。 50代・女性
- ・教育、娯楽、教養に関しても学園地区と言われる中心部に集まっている。いわゆる中心から外れた旧町村（北部）地区は、全てに差がみられる、中心まで行くのにも交通の便も悪く出掛けにくい。近くの公民館等で学習の場や人との出会いの場など、気楽に出来ると良いと思う。コーディネーター等もいてもらうと良いと思う。 70代・女性
- ・公民館等への出張講座のようなものを設ければ、足を運びやすくなる人も多いのではないかと。 50代・女性
- ・市の施設や近くの公民館などでいろいろな講座などを開いて欲しい。歩いていける近くでの催しがあってもいいと思う。又、専門の指導がいてほしい。 50代・女性

(3) 施設の予約・利用について

- ・公共施設の部屋が足りない。朝早くから並ばないと取れない。いつももめている。 60代・女性
- ・施設使用申請のため、朝五時頃から待たなければならない現状を改善してほしい。 60代・女性
- ・交流センターを利用する場合、市内在住者が何名以上と条件付きがある。市管理施設につき分からない訳ではないが、他のサークル団体との交流する場も必要であるので、条件はない方がよい。そのかわり利用料など取るようにしてはと考える。 60代・男性
- ・20年近く、交流センターを利用させてもらってるが、もっと予約をしやすくして頂きたい。 60代・女性
- ・地域交流センター団体でないと借りられない等使いにくい。駐車場が足りない。 40代・女性
- ・施設を利用するとき、部屋の予約の方法をもっと簡潔にしてほしい。例えば半年契約とか。 60代・女性
- ・交流センターの予約が取りづらくなると、時々話しに聞く事がある。 30代・女性
- ・使い易かった施設が、市の施設になってから、制限する規則が増え使いにくくなった。生涯学習を充実させたいとしたら、施設を利用している人たちの立場にもなってほしい。せっかくの施設も使いにくくはダメ。 20代・女性
- ・一部の人に利用が偏るのではなく、誰でも使いやすい公平、広く開かれた施設・機会を望む。 30代・男性
- ・公共施設を利用する際に、あまり出たがらない人（人との交流が苦手？）にも出て貰うようにする工夫は難しいと思うが、気軽に沢山の人が参加できると良い。 60代・女性
- ・旧公民館（現在名、交流センター）を以前の様に無料で貸して頂ければ嬉しい。 60代・女性
- ・施設に防音室がある場合、一人でも利用可能にしてもらいたい。定年後に楽器を始める人も多いと思う。また、そういったバンドに加入希望したり、募集したりでシニア同士のサークルが出来ると良いと思う。 60代・男性
- ・せっかく講座に応募しても募集人員が少ないためか外れてしまい受講出来ない。もう少し方法を考えて下さい。 70代・女性

4. 情報提供について

- 新聞を取っていないため、情報を得るのにインターネットを使っている。そのせいだとは思うが、講座、サークル情報が少なく感じる。もう少し情報を載せたり、サークル、講座をする場所は、車ではなくても通いやすい場所がいいと思う。 30代・女性
- 学習内容や開催場所などがもっと手軽に分かるようにしてほしい 40代・男性
- アパート生活のため市のいろいろな催し等に参加出来ず、越して日も浅いため、不安心配が非常に多い。情報も少ない。 70代・女性
- 興味のある講座・講習があっても、出席しようと決断するのは、案外難しいものである。背中を押してくれる情報（一人で初めて参加した人の印象記とか）が欲しい。 60代・男性
- どんな施設・サービスがあるのか、市から市民へのアピールが足りないように思う。これらが民間レベルに達すると同時にその内容を市民が正しく把握するようになればつくば市は今後益々発展していくことと思う。 20代・女性
- つくば市は交流センターなどで活動する学習、趣味のサークルが多くあるが、それらの情報をまとめて、新しく加入する人向けに発信する役目を市が担ってほしいと思う。 30代・女性
- インターネットで生涯学習課について偶然知った。講師紹介というページで講師の先生を知り、市を通して紹介して頂いた。今、とても楽しく学んでいる。もっとみんなが知る事が出来たらよいのにもったいないと思う。 30代・女性
- 以前市の講座に参加した際、高齢者の方ばかりで、毎回参加しにくく、その場に不似合いなような気がした。ぜひ若い世代の方にも、もっとアピールをしてほしい。 20代・女性
- 同じ方が利用するなど偏ってしまう事が多いと思うので、誰でも参加出来る幅広い内容だと良いと思う。どうすれば知る事が出来るのか、探し方も知らない方も沢山います。 30代・女性
- 関心があっても参加の仕方が分からなかったり、仕事をしていると平日の時間に合わせられなかったりが多い。生涯学習が行われているという情報があまり入ってきません。どう活動されているのか、もっと知れたらと思う。 50代・女性

5. 市の施策について

- 市民の何%の人が生涯学習を利用しているのか知りたい。生涯学習にどれだけの予算が使われているのか知りたい。 60代・男性
- 学習の機会や講座等を市が充実させるのはかまわないが、たいいてい平日の昼間の開催なので、仕事をしている人は利用しにくい。それなのに、かかる費用を市が負担するのは、税金が使われていることになり、実際税金を払っている人が利用できないという矛盾がおこる。時間が自由になる老人や主婦のためだけにならないよう、仕事や家庭のある人も利用できるような事に税金を使ってください。 30代・女性
- もっと大学と地域との連携を深めていくべきだと思います。 30代・女性
- 新たな施設をつくる必要はないと思う。少子高齢化が進む社会のなかで、よりよい社会をつくれるような施策をお願いしたい。 40代・男性
- 単に老人の暇つぶしのような活動に、支援するのではなく、市全体の将来にプラスになるような学習支援に、力を入れて欲しい。 30代・男性
- 団塊の世代交代を踏まえて、退職者の高度な知識や経験を生かしたやりがいのある仕事（事務所やNPO）を立ち上げて行き低下する収入等を補いながらシルバー時代に即した仕事を展開するためにも小規模の事務所やNPO等に、設立の補助をする、また、大学&研究所を生かした産学協同事業を退職後の仕事として補助して活性化して地域に貢献する制度を作る事などを切望する。 60代・男性
- 75歳の主婦だが、とても家事雑事に忙しく月一回のサークル活動（交流センター）に出ること、そのための家での勉強等で手一杯。これから人生の大きな目標に向かう青少年のために、生涯学習課は力を発揮してください。勿論、高齢者の生き甲斐づくりのためにも。 70代・女性
- 児童教育の場をもっと充実させて欲しい。またそれに伴い色々かかる金額は、つくば市に負担し 70代・男性

- て欲しい。他の市町村と比べ、つくば市は児童にかかる金額の負担が少ないと思う。
- ・今後高齢化が進む中でいかに（心身共に）豊かに暮らせるかが重要となる。その事を見据えて生涯学習施策を進めて欲しい。 50代・男性
 - ・生涯学習よりも生活や福祉に重点を置いて欲しい。子どもを育てるのにもっと住みやすい市にしてほしい。加えて市の図書館の蔵書の充実、研究機関の開放など今以上をお願いしたい。 20代・女性
 - ・ラジオ体操は学校で、職場では行うが、各家庭の皆さんは行っているか？もっと普及させても良いのではないかと。健康は自分自身が作るもだが、つくば市としては何か考えているか？寝たきりの老人を作らないことが大切かと思いついて書いた。 60代・男性
 - ・少子高齢化の時代になり、これから生まれてくる子ども達は貴重な人材。将来を担う子どもたちを教育するのは、まず各自の家庭である。そういう意味では、つくば市の生涯学習施策の中では、家庭教育の充実に重点的に取り組んでいただきたいと思う。 50代・女性
 - ・家庭教育力の低下、社会教育力の低下を向上させる手だてを、計画的に行って欲しい。 60代・男性
 - ・安全性を重視されるためか学校との関係が希薄になっていく様な気がする。もっと色々な地域活動に関わって頂けると青少年の健全育成もなしえる様に思う。 40代・女性
 - ・在住の外国人も参加できるシステムも考慮できれば良いと考える。他国の状況も知り得る。 50代・男性
 - ・民謡の趣味で女性を含め10名で老人ホームでボランティア活動をしているが牛久市は積極的に依頼が市の活動者より入るが、つくば市にはそのような組織がないため、ホーム個人で依頼が来る。文化組織の結集をはかり、育成してほしい。文化の進展にも通じる。 70代・男性
 - ・地域交流センター長の人事については2年間という短い在任期間に問題がある。1年間は前任者の計画、立案したものを実行していただく。2年目は最後の任務、担当者が計画したものを安全に遂行するのみ。ここ数年魅力ある講座が全く見当たらない。トップのあり方について早急に再考を願う。 70代・男性
 - ・地域格差があまりに大きすぎる。格差があるのであれば税金にも差を。 50代・女性
 - ・大人になってからの学習は本気で学びたいと思えば自分で情報を集め、自分で場所を選び、時間を割いても頑張れる。市のサポートは重要ではない。不平不満を言ってる方は甘えてるだけなので相手をする必要もない。強いて言うなら、待機児童や養護施設の事だけ考えればよい。 20代・女性
 - ・広報に力を。 20代・女性
 - ・私は助産師をしている2児の母親です。今現在、昔あったような隣近所の人達で地域の子どもをみんなで育てていくというコミュニティが崩壊してきていると思います。私はコミュニティの中で充実した人生を送るために体、心、食、知、医、美、絆といったコンテンツを融合させ、その専門家が個々人を生涯サポートシケアしていくことを目指し、また強固なコミュニティ作りを始めていこうと準備をしているところです。ただ、その形を作っていくためには告知、広報の難しさがあります。以前、コミュニティ作りや母親学級、ベビーマッサージ、母乳・育児相談を行っていた際に広報しようと思ひ、保健センターや役場等にポスター、チラシを置かせてもらえないかと相談に行ったところ、公的な場所なので無理ですと言われたことがありました。
- 地域のコミュニティ作りや健康増進、また学びの場の提供等市民の皆様のためになることであれば、つくば市がバックアップして頂ける体制づくりを作って頂くことは出来ませんか？つながることで、市民一体となって、子どもの教育に参加でき、大きなとても深い絆のコミュニティが出来上がっていくのではないのでしょうか。世界に先駆けて国際都市のつくばがモデルケースとなれば、他の市域の方もつくばに住みたいと思うはずで。これは私一人の思いではなく、助産師として奥の母親と接し、様々な意見を聞いた中の多くの母親達の理想の姿なのです。ぜひ、このような意見を議会等で取り上げて頂けませんでしょうか。
- 都内では放課後の小学校をNPO法人が学童を兼ねたアフタースクールとして活用している所が増えつつあるそうです。その中で料理教室が出来るようです。子どもの頃から生涯学習をしていくといった習慣づけは、とても重要だと思います。このようなアフタースクールがあれば、親も送迎の心配がなく、働く親もギリギリまで仕事に専念できるので、学童がないからパートではなく、常勤になることも考えられるようになり、親も子どももメリットが多いのではないのでしょうか。更に親もそのような場を借りて一緒に習い事をしたり、また、自分の持っている資格等を

活かし、子ども達に教えることができれば、とても有意義だと考えます。アフタースクールをつくばから世界のスタンダードにすることを検討していただけないでしょうか。このアフタースクールで多種多様な大人に出会う中で、将来の夢を見つける子ども。自分の仕事を子どもに伝える中で、自らの仕事に自信を見いだす大人。そして、地元の方々と地域の子も達がつくば市という公的な強みと民間の強みを合わせて新しい形の協力体制が出来れば、市民により良いサービスを提供できると考えます。民間の持っている力を活用して頂けるならば、つくば市の財政軽減にもつながるのではないかと思います。

6. アンケート調査について

- ・アンケートにおける選べる項目内容が限られている。更に選択肢が、一つ選んで下さいというのも迷ってしまうので、アンケート内容をもう少し吟味して欲しかった。 70代・男性
- ・問4（5）で「2」を選んだ場合、問5に進む理由がわからない。 40代・男性
- ・アンケートが多い。もっと高齢者には簡素化してほしい。 70代・男性
- ・このアンケートの回答になっているか不安ですので、誰か代わりの方に回答していただいた方が良いと思う。 70代・女性
- ・どう考えて答えればよいのか難しい問が多くて困った。データとして役立つかどうか心許なく思っている。 50代・男性
- ・生涯学習について意見、要望はないが、アンケートが長すぎる。文章が長いので回答する人に対して優しくない。主婦や老人でも文字が多すぎると答えるのは面倒だと思われる。 30代・女性
- ・生涯学習の事（定義や内容）について全く知らないので書く意見や要望がない。案内等が同封されていれば少なくとも考える事はあったと思う。 30代・男性
- ・病気で歩行が自由に出来ないため、このアンケートは私、または障害者の人には不向きと思われる。 60代・男性
- ・生涯学習の実態について普段考えてもいない事柄を設問されても、現実的にわからないことで回答は難しい。 70代・男性
- ・つくば市の調査の件で、調査者を地区ごとに割り振り無作為に抽出、と書かれているが、私の家では娘、主人、私と三回調査依頼が届いている。もう少し調査依頼の方法を考慮していただきたい（より多くのご家庭の意見を伺うという意味で）。 50代・女性

7. その他

- ・少子高齢、老々介護社会に突入した現在、将来を担う若年層の知・倫を向上させることは勿論、そのバックボーンとなる気力を強化することが重要と思われる。気力というと抽象的で「具体策は？」と問われると困るが、ハングリー精神をどうにかして養いたいものである。一方、老は若に依存することなく、自らを維持する心構えと対策を怠らないようにしたい。 60代・男性
- ・今年、ある講座に入り約半年間、有意義な時間を過ごさせて頂いたが、自分にとってまだまだスキルが未熟で社会貢献は無理かと考えている。ボランティア活動は責任も伴うかと考えるので、自分が可能かどうか納得した上で先を考えていきたい（問4について） 60代・女性
- ・今の日本、国はだめ、誰がやろうと何年たっても変わらない。国の中でケンカを続けているだけだし、金のことしか考えてない人が多い。1回ゼロからスタートしないとだめ。市民の苦しみがわかってない。福祉の進歩もない。ゼロになればいいのに。 20代・男性
- ・私自身、日本農林文学会の会員として活動に参加しているので、生涯学習は必要なし。 60代・男性
- ・交通マナーと道徳心はとても低くモラルがないと感じる、「交通ルールは守りましょう」とか、「列にわりこまない」とか「相手の立場で物を考える」とか、生涯学習しなければならないのでは？小中学校での教育を見直した方がいいのでは？ 30代・男性
- ・参加しやすい（金銭のからまない）イベントに参加したい。 30代・女性
- ・父親が、父親友達を作っていける環境がほしい。母や子は割と容易に得られるが、父だけ孤独かも…。とても必要だと思う。家庭円満の為にも父の仲間と子育てへの参加意識UP。仕事以外の 30代・女性

- 友達作り。是非お願いしたい。
- ・良い事悪い事の判断。 50代・男性
 - ・今まで住んだ中で最も充実してる。 20代・女性
 - ・谷田部地区の商店街の発展、スクールゾーンの設置、自転車が安全に通行出来る道路、谷田部中学校の学力アップと風紀の規律。中学生の交通安全教室をまめにする。谷田部小学校に通学するため、観音台地区等、スクールバスの設置。 70代・女性
 - ・子育てをしている母親や、仕事をしながら子育てをしている母親にとっては、自分の時間はない。ましてや、趣味や何か新しく学習をする時間は考えられないのが現状。 40代・女性
 - ・まずは家庭教育、しっかり足を地につけて社会貢献していきたい。 50代・女性
 - ・脳神経外科に行っているので分からない。 60代・男性
 - ・ドッグスクール、市内の中心にドッグランを設けるなど、家庭の中でも市民生活の中でも、大きな存在となってきている犬との共生について学べるようになれば、緑豊かなこの町も、もっと住みやすく、心豊かに暮らせる町として、新しい角度から広がりを見せるのではないかと思う。 40代・女性
 - ・その気になったときに、無理なくサポートされると理想的である。 30代・男性
 - ・昔からかも知れないが、親、子ども共々生きて、生活しているだけとしか思わない。毎日日が暮れるだけのようにも思う。 60代・女性
 - ・つくば市での活動は、決まった人の参加しかないイメージがある。講座もコネなどある方が開きやすいと思う。講座に参加してもコミュニティが出来上がっていて受けづらい。つくば市でやるのではなく、会場だけ提供し、民間に任せ、今あるグループは解散させた方がよい。 40代・女性
 - ・我々高齢者がおしゃれを楽しみ、市中心部へショッピングに出かけたいと思っても、若者のためのお店、まちづくりで、全然楽しめない。老人は”外出禁止”と言われているよう。老人専用のコーヒーハウス、おしゃべりが出来る施設があると良い。 70代・女性
 - ・放置された農地が目立っているが、地域住民に開放し、地主が農業指導する体制を作るべきと思う。 70代・男性
 - ・なぜつくば市の祭りでは青森のねぶたを呼んでいるのか？他につくば市に根付いている文化があるのであれば、それを伝えるためにも、つくば市独自の文化を混ぜた祭りの方がよいと思っている（ねぶたは好きです、決して否定していないが、ずっと気になっている）。 30代・女性
 - ・定年後4~5年働いて、その後について何をしていいかわからない。 60代・男性
 - ・現役時代は時間がなく、退職後は時間はあるが体力が低下し、学習意欲も低下。思うように進まない。 70代・男性
 - ・たまに牛久市の生涯学習センターでギターの活動をしている方々とお会いしている。3.11の時もその場所において、大変だった。 40代・男性
 - ・美容の仕事をしており、地域の行事とかお手伝いできることがありましたら協力したいと思う。 60代・女性
 - ・生活が安定しない限り、自分の学習までにはならない。 60代・男性



やさしさ生活みらい都市
つくばのまちづくりと生涯学習

整理番号			

生涯学習についての調査のお願い

(原本)

市民の皆様には、日頃から市政に対するご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

このたび、つくば市では市民の皆様には生涯にわたり充実した学習活動や仲間づくりをしていただくために、日頃の学習・文化・趣味・スポーツなどの活動についてのご意見をお聞きすることになりました。お忙しいところ恐縮ですが、どうかこの調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

この調査にあたっては、調査者を地区ごとに割り振り無作為に抽出しております。また、ご回答は数字に直し、統計的に処理いたしますので、あなたのお名前が出たり、個人のデータが他人に漏れることはありません。どうぞ、安心してありのままをご記入くださいますようお願い申し上げます。

平成24年11月

つくば市

記入上のお願い

1. ご回答は、調査票の入っていた封筒の宛名のお名前の方にお願いいたします。
2. ご回答は、それぞれの質問の内容にしたがって、あてはまるところに○をつけたり、文字や数字を記入してください。
3. 記入漏れがあると、せっかく記入していただいたことが無駄になってしまいますので記入漏れのないようお書きください。
4. 筆記用具は何が使われてもかまいませんが、赤色は使わないでください。
5. 記入したものを訂正する場合には、消しゴムを使っても、×印で訂正してもかまいません。

提出の仕方

この調査票は、11月19日(月)までにご記入いただきまして同封の封筒でご返送くださいますようお願いいたします。

この調査についてのお問い合わせ つくば市市民部生涯学習課（田口，酒井，巢籠） つくば市荻間2530-2（研究学園D32街区2画地） TEL：029-883-1111（内線2330，2331）
--

まず、あなたの日頃の生活のことについてお伺いします

問1－(1) あなたは自由時間を主にどのようなことをして過ごしておられますか。平日と休日にかけて、下記にあげていることの中から主なものを3つまで選んで、□の中にその番号を記入してください。(1つや2つだけでもかまいません。)

1. 平日の場合 □ □ □

2. 休日の場合 □ □ □

- | | | |
|-------------------------|----------------------|-------------|
| 1. 家族のだんらん | 7. おけいごと | 12. ゲーム |
| 2. 知人・友人とのつきあい | 8. 趣味 (園芸・日曜大工・音楽など) | 13. 休息・ゴロ寝 |
| 3. 団体・サークル活動 | 9. スポーツ (ウォーキング含む) | 14. 自由時間がない |
| 4. 地域活動・ボランティア活動 | 10. ドライブ・行楽・旅行 | 15. その他 () |
| 5. ラジオ・テレビ視聴, インターネット閲覧 | 11. ショッピング | |
| 6. 読書や学習 | | |

問1－(2) あなたの自由時間はどのくらいありますか。最近1週間の過ごし方をご参考にお答えください。

1. 平日の場合 □ 時間 □ 分

2. 休日の場合 □ 時間 □ 分

問2 あなたは普段の生活で下記のようなことがらについて、どのように感じておられますか。下記の質問につき、それぞれ4つの尺度から1つ選んで、その番号に○をつけてください。

1	2	3	4
非	ど	ど	非
常	ち	ち	常
に	い	い	に
・	え	え	・
・	か	か	・
	ば	ば	

1	居住環境は	よい	1	2	3	4	わるい
2	近所づきあいや人間関係は	よい	1	2	3	4	わるい
3	地域で解決したり、改善しなければならない問題は	多い	1	2	3	4	少ない
4	地域の行事や活動への参加は	多い	1	2	3	4	少ない
5	地域の中で共通の趣味や話題をもつ友人の数は	多い	1	2	3	4	少ない
6	地域のリーダーとして活動している人の数は	多い	1	2	3	4	少ない
7	今後ともこの地域に住み続けたいと思いますか	思う	1	2	3	4	思わない

問9 あなたは、講座や講習会やおけいこごとに1ヶ月どのくらい支出してもよいと思っていますか。1つ選んでその番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 1,000円未満 | 5. 20,000円未満 |
| 2. 3,000円未満 | 6. 30,000円未満 |
| 3. 5,000円未満 | 7. 30,000円以上 |
| 4. 10,000円未満 | 8. 支出したくない |
| | 9. その他 () |

問10 市の講座、講習会などに参加する場合、参加者の費用負担はどのようにあるべきだと考えますか。1つ選んでその番号に○をつけてください。

1. 市が全額負担すべきだ
2. 材料費とテキスト代などの実費は参加者が負担すべきだ
3. 講師謝金の何割かは参加者が負担すべきだ
4. 個人のためになるのだから、講師謝金と実費は参加者が負担すべきだ
5. その他 ()

問11 あなたが学習や文化・趣味・スポーツなどの活動を行うために、つくば市にはどのような内容の施設が必要だと考えますか。下記の選択項目の中から、主なものを3つ選んで必要だと考える順に□に番号を記入してください。(1つや2つだけでもかまいません。)

1位 2位 3位

--	--	--

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習や文化・趣味・スポーツなどのいろいろな情報が得られる施設 2. 指導者や相談にのってくれる人っている施設 3. 一人でも気軽に利用できる施設 4. ボランティア活動の拠点となる施設 5. 自然とのふれあいができる施設 | <ol style="list-style-type: none"> 6. 作品展示等が気軽にできる施設 7. 活動室がたくさんある施設 8. 託児室や託児をする人がいる施設 9. 喫茶室や食堂などがある施設 10. 学習や文化・趣味・スポーツなどができる設備を備えた複合施設 11. その他 () |
|---|--|

問12 あなたは、下記の選択項目で、学習について今後つくば市に特に力をいれて欲しいと思うのはどれですか。力をいれて欲しい順に3つ選んで□に番号を記入してください。

1位 2位 3位

--	--	--

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 市内の各研究所で研究開発されている科学技術について市民の理解と関心を深める 2. 豊かな自然環境の保全の理解と関心を深める 3. 学習や文化・趣味・スポーツなどの情報をたくさん市民に知らせる 4. 市民と外国人の交流の機会をつくる 5. 地域交流センター(旧公民館)などの公共施設で行う講座・講習会を充実する 6. 指導者やボランティアの育成・支援 | <ol style="list-style-type: none"> 7. 文化財の保存・保護や地域の祭り・伝統行事の継承につとめる 8. 資格や免許が取得できる講習会をひらく 9. 公共施設の利用をもっと手軽にできるようにする 10. 職業教育の機会をつくる 11. 高度な専門的学習機会を提供する制度をつくる 12. 市内の大学・研究機関との連携 13. その他 () |
|--|--|

問13 あなたは、今後のつくば市の生涯学習施策の中でどれを重点的に取り組めばよいと思いますか。
下記の中から1つ選んでその番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 家庭教育の充実 | 4. 社会教育団体の育成 |
| 2. 人権教育の推進 | 5. 生涯学習施設の充実 |
| 3. 青少年の健全育成 | 6. その他 () |

問14 どんなことでもかまいません。生涯学習についてご意見・ご要望がございましたらご遠慮なく下の欄にお書きください。

最後にあなたご自身のことについておたずねします
(あてはまる番号に○をつけたり、文字や数字を記入してください。)

(1) 性別 1. 男性 2. 女性

(2) 年齢 満 _____ 歳

(3) あなたの職業

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 自営業 (商店や会社経営) | 7. アルバイト・パートタイマー |
| 2. 農業 | 8. 専業主婦 |
| 3. 会社員 (事務職・その他) | 9. 主婦 (アルバイト・パートタイマー) |
| 4. 会社員 (研究職) | 10. 学生 |
| 5. 公務員 (事務職・その他) | 11. 無職または失業中 |
| 6. 公務員 (研究職) | 12. その他 () |

(4) あなたは「つくば市」に在住して何年になりますか。

- | | |
|----------|---------------------------|
| 1. 1年未満 | 4. 20年未満 |
| 2. 4年未満 | 5. 20年以上 (他から転入してきた) |
| 3. 10年未満 | 6. 20年以上 (生まれてからずっと住んでいる) |

(5) あなたが居住しておられる中学校区はどちらですか。

- | | | |
|--------|---------|--------|
| 1. 筑波東 | 6. 手代木 | 11. 吾妻 |
| 2. 筑波西 | 7. 高山 | 12. 並木 |
| 3. 大穂 | 8. 谷田部東 | 13. 春日 |
| 4. 豊里 | 9. 桜 | 14. 荃崎 |
| 5. 谷田部 | 10. 竹園東 | 15. 高崎 |

中学校区がわからない場合は、地名を記入してください。()

お手数ですが、このアンケートを同封の返送用封筒に入れ、11月19日(月)までに、郵便ポストに投函してください。

なお、この調査の結果は十分検討いたしまして、今後の市政に役立てるとともに、市ホームページなどに公表する予定です。お忙しいところありがとうございました。

